

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48002001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教職概論 1／General Principles of Teaching Profession		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	佐野 茂(SANO SHIGERU)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生を対象に、教職の意義や教員の役割・職務内容等、さらには教職に就くことの責任を理解させるとともに、進路として教職を選択すべきかどうかということについて深く考えさせる各種の機会を提供することにある。授業は講義を中心とするが、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to the understand roles, significance, and responsibility of the teaching profession and to provide various kinds of opportunities for students to consider when deciding whether to become teachers or not.		
到達目標/Learning Goals	授業の到達目標及びテーマ 1. 教職の意義に対する理解 2. 教員養成の歴史と現状に関する理解 3. 教員の任用と服務に関する理解 4. 教員の役割・職務内容(「チームとしての学校」の実現の重要性を含む)に関する理解 5. 以上の1～4を通じた、教職を進路として選択することに伴う責任に対する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the significance of the teaching profession, b) the history of teacher education, c) appointment and public service as a teacher, d) roles and duties of a teacher, e) the responsibilities associated with deciding to aim to be a teacher.		
授業方法 Course Format	講義形式を中心に適宜グループワーク(コロナ感染状況をみて判断)も実施。LUNAのレポート機能も活用。1回目から3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。ゲストアクセスを可にしています。なお、4日目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降も音声付データを添付して対応します。配信方法等については追って個別に連絡します。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	復習課題 振り返りシート提出:教職課程全般についての質問 予習課題 LUNAの添付資料「教職の意義」を通読のこと
第2回 Session 2	教職の意義とは何か	復習課題 振り返りシート提出:シュランガーの理想的人間についての感想提出 予習課題 LUNA添付資料:教員養成の歴史通読のこと
第3回 Session 3	教員養成の歴史	復習課題 振り返りシート提出:近代以前の各種学校の意義 予習課題 教科書p49の各種学校体系図の意味を考える
第4回 Session 4	教員養成の現状と課題	復習課題 振り返りシート提出:開放性教員養成の意義について 予習課題 教科書p68～70を通読
第5回 Session 5	教員の種類と職務	復習課題 振り返りシート提出:今日の教員組織の特徴について 予習課題 LUNA添付資料:教員の8つの服務について通読
第6回 Session 6	教員の服務(服務の根本基準、職務上・身分上課せられる義務)と分限・懲戒(処分)	復習課題 振り返りシート提出:5つの服務について詳述 予習課題 LUNA添付資料:チーム学校の構成図を概観する
第7回 Session 7	教師の職場環境(「チームとしての学校」の実現の重要性を含む)	復習課題 振り返りシート提出:チーム学校構成員の職種と職務内容 予習課題 LUNA添付資料:教師の心の病の発症状況を概観
第8回 Session 8	多忙化する教師	復習課題 振り返りシート提出:教師の心疾患の予防方法 予習課題 教科書p102～109通読
第9回 Session 9	学級経営とは何か	復習課題 振り返りシート提出:学級崩壊の原因について考える 予習課題 LUNA添付資料:「不登校について」通読
第10回 Session 10	生徒指導上の諸問題と学級経営	復習課題 振り返りシート提出:教育機会確保等の法律についての意味 予習課題 教科書p116～117を通読
第11回 Session 11	教師の資質・能力とは何か	復習課題 振り返りシート提出:教師のいじめ対応のポイント 予習課題 LUNA添付資料:教員の研修制度通読
第12回 Session 12	教師の力量形成と研修制度	復習課題 振り返りシート提出:初任研のポイント 予習課題 LUNA添付資料:教育実習の意義を通読
第13回 Session 13	教育実習の意義と心得	復習課題 振り返りシート提出:教育実習の心得のポイント 予習課題 採用試験予定県のHPより受験情報を概観と教職適性テストの実施
第14回 Session 14	教職への進路選択と教員採用選考について(各回のまとめも含む)	復習課題 振り返りシート提出:進路適性テストの感想と各自の採用試験予定府・県の特徴

授業計画 Overview for each class	レポートに対する講評は提出の次の授業回において口頭において伝えます。
---------------------------------	------------------------------------

授業外学習 Study Required outside Class	各回の予習・復習内容を提示していますが、基本的に指定している教科書をよく読んで出席すること。また適宜紹介する参考図書を読んでもらうこと。教育時事(教師の懲戒、分限等)問題にも関心を持ち新聞記事等を収集しておくこと。
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:南本長穂・伴恒信編 タイトル:発達・制度・社会からみた教育学 発行所:北大路書房 出版年:2010 ISBN:
教科書 Required texts	南本長穂・伴恒信編『発達・制度・社会からみた教育学』北大路書房、2010年
参考書/Reference books	著者名:長尾和英 タイトル:教職と人間形成 発行所:八千代出版 出版年:2004 ISBN:
	著者名:有村久春 タイトル:キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談 発行所:金子書房 出版年:2012 ISBN:
	著者名:玉井康之 タイトル:学校評価時の地域学校運営 発行所:教育開発研究所 出版年:2008 ISBN:
	著者名:高階玲治 タイトル:学校の安全を守る「危機対応力」 発行所:ぎょうせい 出版年:2006 ISBN:
	著者名:山崎聡一郎 タイトル:こども六法 発行所:弘文堂 出版年:2020 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	適宜資料を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート/Individual reports(04)	100%	
	備考 Note 評価に関連する平常レポートは4回予定しています。LUNAからの提出になります。		
更新日時/Date of Update	2021年03月12日 17時33分28秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期/Spring	木曜1時限	春学期/Spring	B-104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48002002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教職概論 2／General Principles of Teaching Profession		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	南本 長穂(MINAMIMOTO OSAO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職の意義及び教師の担うべき役割について理解をふかめることである。具体的には、学校教師は、いかなる役割を担いながら、仕事に取り組んでいるのか。わが国の学校教育の発展の歴史を踏まえ、社会から教師に期待される役割は何か。今日求められている役割(職務内容)は何か。また、公立学校の教師は、どのような法的基準の下で職務を遂行すべきか。そして、学生に自己の適性や能力、及び進路について熟考させながら教師になるにはどのような課題を解決していくことが求められているか等、教職に関しての基礎的な概念や職務内容への理解を深めることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the significance of the teaching profession and the roles that teachers should play. Specifically, students will learn basic knowledge of such issues as the roles that school teachers play when they approach their work, the roles of teachers expected by society based on the history of the development of school education in Japan, the roles of teachers (job specifications) required today, the legal standards under which public school teachers should fulfill their duties, and the challenges that need to be solved for students to become teachers based on contemplation of their aptitude, abilities, and career path.		
到達目標/Learning Goals	わが国の学校教育の成立、その進展を踏まえながら、教職の意義や役割を理解できることである。具体的には、1. わが国における教職の意義、及び、教職員の免許に関する法的基準、2. 教員養成の仕組みやその歴史、3. 教員の職務内容、4. わが国における教員の資質能力の向上に関する政策の動向、5. わが国の教育の身分・地位に関わる法令(研修、服務及び身分の保障等を含め)。上記の内容を理解し、教職に関する知識、職業としての教職への動機付け、教師としての生き方や教職への社会的期待を、法的身分や地位を考慮に入れて、教師の仕事の世界がどのようなものかについて理解・説明できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of the significance and roles of the teaching profession based on the establishment and development of school education in Japan. Specifically, students will learn 1. the number of teachers in Japan and legal standards for a teacher's license, 2. the structure of teacher training, 3. job specifications of teachers, 4. policy trends concerning improvement of the quality and capacity of teachers in Japan, and 5. laws concerning the status and position of education in Japan (including training, services, and guarantee of status). With an understanding of the abovementioned issues, students will be able to understand and explain what the field of teaching is like by taking into account knowledge of the teaching profession, the motivation to choose a career in teaching, the way of life as a teacher, the social expectations for the teaching profession, and the legal status and positions of teachers.		
授業の概要・背景 Course Outline	近年、社会の複雑化とともに職業として教職の置かれた状況を見た場合に、一昔前の牧歌的な教師の職業生活は過去の残像に過ぎない。多忙化、管理化、期待過剰化、官僚化、ブラック化等、職業としての教員の仕事(働き方)や教育を取り巻く環境を象徴的に形容する言葉から推測すると、必ずしも夢あふれる職業とは言えない。しかし、こうした状況におかれていても、教職の持つ意義や役割、あるいは教職の魅力や働き方等、社会的には必要不可欠な職業であり、教職の持つ役割や意義の重要性には疑いが無い。 こうした教職という職業に関して、知識を身につけ、専門的職業人として生徒を育てることを通して、社会の健全な発展に貢献できる、教育という公的事業をになっている教職を、多様な視点から理解を深めることが求められる。教職を希望する学生にとって、学んでおかなければならないと思われる教職に関する基礎的・基本的な知識を身につけることを求めている。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 受講学生数との関係から講義形式で行う。授業で用いる教科書に記載されている内容や資料を中心に講義を進めるが、教科書に掲載されていない内容や資料については、適宜レジュメを配布し、補足する。 【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
関連科目/Related Courses	その他の教職科目		
検索キーワード/Keywords	教職の意義/教員の免許法と養成制度/教師の仕事と役割/公立学校教員の服務/教員の地位と身分		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション ―よりよい教師を目指して(進路選択から見た教職の特徴とは)―	
第2回 Session 2	教職の意義と数量的データから見たわが国での学校の種類と教員の実態	
第3回 Session 3	戦前と戦後における学校教育とその教員養成のしくみ(教職の職業的資格とは、免許制度等)	
第4回 Session 4	教師の主な仕事(職務内容)は ―授業・学級経営・校務分掌―	
第5回 Session 5	教職のおかれた現代的状況 ―教職の多忙化を考える―	
第6回 Session 6	働き方改革の中での教員の勤務条件(教職の特徴としての無限定性を考える)	
第7回 Session 7	教師に求められる指導力量(社会的期待等)	
第8回 Session 8	わが国の答申にみる教師に求められる資質能力(1980～90年代の答申)	
第9回 Session 9	わが国の答申にみる教師に求められる資質能力(2000年以降の答申)	
第10回 Session 10	教員の研修と資質能力の向上方策	

第11回 Session 11	学校組織における教員の役割(チーム学校のメンバーの役割、カリキュラム・マネジメントの役割等)	
第12回 Session 12	教員の法的地位と身分	
第13回 Session 13	教員の服務と教員の懲戒と分限	
第14回 Session 14	授業内容の振り返りとまとめ(要点整理)、授業中試験	

授業計画 Overview for each class	授業時の提出レポート等に関しては、2～3週間後をめどに、全体の講評をLUNAへ掲載したい。受講の学生数が多い場合、少ない場合もあるので、どの程度の公表になるかは考えていきたい。	
授業外学習 Study Required outside Class	指定している教科書を毎回よく読むことで学習課題をおおまかに理解して授業の望むと同時に、日頃から、わが国や外国での教師の働き方に関する新聞・雑誌・著書等に関心を持つことをすすめます。そのためにも、毎回の講義あたり、90分程度の予習、復習、講義のなかで興味を持ったテーマに関して図書館等で関連する書物や論文を読んでもらうことをすすめます。	

教科書/Required texts	著者名:南本長穂編 タイトル:新しい教職概論 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2016 ISBN:978-4-623-07032-9
教科書 Required texts	南本長穂編『新しい教職概論』ミネルヴァ書房、2016年
参考文献・資料 Reference books	教職について国レベルで何が求められているかを知るために、文科省のホームページを検索し、教職に関する中央教育審議会の答申を、よく読んで理解を深めること。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中に実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	教職に必要な知識に関して、講義時レポートと期末課題レポート
	備考 Note		
	授業中に実施する予定の何回かの小レポートの評価得点と期末課題レポートの評価得点等によって行う。		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 13時00分33秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜1時限	春学期／Spring	B-202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48002003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教職概論 3／General Principles of Teaching Profession		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	南本 長穂(MINAMIMOTO OSAO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職の意義及び教師の担うべき役割について理解をふかめることである。具体的には、学校教師は、いかなる役割を担いながら、仕事に取り組んでいるのか。わが国の学校教育の発展の歴史を踏まえ、社会から教師に期待される役割は何か。今日求められている役割(職務内容)は何か。また、公立学校の教師は、どのような法的基準の下で職務を遂行すべきか。そして、学生に自己の適性や能力、及び進路について熟考させながら教師になるにはどのような課題を解決していくことが求められているか等、教職に関しての基礎的な概念や職務内容への理解を深めることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the significance of the teaching profession and the roles that teachers should play. Specifically, students will learn basic knowledge of such issues as the roles that school teachers play when they approach their work, the roles of teachers expected by society based on the history of the development of school education in Japan, the roles of teachers (job specifications) required today, the legal standards under which public school teachers should fulfill their duties, and the challenges that need to be solved for students to become teachers based on contemplation of their aptitude, abilities, and career path.		
到達目標/Learning Goals	わが国の学校教育の成立、その進展を踏まえながら、教職の意義や役割を理解できることである。具体的には、1. わが国における教職の意義、及び、教職員の免許に関する法的基準、2. 教員養成の仕組みやその歴史、3. 教員の職務内容、4. わが国における教員の資質能力の向上に関する政策の動向、5. わが国の教育の身分・地位に関わる法令(研修、服務及び身分の保障等を含め)。上記の内容を理解し、教職に関する知識、職業としての教職への動機付け、教師としての生き方や教職への社会的期待を、法的身分や地位を考慮に入れて、教師の仕事の世界がどのようなものかについて理解・説明できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of the significance and roles of the teaching profession based on the establishment and development of school education in Japan. Specifically, students will learn 1. the number of teachers in Japan and legal standards for a teacher's license, 2. the structure of teacher training, 3. job specifications of teachers, 4. policy trends concerning improvement of the quality and capacity of teachers in Japan, and 5. laws concerning the status and position of education in Japan (including training, services, and guarantee of status). With an understanding of the abovementioned issues, students will be able to understand and explain what the field of teaching is like by taking into account knowledge of the teaching profession, the motivation to choose a career in teaching, the way of life as a teacher, the social expectations for the teaching profession, and the legal status and positions of teachers.		
授業の概要・背景 Course Outline	近年、社会の複雑化とともに職業として教職の置かれた状況を見た場合に、一昔前の牧歌的な教師の職業生活は過去の残像に過ぎない。多忙化、管理化、期待過剰化、官僚化、ブラック化等、職業としての教員の仕事(働き方)や教育を取り巻く環境を象徴的に形容する言葉から推測すると、必ずしも夢あふれる職業とは言えない。しかし、こうした状況におかれていても、教職の持つ意義や役割、あるいは教職の魅力や働き方等、社会的には必要不可欠な職業であり、教職の持つ役割や意義の重要性には疑いが無い。 こうした教職という職業に関して、知識を身につけ、専門的職業人として生徒を育てることを通して、社会の健全な発展に貢献できる、教育という公的事業をになっている教職を、多様な視点から理解を深めることが求められる。教職を希望する学生にとって、学んでおかなければならないと思われる教職に関する基礎的・基本的な知識を身につけることを求めている。		
授業方法 Course Format	受講学生数との関係から講義形式で行う。授業で用いる教科書に記載されている内容や資料を中心に講義を進めるが、教科書に掲載されていない内容や資料については、適宜レジュメを配布し、補足する。		
関連科目/Related Courses	その他の教職科目		
検索キーワード/Keywords	教職の意義/教員の免許法と養成制度/教師の仕事と役割/公立学校教員の服務/教員の地位と身分		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーションーよりよい教師を目指して(進路選択から見た教職の特徴とは)ー	
第2回 Session 2	教職の意義と数量的データから見たわが国での学校の種類と教員の実態	
第3回 Session 3	戦前と戦後における学校教育とその教員養成のしくみ(教職の職業的資格とは、免許制度等)	
第4回 Session 4	教師の主な仕事(職務内容)はー授業・学級経営・校務分掌ー	
第5回 Session 5	教職のおかれた現代的状況ー教職の多忙化を考えるー	
第6回 Session 6	働き方改革の中での教員の勤務条件(教職の特徴としての無限定性を考える)	
第7回 Session 7	教師に求められる指導力量(社会的期待等)	
第8回 Session 8	わが国の答申にみる教師に求められる資質能力(1980～90年代の答申)	
第9回 Session 9	わが国の答申にみる教師に求められる資質能力(2000年以降の答申)	
第10回 Session 10	教員の研修と資質能力の向上方策	
第11回 Session 11	学校組織における教員の役割(チーム学校のメンバーの役割、カリキュラム・マネジメントの役割等)	
第12回	教員の法的地位と身分	

Session 12		
第13回 Session 13	教員の服務と教員の懲戒と分限	
第14回 Session 14	授業内容の振り返りとまとめ(要点整理)、授業中試験	

授業計画 Overview for each class	授業時の提出レポート等に関しては、2～3週間後をめどに、全体の講評をLUNAへ掲載したい。受講の学生数が多い場合、少ない場合もあるので、どの程度の公表になるかは考えていきたい。
授業外学習 Study Required outside Class	指定している教科書を毎回よく読むことで学習課題をおおまかに理解して授業の望むと同時に、日頃から、わが国や外国での教師の働き方に関する新聞・雑誌・著書等に関心を持つことをすすめます。そのためにも、毎回の講義あたり、90分程度の予習、復習、講義のなかで興味を持ったテーマに関して図書館等で関連する書物や論文を読んでもらうことをすすめます。

教科書/Required texts	著者名:南本長穂編 タイトル:新しい教職概論 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2016 ISBN:978-4-623-07032-9
教科書 Required texts	南本長穂編『新しい教職概論』ミネルヴァ書房、2016年
参考文献・資料 Reference books	教職について国レベルで何が求められているかを知るために、文科省のホームページを検索し、教職に関する中央教育審議会の答申を、よく読んで理解を深めること。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中に実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート/Individual reports(04)	100%	教職に必要な知識に関して、講義時レポートと期末課題レポート
	備考 Note		
	授業中に実施する予定の何回かの小レポートの評価得点と期末課題レポートの評価得点等によって行う。		
更新日時/Date of Update	2021年02月19日 17時51分59秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期/Fall	月曜5時限	秋学期/Fall	B-104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48002004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教職概論 4／General Principles of Teaching Profession		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	佐野 茂(SANO SHIGERU)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生を対象に、教職の意義や教員の役割・職務内容等、さらには教職に就くことの責任を理解させるとともに、進路として教職を選択すべきかどうかということについて深く考えさせる各種の機会を提供することにある。授業は講義を中心とするが、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to the understand roles, significance, and responsibility of the teaching profession and to provide various kinds of opportunities for students to consider when deciding whether to become teachers or not.		
到達目標/Learning Goals	授業の到達目標及びテーマ 1. 教職の意義に対する理解 2. 教員養成の歴史と現状に関する理解 3. 教員の任用と服務に関する理解 4. 教員の役割・職務内容(「チームとしての学校」の実現の重要性を含む)に関する理解 5. 以上の1～4を通じた、教職を進路として選択することに伴う責任に対する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the significance of the teaching profession, b) the history of teacher education, c) appointment and public service as a teacher, d) roles and duties of a teacher, e) the responsibilities associated with deciding to aim to be a teacher.		
授業方法 Course Format	講義形式を中心に適宜グループワーク(コロナ感染状況をみて判断)も実施。LUNAのレポート機能も活用。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	復習課題 振り返りシート提出:教職課程全般についての質問を 予習課題 LUNAの添付資料「教職の意義」を通読のこと
第2回 Session 2	教職の意義とは何か	復習課題 振り返りシート提出:シュブランガーの理想的人間についての感想提出 予習課題 LUNA添付資料:教員養成の歴史通読のこと
第3回 Session 3	教員養成の歴史	復習課題 振り返りシート提出:近代以前の各種学校の意義 予習課題 教科書p49の各種学校体系図の意味を考える
第4回 Session 4	教員養成の現状と課題	復習課題 振り返りシート提出:開放性教員養成の意義について 予習課題 教科書p68～70を通読
第5回 Session 5	教員の種類と職務	復習課題 振り返りシート提出:今日の教員組織の特徴について 予習課題 LUNA添付資料:教員の8つの服務について通読
第6回 Session 6	教員の服務(服務の根本基準、職務上・身分上課せられる義務)と分限・懲戒(処分)	復習課題 振り返りシート提出:5つの服務について詳述 予習課題 LUNA添付資料:チーム学校の構成図を概観する
第7回 Session 7	教師の職場環境(「チームとしての学校」の実現の重要性を含む)	復習課題 振り返りシート提出:チーム学校構成員の職種と職務内容 予習課題 LUNA添付資料:教師の心の病の発症状況を概観
第8回 Session 8	多忙化する教師	復習課題 振り返りシート提出:教師の心疾患の予防方法 予習課題 教科書p102～109通読
第9回 Session 9	学級経営とは何か	復習課題 振り返りシート提出:学級崩壊の原因について考える 予習課題 LUNA添付資料:「不登校について」通読
第10回 Session 10	生徒指導上の諸問題と学級経営	復習課題 振り返りシート提出:教育機会確保等の法律についての意味 予習課題 教科書p116～117を通読
第11回 Session 11	教師の資質・能力とは何か	復習課題 振り返りシート提出:教師のいじめ対応のポイント 予習課題 LUNA添付資料:教員の研修制度通読
第12回 Session 12	教師の力量形成と研修制度	復習課題 振り返りシート提出:初任研のポイント 予習課題 LUNA添付資料:教育実習の意義を通読
第13回 Session 13	教育実習の意義と心得	復習課題 振り返りシート提出:教育実習の心得のポイント 予習課題 採用試験予定県のHPより受験情報を概観する
第14回 Session 14	教職への進路選択と教員採用選考(各回のまとめも含む)	復習課題 振り返りシート提出:進路適性テストの感想と各自が受験する府・県の特徴

授業計画 Overview for each class	レポートに対する講評は提出の次の授業回において口頭において伝えます。
授業外学習 Study Required outside Class	各回の予習・復習内容を提示していますが、基本的に指定している教科書を毎回よく読んで出席することと、適宜紹介する参考図書を読んでくこと。教育時事(教師の懲戒、分限等)問題にも関心を持ち新聞記事等を収集しておくこと。

教科書/Required texts	著者名:南本長穂・伴恒信編 タイトル:発達・制度・社会からみた教育学 発行所:北大路書房 出版年:2010 ISBN:
教科書 Required texts	南本長穂・伴恒信編『発達・制度・社会からみた教育学』北大路書房、2010年
参考書/Reference books	著者名:長尾和英 タイトル:教職と人間形成 発行所:八千代出版 出版年:2004 ISBN:
	著者名:有村久春 タイトル:キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談 発行所:金子書房 出版年:2012 ISBN:
	著者名:玉井康之 タイトル:学校評価時の地域学校運営 発行所:教育開発研究所 出版年:2008 ISBN:
	著者名:高階玲治 タイトル:学校の安全を守る「危機対応」力 発行所:ぎょうせい 出版年:2006 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	著者名:山崎聡一郎 タイトル:こども六法 発行所:弘文堂 出版年:2020 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	適宜資料を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	
	備考 Note		
	評価に関連する平常レポートは4回予定してます。LUNAからの提出になります。		
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 15時18分43秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜4時限	秋学期／Fall	B－102

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48002005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教職概論 5/General Principles of Teaching Profession		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	前原 健三(MAEHARA KENZO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職の意義及び教員の担うべき役割・職務内容等について、理解を図ることである。なお、チーム学校運営への対応を含む。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the significance of the teaching profession and the roles that teachers should play, their job specifications, etc. Their actions for school management as a team are also covered.		
到達目標/Learning Goals	下記1～4を通じた、教職を進路として選択することに伴う責任に対する理解力を培うこと。 1. 教職の意義に対する理解 2. 教員養成の歴史と現状に関する理解 3. 教員の任用と服務と現状に関する理解 4. 教員の役割・職務内容に関する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will develop the ability to understand the responsibilities that come with the choice of the teaching profession as a career path by acquiring an understanding of the following four items: 1. the significance of the teaching profession, 2. the history and current situation of teacher training, 3. the current situation of appointment and public service as a teacher, and 4. the roles and job specifications of teachers.		
授業の概要・背景 Course Outline	1. 本授業の目的は、教職志望の学生を対象に、教職の意義や教員の役割・職務内容等、さらには教職に就くことの責任を理解させるとともに、進路として教職を選択すべきかどうかということについて深く考える各種の機会を提供することにある。2. 併せて、関西学院大学スクールモットーに基づく広義の教育者及び世界市民の育成にささやかながら資することを期するものである。		
授業方法 Course Format	❶対面授業を原則とし、教材や課題等についてはLUNAで指示する。❷【基礎疾患等によるオンライン受講生】個別に対応する。❸大学判断により安全性確保の観点から何らかの変更があれば、授業中及びLUNAで指示する。❹【方法上の留意事項】1. 履修者の主体的・対話的・深い学びの基礎力を形成するため、課題学修を行う。2. 自問自答・自学自修及びプレゼンテーション等による課題学修を通して、教職についての学修過程を主体化し、教職への更なる理解を深め、将来的に中高生の主体的・対話的・深い学びを育む実践力へとつなげる。		
関連科目/Related Courses	日本国憲法、外国語コミュニケーション、情報機器操作、教育原論、学校教育論、各教科及びその教育法に関する科目、教職実践演習等、教職課程科目全般		
検索キーワード/Keywords	関西学院大学スクールモットー、Kwanseiコンピテンシー、SEDs、教員養成、学校教育、教員、公教育、教職実践力、教育実習、教職課程履修カルテ・兵庫県教員育成指標等		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	(1) 本授業の運営方法等(シラバス内容＝目的・計画・内容・リポート作成方法・評価方法等)についての確認を踏まえて、質疑応答する。 (2) プレゼンテーション希望者を募り、メンバー編成及びスケジュール調整・選択課題のデータ作成作業を行う。 (3) 【課題❶～❸】のリポート作成のための事前学修準備を行う。	第1回授業日4月9日(金):4月7日(水)正午までに解説メモを LUNAにて掲載。左記課題の準備。質疑応答は、授業中及 coy16890@kwanasei.ac.jpにて可。初回授業経過報告を、4月12日(月)正午までにLUNAにて掲載予定。事後確認を要す。
第2回 Session 2	(1) プレゼンテーション実施希望グループはメンバー確認の上、それぞれの発表へ向けての打ち合わせや分担・データ作成作業等を行う。 (2) リポート課題のみで対応する場合は、【課題❶】の予習及びそのリポート作成の準備を行う。	第2回授業日4月16日(金): 同上。第2回授業経過報告を、4月19日(月)正午までにLUNAにて掲載予定。事後確認を要す。
第3回 Session 3	(1) プレゼンテーション実施希望グループはメンバー確認の上、発表へ向けての打ち合わせや分担・データ作成準備作業を行う。 (2) リポート課題のみで対応する場合は、【課題❷】の予習及びリポート作成作業の準備を行う。	第3回授業日4月23日(金): 同上。第3回授業経過報告を、4月26日(月)正午までにLUNAにて掲載予定。事後確認を要す。
第4回 Session 4	【課題❶】SDGsについて広く学び、さらに探究を深めよう。テキスト序章を熟読し、「なぜ今、SDGsなのか」等について自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、リポートを作成する。	第4回授業日4月30日(金):【課題❶】を予習復習し、リポートを作成する。前日正午までに解説メモを、LUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第5回 Session 5	【課題❷】学校論:SDGs時代における学校教育について学び、探究を深めよう。テキスト第1章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、リポートを作成する。	第5回授業日5月7日(金):【課題❷】を予習復習し、リポートを作成する。前日正午までに解説メモを、LUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第6回 Session 6	【課題❸】教員論:SDGs時代に求められる教員の役割と資質・能力について学び、さらに探究を深めよう。テキスト第2章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、リポートを作成する。	第6回授業日5月14日(金):【課題❸】を予習復習し、リポートを作成する。前日正午までに解説メモを、LUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第7回 Session 7	【課題❹】教員論:SDGs時代に求められる教員の役割と資質・能力について学び、さらに探究を深めよう。テキスト第2章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	第7回授業日5月21日(金): 同上
第8回 Session 8	【課題❺】教育課程論:持続可能な社会づくりに向けた教育課程について学び、探究を深めよう。テキスト第3章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、リポートを作成する。	第8回授業日5月28日(金):【課題❺】を予習復習し、リポートを作成する。前日正午までに解説メモをLUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
	【課題❻】教育課程論:持続可能な社会づくりに向けた教育課	第9回授業日6月4日: 同上

第9回 Session 9	程について学び、探究を深めよう。テキスト第3章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	
第10回 Session 10	【課題⑤】授業論：授業のESD的転換について学び、探究を深めよう。テキスト第4章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	第10回授業日6月11日(金)：【課題⑤】を予習復習し、レポートを作成する。前日正午までに解説メモをLUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第11回 Session 11	【課題⑥】授業論：授業のESD的転換について学び、探究を深めよう。テキスト第4章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	第11回授業日6月18日(金)：同上
第12回 Session 12	【課題⑥】職務内容論：教員の仕事と役割について学び、探究を深めよう。テキスト第5章を熟読しながら自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	第12回授業日6月25日(金)：【課題⑥】を予習復習し、レポートを作成する。前日正午までに解説メモをLUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第13回 Session 13	【課題⑦】地域連携論：地域社会と学校・教員について学び、探究を深めよう。テキスト第6章を熟読しながら、自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	第13回授業日7月2日(金)：【課題⑦】を予習復習し、レポートを作成する。前日正午までに解説メモをLUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第14回 Session 14	【課題⑧】教育課題：SDGs時代における教育課題について学び、探究を深めよう。第7章を熟読しながら、自問自答・自学自修し、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換を踏まえて、レポートを作成する。	第14回授業日7月9日(金)：【課題⑧】を予習復習し、レポートを作成する。前日正午までに解説メモをLUNAにて掲載。質疑応答は、授業中及びcoy16890@kwanasei.ac.jpにて可。
第15回 Session 15	【授業内試験】【試験問題例(変更の場合あり)】(1)関西学院大学における建学の精神・教員養成の理念、SDGsの取り組みについて調査し、その概要について解答し、私見を論述する。(2)本授業での学修成果について自問自答し、今後の課題等について振り返り、考えたこと10項目以上論述する。(3)その他	第15回授業日：7月16日(金)実施予定。詳細は、別途指示する。【基礎疾患等によるオンライン授業受講学生】に対しては、申請者につき配慮し、別途指示する。

教科書 Required texts	『SDGsと学校』教職概論―「包括的で質の高い教育」のために―』岩本泰・児玉敏也・降旗信一編著 学文社 2019
参考文献・資料 Reference books	1. 『教職論』吉田武男監修 2019 2. 『現代日本の教師―仕事と役割―』由布佐和子 放送大学教育振興会 2015 3. 『変動社会の教師教育』今津孝次郎著 名古屋大学出版会 2017 4. 『新時代の教職概論―学校の役割を知る 教師の仕事を知る―』八尾坂修編著 シダイ社 2018 5. 『教師が育つ条件』今津孝次郎 岩波新書 2015 6. 『教職論』ミネルヴァ書房 2019
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	1. 授業中に本学にて指示された方法により実施する。 2. 本授業独自に実施する場合もある。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
	その他／Others(99)	100%	授業内試験及び課題レポート、又は一部プレゼンテーションによる。
	備考 Note (1) 課題レポート：【課題①～③】から7又は5課題を選択し、レポートする。1課題レポートにつき10%で評価する。提出方法については別途指示する(70%又は50%)。 (2) プレゼンテーション：【課題①～③】から5課題を選択する場合のみ、それ以外の課題以外から1題を選択し、プレゼンテーション(4名程度)にて対応できる(20%)。 (3) 授業内試験：第15回目の授業中に実施予定の試験で評価する(30%)。 (4)【基礎疾患等によるオンライン授業受講学生への対応】：申請者リストに基づき配慮し、別途指示する。申請手続きを必ず履行しておくこと。		
備考 Note	※ 本シラバスは、新型コロナウイルス感染症拡大状況により、変更する場合があります。3/21現在、対面授業を想定しています。 1. 本授業に関する履修案内文及び授業運営計画を、4/7(金)正午までに、LUNAに掲載します。履修希望される方は、必ずご参照ください。 2. 履修登録していない場合でも、LUNA掲載内容を閲覧できるようにしています。履修登録前に、ご参照ください。 3. 余裕をもって学修するためには、履修登録科目総数をも考慮して、特に教職課程科目の「学校教育論5」との同時履修は避けた方が可能性が高まります。 4. 本授業の運営方法等について個人的にお尋ねされたい事項がある場合には、以下のメールアドレスまでお知らせください。前原e-mail:coy16890@kwansei.ac.jp		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/announcement?method=search&context=mybb&course_id=_205427_1&viewChoice=2		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 14時25分41秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜3時限	春学期／Spring	IV－401

授業コード/Class code	48002006	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教職概論 6/General Principles of Teaching Profession		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	前原 健三(MAEHARA KENZO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPIに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職の意義及び教員の担うべき役割・職務内容等について、理解を図ることである。なお、チーム学校運営への対応を含む。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the significance of the teaching profession and the roles that teachers should play, their job specifications, etc. Their actions for school management as a team are also covered.		
到達目標/Learning Goals	下記1～4を通じた、教職を進路として選択することに伴う責任に対する理解力を培うこと。 1. 教職の意義に対する理解 2. 教員養成の歴史と現状に関する理解 3. 教員の任用と服務と現状に関する理解 4. 教員の役割・職務内容に関する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will develop the ability to understand the responsibilities that come with the choice of the teaching profession as a career path by acquiring an understanding of the following four items: 1. the significance of the teaching profession, 2. the history and current situation of teacher training, 3. the current situation of appointment and public service as a teacher, and 4. the roles and job specifications of teachers.		
授業の概要・背景 Course Outline	1. 本授業の目的は、教職志望の学生を対象に、教職の意義や教員の役割・職務内容等、さらには教職に就くことの責任を理解させるとともに、進路として教職を選択すべきかどうかということについて深く考える各種の機会を提供することにある。2. 併せて、関西学院大学スクールモットーに基づく広義の教育者及び世界市民の育成にささやかながら資することを期するものである。		
授業方法 Course Format	1. 履修者の主体的・対話的・深い学びの基礎力を形成するため、対面授業による課題学修を行う。2. 自問自答・自学自修による課題学修を通して、教職についての学修過程を主体化し、教職への更なる理解を深め、将来的に中高生の主体的・対話的・深い学びを育む実践力へとつなげる。3. 本授業について個人的にお尋ねされたい事項がある場合には、下記のメールアドレスまでお知らせください。前原 e-mail: coy16890@kwansei.ac.jp		
関連科目/Related Courses	日本国憲法、外国語コミュニケーション、情報機器操作、教育原論、学校教育論、各教科に関する科目、教職実践演習等、教職課程全般		
検索キーワード/Keywords	関西学院大学スクールモットー、SDGs、ESD、教員養成、学校教育、教員、公教育、教職実践力、教育実習、教職課程履修カルテ等		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	9月30日(木)【課題①—1】(a)「本授業のシラバス」及び(b)「第1報①917修正版:2020年秋学期『教職概論6』の履修のご案内《学修の手引き》—逆境の中で、自分に適合した《My Sustainable Learning Style》を編み出そう！—」を熟読した上で、これらについての質問や意見・確認事項などについて探求しよう。【課題①—2】(a)関西学院大学スクールモットー並びにKwanseiコンピテンシーと(b)教員養成の理念・目的(大学・学部・学科)」、これらに基づく(c)「関学らしい教員像」に関する基礎的なデータを調べ、これらの概要・要点について自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題①】のリポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題としない。
第2回 Session 2	10月7日(木)【課題②】SDGsについて広く学び、さらに探究を深めよう。テキスト序章を熟読し概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換を踏まえその過程をレポートする。	【課題②】のリポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第3回 Session 3	10月14日(木)【課題③】学校論:SDGs時代における学校教育について学び、探究を深めよう。テキスト第1章を熟読し概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題③】のリポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第4回 Session 4	10月21日(木)【課題④】教員論:SDGs時代に求められる教員の役割と資質・能力について学び、さらに探究を深めよう。テキスト第2章を熟読し概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題④】のリポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第5回 Session 5	10月28日(木)【課題⑤】教育課程論(前半):持続可能な社会づくりに向けた教育課程について学び、探究を深めよう。テキスト第3章を熟読しながら概要を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題⑤】のリポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第6回 Session 6	11月4日(木)【課題⑤】教育課程論(後半):持続可能な社会づくりに向けた教育課程について学び、探究を深めよう。テキスト第3章を熟読し概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	同上
第7回 Session 7	11月11日(木)【課題⑥】授業論(前半):授業のESD的転換について学び、探究を深めよう。テキスト第4章を熟読し、概要・要点を把握しながら自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題⑥】のリポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第8回 Session 8	11月18日(木)【課題⑥】授業論(後半):授業のESD的転換について学び、探究を深めよう。テキスト第4章を熟読し、概要を把握しつつ、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏	同上

	まえその過程をレポートする。	
第9回 Session 9	11月25日(木)【課題⑦】職務内容論(前半):教員の仕事と役割について学び、探究を深めよう。テキスト第5章を熟読し概要を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえてその過程をレポートする。	【課題⑦】のレポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第10回 Session 10	12月2日(木)【課題⑦】職務内容論(後半):教員の仕事と役割について学び、探究を深めよう。テキスト第5章を熟読しながら自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえてその過程をレポートする。	同上
第11回 Session 11	12月9日(木)【課題⑧】地域連携論(前半):地域社会と学校・教員について学び、探究を深めよう。テキスト第6章を熟読し、概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題⑧】のレポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第12回 Session 12	12月16日(木)【課題⑧】地域連携論(後半):地域社会と学校・教員について学び、探究を深めよう。テキスト第6章を熟読し概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	同上
第13回 Session 13	12月23日(木)【課題⑨】教育課題:SDGs時代における教育課題について学び、探究を深めよう。第7章を熟読し概要・要点を把握しながら、自問自答・自学自修し、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートする。	【課題⑨】のレポートを作成する 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第14回 Session 14	1月6日(木)【課題⑩-1】関西学院大学におけるSDGsの取り組みについてホームページから調査し、その概要及び特徴等についてレポートする。【課題⑩-2】本授業を通して学んだことについて自問自答し、今後の課題等について振り返り、考えたこと10項目以上をレポートする。	【課題⑩-1・2】に取り組み、レポートを作成する。 授業前日正午までに、課題を公開する。 プレゼンテーション対象課題とする。
第15回 Session 15	1月13日(木)【授業内テスト】	詳細は、別途支持する。

教科書 Required texts	『[SDGsと学校]教職概論―「包括的で質の高い教育」のために―』岩本泰・児玉敏也・降旗信一編著 学文社 2019
参考文献・資料 Reference books	1.『教職論』吉田武男監修 2019 2.『現代日本の教師―仕事と役割―』由布佐和子 放送大学教育振興会 2015 3.『変動社会の教師教育』今津孝次郎著 名古屋大学出版会 2017 4.『新時代の教職概論―学校の役割を知る 教師の仕事を知る―』八尾坂修編著 シダイ社 2018 5.『教師が育つ条件』今津孝次郎 岩波新書 2015 6.『教職論』ミネルヴァ書房 2019
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	1. 授業中に本学にて指示された方法により実施する。 2. 本授業独自に実施する場合もある。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	授業内試験及び課題レポート又はプレゼンテーションによる。
	備考 Note 成績評価の具体的な方法・基準については、LUNAにてお知らせします。 ①上記シラバス記載の課題①～⑨より6又は8題を選択し、提出期限までにレポートする(60～80%)。 ②上記課題①～⑨より6課題を選択した場合のみ、課題①を除く残る2課題より1題を選択し、これについてグループ(4名程度)でプレゼンテーションできる(20%)。 ③授業内試験(20%)		
備考 Note	1.本授業に関する履修案内文及び授業運営方針等を、9/7までにこのシラバス付加情報欄に掲載します。必ずご参照ください。 2.テキストを使用しますので、受講される場合は必ず生協にて購入してください。 3.本授業について個人的にお尋ねされたい事項がある場合には、下記のメールアドレスまでお知らせください。前原e-mail:coy16890@kwansei.ac.jp		
更新日時/Date of Update	2021年02月17日 17時15分39秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜3時限	秋学期／Fall	Ⅱ－305

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48003001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教育原論 1／General Principles of Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand educational history and philosophy in Japan and the West and to acquire the viewpoints and fundamental attitudes required for teachers.		
到達目標/Learning Goals	教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to develop their basic knowledge and understanding of education and analyze and consider educational problems from various academic perspectives, especially historical and philosophical perspectives.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNA(下記のURLリンクをクリック)で指示する。4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。オンライン受講生には4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	教育思想／教育史		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育の理念と目的の考察	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	古代ギリシャの教育思想に見る教育思想の類型	
第3回 Session 3	西欧中世の教育思想を手がかりに考察する宗教と教育の関係	
第4回 Session 4	近代の子ども観～子どもの発見	
第5回 Session 5	啓蒙と教育	
第6回 Session 6	近代教育思想の隆盛～自然概念と教育	
第7回 Session 7	教育学の成立と広がり	
第8回 Session 8	公教育の成立と広がり	
第9回 Session 9	子どもの世紀としての20世紀	
第10回 Session 10	現在の諸外国の教育	
第11回 Session 11	近代以前の日本の教育史	
第12回 Session 12	日本における近代公教育制度の展開	
第13回 Session 13	戦後日本の教育	
第14回 Session 14	これからの教育の考察・本講義のまとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	LUNAに事前に掲載しておく資料を授業の前に理解しておくこと。西洋史と日本史についての基礎的な知識をあらかじめ持つておくこと。復習としては、授業に登場した主な人物やキーワードについて簡単に解説できるようにしておくこと。

参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄、森川直、坂越正樹編 タイトル:教育的思考の作法2——教育学概論 発行所:福村出版 出版年:2008 ISBN:978-4571101403 著者名:眞壁宏幹編 タイトル:西洋教育思想史 発行所:慶應義塾大学出版会 出版年:2016 ISBN:978-4-7664-2327-3
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note オンライン受講生には平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_204507_1&cmp_tab_id=_240547_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 10時48分04秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜2時限	春学期／Spring	B－302

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48003002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教育原論 2／General Principles of Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand educational history and philosophy in Japan and the West and to acquire the viewpoints and fundamental attitudes required for teachers.		
到達目標/Learning Goals	教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to develop their basic knowledge and understanding of education and analyze and consider educational problems from various academic perspectives, especially historical and philosophical perspectives.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNA(下記のURLリンクをクリック)で指示する。4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。オンライン受講生には4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	教育思想／教育史		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育の理念と目的の考察	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	古代ギリシャの教育思想に見る教育思想の類型	
第3回 Session 3	西欧中世の教育思想を手がかりに考察する宗教と教育の関係	
第4回 Session 4	近代の子ども観～子どもの発見	
第5回 Session 5	啓蒙と教育	
第6回 Session 6	近代教育思想の隆盛～自然概念と教育	
第7回 Session 7	教育学の成立と広がり	
第8回 Session 8	公教育の成立と広がり	
第9回 Session 9	子どもの世紀としての20世紀	
第10回 Session 10	現在の諸外国の教育	
第11回 Session 11	近代以前の日本の教育史	
第12回 Session 12	日本における近代公教育制度の展開	
第13回 Session 13	戦後日本の教育	
第14回 Session 14	これからの教育の考察・本講義のまとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	LUNAに事前に掲載しておく資料を授業の前に理解しておくこと。西洋史と日本史についての基礎的な知識をあらかじめ持つておくこと。復習としては、授業に登場した主な人物やキーワードについて簡単に解説できるようにしておくこと。

参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄、森川直、坂越正樹編 タイトル:教育的思考の作法2——教育学概論 発行所:福村出版 出版年:2008 ISBN:978-4571101403 著者名:眞壁宏幹編 タイトル:西洋教育思想史 発行所:慶應義塾大学出版会 出版年:2016 ISBN:978-4-7664-2327-3
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note オンライン受講生には平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_198387_1&cmp_tab_id=_234427_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 10時50分42秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜1時限	春学期／Spring	H－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48003003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教育原論 3／General Principles of Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand educational history and philosophy in Japan and the West and to acquire the viewpoints and fundamental attitudes required for teachers.		
到達目標/Learning Goals	教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to develop their basic knowledge and understanding of education and analyze and consider educational problems from various academic perspectives, especially historical and philosophical perspectives.		
授業方法 Course Format	視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料等を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	教育思想／教育史		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育の理念と目的の考察	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	古代ギリシャの教育思想に見る教育思想の類型	
第3回 Session 3	西欧中世の教育思想を手がかりに考察する宗教と教育の関係	
第4回 Session 4	近代の子ども観～子どもの発見	
第5回 Session 5	啓蒙と教育	
第6回 Session 6	近代教育思想の隆盛～自然概念と教育	
第7回 Session 7	教育学の成立と広がり	
第8回 Session 8	公教育の成立と広がり	
第9回 Session 9	子どもの世紀としての20世紀	
第10回 Session 10	現在の諸外国の教育	
第11回 Session 11	近代以前の日本の教育史	
第12回 Session 12	日本における近代公教育制度の展開	
第13回 Session 13	戦後日本の教育	
第14回 Session 14	これからの教育の考察・本講義のまとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	LUNAに事前に掲載しておく資料を授業の前に理解しておくこと。西洋史と日本史についての基礎的な知識をあらかじめ持つておくこと。復習としては、授業に登場した主な人物やキーワードについて簡単に解説できるようにしておくこと。

参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄、森川直、坂越正樹編 タイトル:教育的思考の作法2——教育学概論 発行所:福村出版 出版年:2008 ISBN:978-4571101403
	著者名:眞壁宏幹編 タイトル:西洋教育思想史 発行所:慶應義塾大学出版会 出版年:2016 ISBN:978-4-7664-2327-3
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
成績評価 Grading	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	
更新日時/Date of Update	2021年01月08日 09時20分46秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜1時限	秋学期／Fall	B－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48003004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教育原論 4／General Principles of Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand educational history and philosophy in Japan and the West and to acquire the viewpoints and fundamental attitudes required for teachers.		
到達目標/Learning Goals	教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to develop their basic knowledge and understanding of education and analyze and consider educational problems from various academic perspectives, especially historical and philosophical perspectives.		
授業方法 Course Format	視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料等を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	教育思想／教育史		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育の理念と目的の考察	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	古代ギリシャの教育思想に見る教育思想の類型	
第3回 Session 3	西欧中世の教育思想を手がかりに考察する宗教と教育の関係	
第4回 Session 4	近代の子ども観～子どもの発見	
第5回 Session 5	啓蒙と教育	
第6回 Session 6	近代教育思想の隆盛～自然概念と教育	
第7回 Session 7	教育学の成立と広がり	
第8回 Session 8	公教育の成立と広がり	
第9回 Session 9	子どもの世紀としての20世紀	
第10回 Session 10	現在の諸外国の教育	
第11回 Session 11	近代以前の日本の教育史	
第12回 Session 12	日本における近代公教育制度の展開	
第13回 Session 13	戦後日本の教育	
第14回 Session 14	これからの教育の考察・本講義のまとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	LUNAに事前に掲載しておく資料を授業の前に理解しておくこと。西洋史と日本史についての基礎的な知識をあらかじめ持つておくこと。復習としては、授業に登場した主な人物やキーワードについて簡単に解説できるようにしておくこと。

参考書/Reference books	著者名：小笠原道雄、森川直、坂越正樹編 タイトル：教育的思考の作法2——教育学概論 発行所：福村出版 出版年：2008 ISBN：978-4571101403 著者名：眞壁宏幹編 タイトル：西洋教育思想史 発行所：慶應義塾大学出版会 出版年：2016 ISBN：978-4-7664-2327-3
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	
更新日時/Date of Update	2021年01月08日 09時23分11秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜1時限	秋学期／Fall	B－304

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48003005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教育原論 5/General Principles of Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand educational history and philosophy in Japan and the West and to acquire the viewpoints and fundamental attitudes required for teachers.		
到達目標/Learning Goals	教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to develop their basic knowledge and understanding of education and analyze and consider educational problems from various academic perspectives, especially historical and philosophical perspectives.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNA(下記のURLリンクをクリック)で指示する。4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。オンライン受講生には4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	教育思想/教育史		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育の理念と目的の考察	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	古代ギリシャの教育思想に見る教育思想の類型	
第3回 Session 3	西欧中世の教育思想を手がかりに考察する宗教と教育の関係	
第4回 Session 4	近代の子ども観～子どもの発見	
第5回 Session 5	啓蒙と教育	
第6回 Session 6	近代教育思想の隆盛～自然概念と教育	
第7回 Session 7	教育学の成立と広がり	
第8回 Session 8	公教育の成立と広がり	
第9回 Session 9	子どもの世紀としての20世紀	
第10回 Session 10	現在の諸外国の教育	
第11回 Session 11	近代以前の日本の教育史	
第12回 Session 12	日本における近代公教育制度の展開	
第13回 Session 13	戦後日本の教育	
第14回 Session 14	これからの教育の考察・本講義のまとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	LUNAに事前に掲載しておく資料を授業の前に理解しておくこと。西洋史と日本史についての基礎的な知識をあらかじめ持つておくこと。復習としては、授業に登場した主な人物やキーワードについて簡単に解説できるようにしておくこと。

参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄、森川直、坂越正樹編 タイトル:教育的思考の作法2——教育学概論 発行所:福村出版 出版年:2008 ISBN:978-4571101403
	著者名:眞壁宏幹編 タイトル:西洋教育思想史 発行所:慶應義塾大学出版会 出版年:2016 ISBN:978-4-7664-2327-3
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note オンライン受講生には平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195865_1&cmp_tab_id=_231905_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 10時52分04秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜2時限	春学期／Spring	VII－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48003006	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】教育原論 6/General Principles of Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand educational history and philosophy in Japan and the West and to acquire the viewpoints and fundamental attitudes required for teachers.		
到達目標/Learning Goals	教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to develop their basic knowledge and understanding of education and analyze and consider educational problems from various academic perspectives, especially historical and philosophical perspectives.		
授業方法 Course Format	視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料等を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	教育思想/教育史		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育の理念と目的の考察	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	古代ギリシャの教育思想に見る教育思想の類型	
第3回 Session 3	西欧中世の教育思想を手がかりに考察する宗教と教育の関係	
第4回 Session 4	近代の子ども観～子どもの発見	
第5回 Session 5	啓蒙と教育	
第6回 Session 6	近代教育思想の隆盛～自然概念と教育	
第7回 Session 7	教育学の成立と広がり	
第8回 Session 8	公教育の成立と広がり	
第9回 Session 9	子どもの世紀としての20世紀	
第10回 Session 10	現在の諸外国の教育	
第11回 Session 11	近代以前の日本の教育史	
第12回 Session 12	日本における近代公教育制度の展開	
第13回 Session 13	戦後日本の教育	
第14回 Session 14	これからの教育の考察・本講義のまとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	LUNAに事前に掲載しておく資料を授業の前に理解しておくこと。西洋史と日本史についての基礎的な知識をあらかじめ持つておくこと。復習としては、授業に登場した主な人物やキーワードについて簡単に解説できるようにしておくこと。

参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄、森川直、坂越正樹編 タイトル:教育的思考の作法2——教育学概論 発行所:福村出版 出版年:2008 ISBN:978-4571101403 著者名:眞壁宏幹編 タイトル:西洋教育思想史 発行所:慶應義塾大学出版会 出版年:2016 ISBN:978-4-7664-2327-3
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	
更新日時/Date of Update	2021年01月08日 09時25分27秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜3時限	秋学期／Fall	VII－101

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48004001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】発達・学習過程論 1／Process of Development and Learning		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、発達過程とその特徴及び学習に関する基本的な理論を理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the process of development, its characteristics, and basic theory on learning.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点の理解を授業の目標として設定しています。 a)発達の概念及び教育における発達理解の意義 b)各発達段階の具体的特徴 c)学習に関する基礎的理論		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the concept of development and significance of developmental understanding in education, b) the specific characteristics of each stage of development, c) basic theory on learning.		
授業方法 Course Format	第1回から第3回はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。第4回以降は対面授業を実施する予定。変更があれば授業中またはLUNAで指示します。また、休講することがあれば、その補講はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降もオンデマンドA型オンライン授業を実施します。対面授業とシラバス、授業内容等は同じですが、方法をはじめ、異なる点もいろいろと出てくると思います。その点は、理解しておいて下さい(→「成績評価備考」欄も参照のこと)。		
検索キーワード/Keywords	発達 学習 動機づけ		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	発達・学習過程を理解することの意義(教師に求められる発達支援と学習支援)	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達理論の変遷と諸問題1(発達の規定要因を中心に)	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達理論の変遷と諸問題2(相互作用説と臨界期)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	初期学習の重要性と生涯発達	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	エリクソンの発達理論1(理論の概要と特徴、フロイトの発達理論との相違点など)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	エリクソンの発達理論2(各発達段階とライフタスク)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	ピアジェの発達理論(ピアジェ理論の概要と特徴及びその限界)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	教授・学習過程と主体的学習(学習意欲とメタ認知能力、自己調整学習を中心に)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学習意欲の諸問題1(学習性無力感と原因帰属、自己効力感)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学習意欲の諸問題2(外発的動機づけと内発的動機づけ)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	認知的葛藤を中心としたバーラインの認知的動機づけ理論	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	授業実践と動機づけ(認知的葛藤を喚起する教材提示や発問のあり方)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

授業計画 Overview for each class	・原則、各回の授業後にはLUNAを使った小テスト(プリント、テキスト等を見ても構わない)に取り組む必要があります。その小テストのフィードバックは、締め切り後にLUNAの小テスト機能を使い、正誤の通知、助言(難しいと思われる問題の時)等を行います。なお、最終評価で算入するのは小テストに取り組んでいる頻度であり、各小テストの点数ではありませんので、各回の点数は気にしないようにして下さい。 ・履修登録の関係上、第1回から第3回の小テストは第4回以降にアップするようにします。
---------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名:善明宣夫 タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	本学所定の形式により学期末に行います。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note		
	【「03 授業中試験」に関する説明】 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。 【対面授業受講生とオンライン受講生の小テスト問題、授業中試験問題】 仮に、対面授業とオンライン授業で扱う内容等で多少の差異が生じたとしても、共通する内容で、LUNAの小テスト問題、授業中試験問題を作成します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_194937_1&cmp_tab_id=_230977_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 13時52分02秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜5時限	春学期／Spring	B-302

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48004002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】発達・学習過程論 2／Process of Development and Learning		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	善明 宣夫(ZENMYOU NOBUO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、発達過程とその特徴、及び学習に関する基本的な理論を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the process of development, its characteristics, and basic theory on learning.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点の理解を授業の目標として設定している。 a)発達の概念及び教育における発達理解の意義 b)各発達段階の具体的特徴 c)学習に関する基礎的理論		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the concept of development and significance of developmental understanding in education, b) the specific characteristics of each stage of development, c) basic theory on learning.		
授業方法 Course Format	オンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	
第2回 Session 2	発達・学習過程を理解することの意義(教師に求められる発達支援と学習支援)	
第3回 Session 3	発達理論の変遷と諸問題1(発達の規定要因を中心に)	
第4回 Session 4	発達理論の変遷と諸問題2(相互作用説と臨界期)	
第5回 Session 5	初期学習の重要性和生涯発達	
第6回 Session 6	エリクソンの発達理論1(生涯発達からみた理論の概要と特徴、フロイトの発達理論との相違点など)	
第7回 Session 7	エリクソンの発達理論2(各発達段階とライフタスク)	
第8回 Session 8	ピアジェの発達理論(ピアジェ理論の概要と特徴及びその限界)	
第9回 Session 9	教授・学習過程と主体的学習(学習意欲とメタ認知能力の重要性を中心に)	
第10回 Session 10	学習意欲の諸問題1(学習性無力感と原因帰属、自己効力感)	
第11回 Session 11	学習意欲の諸問題2(外発的動機づけと内発的動機づけ)	
第12回 Session 12	認知的葛藤を中心としたバーラインの認知的動機づけ理論	
第13回 Session 13	授業実践と動機づけ(認知的葛藤を喚起する教材提示や発問のあり方)	
第14回 Session 14	まとめ(授業のふり返りと試験等について)	
授業外学習 Study Required outside Class	シラバスを参考に教科書等で予習をして授業に臨むこと(60分)。また教科書、配付資料、ノート等で毎回の復習をしておくこと(60分)。また平常リポートの講評については、次の授業回に口頭で行う。	

教科書/Required texts	著者名:善明宣夫 タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
参考文献・資料 Reference books	参考文献については適時紹介する。また資料については事前にLUNAで提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	本学所定の形式により学期末に行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	100%	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_204673_1&cmp_tab_id=_240713_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 15時07分47秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜4時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48004003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】発達・学習過程論 3／Process of Development and Learning		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、発達過程とその特徴及び学習に関する基本的な理論を理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the process of development, its characteristics, and basic theory on learning.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点の理解を授業の目標として設定しています。 a)発達の概念及び教育における発達理解の意義 b)各発達段階の具体的特徴 c)学習に関する基礎的理論		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the concept of development and significance of developmental understanding in education, b) the specific characteristics of each stage of development, c) basic theory on learning.		
授業方法 Course Format	授業形態は、対面授業とします。授業の中でペアワーク、グループワークをしたいと考えていますが、コロナウィルス感染状況によりペアワーク等を実施しないこともあります。諸事情で休講することがあれば、オンライン(オンデマンド型)による補講を行います。		
検索キーワード/Keywords	発達 学習 動機づけ		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	発達・学習過程を理解することの意義(教師に求められる発達支援と学習支援)	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達理論の変遷と諸問題1(発達の規定要因を中心に)	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達理論の変遷と諸問題2(相互作用説と臨界期)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	初期学習の重要性と生涯発達	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	エリクソンの発達理論1(理論の概要と特徴、フロイトの発達理論との相違点など)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	エリクソンの発達理論2(各発達段階とライフタスク)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	ピアジェの発達理論(ピアジェ理論の概要と特徴及びその限界)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	教授・学習過程と主体的学習(学習意欲とメタ認知能力、自己調整学習を中心に)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学習意欲の諸問題1(学習性無力感と原因帰属、自己効力感)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学習意欲の諸問題2(外発的動機づけと内発的動機づけ)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	認知的葛藤を中心としたバーラインの認知的動機づけ理論	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	授業実践と動機づけ(認知的葛藤を喚起する教材提示や発問のあり方)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

教科書/Required texts	著者名:善明宣夫 タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	本学所定の形式により学期末に行います。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note		
	「03 授業中試験」に関する説明 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。		
更新日時/Date of Update		2021年01月14日 16時35分03秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜2時限	秋学期／Fall	H-201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48004004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】発達・学習過程論 4／Process of Development and Learning		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	善明 宣夫(ZENMYOU NOBUO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、発達過程とその特徴、及び学習に関する基本的な理論を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the process of development, its characteristics, and basic theory on learning.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点の理解を授業の目標として設定している。 a)発達の概念及び教育における発達理解の意義 b)各発達段階の具体的特徴 c)学習に関する基礎的理論		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the concept of development and significance of developmental understanding in education, b) the specific characteristics of each stage of development, c) basic theory on learning.		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	
第2回 Session 2	発達・学習過程を理解することの意義(教師に求められる発達支援と学習支援)	
第3回 Session 3	発達理論の変遷と諸問題1(発達の規定要因を中心に)	
第4回 Session 4	発達理論の変遷と諸問題2(相互作用説と臨界期)	
第5回 Session 5	初期学習の重要性和生涯発達	
第6回 Session 6	エリクソンの発達理論1(生涯発達からみた理論の概要と特徴、フロイトの発達理論との相違点など)	
第7回 Session 7	エリクソンの発達理論2(各発達段階とライフタスク)	
第8回 Session 8	ピアジェの発達理論(ピアジェ理論の概要と特徴及びその限界)	
第9回 Session 9	教授・学習過程と主体的学習(学習意欲とメタ認知能力の重要性を中心に)	
第10回 Session 10	学習意欲の諸問題1(学習性無力感と原因帰属、自己効力感)	
第11回 Session 11	学習意欲の諸問題2(外発的動機づけと内発的動機づけ)	
第12回 Session 12	認知的葛藤を中心としたバーラインの認知的動機づけ理論	
第13回 Session 13	授業実践と動機づけ(認知的葛藤を喚起する教材提示や発問のあり方)	
第14回 Session 14	まとめ(授業のふり返りと試験等について)	
授業外学習 Study Required outside Class	シラバスを参考に教科書等で予習をして授業に臨むこと(60分)。また教科書、配付資料、ノート等で毎回の復習をしておくこと(60分)。また平常リポートについては、次の授業回に全体の講評を口頭で行う。	

教科書/Required texts	著者名: 善明宣夫 タイトル: 学校教育心理学 発行所: 福村出版 出版年: 2013 ISBN: 978-4-571-22052-4
参考文献・資料 Reference books	参考文献については適時紹介する。また資料については該当する講義の最初に配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	本学所定の形式により学期末に行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	90%	
	平常レポート／Individual reports(04)	10%	
	備考 Note 基本は定期試験を行う予定であるが、コロナ禍の影響により実施できない場合は、レポート試験に切り替えることもある。		
更新日時/Date of Update	2021年01月13日 14時25分52秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜5時限	秋学期／Fall	B-204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48004005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】発達・学習過程論 5／Process of Development and Learning		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、発達過程とその特徴及び学習に関する基本的な理論を理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the process of development, its characteristics, and basic theory on learning.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点の理解を授業の目標として設定しています。 a)発達の概念及び教育における発達理解の意義 b)各発達段階の具体的特徴 c)学習に関する基礎的理論		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the concept of development and significance of developmental understanding in education, b) the specific characteristics of each stage of development, c) basic theory on learning.		
授業方法 Course Format	第1回から第3回はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。第4回以降は対面授業を実施する予定。変更があれば授業中またはLUNAで指示します。また、休講することがあれば、その補講はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降もオンデマンドA型オンライン授業を実施します。対面授業とシラバス、授業内容等は同じですが、方法をはじめ、異なる点もいろいろと出てくると思います。その点は、理解しておいて下さい(→「成績評価備考」欄も参照のこと)。		
検索キーワード/Keywords	発達 学習 動機づけ		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	発達・学習過程を理解することの意義(教師に求められる発達支援と学習支援)	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達理論の変遷と諸問題1(発達の規定要因を中心に)	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達理論の変遷と諸問題2(相互作用説と臨界期)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	初期学習の重要性と生涯発達	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	エリクソンの発達理論1(理論の概要と特徴、フロイトの発達理論との相違点など)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	エリクソンの発達理論2(各発達段階とライフタスク)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	ピアジェの発達理論(ピアジェ理論の概要と特徴及びその限界)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	教授・学習過程と主体的学習(学習意欲とメタ認知能力、自己調整学習を中心に)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学習意欲の諸問題1(学習性無力感と原因帰属、自己効力感)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学習意欲の諸問題2(外発的動機づけと内発的動機づけ)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	認知的葛藤を中心としたバーラインの認知的動機づけ理論	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	授業実践と動機づけ(認知的葛藤を喚起する教材提示や発問のあり方)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

授業計画 Overview for each class	・原則、各回の授業後にはLUNAを使った小テスト(プリント、テキスト等を見ても構わない)に取り組む必要があります。その小テストのフィードバックは、締め切り後にLUNAの小テスト機能を使い、正誤の通知、助言(難しいと思われる問題の時)等を行います。なお、最終評価で算入するのは小テストに取り組んでいる頻度であり、各小テストの点数ではありませんので、各回の点数は気にしないようにして下さい。 ・履修登録の関係上、第1回から第3回の小テストは第4回以降にアップするようにします。
---------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名:善明宣夫 タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	本学所定の形式により学期末に行います。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note		
	【「03 授業中試験」に関する説明】 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。 【対面授業受講生とオンライン受講生の小テスト問題、授業中試験問題】 仮に、対面授業とオンライン授業で扱う内容等で多少の差異が生じたとしても、共通する内容で、LUNAの小テスト問題、授業中試験問題を作成します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202171_1&cmp_tab_id=_238211_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 13時51分06秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜3時限	春学期／Spring	VII-101

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48004006	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】発達・学習過程論 6/Process of Development and Learning		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、発達過程とその特徴及び学習に関する基本的な理論を理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the process of development, its characteristics, and basic theory on learning.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点の理解を授業の目標として設定しています。 a)発達の概念及び教育における発達理解の意義 b)各発達段階の具体的特徴 c)学習に関する基礎的理論		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of a) the concept of development and significance of developmental understanding in education, b) the specific characteristics of each stage of development, c) basic theory on learning.		
授業方法 Course Format	授業形態は、対面授業とします。授業の中でペアワーク、グループワークをしたいと考えていますが、コロナウィルス感染状況によりペアワーク等を実施しないこともあります。諸事情で休講することがあれば、オンライン(オンデマンド型)による補講を行います。		
検索キーワード/Keywords	発達 学習 動機づけ		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	発達・学習過程を理解することの意義(教師に求められる発達支援と学習支援)	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達理論の変遷と諸問題1(発達の規定要因を中心に)	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達理論の変遷と諸問題2(相互作用説と臨界期)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	初期学習の重要性と生涯発達	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	エリクソンの発達理論1(理論の概要と特徴、フロイトの発達理論との相違点など)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	エリクソンの発達理論2(各発達段階とライフタスク)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	ピアジェの発達理論(ピアジェ理論の概要と特徴及びその限界)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	教授・学習過程と主体的学習(学習意欲とメタ認知能力、自己調整学習を中心に)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学習意欲の諸問題1(学習性無力感と原因帰属、自己効力感)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学習意欲の諸問題2(外発的動機づけと内発的動機づけ)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	認知的葛藤を中心としたバーラインの認知的動機づけ理論	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	授業実践と動機づけ(認知的葛藤を喚起する教材提示や発問のあり方)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

教科書/Required texts	著者名: 善明宣夫 タイトル: 学校教育心理学 発行所: 福村出版 出版年: 2013 ISBN: 978-4-571-22052-4
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	本学所定の形式により学期末に行います。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note 「03 授業中試験」に関する説明 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。		
更新日時/Date of Update		2021年01月14日 16時36分39秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜4時限	秋学期／Fall	IV-402

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48005001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】学校教育論 1／Principles of School Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、教育に関する社会的・制度的・経営的事項に対する理解を深めることにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand social, systematic, and managerial matters related to education.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 日本の教育制度についての理解 2. 公教育制度を保障するための法体系とその意義についての理解 3. 近年の教育改革の動向についての理解(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など) 4. 子供や教師の置かれた状況(いじめ、不登校、教師の多忙化など)に対する理解 5. 学校安全に向けた対応の必要性に対する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the educational system in Japan, 2. the significance of law in securing the public educational system, 3. reform of the educational system in recent years, 4. the problems faced by children and teachers (bullying, school non-attendance, teachers being busy with many things), 5. the need for coping with school safety		
授業方法 Course Format	1～3回目の授業については、オンデマンド型オンラインで実施する。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降の授業については、対面で実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。対面授業では、講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。詳しくは、あらためてLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	学校教育の歴史(学校の起源、下構型学校系統と上構型学校系統、3つの学校体系等)	
第2回 Session 2	一条校の種類と各一条校の目的等	
第3回 Session 3	近年の教育改革の動向(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など)	
第4回 Session 4	公教育制度を保障するための法体系(教育行政の理念と仕組みを含む)	
第5回 Session 5	いじめ1(いじめの発生要因に関する諸仮説、学級集団といじめ)	
第6回 Session 6	いじめ2(教師に必要とされる指導態度、スクールカウンセラー制度の導入)	
第7回 Session 7	不登校(不登校者数増加の社会的背景、不登校の社会学理論、不登校の子供たちに必要とされる支援)	
第8回 Session 8	「ゆとり教育」と学力低下	
第9回 Session 9	「ゆとり教育」の煽りを受けたのは誰か(社会階層と学力)	
第10回 Session 10	学力向上に向けた学校現場の取り組み(公立学校の経営努力)	
第11回 Session 11	教育職員の制度1(教育職員の種類と職務、教育職員の免許状と任用等)	
第12回 Session 12	教育職員の制度2(教育職員の研修、教育職員の分限と懲戒)	
第13回 Session 13	教師の多忙化とバーンアウト(教員環境の国際比較の結果を含む)	
第14回 Session 14	学校安全に向けた対応の現状と課題	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で取り扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷等しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:岡本徹・佐々木司 タイトル:新しい時代の教育制度と経営 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2009 ISBN: 著者名:本図愛美・末富芳編 タイトル:新・教育の制度と経営【新訂版】 発行所:学事出版 出版年:2017 ISBN: 著者名:国立教育政策研究所編 タイトル:教員環境の国際比較—OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2013年調査結果報告書 発行所:明石書店 出版年:2014 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	80%	
	平常レポート／Individual reports(04)	20%	
	備考 Note		
	【オンライン受講生対象者】 平常レポートのみで評価する。ただし、定期試験を実施しない分、対面授業対象者よりも多くのレポートを課すことになる。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 12時41分20秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜2時限	春学期／Spring	B－304

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48005002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】学校教育論 2／Principles of School Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、教育に関する社会的・制度的・経営的事項に対する理解を深めることにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand social, systematic, and managerial matters related to education.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 日本の教育制度についての理解 2. 公教育制度を保障するための法体系とその意義についての理解 3. 近年の教育改革の動向についての理解(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など) 4. 子供や教師の置かれた状況(いじめ、不登校、教師の多忙化など)に対する理解 5. 学校安全に向けた対応の必要性に対する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the educational system in Japan, 2. the significance of law in securing the public educational system, 3. reform of the educational system in recent years, 4. the problems faced by children and teachers (bullying, school non-attendance, teachers being busy with many things), 5. the need for coping with school safety		
授業方法 Course Format	1～3回目の授業については、オンデマンド型オンラインで実施する。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降の授業については、対面で実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。対面授業では、講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。詳しくは、あらためてLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	学校教育の歴史(学校の起源、下構型学校系統と上構型学校系統、3つの学校体系等)	
第2回 Session 2	一条校の種類と各一条校の目的等	
第3回 Session 3	近年の教育改革の動向(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など)	
第4回 Session 4	公教育制度を保障するための法体系(教育行政の理念と仕組みを含む)	
第5回 Session 5	いじめ1(いじめの発生要因に関する諸仮説、学級集団といじめ)	
第6回 Session 6	いじめ2(教師に必要とされる指導態度、スクールカウンセラー制度の導入)	
第7回 Session 7	不登校(不登校者数増加の社会的背景、不登校の社会学理論、不登校の子供たちに必要とされる支援)	
第8回 Session 8	「ゆとり教育」と学力低下	
第9回 Session 9	「ゆとり教育」の煽りを受けたのは誰か(社会階層と学力)	
第10回 Session 10	学力向上に向けた学校現場の取り組み(公立学校の経営努力)	
第11回 Session 11	教育職員の制度1(教育職員の種類と職務、教育職員の免許状と任用等)	
第12回 Session 12	教育職員の制度2(教育職員の研修、教育職員の分限と懲戒)	
第13回 Session 13	教師の多忙化とバーンアウト(教員環境の国際比較の結果を含む)	
第14回 Session 14	学校安全に向けた対応の現状と課題	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で取り扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷等しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:岡本徹・佐々木司 タイトル:新しい時代の教育制度と経営 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2009 ISBN: 著者名:本図愛美・末富芳編 タイトル:新・教育の制度と経営【新訂版】 発行所:学事出版 出版年:2017 ISBN: 著者名:国立教育政策研究所編 タイトル:教員環境の国際比較—OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2013年調査結果報告書 発行所:明石書店 出版年:2014 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	80%	
	平常レポート／Individual reports(04)	20%	
	備考 Note		
	【オンライン受講生対象者】 平常レポートのみで評価する。ただし、定期試験を実施しない分、対面授業対象者よりも多くのレポートを課すことになる。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 12時42分48秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜2時限	春学期／Spring	B－304

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48005003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】学校教育論 3／Principles of School Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、教育に関する社会的・制度的・経営的事項に対する理解を深めることにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand social, systematic, and managerial matters related to education.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 日本の教育制度についての理解 2. 公教育制度を保障するための法体系とその意義についての理解 3. 近年の教育改革の動向についての理解(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など) 4. 子供や教師の置かれた状況(いじめ、不登校、教師の多忙化など)に対する理解 5. 学校安全に向けた対応の必要性に対する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the educational system in Japan, 2. the significance of law in securing the public educational system, 3. reform of the educational system in recent years, 4. the problems faced by children and teachers (bullying, school non-attendance, teachers being busy with many things), 5. the need for coping with school safety		
授業方法 Course Format	講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	学校教育の歴史(学校の起源、下構型学校系統と上構型学校系統、3つの学校体系等)	
第2回 Session 2	一条校の種類と各一条校の目的等	
第3回 Session 3	近年の教育改革の動向(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など)	
第4回 Session 4	公教育制度を保障するための法体系(教育行政の理念と仕組みを含む)	
第5回 Session 5	いじめ1(いじめの発生要因に関する諸仮説、学級集団といじめ)	
第6回 Session 6	いじめ2(教師に必要とされる指導態度、スクールカウンセラー制度の導入)	
第7回 Session 7	不登校(不登校者数増加の社会的背景、不登校の社会学理論、不登校の子供たちに必要とされる支援)	
第8回 Session 8	「ゆとり教育」と学力低下	
第9回 Session 9	「ゆとり教育」の煽りを受けたのは誰か(社会階層と学力)	
第10回 Session 10	学力向上に向けた学校現場の取り組み(公立学校の経営努力)	
第11回 Session 11	教育職員の制度1(教育職員の種類と職務、教育職員の免許状と任用等)	
第12回 Session 12	教育職員の制度2(教育職員の研修、教育職員の分限と懲戒)	
第13回 Session 13	教師の多忙化とバーンアウト(教員環境の国際比較の結果を含む)	
第14回 Session 14	学校安全に向けた対応の現状と課題	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で取り扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷等しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:岡本徹・佐々木司 タイトル:新しい時代の教育制度と経営 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2009 ISBN: 著者名:本図愛美・末富芳編 タイトル:新・教育の制度と経営【新訂版】 発行所:学事出版 出版年:2017 ISBN: 著者名:国立教育政策研究所編 タイトル:教員環境の国際比較—OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2013年調査結果報告書 発行所:明石書店 出版年:2014 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	80%	
	平常リポート／Individual reports(04)	20%	
更新日時/Date of Update	2021年01月12日 15時03分58秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜1時限	秋学期／Fall	B－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48005004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】学校教育論 4／Principles of School Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、教育に関する社会的・制度的・経営的事項に対する理解を深めることにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand social, systematic, and managerial matters related to education.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 日本の教育制度についての理解 2. 公教育制度を保障するための法体系とその意義についての理解 3. 近年の教育改革の動向についての理解(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など) 4. 子供や教師の置かれた状況(いじめ、不登校、教師の多忙化など)に対する理解 5. 学校安全に向けた対応の必要性に対する理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the educational system in Japan, 2. the significance of law in securing the public educational system, 3. reform of the educational system in recent years, 4. the problems faced by children and teachers (bullying, school non-attendance, teachers being busy with many things), 5. the need for coping with school safety		
授業方法 Course Format	講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	学校教育の歴史(学校の起源、下構型学校系統と上構型学校系統、3つの学校体系等)	
第2回 Session 2	一条校の種類と各一条校の目的等	
第3回 Session 3	近年の教育改革の動向(認定子ども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間人校長の導入など)	
第4回 Session 4	公教育制度を保障するための法体系(教育行政の理念と仕組みを含む)	
第5回 Session 5	いじめ1(いじめの発生要因に関する諸仮説、学級集団といじめ)	
第6回 Session 6	いじめ2(教師に必要とされる指導態度、スクールカウンセラー制度の導入)	
第7回 Session 7	不登校(不登校者数増加の社会的背景、不登校の社会学理論、不登校の子供たちに必要とされる支援)	
第8回 Session 8	「ゆとり教育」と学力低下	
第9回 Session 9	「ゆとり教育」の煽りを受けたのは誰か(社会階層と学力)	
第10回 Session 10	学力向上に向けた学校現場の取り組み(公立学校の経営努力)	
第11回 Session 11	教育職員の制度1(教育職員の種類と職務、教育職員の免許状と任用等)	
第12回 Session 12	教育職員の制度2(教育職員の研修、教育職員の分限と懲戒)	
第13回 Session 13	教師の多忙化とバーンアウト(教員環境の国際比較の結果を含む)	
第14回 Session 14	学校安全に向けた対応の現状と課題	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で取り扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷等しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:岡本徹・佐々木司 タイトル:新しい時代の教育制度と経営 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2009 ISBN: 著者名:本図愛美・末富芳編 タイトル:新・教育の制度と経営【新訂版】 発行所:学事出版 出版年:2017 ISBN: 著者名:国立教育政策研究所編 タイトル:教員環境の国際比較—OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2013年調査結果報告書 発行所:明石書店 出版年:2014 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	80%	
	平常リポート／Individual reports(04)	20%	
更新日時/Date of Update	2021年01月12日 15時04分57秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜3時限	秋学期／Fall	B－204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48005005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】学校教育論 5/Principles of School Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	前原 健三(MAEHARA KENZO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	1. 教育に関する社会的・制度的又は経営的事項等について、基礎的知識を学ぶ。 2. 学校と地域社会との連携及び学校安全への対応について、基礎的事項を学ぶ。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to 1. learn basic knowledge of social, institutional, and business issues concerning education, 2. learn about basic issues concerning cooperation between schools and local communities and actions for the safety of schools.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の教育制度について、特に以下の事項を理解する。 ①公教育制度の理念と構造及びこれらを保障するための法体系とその意義 ②近年の教育制度改革の動向(認定こども園、学校評議員制、コミュニティスクール、民間校長の導入など) ③子供や教師の置かれた現状と課題(いじめ、不登校、教師の多忙化など) ④学校安全に向けた対応の必要性		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the educational system in Japan; 2. the significance of law in securing the public educational system; 3. reform of the educational system in recent years, such as the introduction of certified centers for early childhood education and care, a school trustee system, community schools, and private citizen principals; 4. the problems faced by children and teachers, such as bullying, absenteeism, and teacher busyness; and 5. the need to take actions for the safety of schools.		
授業の概要・背景 Course Outline	1. 本授業の目的は、教職志望の学生を対象に、教育に関する社会的・制度的・経営的事項に対する理解を促すことにある。2. さらには教職に就く際の責任及び意義を理解するとともに、将来の進路として教職を選択すべきかどうかということについて深く考える各種の機会を提供することにある。3. 併せて、関西学院大学スクールモットーに基づく広義の教育者及び世界市民の育成にささやかながら資することを期するものである。		
授業方法 Course Format	①原則的に対面授業を実施し、教材や課題等についてはLUNAで指示する。②【基礎疾患等によるオンライン授業受講学生】については、個別に対応する。③大学判断により安全性確保の観点から何らかの変更があれば、授業中及びLUNAで指示する。④【方法上の留意事項】 1. 履修者の主体的・対話的・深い学びの基礎力を形成するため、課題学修を行う。2. 自問自答・自学自修及びプレゼンテーションによる課題学修を通して、教職についての学修過程を主体化し、教職への更なる理解を深め、将来的に中高生の主体的・対話的・深い学びを育み支援する実践力へとつなげる。		
関連科目/Related Courses	日本国憲法、教育原論、教職概論、各教科に関する科目、教育実習、教職実践演習等、教職課程全般		
検索キーワード/Keywords	SEDs・学校教育・教育制度・教育経営・教育行財政・教育政策・生涯学習・教員養成・アクティブラーニング・兵庫県教員育成指標等		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	4月9日:(1) 本授業の運営方法(シラバス内容＝目的・スケジュール・成績評価方法等)について説明を踏まえて質疑応答し、確認する。 (2) プレゼンテーション希望者を募り、メンバーを編成し、発表スケジュールを調整し、確定する。 (3) 選択課題又はプレゼンテーション担当課題の事前学修を行う。	4月7日(水)正午までに、LUNAにて左記(1)(2)(3)についての解説メモを掲載。本授業のシラバス及び解説メモを熟読。質問は、 coy16890@kwansei.ac.jp にて可。初回授業経過報告を4月12日(月)正午までに、LUNAに掲載。事後確認を要す。
第2回 Session 2	4月16日:(1) プレゼンテーション実施希望グループはメンバー確認の上、発表へ向けての打ち合わせや分担・データ作成準備作業を行う。 (2) リポート課題10題から8題を選択する場合は、その選択作業と課題リポート作成作業を行う。 (3)【課題①】についての事前学修及びプレゼンテーションの準備を行う。	同上。第2回授業経過報告を4月19日(月)正午までに、LUNAに掲載。事後確認を要す。
第3回 Session 3	4月23日:(1) プレゼンテーション実施希望グループはメンバー確認の上、発表へ向けての打ち合わせや分担・データ作成準備作業を行う。 (2) リポート課題10題から8題を選択する場合は、その選択作業と課題リポート作成作業を行う。 (3)【課題②】についての事前学修及びプレゼンテーションの準備を行う。	同上。第3回授業経過報告を4月26日(月)正午までに、LUNAに掲載。事後確認を要す。
第4回 Session 4	4月30日:【課題①】テキスト第16章「教育制度の法体系と原理」の事前学修WORKに取り組み、教育の機会均等の実現に向けての理念、具体的な法制度及び施策について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてレポートを作成する。	テキスト第16章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題①】リポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及び coy16890@kwansei.ac.jp にて質問可。
第5回 Session 5	5月7日:【課題②】テキスト第1章「教員の育成に関する行政」の事前学修WORKに取り組み、我が国における教員の養成期から採用後までの制度について学び、教員の育成システムとその課題について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換の準備を踏まえてレポートを作成する。	テキスト第1章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題②】リポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及び coy16890@kwansei.ac.jp にて質問可。
第6回	5月14日:【課題③】テキスト第10章「学校安全」の事前学修WORKに取り組み、「安心・安全な毎日」を当たり前にする方法	テキスト第10章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題③】リポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを

Session 6	について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてレポートを作成する。	掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第7回 Session 7	5月21日：【課題④】テキスト第2章「就学前教育行政と幼稚園・保育園・認定こども園」の事前学修WORKに取り組み、生涯学習の基礎を培うための基本理念とその制度運営について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてをレポートを作成する。	テキスト第2章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題④】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第8回 Session 8	5月28日：【課題⑤】テキスト第3章「初等中等教育行政と学校」の事前学修WORKに取り組み、学校制度の歴史的展開と初等中等教育の意味について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてをレポートを作成する。	テキスト第3章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題⑤】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第9回 Session 9	6月4日：【課題⑥】テキスト第4章「高等教育・私立学校行政と学校」の事前学修WORKに取り組み、学校の設置主体としての「法人」のもつ意味について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてをレポートを作成する。	テキスト第4章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題⑥】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第10回 Session 10	6月11日：【課題⑦】テキスト第5章「特別支援教育と学校・学校外教育」の事前学修WORKに取り組み、変動する教育機会について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてをレポートを作成する。	テキスト第5章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題⑦】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第11回 Session 11	6月18日：【課題⑧】テキスト第6章「教育課程行政」の事前学修WORKに取り組み、教職実践における学習指導要領と教育課程の位置について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてをレポートを作成する。	テキスト第6章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題⑧】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第12回 Session 12	6月25日：【課題⑨】テキスト第7章「教育委員会と学校」の事前学修WORKに取り組み、公立学校の管理と運営について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてをレポートを作成する。	テキスト第7章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題⑨】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第13回 Session 13	7月2日：【課題⑩】テキスト第8章「学校と外部環境」の事前学修WORKに取り組み、学校と地域の連携の在り方と課題について自学自修により探究を深め、プレゼンテーション及び質疑応答・意見交換等を踏まえてレポートを作成する。	テキスト第8章を予習復習(2～4時間以上)し、【課題⑩】レポートを作成する。授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。授業中及びcoy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第14回 Session 14	7月9日：【まとめ】(1) 課題レポート及びプレゼンテーションを踏まえての質疑応答を行う。(2) 授業内テストの事前説明を行い、これについて質疑応答を行う。(3) 授業運営等について、質疑応答を行う。(4) 実施できなかったプレゼンテーションのための予備時間とする。	授業日前日正午までに、LUNAに課題解説メモを掲載。coy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。
第15回 Session 15	7月16日：【授業内試験】上記(2)を参照のこと。	【基礎疾患等によるオンライン授業受講学生】については、その申請者に別途指示する。coy16890@kwansei.ac.jpにて質問可。

教科書 Required texts	[アクティバート教育学05]教育制度を支える教育行政 青木栄一編著 ミネルヴァ書房 2019
参考文献・資料 Reference books	1. Japanese Educational System and its Administration, The Kansai Society for Educational Administration, 東信堂, 2018 2. 教育法規スタートアップ・ネクスト 高見茂他編著 2018 昭和堂 3. 教育制度論—教育行政・教育政策の動向を掴む—早田幸政著 ミネルヴァ書房 2016 4. 学校安全と危機管理 渡邊正樹編著 大修館書店 2013 5. 古田薫・山下晃一編著 法規で学ぶ教育制度 ミネルヴァ書房 2020
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	1. 授業中に本学にて指示された方法により実施する。 2. 本授業内で独自に実施する場合もある。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	授業内試験及び課題レポート又は一部プレゼンテーションにより評価する。
	備考 Note (1) 課題レポートによる評価：上記シラバス授業計画記載の全10課題から5又は7課題(1課題レポートにつき10%)を選択し、期限までにレポートする(50～70%)。 (2) プレゼンテーションによる評価：上記(1)で課題レポート5課題を選択する場合のみ、それ以外の課題から1題についてグループで(4名程度)プレゼンテーションすること ができる(20%)。 (3) 試験による評価：最終授業に授業にて実施する授業内試験の結果(30%)。【基礎疾患等によるオンライン授業受講学生】については、その申請者に別途指示する。		
備考 Note	※ このシラバスは、3月下旬のコロナ感染状況のもと策定しておしており、対面授業を想定しています。感染状況によっては、その内容に変更を加える場合もありますので、ご承知おきください。 (1) 4月7日正午に、本授業の運営方針の詳細(成績評価方法・レポート作成提出方法等)について、LUNAにてお知らせします。履修登録前に、必ずご確認ください。coy16890@kwansei.ac.jpにて質問可能です。 (2) テキストを使用しますので、受講される場合は必ず、必ず生協より購入ください。 (3) 授業の進行状況に応じて、シラバス記載の授業計画を一部変更することがあるので、ご了承ください。 (4) 余裕をもって充実した学修を行うためには、春学期の履修登録科目数を考慮の上、特に「教職概論5」との同時履修は避けた方が、その可能性も高まります。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/announcement?method=search&context=mybb&course_id=_192503_1&viewChoice=2		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 00時09分26秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜4時限	春学期／Spring	IV－401

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48005006	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【100】学校教育論 6/Principles of School Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	前原 健三(MAEHARA KENZO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは?> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	1. 教育に関する社会的・制度的又は経営的事項について基礎的知識を学ぶ。 2. 学校と地域社会との連携及び学校安全への対応について基礎的事項を学ぶ。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to 1. learn basic knowledge of social, institutional, and business issues concerning education, 2. learn about basic issues concerning cooperation between schools and local communities and actions for the safety of schools.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の教育制度について、特に以下の事項を理解する。 ①公教育制度の理念と構造及びこれらを保障するための法体系とその意義 ②近年の教育制度改革の動向 ③子供や教師の置かれた現状と課題 ④学校安全に向けた対応の必要性		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the educational system in Japan; 2. the significance of law in securing the public educational system; 3. reform of the educational system in recent years, such as the introduction of certified centers for early childhood education and care, a school trustee system, community schools, and private citizen principals; 4. the problems faced by children and teachers, such as bullying, absenteeism, and teacher busyness; and 5. the need to take actions for the safety of schools.		
授業の概要・背景 Course Outline	1. 本授業の目的は、教職志望の学生を対象に、教育に関する社会的・制度的・経営的事項に対する理解を促すことにある。2. さらには教職に就く際の責任及び意義を理解するとともに、将来の進路として教職を選択すべきかどうかということについて深く考える各種の機会を提供することにある。3. 併せて、関西学院大学スクールモットーに基づく広義の教育者及び世界市民の育成にささやかながら資することを期するものである。		
授業方法 Course Format	1. 履修者の主体的・対話的・深い学びの基礎力を形成するため、オンライン授業による課題学修を行う。2. 自問自答・自学自修による課題学修を通して、教職についての学修過程を主体化し、教職への更なる理解を深め、将来的に中高生の主体的・対話的・深い学びを育み支援する実践力へとつなげる。3. 本授業についてのお問合せ及び質問等については、前原メールアドレス: coy16890@kwansei.ac.jpまでお知らせください。		
関連科目/Related Courses	日本国憲法、教育原論、教職概論、各教科に関する科目、教育実習、教職実践演習等、教職課程全般		
検索キーワード/Keywords	SEDs・学校教育・教育制度・教育経営・教育行政・生涯学習・アクティブラーニング等		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	9月24日(金):【本授業オリエンテーション】(1)関西学院大学スクールモットー及び教員養成の理念等について、理解する。(2)①本授業の目的 ②授業運営計画と運営方法 ③成績評価方法等について質疑応答により確認し、理解を深める。	関西学院大学スクールモットー及び教員養成の理念等について予習・復習する。本授業運営方法についてシラバス等により確認し、不明な点については、質問する。
第2回 Session 2	10月1日(金):【課題①】(1)テキスト第1章「教員の育成に関する行政」の事前学修WORKに取り組み、(2)我が国における教員の養成期から採用後までの制度について学び、教員の育成システムとその課題について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第1章を予習復習し、【課題①】レポートを作成する。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。プレゼンテーション対象課題とする。
第3回 Session 3	10月8日(金):【課題②】テキスト第10章「学校安全」の事前学修WORKに取り組み、「安心・安全な毎日」を当たり前にする方法について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第10章を予習復習し、【課題②】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第4回 Session 4	10月15日(金):【課題③】テキスト第16章「教育制度の法体系と原理」の事前学修WORKに取り組み、教育の機会均等の実現に向けての理念、具体的な法制度及び施策について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第16章を予習復習し、【課題③】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第5回 Session 5	10月22日(金):【課題④】テキスト第2章「就学前教育行政と幼稚園・保育園・認定こども園」の事前学修WORKに取り組み、生涯学習の基礎を培うための基本理念とその制度運営について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第2章を予習復習し、【課題④】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第6回 Session 6	10月29日(金):【課題⑤】テキスト第3章「初等中等教育行政と学校」の事前学修WORKに取り組み、学校制度の歴史的展開と初等中等教育の意味について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第3章を予習復習し、【課題⑤】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第7回 Session 7	11月5日(金):【課題⑥】テキスト第4章「高等教育・私立学校行政と学校」の事前学修WORKに取り組み、学校の設置主体としての「法人」のもつ意味について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程を、レポートしよう。	テキスト第4章を予習復習し、【課題⑥】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第8回 Session 8	11月12日(金):【課題⑦】テキスト第5章「特別支援教育と学校・学校外教育」の事前学修WORKに取り組み、変動する教育機会について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第5章を予習復習し、【課題⑦】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第9回 Session 9	11月19日(金):【課題⑧】テキスト第6章「教育課程行政」の事前学修WORKに取り組み、教職実践における学習指導要領と教育課程の位置について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第6章を予習復習し、【課題⑧】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。

第10回 Session 10	11月26日(金):【課題⑨】テキスト第7章「教育委員会と学校」の事前学修WORKに取り組み、公立学校の管理と運営について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第7章を予習復習し、【課題⑨】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第11回 Session 11	12月3日(金):【課題⑩】テキスト第8章「学校と外部環境」の事前学修WORKに取り組み、学校と地域の連携の在り方と課題について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう	テキスト第8章を予習復習し、【課題⑩】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第12回 Session 12	12月10日(金):【課題⑪】テキスト第11章「地方教育政治」の事前学修WORKに取り組み、教育と政治の連携の在り方と課題について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第11章を予習復習し、【課題⑪】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第13回 Session 13	12月17日(金):【課題⑫】テキスト第12章「地方教育行政」の事前学修WORKに取り組み、教育施策の意思決定について自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第12章を予習復習し、【課題⑫】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第14回 Session 14	1月7日(金):【課題⑬】テキスト第13章「教育財政」の事前学修WORKに取り組み、無限の目標と有限の資源を結ぶ仕組みについて自学自修により探究を深め、質疑応答・意見交換等を踏まえその過程をレポートしよう。	テキスト第13章を予習復習し、【課題⑬】レポートを作成する。プレゼンテーション対象課題とする。授業前日正午までに、解説メモをLUNAにて公開する。
第15回 Session 15	1月14日(金):授業内テスト	別途、指示する。

教科書 Required texts	[アクティベート教育学05]教育制度を支える教育行政 青木栄一編著 ミネルヴァ書房 2019
参考文献・資料 Reference books	1.Japanese Educational System and its Administration, The Kansai Society for Educational Administration, 東信堂,2018 2.教育法規スタートアップ・ネクスト 高見茂他編著 2018 昭和堂 3.教育制度論—教育行政・教育政策の動向を掴む—早田幸政著 ミネルヴァ書房 2016 4.学校安全と危機管理 渡邊正樹編著 大修館書店 2013
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	1. 授業中に本学にて指示された方法により実施する。 2. 本授業内で独自に実施する場合もある。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
	その他／Others(99)	100%	期限内に提出された課題レポート及び授業内試験又はプレゼンテーションにより評価する。
	備考 Note 成績評価の具体的な方法・基準については、LUNAにてお知らせする。 (1) 上記シラバス記載の課題①～⑬から、6又は8題を選択し、提出期限までにレポートする(60～80点)。 (2) 上記(1)で6題を選択した場合のみ、それ以外の課題から1題を選択し、これについてプレゼンテーション(4名程度)することができる(20点)。 (3) 授業内試験(20点)。		
備考 Note	(1) 9月上旬までに、本授業の運営方法等の詳細について公開します。履修登録前に、ご確認ください。授業についての問い合わせは、coy16890@kwansei.ac.jpまで願います。 (2) テキストを毎回使用しますので、受講される場合は、必ず生協より購入ください。 (3) 授業の進行状況に応じて、シラバス記載の授業計画を一部変更することがあるので、ご了承ください。 (4) 必要に応じて、視聴覚教材を使用することがあります。この場合もシラバス記載の授業計画を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
更新日時/Date of Update	2021年02月17日 17時27分19秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜4時限	秋学期／Fall	III－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48007001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育課程論 1／Principles of Curriculums in Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教育課程の編成と実施に関する基本的な概念・知識および歴史的変遷を学び、現在の教育課程をめぐる課題について理解することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will be introduced to the basic concepts, knowledge, and historical developments in the formation and implementation of educational curricula. The course aims to provide an understanding of various topics in curriculum studies.		
到達目標/Learning Goals	以下の4点を到達目標として設定する。 ・教育課程とその編成に関わる基本的概念・知識を身につける。 ・教育課程が学習指導要領などの諸法規に基づき編成されていることを理解する。 ・教育課程に関わる歴史と現状、学習指導要領の改訂の動向について自己の意見を展開できる。 ・教育課程の編成と実施に関する基礎的実践力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following four learning objectives: ・ Become familiar with the concepts and knowledge in the formation of educational curricula; ・ Become familiar with the formation of educational curricula based on various regulations within course of study; ・ Develop individual opinions on current and historical trends in course of study ・ Gain the ability to discuss topics related to the formulation and implementation of educational curricula.		
授業の概要・背景 Course Outline	学校教育は教育活動の計画である教育課程にもとづいて、公教育・意図的教育として展開されている。そして、学校教育の中心の一つである教科教育では、教科の何(教育内容)を、どのように教え(教育方法)、どのようにその成果を検証(教育評価)するかを検討する必要がある。教科以外の領域における教育活動の内容についても、学習指導要領をもとに教育課程が編成されている。本授業では、学習指導要領をもとにどのような観点で教育計画が立てられ、教育内容として編成されているか、その指導方法・評価方法さらにカリキュラム・マネジメントについて実践をふまえて考察する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	教育課程 学習指導要領 教科教育 学習指導 教育評価		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教科・教育課程とは(その意義・役割・機能、学習指導要領の位置付けについて)	
第2回 Session 2	学習指導要領の歴史的変遷(1)(昭和22年度版～昭和52年度版の学習指導要領まで)	
第3回 Session 3	学習指導要領の歴史的変遷(2)(昭和52年度版から平成20年度版の学習指導要領まで)	
第4回 Session 4	新学習指導要領について(その意義、改訂の背景・内容など)	
第5回 Session 5	教育課程編成の基本原則(1)(憲法、教育基本法、学校教育法などの内容について)	
第6回 Session 6	教育課程編成の基本原則(2)(学校教育法施行規則、その他の関連法令について)	
第7回 Session 7	教育課程に関する諸制度(1)(指導要領改訂から教科書採択までの諸手続きなど)	
第8回 Session 8	教育課程に関する諸制度(2)(教科書及び補助教材の使用、著作権などについて)	
第9回 Session 9	教育課程の編成方法及び教師の役割(編成上の具体的方法及び課題について)	
第10回 Session 10	教育課程の実施と学習指導(教育課程上の学習指導の意義・目的及び具体的方法)	
第11回 Session 11	教育課程の編成と特色ある学校づくり(その取組の背景及び内容などについて)	
第12回 Session 12	教育課程の評価と改善(1)(評価の意義・目的、基準・機能による評価の分類など)	
第13回 Session 13	教育課程の評価と改善(2)(機能による評価の分類、指導要録などについて)	
第14回 Session 14	カリキュラム・マネジメントについて(その意義と重要性、カリキュラム評価について)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から教育問題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校学習指導要領
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時44分04秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜2時限	春学期／Spring	G－301

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48007002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育課程論 2／Principles of Curriculums in Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教育課程の編成と実施に関する基本的な概念・知識および歴史的変遷を学び、現在の教育課程をめぐる課題について理解することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will be introduced to the basic concepts, knowledge, and historical developments in the formation and implementation of educational curricula. The course aims to provide an understanding of various topics in curriculum studies.		
到達目標/Learning Goals	以下の4点を到達目標として設定する。 ・教育課程とその編成に関わる基本的概念・知識を身につける。 ・教育課程が学習指導要領などの諸法規に基づき編成されていることを理解する。 ・教育課程に関わる歴史と現状、学習指導要領の改訂の動向について自己の意見を展開できる。 ・教育課程の編成と実施に関する基礎的実践力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following four learning objectives: ・ Become familiar with the concepts and knowledge in the formation of educational curricula; ・ Become familiar with the formation of educational curricula based on various regulations within course of study; ・ Develop individual opinions on current and historical trends in course of study ・ Gain the ability to discuss topics related to the formulation and implementation of educational curricula.		
授業の概要・背景 Course Outline	学校教育は教育活動の計画である教育課程にもとづいて、公教育・意図的教育として展開されている。そして、学校教育の中心の一つである教科教育では、教科の何(教育内容)を、どのように教え(教育方法)、どのようにその成果を検証(教育評価)するかを検討する必要がある。教科以外の領域における教育活動の内容についても、学習指導要領をもとに教育課程が編成されている。本授業では、学習指導要領をもとにどのような観点で教育計画が立てられ、教育内容として編成されているか、その指導方法・評価方法さらにカリキュラム・マネジメントについて実践をふまえて考察する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	教育課程 学習指導要領 教科教育 学習指導 教育評価		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教科・教育課程とは(その意義・役割・機能、学習指導要領の位置付けについて)	
第2回 Session 2	学習指導要領の歴史的変遷(1)(昭和22年度版～昭和52年度版の学習指導要領まで)	
第3回 Session 3	学習指導要領の歴史的変遷(2)(昭和52年度版から平成20年度版の学習指導要領まで)	
第4回 Session 4	新学習指導要領について(その意義、改訂の背景・内容など)	
第5回 Session 5	教育課程編成の基本原則(1)(憲法、教育基本法、学校教育法などの内容について)	
第6回 Session 6	教育課程編成の基本原則(2)(学校教育法施行規則、その他の関連法令について)	
第7回 Session 7	教育課程に関する諸制度(1)(指導要領改訂から教科書採択までの諸手続きなど)	
第8回 Session 8	教育課程に関する諸制度(2)(教科書及び補助教材の使用、著作権などについて)	
第9回 Session 9	教育課程の編成方法及び教師の役割(編成上の具体的方法及び課題について)	
第10回 Session 10	教育課程の実施と学習指導(教育課程上の学習指導の意義・目的及び具体的方法)	
第11回 Session 11	教育課程の編成と特色ある学校づくり(その取組の背景及び内容などについて)	
第12回 Session 12	教育課程の評価と改善(1)(評価の意義・目的、基準・機能による評価の分類など)	
第13回 Session 13	教育課程の評価と改善(2)(機能による評価の分類、指導要録などについて)	
第14回 Session 14	カリキュラム・マネジメントについて(その意義と重要性、カリキュラム評価について)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から教育問題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校学習指導要領
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時46分19秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜1時限	春学期／Spring	G－301

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48007003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育課程論 3／Principles of Curriculums in Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教育課程の編成と実施に関する基本的な概念・知識および歴史的変遷を学び、現在の教育課程をめぐる課題について理解することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will be introduced to the basic concepts, knowledge, and historical developments in the formation and implementation of educational curricula. The course aims to provide an understanding of various topics in curriculum studies.		
到達目標/Learning Goals	以下の4点を到達目標として設定する。 ・教育課程とその編成に関わる基本的概念・知識を身につける。 ・教育課程が学習指導要領などの諸法規に基づき編成されていることを理解する。 ・教育課程に関わる歴史と現状、学習指導要領の改訂の動向について自己の意見を展開できる。 ・教育課程の編成と実施に関する基礎的実践力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following four learning objectives: ・ Become familiar with the concepts and knowledge in the formation of educational curricula; ・ Become familiar with the formation of educational curricula based on various regulations within course of study; ・ Develop individual opinions on current and historical trends in course of study ・ Gain the ability to discuss topics related to the formulation and implementation of educational curricula.		
授業の概要・背景 Course Outline	学校教育は教育活動の計画である教育課程にもとづいて、公教育・意図的教育として展開されている。そして、学校教育の中心の一つである教科教育では、教科の何(教育内容)を、どのように教え(教育方法)、どのようにその成果を検証(教育評価)するかを検討する必要がある。教科以外の領域における教育活動の内容についても、学習指導要領をもとに教育課程が編成されている。本授業では、学習指導要領をもとにどのような観点で教育計画が立てられ、教育内容として編成されているか、その指導方法・評価方法さらにカリキュラム・マネジメントについて実践をふまえて考察する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	教育課程 学習指導要領 教科教育 学習指導 教育評価		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教科・教育課程とは(その意義・役割・機能、学習指導要領の位置付けについて)	
第2回 Session 2	学習指導要領の歴史的変遷(1)(昭和22年度版～昭和52年度版の学習指導要領まで)	
第3回 Session 3	学習指導要領の歴史的変遷(2)(昭和52年度版から平成20年度版の学習指導要領まで)	
第4回 Session 4	新学習指導要領について(その意義、改訂の背景・内容など)	
第5回 Session 5	教育課程編成の基本原理(1)(憲法、教育基本法、学校教育法などの内容について)	
第6回 Session 6	教育課程編成の基本原理(2)(学校教育法施行規則、その他の関連法令について)	
第7回 Session 7	教育課程に関する諸制度(1)(指導要領改訂から教科書採択までの諸手続きなど)	
第8回 Session 8	教育課程に関する諸制度(2)(教科書及び補助教材の使用、著作権などについて)	
第9回 Session 9	教育課程の編成方法及び教師の役割(編成上の具体的方法及び課題について)	
第10回 Session 10	教育課程の実施と学習指導(教育課程上の学習指導の意義・目的及び具体的方法)	
第11回 Session 11	教育課程の編成と特色ある学校づくり(その取組の背景及び内容などについて)	
第12回 Session 12	教育課程の評価と改善(1)(評価の意義・目的、基準・機能による評価の分類など)	
第13回 Session 13	教育課程の評価と改善(2)(機能による評価の分類、指導要録などについて)	
第14回 Session 14	カリキュラム・マネジメントについて(その意義と重要性、カリキュラム評価について)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から教育問題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校学習指導要領
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
URL'リンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_178559_1&cmp_tab_id=_207426_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 13時17分21秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜1時限	秋学期／Fall	B－302

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48007004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育課程論 4／Principles of Curriculums in Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教育課程の編成と実施に関する基本的な概念・知識および歴史的変遷を学び、現在の教育課程をめぐる課題について理解することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will be introduced to the basic concepts, knowledge, and historical developments in the formation and implementation of educational curricula. The course aims to provide an understanding of various topics in curriculum studies.		
到達目標/Learning Goals	以下の4点を到達目標として設定する。 ・教育課程とその編成に関わる基本的概念・知識を身につける。 ・教育課程が学習指導要領などの諸法規に基づき編成されていることを理解する。 ・教育課程に関わる歴史と現状、学習指導要領の改訂の動向について自己の意見を展開できる。 ・教育課程の編成と実施に関する基礎的実践力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following four learning objectives: ・ Become familiar with the concepts and knowledge in the formation of educational curricula; ・ Become familiar with the formation of educational curricula based on various regulations within course of study; ・ Develop individual opinions on current and historical trends in course of study ・ Gain the ability to discuss topics related to the formulation and implementation of educational curricula.		
授業の概要・背景 Course Outline	学校教育は教育活動の計画である教育課程にもとづいて、公教育・意図的教育として展開されている。そして、学校教育の中心の一つである教科教育では、教科の何(教育内容)を、どのように教え(教育方法)、どのようにその成果を検証(教育評価)するかを検討する必要がある。教科以外の領域における教育活動の内容についても、学習指導要領をもとに教育課程が編成されている。本授業では、学習指導要領をもとにどのような観点で教育計画が立てられ、教育内容として編成されているか、その指導方法・評価方法さらにカリキュラム・マネジメントについて実践をふまえて考察する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	教育課程 学習指導要領 教科教育 学習指導 教育評価		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教科・教育課程とは(その意義・役割・機能、学習指導要領の位置付けについて)	
第2回 Session 2	学習指導要領の歴史的変遷(1)(昭和22年度版～昭和52年度版の学習指導要領まで)	
第3回 Session 3	学習指導要領の歴史的変遷(2)(昭和52年度版から平成20年度版の学習指導要領まで)	
第4回 Session 4	新学習指導要領について(その意義、改訂の背景・内容など)	
第5回 Session 5	教育課程編成の基本原理(1)(憲法、教育基本法、学校教育法などの内容について)	
第6回 Session 6	教育課程編成の基本原理(2)(学校教育法施行規則、その他の関連法令について)	
第7回 Session 7	教育課程に関する諸制度(1)(指導要領改訂から教科書採択までの諸手続きなど)	
第8回 Session 8	教育課程に関する諸制度(2)(教科書及び補助教材の使用、著作権などについて)	
第9回 Session 9	教育課程の編成方法及び教師の役割(編成上の具体的方法及び課題について)	
第10回 Session 10	教育課程の実施と学習指導(教育課程上の学習指導の意義・目的及び具体的方法)	
第11回 Session 11	教育課程の編成と特色ある学校づくり(その取組の背景及び内容などについて)	
第12回 Session 12	教育課程の評価と改善(1)(評価の意義・目的、基準・機能による評価の分類など)	
第13回 Session 13	教育課程の評価と改善(2)(機能による評価の分類、指導要録などについて)	
第14回 Session 14	カリキュラム・マネジメントについて(その意義と重要性、カリキュラム評価について)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から教育問題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校学習指導要領
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 13時45分45秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜2時限	秋学期／Fall	H－301

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48007005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育課程論 5／Principles of Curriculums in Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教育課程の編成と実施に関する基本的な概念・知識および歴史的変遷を学び、現在の教育課程をめぐる課題について理解することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will be introduced to the basic concepts, knowledge, and historical developments in the formation and implementation of educational curricula. The course aims to provide an understanding of various topics in curriculum studies.		
到達目標/Learning Goals	以下の4点を到達目標として設定する。 ・教育課程とその編成に関わる基本的概念・知識を身につける。 ・教育課程が学習指導要領などの諸法規に基づき編成されていることを理解する。 ・教育課程に関わる歴史と現状、学習指導要領の改訂の動向について自己の意見を展開できる。 ・教育課程の編成と実施に関する基礎的実践力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following four learning objectives: ・ Become familiar with the concepts and knowledge in the formation of educational curricula; ・ Become familiar with the formation of educational curricula based on various regulations within course of study; ・ Develop individual opinions on current and historical trends in course of study ・ Gain the ability to discuss topics related to the formulation and implementation of educational curricula.		
授業の概要・背景 Course Outline	学校教育は教育活動の計画である教育課程にもとづいて、公教育・意図的教育として展開されている。そして、学校教育の中心の一つである教科教育では、教科の何(教育内容)を、どのように教え(教育方法)、どのようにその成果を検証(教育評価)するかを検討する必要がある。教科以外の領域における教育活動の内容についても、学習指導要領をもとに教育課程が編成されている。本授業では、学習指導要領をもとにどのような観点で教育計画が立てられ、教育内容として編成されているか、その指導方法・評価方法さらにカリキュラム・マネジメントについて実践をふまえて考察する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	教育課程 学習指導要領 教科教育 学習指導 教育評価		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教科・教育課程とは(その意義・役割・機能、学習指導要領の位置付けについて)	
第2回 Session 2	学習指導要領の歴史的変遷(1)(昭和22年度版～昭和52年度版の学習指導要領まで)	
第3回 Session 3	学習指導要領の歴史的変遷(2)(昭和52年度版から平成20年度版の学習指導要領まで)	
第4回 Session 4	新学習指導要領について(その意義、改訂の背景・内容など)	
第5回 Session 5	教育課程編成の基本原理(1)(憲法、教育基本法、学校教育法などの内容について)	
第6回 Session 6	教育課程編成の基本原理(2)(学校教育法施行規則、その他の関連法令について)	
第7回 Session 7	教育課程に関する諸制度(1)(指導要領改訂から教科書採択までの諸手続きなど)	
第8回 Session 8	教育課程に関する諸制度(2)(教科書及び補助教材の使用、著作権などについて)	
第9回 Session 9	教育課程の編成方法及び教師の役割(編成上の具体的方法及び課題について)	
第10回 Session 10	教育課程の実施と学習指導(教育課程上の学習指導の意義・目的及び具体的方法)	
第11回 Session 11	教育課程の編成と特色ある学校づくり(その取組の背景及び内容などについて)	
第12回 Session 12	教育課程の評価と改善(1)(評価の意義・目的、基準・機能による評価の分類など)	
第13回 Session 13	教育課程の評価と改善(2)(機能による評価の分類、指導要録などについて)	
第14回 Session 14	カリキュラム・マネジメントについて(その意義と重要性、カリキュラム評価について)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から教育問題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校学習指導要領
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時48分05秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜2時限	春学期／Spring	IV－401

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48008000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】宗教科教育法A／Methods of Christian Education A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小見 のぞみ(KOMI NOZOMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業の目的は、受講者が、キリスト教主義学校における中高生への宗教教育ならびに学校礼拝の意義について理解し、アクティブラーニングのための様々な授業方法を習得することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the significance and teaching methods of religious education in (junior) high school.		
到達目標/Learning Goals	この授業の終りに、受講者は、1. コミュニケーションとグループダイナミクスの基本的な理論、ならびにアクティブラーニングの方法と視聴覚教材について説明できるようになる。2. 実習校で実施される「チャペル／学校礼拝」の意義を理解し、内容を準備できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the significance of religious education in a Christian school, b) acquire knowledge about the character of the religion as a school subject, c) acquire the skills needed for religious education.		
授業方法 Course Format	対面授業。所属学部でオンラインでの受講を認められた学生は、課題等の指示をLUNA等で確認すること。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、対面授業のZoomによる同時配信で対応します。		
関連科目/Related Courses	宗教科教育法Bを学ぶ前提となる教授—学習の方法論を学ぶため、先修が望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	イントロダクション	
第2回 Session 2	中高生への宗教教育について『帰国生のいる教室』を読む	【事後学習】読書課題を読み直し示唆となること、疑問点を整理する(2時間)
第3回 Session 3	方法論とコミュニケーション理論 伝達されるとは	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第4回 Session 4	教室における非言語のコミュニケーション	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第5回 Session 5	教室の組織構造とコミュニケーションパターン	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第6回 Session 6	グループダイナミクスとアクティブラーニングについて	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第7回 Session 7	中高生の「集団と個」中高生のスピリチュアリティ	【事後学習】読書課題を読み直し示唆となること、疑問点を整理する(2時間)
第8回 Session 8	アクティブラーニングの方法1(バズセッション、ブレインストーミング)と聖書研究(課題達成)	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第9回 Session 9	アクティブラーニングの方法2(ロールプレイ、プロコン討議)と聖書研究(コンセンサス)	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第10回 Session 10	アクティブラーニングの方法3(シュミレーション、簡易KJ法)と聖書研究(ワークシート)	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第11回 Session 11	視聴覚教材研究(1)キリスト教のシンボルを用いた教育	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第12回 Session 12	視聴覚教材研究(2)スポットVTR、美術、写真等の用い方	【事後学習】講義で取り扱った用語等の復習(1時間)
第13回 Session 13	発表:チャペル・礼拝でのお話(1)宗教教育における学校礼拝の意義と実際	【事前学習】提示されたテーマについて各自で調べてくる(1時間)
第14回 Session 14	発表:チャペル・礼拝でのお話(2)チャペルトークの模擬実演	【事前学習】チャペルトークのため文献を調べ、原稿を書く(2時間)【事後学習】実践の振り返りと問題点の整理(1時間)

参考書/Reference books	著者名: 渡辺淳、和田雅史 タイトル: 帰国生のいる教室 発行所: 日本放送協会 出版年: 1991 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業中に配布する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	90%	テーマに関するレポート、授業時課題発表
	その他／Others(99)	10%	ディスカッション、授業への参与度・取り組み
更新日時/Date of Update	2021年03月12日 16時10分34秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜4時限	春学期／Spring	神－4

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48009000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】宗教科教育法B／Methods of Christian Education B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	小見 のぞみ(KOMI NOZOMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業の目的は、受講者が、キリスト教主義学校と宗教科(聖書科)について理解を深め、指導案の作成、模擬授業、相互評価を行うことで、学校教育実習での基本的な授業実践能力を培うことにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to develop practical skills for religious education.		
到達目標/Learning Goals	受講生は、キリスト教主義学校と宗教科(聖書科)の特色と歴史、今日的意義を知り、1. 宗教科授業の指導案を作成できるようになる、2. 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互評価を行えるようになることを到達目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) make teaching plans for religion as a school subject, b) acquire teaching skills based on their teaching plans through trial classes, c) evaluate each other's trial classes.		
授業方法 Course Format	講義、討議、履修者の発表による。		
関連科目/Related Courses	「宗教家教育法A」での学びを前提として授業を行う。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	イントロダクション	
第2回 Session 2	キリスト教主義学校について	【事後学習】授業で扱ったテーマ、資料についての復習(1時間)
第3回 Session 3	日本のキリスト教主義学校の歴史	【事後学習】授業で扱ったテーマ、資料についての復習(1時間)
第4回 Session 4	実習校の歴史と建学の精神 調査発表	【事前学習】当該テーマについて文献等による調査を行い、発表要旨をまとめる(2時間)
第5回 Session 5	出身校／関西学院の歴史と建学の精神 調査発表	【事前学習】当該テーマについて文献等による調査を行い、発表要旨をまとめる(2時間)
第6回 Session 6	キリスト教主義学校と宗教科(聖書科)の今日的意義	【事後学習】授業で扱ったテーマ、資料についての復習(1時間)
第7回 Session 7	現代の中高生・青年の宗教意識とキリスト教主義学校	【事後学習】授業で扱ったテーマ、資料についての復習(1時間)
第8回 Session 8	聖書科カリキュラムの基本的な考え方、目標設定の特色	【事後学習】授業で扱ったテーマ、資料についての復習(1時間)
第9回 Session 9	聖書科カリキュラムの内容と方法の特色	【事後学習】授業で扱ったテーマ、資料についての復習(1時間)
第10回 Session 10	指導案の作成(1)テーマと目標、単元、小単元の作り方	【事前学習】指導案作成のため、テーマの選定と展開について考えてくる(2時間)
第11回 Session 11	指導案の作成(2)方法、教材、板書案	【事前学習】模擬授業に向けて方法を考え、指導案ならびに板書原稿を作成する(2時間)
第12回 Session 12	模擬授業と評価(1)旧約聖書	【事前学習】指導案にそって模擬授業の準備を行う(1時間) 【事後学習】模擬授業の実施と評価を踏まえ、問題点を確認する(1時間)
第13回 Session 13	模擬授業と評価(2)新約聖書	【事前学習】指導案にそって模擬授業の準備を行う(1時間) 【事後学習】模擬授業の実施と評価を踏まえ、問題点を確認する(1時間)
第14回 Session 14	模擬授業と評価(3)聖書以外の領域	【事前学習】指導案にそって模擬授業の準備を行う(1時間) 【事後学習】模擬授業の実施と評価を踏まえ、問題点を確認する(1時間)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	90%	指導案、模擬授業
	その他／Others(99)	10%	ディスカッション、授業への参与度・取り組み
更新日時/Date of Update		2021年01月26日 18時28分23秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜4時限	秋学期／Fall	神－4

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48010000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】宗教科教育法C／Methods of Christian Education C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	福島 旭(FUKUSHIMA AKIRA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、キリスト教主義の中学校・高等学校において聖書科(宗教科)の教育を行う際に求められる教師の基本的な態度や知識、具体的な教育方法を身につけることである。特に道徳科との比較研究を重点的に取り上げる。また、リアルタイムで教育現場での授業の紹介やさまざまな問題について、考えていく。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn the basic attitudes and knowledge of teachers and specific educational methodologies that are required when teaching in the Department of Biblical Studies (Department of Religious Education) at a Christian junior high and high school. The focus is on comparative research with moral science in particular. Furthermore, students will think about real-time introduction of lessons at educational sites and a variety of issues.		
到達目標/Learning Goals	キリスト教主義の中学校・高等学校において聖書科(宗教科)の教授ができるようになる。また、同学校において教師としての役割を認識し、その責任を果たせるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to teach in the “Department of Biblical Studies (Department of Religious Education) at a Christian junior high and high school. Students will also recognize their role as a teacher at a school and will be able to fulfill their responsibilities.		
授業の概要・背景 Course Outline	この講義では授業研究に関する資料や具体的に授業で配付している教材を提供し、それについての使い方や生徒たちの反応を紹介します。特に学齢に応じた授業教案の作成方法について、詳しく説明します。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドによるオンライン授業で実施する。課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面での授業を予定し、講義形式で行う。また、随時、グループディスカッションにより、相互研鑽を行い、実践に役立つ教育法を習得していく。 【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については授業ないしLUNA等で別途指示する。		
関連科目/Related Courses	「宗教科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	聖書科 宗教科 道徳科 平和 人権 いのち キリスト教主義教育		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	キリスト教主義教育の本質 Essence of Christianity education 【事前学習】キリスト教主義の特徴について調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校の具体例についてホームページ等で調べる(2時間)	
第2回 Session 2	キリスト教主義教育の目的Purpose of Christianity education 【事前学習】全国のキリスト教主義学校の建学の精神を調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校の建学の精神の共通点をまとめる(1時間)	
第3回 Session 3	キリスト教主義教育の現場と領域 1 Field and area of Christianity education 1 【事前学習】学校における保護者と教職員との関係について調べておく(1時間) 【事後学習】学校における保護者の活動についてホームページ等で調べる(1時間)	
第4回 Session 4	キリスト教主義教育の現場と領域 2 Field and area of Christianity education 2 【事前学習】国公立学校と私立学校の違いについて調べておく(1時間) 【事後学習】私立学校の存在意義についてホームページ等で調べてまとめる(1時間)	
第5回 Session 5	キリスト教主義教育の現場と領域 3 Field and area of Christianity education 3 【事前学習】全国のキリスト教主義の学校の礼拝について調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校の礼拝の理想を考える(1時間)	
第6回 Session 6	キリスト教主義教育の現場と領域 4 Field and area of Christianity education 4 【事前学習】キリスト教主義学校における聖書科教師が担うべき役割を調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義学校における聖書科教師の役割と課題を挙げる(1時間)	
第7回 Session 7	キリスト教主義教育の現場と領域 5 Field and area of Christianity education 5 【事前学習】人権、平和教育に挙げるべきテーマについて調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校で取り上げるべき人権、平和教育についてまとめる(2時間)	
	授業研究 1	

第8回 Session 8	教科書と副読本をいかに用いるか Lesson study 1 How to use textbooks and supplementary readers 【事前学習】授業で用いるべき教科書と副読本を選択する(0.5時間) 【事後学習】どのように教科書と副読本を用いるかを学習指導館に埋め込んでみる(2時間)An Essay on Bible Teachers 5	
第9回 Session 9	授業研究 2 驚きや喜びを伝える授業。生き方を伝える授業。 Lesson study 2 Lesson to convey surprise and joy. Lesson to convey life style. 【事前学習】授業に向けて学習指導案を考えてみる。(2時間) 【事後学習】授業に向けて学習指導案を作成する(3時間)	
第10回 Session 10	授業研究 3 Lesson study 3 理想的な授業の組み立て What is a ideal lesson? 【事前学習】授業にとって欠かせないものを考えてみる(0.5時間) 【事後学習】理想的な授業とは何かをまとめる(2時間)	
第11回 Session 11	授業研究 4 Lesson study 4 【事前学習】授業にとって欠かせないものと考えてみる(0.5時間) 【事後学習】理想的な授業とは何かをまとめる(2時間)	
第12回 Session 12	授業研究 5 Lesson study 5 【事前学習】授業にとって欠かせないものと考えてみる(0.5時間) 【事後学習】理想的な授業とは何かをまとめる(2時間)	
第13回 Session 13	キリスト教主義教育の可能性と展望 1 これからのキリスト教主義教育についての討論 Possibility and prospect of Christianist education 1 Discussion on future Christian education 【事前学習】理想のキリスト教主義教育を挙げてみる(0.5時間) 【事後学習】理想のキリスト教主義教育についてまとめておく(0.5時間)	
第14回 Session 14	キリスト教主義教育の可能性と展望 2 これからのキリスト教主義教育についての討論 Possibility and prospect of Christianist education 2 Discussion on future Christian education 【事前学習】理想のキリスト教主義教育を挙げてみる(0.5時間) 【事後学習】理想のキリスト教主義教育についてまとめておく(0.5時間)	

授業外学習 Study Required outside Class	キリスト教主義教育の原理と実践を講義形式で行うので、それにかかわる資料や書籍を予習しておくこと。また、模擬授業により、相互研鑽を行い、実践に役立つ教育法を考えるため、様々な時事的な情報にも関心を持つことが望ましい。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	関西学院大学神学部監修『キリスト教スタディーブック・シリーズ1 GOOD NEWSグッド・ニュース新約聖書』(新教出版社、2008)、関西学院大学神学部監修『キリスト教スタディーブック・シリーズ2 EXUDOSエクソダス旧約聖書』(新教出版社、2009)、キリスト教学校教育同盟編『キリスト教入門』、『旧約聖書の教え』、『新約聖書の教え』(創元社、2015)。
参考文献・資料 Reference books	『道徳科学学習指導要領』(文部科学省)、木村優・岸野麻衣編『授業研究～実践を変え、理論を革新する』(新曜社、2019年)、『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ～志願者のためのガイドブック』(キリスト教学校教育同盟、2017年)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	
	その他／Others(99)	20%	授業態度等
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_194828_1&cmp_tab_id=_230868_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 12時34分24秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜5時限	春学期／Spring	院一201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48011000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】宗教科教育法D／Methods of Christian Education D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	福島 旭(FUKUSHIMA AKIRA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、キリスト教主義の中学校・高等学校において聖書科(宗教科)の教育を行う際に求められる教師の具体的な教育方法を身につけることである。特に授業研究と「宗教科教育法C」で学んだことを発展させることを重点的に取り上げる。また、リアルタイムで教育現場での授業の紹介やさまざまな問題について、考えていく。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn the specific educational methodologies that are required when teaching in the Department of Biblical Studies (Department of Religious Education) at a Christian junior high and high school. The focus is for students on lesson studies and to develop their skills obtained in the Methods of Christian Education C in particular. Furthermore, students will think about real-time introduction of lessons at educational sites and a variety of issues.		
到達目標/Learning Goals	キリスト教主義の中学校・高等学校において聖書科(宗教科)の教授ができるようになる。また、聖書科の教育に関する発展的知識を習得することを通して受講生が研究成果を教案にまとめることが目標である。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to teach in the “Department of Biblical Studies (Department of Religious Education) at a Christian junior high and high school. Students will acquire advanced knowledge related in the Department of Biblical Studies for writing their lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	この講義では具体的に授業で配付している教材を提供し、それについての用い方や生徒たちの反応を紹介します。特に学齢に応じた授業教案の作成方法について、詳しく説明します。		
授業方法 Course Format	キリスト教主義教育の原理と実践を講義形式で行う。また、随時、模擬授業やグループディスカッションにより、相互研鑽を行い、実践に役立つ教育法を習得していく。		
検索キーワード/Keywords	聖書科 宗教科 道徳科 平和 人権 いのち キリスト教主義教育		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	キリスト教主義教育の本質～教育者としての姿勢、態度、資質 Essence of Christianity education ~ Attitude, qualities as an educator. 【事前学習】キリスト教主義の特徴について調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校の具体例についてホームページ等で調べる(2時間)	
第2回 Session 2	キリスト教主義教育の現場と領域～家庭、学校、社会 Field and area of Christianity education — Family, school, society. 【事前学習】学校における保護者と教職員との関係について調べておく(1時間) 【事後学習】学校における保護者の活動についてホームページ等で調べる(1時間)	
第3回 Session 3	キリスト教主義教育の目的～キリスト教主義教育の柱とは Purpose of Christianity education – What is the pillar of Christianity education. 【事前学習】全国のキリスト教主義学校の建学の精神を調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校の建学の精神の共通点をまとめる(1時間)	
第4回 Session 4	聖書科教師試論1 カウンセラーとしての聖書科教師～対生徒、対保護者、対教職員の牧会 An Essay on Bible Studies Teacher 1 Biblical teacher as a counselor – a pastor of a student, a guardian, a faculty staff member. 【事前学習】「発達障害」について調べておく(1時間) 【事後学習】ハンディを持った生徒とのかかわりについて具体例に調べる(1時間)	
第5回 Session 5	聖書科教師試論2 宣教(説教)者としての聖書科教師～礼拝(チャペル)の運営と工夫 An Essay on Bible Teachers 2 Biblical teacher as missionary (preacher) ~ Management and ingenuity of worship (chapel) 【事前学習】全国のキリスト教主義の学校の礼拝について調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校の礼拝の理想を考える(1時間)	
第6回 Session 6	聖書科教師試論3 各行事における聖書科教師の具体的役割～学校全体の精神的支柱となるには An Essay on Bible Teachers 3 The specific role of the Bible teacher in each event – To become the spiritual pillar of the w	

Session 6	hole school. 【事前学習】キリスト教主義学校における聖書科教師が担うべき役割を調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義学校における聖書科教師の役割と課題を挙げる(1時間)	
第7回 Session 7	聖書科教師試論4 授業のエッセンス～嫌われる授業と理想的な授業 An Essay on Bible Teachers 4 Essence of lessons ~ Classes disliked and ideal lessons. 【事前学習】理想的な授業とはどのようなものか、箇条書きにして挙げておく(0.5時間) 【事後学習】理想的な授業についてまとめる(1時間)	
第8回 Session 8	聖書科教師試論5 国際理解教育、人権教育、平和教育とキリスト教主義教育 An Essay on Bible Teachers 5 International Understanding Education, Human Rights Education, Peace Education and Christianism Education. 【事前学習】人権、平和教育に挙げるべきテーマについて調べておく(1時間) 【事後学習】キリスト教主義の学校で取り上げるべき人権、平和教育についてまとめる(2時間)	
第9回 Session 9	聖書科と道徳科の関係～学習指導要領の内容の比較研究 Relationship between the Bible Department and the moral course – Comparative study of the content of the instructional guidelines. 【事前学習】道徳科学習指導要領について調べておく(1時間) 【事後学習】聖書科と道徳科の教育内容を比較し、まとめておく(2時間)	
第10回 Session 10	授業研究1 教科書と副読本をいかに用いるか～釈義。建学の精神の伝授。聖書に聞く、驚く、喜ぶ～メディテーション。Lesson study 1 How to use textbooks and supplementary readers – excerpts. Teaching the spirit of architecture. Listen to the Bible, be surprised, rejoice ~ meditation. 【事前学習】授業で用いるべき教科書と副読本を選択する(0.5時間) 【事後学習】どのように教科書と副読本を用いるかを学習指導館に埋め込んでみる(2時間)	
第11回 Session 11	授業研究2 驚きや喜びを伝える授業。生き方を伝える授業。授業のリズム、組み立て。板書とプリントの応用。いのち、平和、人権等の主題設定とメッセージ。Lesson study 2 Lesson to convey surprise and joy. Lesson to convey life style. Rhythm of teaching, Freshly assembled. Application of board books and prints. Subject setting and message of life, peace, human rights etc. 【事前学習】模擬授業に向けて学習指導案を考える。(2時間) 【事後学習】模擬授業に向けて学習指導案を作成する(3時間)	
第12回 Session 12	教案作りと演習1 模擬授業の相互評価。Aグループ数名の発表と質疑 Teaching Making and Exercises 1 Mutual evaluation of simulated lessons. Presentation and questioning of several people in group A 【事前学習】模擬授業に向けて学習指導案を作成する(3時間) 【事後学習】模擬授業での反省点まとめ、修正しておく(1時間)	
第13回 Session 13	教案作りと演習2 模擬授業の相互評価。 Bグループ数名の発表と質疑 Teaching Making and Exercises 2 Mutual evaluation of simulated lessons. Presentation and questioning of several people in group B 【事前学習】模擬授業に向けて学習指導案を作成する(3時間) 【事後学習】模擬授業での反省点まとめ、修正しておく(1時間)	
第14回 Session 14	キリスト教主義教育の可能性と展望 これからのキリスト教主義教育についての討論 Possibility and prospect of Christianist education 1 Discussion on future Christian education 【事前学習】理想のキリスト教主義教育を挙げてみる(0.5時間) 【事後学習】理想のキリスト教主義教育についてまとめておく(0.5時間)	
授業外学習 Study Required outside Class	キリスト教主義教育の原理と実践を講義形式で行うので、それにかかわる資料や書籍を予習しておくこと。また、模擬授業により、相互研鑽を行い、実践に役立つ教育法を考えるため、様々な時事的な情報にも関心を持つことが望ましい。	

教科書 Required texts	関西学院大学神学部監修『キリスト教スタディーブック・シリーズ1 GOOD NEWSグッド・ニュース新約聖書』(新教出版社、2008)、関西学院大学神学部監修『キリスト教スタディーブック・シリーズ2 EXUDOSエクソダス旧約聖書』(新教出版社、2009)、キリスト教学校教育同盟編『キリスト教入門』、『旧約聖書の教え』、『新約聖書の教え』(創元社、2015)。
参考文献・資料 Reference books	『道徳科学習指導要領』(文部科学省)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	80%	教案作成等
	その他／Others(99)	20%	授業態度等
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_178141_1&cmp_tab_id=_207008_1&mode=view		
更新日時/Date of Update	2021年01月26日 11時27分24秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜5時限	秋学期／Fall	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48013001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法A 1／Methods of Teaching Japanese A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	山本 康義(YAMAMOTO YASUYOSHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	国語科の教育はすべての学習活動の原点となるものであり、ことばの教育にとどまるものではない。そのためには指導者である国語科教員に求められる教科の専門性に加え、教養教育としての指導者自身の素養も培わなければならない。本講座においては、それらの目的を達成するため、国語科教育の現状と課題を踏まえた上で、主として高等学校「国語総合」レベルの教材を用いながら、国語科の指導に関する教材研究の方法・学習指導案の作成・模擬授業の実施・評価方法等について講義・演習・発表等を行うこととする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand how to study instructional materials, make teaching plans, perform mock lessons, and perform evaluations.		
到達目標/Learning Goals	確かな国語教育観・教師観を持つことができること。また、現代文と古典の各ジャンルの教材について、詳細な教材研究、綿密な学習指導案の作成と適切な授業実践ができること。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire certain educational philosophies and teacher perspectives for Japanese language education and the appropriate abilities to be able to teach.		
授業方法 Course Format	講義形式と演習形式を併用する。また、受講者には随時学習指導案の提出を求め、個別添削したものを返却するので、次回課題の参考とすること。 対面授業 所属学部にオンラインでの受講を認められた学生は教材や課題等の指示をLUNA等で確認すること。(授業録画を配信予定)		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	本講座に関するガイダンス(目的・内容・方法・評価等) 中教審答申等に見る教育観・教師観・国語教育の在り方等	
第2回 Session 2	「五観」の在り方(生徒観・指導観・学力観・教材観・評価観) 学習指導要領(総則・教育課程等)について	
第3回 Session 3	学習指導要領(国語科)について 国語科学習指導案の様式・作成方法等	
第4回 Session 4	現代文(説明的文章)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第5回 Session 5	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 説明的文章の指導ポイントのまとめ	
第6回 Session 6	現代文(文学的文章)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第7回 Session 7	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 文学的文章の指導ポイントのまとめ	
第8回 Session 8	現代文(韻文)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第9回 Session 9	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 韻文の指導ポイントのまとめ	
第10回 Session 10	古文(物語)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第11回 Session 11	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 古文の指導ポイントのまとめ	
第12回 Session 12	漢文(史話)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第13回 Session 13	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 漢文の指導ポイントのまとめ	
第14回 Session 14	評価問題の作成方法	

授業外学習 Study Required outside Class	教科書及び関連資料の予習を前提として授業を進める。また、課題とする学習指導案の作成、提出は必須である。
---------------------------------------	---

参考文献・資料 Reference books	学習指導要領及び中教審答申等。また使用教材については適宜配布する。		
成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
	その他／Others(99)	60%	発表態度及び内容等
	備考 Note		
	所属学部にオンラインでの受講を認められた学生の評価については、各回の学習指導案の提出とその内容をもって評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_191648_1&cmp_tab_id=_227688_1&mode=view		
更新日時/Date of Update	2021年03月15日 15時05分49秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	G－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48013002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法A 2／Methods of Teaching Japanese A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	山本 康義(YAMAMOTO YASUYOSHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	国語科の教育はすべての学習活動の原点となるものであり、ことばの教育にとどまるものではない。そのためには指導者である国語科教員に求められる教科の専門性に加え、教養教育としての指導者自身の素養も培わなければならない。本講座においては、それらの目的を達成するため、国語科教育の現状と課題を踏まえた上で、主として高等学校「国語総合」レベルの教材を用いながら、国語科の指導に関する教材研究の方法・学習指導案の作成・模擬授業の実施・評価方法等について講義・演習・発表等を行うこととする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand how to study instructional materials, make teaching plans, perform mock lessons, and perform evaluations.		
到達目標/Learning Goals	確かな国語教育観・教師観を持つことができること。また、現代文と古典の各ジャンルの教材について、詳細な教材研究、綿密な学習指導案の作成と適切な授業実践ができること。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire certain educational philosophies and teacher perspectives for Japanese language education and the appropriate abilities to be able to teach.		
授業方法 Course Format	講義形式と演習形式を併用する。また、受講者には随時学習指導案の提出を求め、個別に添削したものを返却するので、次回の課題に活用すること。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	本講座に関するガイダンス(目的・内容・方法・評価等) 中教審答申等に見る教育観・教師観・国語教育の在り方等	
第2回 Session 2	「五観」の在り方(生徒観・指導観・学力観・教材観・評価観) 学習指導要領(総則・教育課程等)について	
第3回 Session 3	学習指導要領(国語科)について 国語科学習指導案の様式・作成方法等	
第4回 Session 4	現代文(説明的文章)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第5回 Session 5	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 説明的文章の指導ポイントのまとめ	
第6回 Session 6	現代文(文学的文章)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第7回 Session 7	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 文学的文章の指導ポイントのまとめ	
第8回 Session 8	現代文(韻文)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第9回 Session 9	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 韻文の指導ポイントのまとめ	
第10回 Session 10	古文(物語)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第11回 Session 11	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 古文の指導ポイントのまとめ	
第12回 Session 12	漢文(史話)の教材研究とその方法 課題:学習指導案の作成	
第13回 Session 13	課題の学習指導案に基づく模擬授業の実施と合評 漢文の指導ポイントのまとめ	
第14回 Session 14	評価問題の作成方法	

授業外学習 Study Required outside Class	教科書及び関連資料の予習を前提として授業を進める。また、課題とする学習指導案の作成、提出は必須である。
---------------------------------------	---

参考文献・資料 Reference books	学習指導要領及び中教審答申等。また使用教材については適宜配布する。
----------------------------	-----------------------------------

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	40%	
	その他／Others(99)	60%	発表態度及び内容等
更新日時/Date of Update	2021年03月15日 11時35分27秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜1時限	秋学期／Fall	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48013003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法A 3／Methods of Teaching Japanese A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	秋田 久子(AKITA HISAKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、将来中学校あるいは高等学校の国語科教員として、今日的教育課題に適切に対応するとともに、生徒の言語活動能力を育成し国語を尊重する態度を育てる指導力を身に付けることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the knowledge, skills, and abilities which are required for a Japanese language teacher who can respond appropriately to today’s educational issues, nurture the linguistic ability of students, and foster attitudes that show respect for the Japanese language.		
到達目標/Learning Goals	以下の項目の習得を授業の目標とする。 ・教育の今日的課題を踏まえた教師観・国語教育観を理解し説明できる ・国語教科指導の意義と目標および適切な学習指導の方法について理解し説明できる ・講義型の授業方法を身に付けた上で、生徒の主体的で対話的な深いまなびを意図した学習活動を織り込んだ学習計画が立てられる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand and explain about an ideal (Japanese language) teacher who can respond appropriately to today’s educational issues, b) understand and explain the significance, goals, and methods of teaching the Japanese language as a subject in (junior) high school, c) acquire the lecture skills and the ability to design curriculums which include a student’s active, communicative, and deep learning processes.		
授業の概要・背景 Course Outline	国語は自立した社会生活の基本です。本授業では、法規を踏まえて、生徒の考え表現する意欲と力を伸ばし、国語を尊重する態度を育てられるよう、教材と目的に応じて授業を構成する力や伝える技術を身に付けることを目指します。また、国語の性質上、整った文字、正確な表記や話し方は教員として大変重要です。そこで、毎回の授業で得た知見と自己の生徒時代の経験とを比較・考察して文章表現(以下「振り返りレポート」と呼ぶ)すること、毎授業ごとに提出し添削を受けること、さらに次回授業で発表・共有することを各回の授業の導入として実施します。		
授業方法 Course Format	第1回～第3回はオンデマンドA型オンライン授業で実施する。提出先及び教材等についてはLUNAに掲示する。 シラバスを参考に各回の課題を作成して提出すること。オンデマンド期間中は期限内に提出された課題を添削してフィードバックする。それをもとに、「振り返りレポート」を作成し、新たな課題と合わせて次回授業で提出する。対面授業では「振り返りレポート」のフィードバックは授業内で実施する。 第4回からは講義、発表、模擬授業を組み合わせる。コロナ対応のため、ペアワーク、グループワークは実施しない。 また、関連する新聞記事等を配布して、教育現場や児童生徒を取り巻く状況等についても視野を広げていく。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	「これからの社会で求められている国語教育について考察する」 教育基本法と平成29年度告示中学校および平成30年告示高等学校の学習指導要領総則及び国語を読んで、①国語教育の目的 ②授業の在り方 ③教員としての基本的な姿勢について考察する。	文部科学省HP掲載の当該資料を読んで、①～③について考察する。 提出期限:2021年4月10日
第2回 Session 2	a文学的文章、b説明的文章、c古文、d漢文の各教材を読解し、①問題の解答を作成する。加えて②各問題の作成意図についても考察する。	①振り返りレポートを作成する ②a～dの各問題の解答を作成する ③同じく各問題の作成意図を考察する 提出期限:2021年4月15日
第3回 Session 3	a文学的文章、b説明的文章、c古文、d漢文の各教材の板書計画を作成する。 模擬授業のイメージ作りである。読解を促す発問も考えながら、簡潔で要点を押さえた板書を考える。	①振り返りレポートを作成する ②a～dの「板書計画」を作成する 提出期限:2021年4月22日
第4回 Session 4	「読むことー文学的文章」に関する指導について一板書計画をもとに、読解の要点を確認して授業計画を練る 模擬授業をし、相互評価を共有して自己の改善点を知る	①振り返りレポートを作成する ②aの「授業計画表」を作成する ③aの事後学習案を考える
第5回 Session 5	模擬授業をし、相互評価を共有して自己の改善点を知る。事後学習案を共有する。 「読むことー説明的文章」に関する指導について一板書計画をもとに、授業計画を練る	①振り返りレポートを作成する ②bの「授業計画表」を作成する ③bの事後学習案を考える
第6回 Session 6	「読むことー説明的文章」に関する指導について一模擬授業体験および相互評価を共有して自己の改善点を知る 事後学習案を共有する。	①振り返りレポートを作成する ②aとbの「学習指導案」を作成する ③「話すこと、聞くこと、書くこと」の指導計画を考える
第7回 Session 7	「話すこと、聞くこと」の指導について一教材・方法について考える 「書くこと」の指導について一資料収集、テーマ設定、段落構成および正確な表記についての指導計画と指導法について考える	①振り返りレポートを作成する ②語句・語彙、漢字学習指導案を作成する
第8回 Session 8	「書くこと」に関する指導について一図書館の活用、新聞・インターネットの活用も視野に、指導計画を共有する 語句・語彙の指導、漢字学習指導、書写の指導	①振り返りレポートを作成する ②古文の「授業計画表」を作成する ③古典文法指導計画を考える
第9回 Session 9	「伝統的な言語文化ー古文」に関する指導について一板書計画をもとに、授業計画を練る	①振り返りレポートを作成する ②古文の事後学習案を作成する

Session 9	古典文法指導の骨子について整理する	③模擬授業の準備をする
第10回 Session 10	「伝統的な言語文化－古文」に関する指導について－模擬授業体験および相互評価を共有して自己の改善点を知る	①振り返りレポートを作成する ②古文の「学習指導案」を作成する ③漢文の「授業計画表」を作成する
第11回 Session 11	「伝統的な言語文化－漢文」に関する指導について－板書計画をもとに、授業計画を練る 重要句法や王朝の変遷の根拠となる考え方や代表的な思想について整理する	①振り返りレポートを作成する ②漢文の事後学習案を作成する ③模擬授業の準備をする
第12回 Session 12	「伝統的な言語文化－漢文」に関する指導について－模擬授業体験および相互評価を共有して自己の改善点を知る	①振り返りレポートを作成する ②漢文の「学習指導案」を作成する ③配布資料を用いて話し合い教材を作成する
第13回 Session 13	「伝統的な言語文化－古文、漢文」に関する事後指導案を共有する 「話し合い指導」第8回の内容を受けて、「調べる、まとめる、表現する」につなげる話し合い教材を作る	①振り返りレポートを作成する ②話し合いの「学習指導案」を作成する
第14回 Session 14	教育実習に向けて学習指導案の練り直し－授業の「めあて」とそれに適した指導方法について、および評価規準と評価の方法について 授業者の留意事項について	①振り返りレポートを作成する ②学習指導案の練り直しをする

授業計画 Overview for each class	①毎授業で課す課題は添削の上返却し、次回の授業で共有あるいは使用します。 ②各教材の学習指導案は最終版を最終授業で提出してください。添削の上返却します。指導案の返却時期は最終授業日に連絡します。 【オンライン受講生対象】オンライン受講を許可された学生に対しては、4回目以降、①教員から授業概要 ②受講生から、当番の受講生が記録した授業ノート の2点を授業後にメール配信します。模擬授業については、自身の板書計画をもとに、発問と想定やり取りを記した「授業シナリオ」を作成して授業イメージを作ることを中心とします。
授業外学習 Study Required outside Class	教科教育法は職業訓練の側面が大きい授業です。模擬授業では、生徒の理解状況を観察しながら進行速度や説明の仕方を工夫する経験を通じて「相手に言葉を伝える」意識を育てます。その前提になる、考えを言葉にして表現し伝える訓練が「授業外学習欄」に記載した各種の課題です。

教科書 Required texts	特になし 使用教材についてはプリントを配布する
参考文献・資料 Reference books	平成29年度告示 中学校新学習指導要領 総則、国語 平成30年度告示 高等学校新学習指導要領 総則、国語

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	提出の有無と取り組み内容
	その他／Others(99)	40%	模擬授業への取り組み、学習指導案の提出
	備考 Note 生徒を指導する立場を目指すという観点から、正当な理由なく遅刻欠席した場合は減点する 1／3以上欠席した場合は修得を認めない 平常のレポートとその他(模擬授業への取り組みおよび学習指導案の提出)両方があることを評価の条件とする		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_193532_1&cmp_tab_id=_229572_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月15日 15時51分17秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜1時限	春学期／Spring	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48014001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法B 1／Methods of Teaching Japanese B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	山本 康義(YAMAMOTO YASUYOSHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	国語教育はすべての教科の基礎となるものであり、その重要性は学習指導要領でもうたわれているところである。また、学校教育は、AV機器が活用されるようになったとはいえ、文字言語・音声言語が主体である。本講座においては、それらの重要性や言語活動の充実を念頭に置きながら、国語科教育の現状と課題を踏まえた上で、国語科教育の主な領域・分野について、教科書に採択された教材を用いながら、教材研究と模擬授業、学生相互の合評を主体とした授業を実施する。それによって実際の指導力の向上に資するものとする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to improve their practical abilities mainly by studying instructional materials, performing mock lessons, and evaluating each other.		
到達目標/Learning Goals	国語教育の幅広い領域・分野について実践的な指導力を身に付けること。また、授業の構成力を身に付けることを通して、生徒の主体的な学習活動を促す工夫や授業展開の技術力を磨くことを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire the ability to use practical teaching techniques and to make their own lessons. Students will also devise lessons that encourage high school students to develop their own learning activities.		
授業方法 Course Format	演習形式を主体とする。担当者による模擬授業とそれに対する受講者間での意見交換及び教員による指導を行う。 対面授業 所属学部にはオンラインでの受講を認められた学生は、教材や課題等の指示をLUNA等で確認すること。(授業録画を配信予定)		
関連科目/Related Courses	「国語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	本講座に関するガイダンス(目的・内容・方法・評価等) 国語科教育の現状と課題	
第2回 Session 2	指導者による授業の実例 模擬授業の採用教材と担当学生の決定	
第3回 Session 3	芥川龍之介『蜜柑』 前段の模擬授業と合評	
第4回 Session 4	芥川龍之介『蜜柑』 後段の模擬授業と合評	
第5回 Session 5	加藤周一『日本文化の雑種性』 中段の模擬授業と合評	
第6回 Session 6	加藤周一『日本文化の雑種性』 後段の模擬授業と合評	
第7回 Session 7	茨木のり子詩集 選択した詩をもとに模擬授業と合評	
第8回 Session 8	永田和宏『現代秀歌』 選択した歌人・歌について模擬授業と合評	
第9回 Session 9	『宇治拾遺物語』 課題とする素材について模擬授業と合評	
第10回 Session 10	『伊勢物語』 課題とする素材について模擬授業と合評	
第11回 Session 11	『古今和歌集』 課題とする和歌について模擬授業と合評	
第12回 Session 12	「漢詩」 課題とする漢詩について模擬授業と合評	
第13回 Session 13	「故事成語」 課題とする故事成語の原典について模擬授業と合評	
第14回 Session 14	評価問題の作成方法	

授業外学習 Study Required outside Class	各人に課題とする模擬授業について、当該作品の教材研究は必須であるが、作者(筆者)や他の作品の研究も重要である。
---------------------------------------	---

参考文献・資料 Reference books	教材及び参考資料等については適宜配布する。
----------------------------	-----------------------

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	授業評価シートの記入内容
	その他／Others(99)	60%	模擬授業の実施と発表態度及び授業内容等の総合評価
	備考 Note 所属学部オンラインでの受講を認められた学生の評価については、各回の授業評価シートの記入内容(40%)、担当授業の学習指導案(60%)の提出により評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196281_1&cmp_tab_id=_232321_1&mode=view		
更新日時/Date of Update	2021年03月15日 15時06分46秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜1時限	春学期／Spring	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48014002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法B 2／Methods of Teaching Japanese B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	秋田 久子(AKITA HISAKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、学習指導要領の内容理解に基づき、生徒が社会生活を営むために必要な言語感覚と言語による活動能力を育成し、国語への関心と尊重する態度を育てるための授業展開力を身に付けることを目的とする		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to develop their teaching skills based on the new Course of Study in order to educate (junior) high school students so that they have the language sense necessary for social life and a superb ability to utilize the language.		
到達目標/Learning Goals	以下の項目の習得を授業の目標とする。 ・学習指導要領における国語科の目標と内容および全体構造について理解している ・個別の学習内容について指導上の留意点を理解して学習指導計画が立てられる ・授業評価規準を踏まえた学習指導案が作成できる ・模擬授業とその振り返りを通じて授業改善の視点を身に付けている		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the objectives, content, and whole structure of the Japanese language as a subject in the Course of Study, b) acquire the skills to grasp each teaching content and to make a teaching plan so that learners can appropriately understand, consider, and express, c) acquire the skills to make teaching plans based on some evaluation standards, d) acquire the ability to improve their teaching through trial classes and evaluations of them.		
授業の概要・背景 Course Outline	教育基本法・新学習指導要領・国語科教育の目標について理解する。授業はもちろん教育活動全体において、職場ではチームで取り組む。したがって、自身の国語指導力を身につけるとともに、将来担当者間での共有と検討ができる能力と姿勢づくりも必要である。そして、それらの力と姿勢は主体的で対話的な深いまなびを組み立てるためにも重要な資質である。そこで、本授業では主に高等学校での学習指導を想定して、学習指導案を作成し模擬授業を相互に評価することを通じて、生徒の活発な学習活動を企画設定できる力を身に付ける。そこで、毎回の授業で得た知見を自己の生徒時代の経験とを比較・考察して文章表現すること(以下「振り返りレポート」と呼ぶ)を平常課題の中信とする。また、国語の性質上、正確な表記や正確で読み易い文字を書くことや話し方は教員として大変重要である。その訓練方策として、「振り返りレポートを」提出して添削を受け、次の授業で発表・共有することを各回の授業の導入として実施する。		
授業方法 Course Format	講義、発表、ペアワーク、グループワーク、演習。授業が進むにつれて、演習の比率が多くなる。 コロナ感染対策のため、ペアワーク、グループワークについては、用い方の説明を適宜する。 また、関連する新聞記事等を配布して、教育現場や児童生徒を取り巻く状況等について視野を広げていく。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	本講義の概要、「教育の目的とこれからの国語教育が目指すものについて考察する」 教育基本法と平成30年告示高等学校学習指導要領および平成29年度告示中学校学習指導要領の総則と国語から考察する。併せて教育現場の諸問題と教員としての在り方についても考察する。	①振り返りレポートを作成する ②この講義での、自己の目標を設定する ③「伝える力」「伝え合う力」指導案を作成する
第2回 Session 2	第1回の授業を踏まえて各自の考察を発表し、「伝える力」「伝え合う力」の指導について考える。 国語の能力、授業評価について	①振り返りレポートを作成する ②「話すこと・聞くこと」の授業案を作成する
第3回 Session 3	「話すこと・聞くこと」の指導について～授業案の共有と相互評価を行う。評価及び留意点について	①振り返りレポートを作成する ②「話し合うこと」の指導案を作成する
第4回 Session 4	「話し合うこと」の指導～授業案の共有と相互評価を行い、互いの長所を取り入れる	①振り返りレポートを作成する ②次回教材の「読解見取り図」を作成する ③次回教材の導入アイデアを考える
第5回 Session 5	「読むこと」の指導①文学的文章～「読解見取り図」の共有、「授業計画表」の作成を経て、授業の要点を整理する。整理した要点に着目して、読解を確認する問題を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③読解確認問題を作成する
第6回 Session 6	「読むこと」の指導①文学的文章～模擬授業。相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 事後指導案を共有し、「書くこと」の指導へつなぐ。	①振り返りレポートを作成する ②事後指導案を考える ③次回教材の読解見取り図を作成する ④次回教材の導入アイデアを考える
第7回 Session 7	「読むこと」の指導②説明的文章～「読解見取り図」の共有、「授業計画表」の作成を経て、授業の要点を整理する。整理した要点に着目して、読解を確認する問題を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③読解確認問題を作成する
第8回 Session 8	「読むこと」の指導①説明的文章～模擬授業。相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 事後指導案を共有し、「書くこと」の指導へつなぐ。	①振り返りレポートを作成する ②事後指導案を考える ③次回教材の読解見取り図を作成する
第9回 Session 9	「伝統的な言語文化」古典(古文))の読解指導～「読解見取り図」の共有、「授業計画表」の作成を経て、授業の要点を整理する。整理した要点に着目して、読解を確認する問題を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③読解確認問題を作成する
第10回 Session 10	「伝統的な言語文化」古典(古文)の模擬授業」～相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 「古典文法指導について」	①振り返りレポートを作成する ②古典文法指導計画を作成する ③次回教材の読解見取り図を作成する

第11回 Session 11	「伝統的な言語文化」古典(漢文)の読解指導―読解見取り図をもとに授業計画表を作成を経て、授業の要点を整理する。整理した要点に着目して、読解を確認する問題を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③読解確認問題を作成する
第12回 Session 12	「伝統的な言語文化」古典(漢文)の模擬授業～相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 「漢字学習指導について」	①振り返りレポートを作成する ②古典の事後指導案を考える ③漢字学習指導アイデアを考える
第13回 Session 13	「伝統的な言語文化」古典の事後学習指導について 模擬授業～相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 学習指導案の共有と相互評価	①振り返りレポートを作成する ②今までの教材の学習指導案を完成させる
第14回 Session 14	模擬授業～相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 学習指導案の共有と相互評価	①振り返りレポートを作成する ②今までの教材の学習指導案を完成させる

授業計画 Overview for each class	①毎授業で課す「振り返りレポート」は添削の上、次回の授業で共有する。 ②定期試験に代わるレポートは個別に添削の上、返却する。返却時期は最終授業日に連絡する。
---------------------------------	---

教科書 Required texts	なし 教材については授業内で配布する
参考文献・資料 Reference books	平成29年度告示中学校新学習指導要領 総則、国語 平成30年度告示高等学校新学習指導要領 総則、国語

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるレポート／ Term paper to replace the final examination(02)	40%	提出の有無と取り組み内容
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	提出の有無と取り組み内容
	その他／Others(99)	20%	模擬授業への取り組み
	備考 Note 生徒を育成指導する立場を目指すという観点から、正当な理由なく遅刻・欠席した場合は減点する。 1／3以上欠席した場合は修得を認めない。 定期試験に代わるレポートを提出がない場合は評価の対象としない また、感染状況によって定期試験に代わるレポートはが実施できない場合は、平常のレポートと模擬授業への取り組みの2点で評価する		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/content/listContentEditable.jsp?content_id=_632255_1&course_id=_184283_1&content_id=_632255_1		
更新日時/Date of Update	2021年01月25日 17時04分58秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜1時限	秋学期／Fall	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48015001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法C 1／Methods of Teaching Japanese C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	秋田 久子(AKITA HISAKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、次期学習指導要領の内容理解に基づき、生徒が社会生活を営むために必要な言語感覚と言語による活動能力を育成し、国語への関心と尊重する態度を育てるための授業展開力を身に付けることを目的とする		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to develop their teaching skills based on the new Course of Study in order to educate (junior) high school students so that they have the language sense necessary for social life and a superb ability to utilize the language.		
到達目標/Learning Goals	以下の項目の習得を授業の目標とする。 ・学習指導要領における国語科の目標と内容および全体構造について理解している ・個別の学習内容について指導上の留意点を理解して学習指導計画が立てられる ・授業評価規準を踏まえた学習指導案が作成できる ・模擬授業とその振り返りを通じて授業改善の視点を身に付けている		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the objectives, content, and whole structure of the Japanese language as a subject in the Course of Study, b) acquire the skills to grasp each teaching content and to make a teaching plan so that learners can appropriately understand, consider, and express, c) acquire the skills to make teaching plans based on some evaluation standards, d) acquire the ability to improve their teaching through trial classes and evaluations of them.		
授業の概要・背景 Course Outline	教育基本法・新学習指導要領・国語科教育の目標について理解する。授業はもちろん教育活動全体において、担当者間で目標と方法等の共有と検討ができる姿勢と能力の必要性を理解する。それらは生徒の主体的で対話的な深いまなびを組み立てるためにも重要な資質である。 そこで、本授業では各分野の教材や新聞記事を用いて「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」および「伝統的な言語文化」について学習指導案を作成し、模擬授業を相互に評価することを通じて、生徒の活発な学習活動を企画設定できる力を身に付けていく。そのため、授業で得た知見を定着させ、かつ自身の生徒時代の経験を教える立場から活用できるよう、毎授業で「振り返りレポート」の作成を課す。このレポートは添削して次回の授業で共有する。添削によって、国語科教員として必要な、書写指導や正確で豊かな表記の力を向上させ、共有によって「伝える」話し方を身に付けていく。		
授業方法 Course Format	第1回～第3回はオンデマンドA型オンライン授業で実施する。提出先及び教材等についてはLUNAに掲示する。 シラバスを参考に各回の課題を作成して提出すること。オンデマンド期間中は期限内に提出された課題を添削してフィードバックする。それをもとに、「振り返りレポート」を作成し、新たな課題と合わせて次回授業で提出する。対面授業では「振り返りレポート」のフィードバックは授業内で実施する。 第4回からは講義、発表、模擬授業を組み合わせる。コロナ対応のため、ペアワーク、グループワークは実施しない。 また、関連する新聞記事等を配布して、教育現場や児童生徒を取り巻く状況等についても視野を広げていく。		
関連科目/Related Courses	「国語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	「生徒として受けた授業体験との比較を通して、新学習指導要領で求められているこれからの国語教育を具体的にイメージする」 記憶に新しい中学・高校時代の国語の授業と、新学習指導要領で求められる国語教育とを比較し、その共通点と相違点について考察する。	文部科学省HP掲載の当該資料を読んで考察する。 提出期限:2021年4月10日
第2回 Session 2	a説明的文章、b文学的文章、c古文、d漢文の各教材を読解し、①問題の解答を作成する。加えて②各問題の作成意図についても考察する。	①振り返りレポートを作成する ②a～dの各問題の解答を作成する ③同じく各問題の作成意図を考察する 提出期限:2021年4月15日
第3回 Session 3	a説明的文章、b文学的文章、c古文、d漢文の各教材の板書計画を作成する。 模擬授業の準備である。読解を促す発問も考えながら、簡潔で要点を押さえた板書を考える。	①振り返りレポートを作成する ②a～dの「板書計画」を作成する 提出期限:2021年4月22日
第4回 Session 4	「読むこと」に関する指導①a説明的文章～板書計画をもとに、「授業計画表」を作成する。 読解を確認する記述式問題を考える。「書くこと」の指導へつなぐ事後指導案を考える。	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③記述式問題を1題作成する
第5回 Session 5	a説明的文章の模擬授業。相互評価を行い、互いの長所を取り入れる。 「読むこと」に関する指導②b文学的文章～板書計画をもとに「授業計画表」を作成する。 読解を確認する記述式問題を考える。	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③記述式問題を1題作成する
第6回 Session 6	b文学的文章～模擬授業。相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 「書くこと」の指導へつなぐ事後指導案を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②aとbの学習指導案を作成する
第7回	「『話す・聞くこと』『読むこと』『書くこと』の指導の関連性と指導の効果的な組み合わせ方について、実際の教材を用いて考え	①振り返りレポートを作成する ②aとbの学習指導案を作成する

Session 7	る」～事前指導、授業のめあて、授業展開方法、事後指導の在り方読むこと」の指導 a、bの授業計画を練り直す	
第8回 Session 8	「伝統的な言語文化」c古典(古文))の読解指導～板書計画をもとに「授業計画表」を作成する。 読解を確認する問題を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②古文の授業計画表を作成する ③古文の読解問題を1題作成する
第9回 Session 9	c古文の模擬授業～相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 古文への興味関心を育てる事後指導案を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②古文の学習指導案を作成する
第10回 Session 10	「伝統的な言語文化」d古典(漢文)の読解指導～板書計画をもとに「授業計画表」を作成する。 読解を確認する問題を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②漢文の授業計画表を作成する ③漢文の読解問題を1題作成する
第11回 Session 11	d漢文の模擬授業～相互評価を行い、互いの長所を取り入れる 漢文や漢字への興味関心を育てる事後指導案を作成する。	①振り返りレポートを作成する ②漢文の学習指導案を作成する
第12回 Session 12	「『伝える』『伝え合う』力を育成する、『話す』あるいは『話し合う』授業を企画する」 授業案を共有して、テーマ設定、資料提示、事前指導と授業形態及び事後指導との組み合わせについて考察する。	①振り返りレポートを作成する ②授業案の練り直しをする
第13回 Session 13	「『伝える』『伝え合う』力を育成する、『話す』あるいは『話し合う』授業を企画する」 新聞活用、図書館利用、インターネット活用方法について考察する 読書指導及び作文指導について一指導計画共有の重要性和校内の協力体制作りについて考察する	①振り返りレポートを作成する ②「学習指導案」を作成する ②評価の在り方について考察する
第14回 Session 14	模擬授業と学習指導案について 今までの教材を用いて、模擬授業に再度取組み、相互評価を行う。 評価について考察する。学習指導案を完成させる。	①振り返りレポートを作成する ②学習指導案を完成させる

授業計画 Overview for each class	①毎授業で課す課題は添削の上返却し、次回の授業で共有あるいは使用します。 ②各教材の学習指導案は最終版を最終授業で提出してください。添削の上返却します。指導案の返却時期は最終授業日に連絡します。 【オンライン受講生対象】オンライン受講を許可された学生に対しては、4回目以降、①教員から授業概要 ②当番の受講生が記録した授業ノート の2点を授業後にメール配信します。模擬授業については、自身の板書計画をもとに、発問と想定やり取りを記した「授業シナリオ」を作成して授業イメージを作ることを中心とします。
授業外学習 Study Required outside Class	教科教育法は職業訓練の側面が大きい授業です。模擬授業では、生徒の理解状況を観察しながら進行速度や説明の仕方を工夫する経験を通じて「相手に言葉を伝える」意識を育てます。その前提となる、考えを言葉にして表現し伝える訓練が「授業外学習欄」に記載した各種の課題です。

教科書 Required texts	なし 教材については授業でプリントを配布する
参考文献・資料 Reference books	平成29年度告示中学校新学習指導要領 総則、国語 平成30年度告示高等学校新学習指導要領 総則、国語

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	提出の有無と取り組み姿勢及び内容
	その他／Others(99)	40%	模擬授業への取り組み、学習指導案の提出
	備考 Note 生徒を指導する立場を目指すという観点から、正当な理由なく遅刻欠席した場合は減点する 1／3以上欠席した場合は修得を認めない 平常のレポートと模擬授業への取り組みおよび学習指導案の提出で評価する。模擬授業への取り組みと学習指導案の提出がない場合は評価の対象としない。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202594_1&cmp_tab_id=_238634_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月15日 15時52分40秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜2時限	春学期／Spring	D－104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48015002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法C 2／Methods of Teaching Japanese C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	方波見 彰(KATABAMI AKIRA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	模擬授業・指導案作成などの実践的な学習を通して、中学・高校における国語教育について学ぶ。また国語教育のみにとどまらず、現実の教育現場の諸問題について、具体的な事例を通して教師としての指導のあり方を学ぶ。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn about the theory and practice of Japanese language education at junior high schools and high schools. In addition to Japanese language education, they learn about the actual situation in the classroom through examples and learn approaches to new subjects based on new guidelines for teaching.		
到達目標/Learning Goals	授業の到達目標及びテーマ 中学・高校における国語教育についての理論と実践を学ぶ。国語教育のみにとどまらず、現実の教育現場の状況を実例をもとに学ぶ。また新学習指導要領に基づいた新しい科目についての考え方を学ぶ。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will learn about the theory and practice of Japanese language education at junior high schools and high schools. In addition to Japanese language education, they will learn about the actual situation in the classroom through examples and learn approaches to new subjects based on new guidelines for teaching.		
授業方法 Course Format	対面授業 模擬授業を中心に		
検索キーワード/Keywords	なぜ国語を学ぶ・教えるのか		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今後の本講義の授業の進め方	オンデマンド授業の教材 課題についてはLUNAにて指示する
第2回 Session 2	教材研究 現代文の授業の進め方 (評論)	
第3回 Session 3	教材研究 現代文の授業の進め方 (評論)	
第4回 Session 4	教材研究 現代文の授業の進め方 (小説)	
第5回 Session 5	教材研究 現代文の授業の進め方 (小説)	
第6回 Session 6	教材研究 作文授業の進め方	
第7回 Session 7	現場の諸問題〔2〕進路指導	
第8回 Session 8	教材研究 現代文の授業の進め方 模擬授業〔1〕	
第9回 Session 9	教材研究 現代文の授業の進め方 模擬授業〔2〕	
第10回 Session 10	教材研究 現代文の授業の進め方 模擬授業〔3〕	
第11回 Session 11	教材研究 現代文の授業の進め方 模擬授業〔4〕	
第12回 Session 12	教材研究 現代文の授業の進め方 模擬授業〔5〕	
第13回 Session 13	教育実習について その実践	
第14回 Session 14	教材研究 探求的授業の進め方	
第15回 Session 15	秋学期試験	

授業外学習 Study Required outside Class	課題についてはLUNAにて指示する
---------------------------------------	-------------------

参考文献・資料 Reference books	プリント配布 LUNAで指示する		
成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	40%	模擬授業
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	指導案
	その他／Others(99)	30%	期末考査を作る
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_190179_1&cmp_tab_id=_219046_1&mode=view		
更新日時/Date of Update	2021年01月18日 14時53分13秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜5時限	秋学期／Fall	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48016001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法D 1／Methods of Teaching Japanese D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	方波見 彰(KATABAMI AKIRA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	授業の到達目標及びテーマ 中学・高校における国語教育についての理論と実践を学ぶ。国語教育のみにとどまらず、現実の教育現場の状況を実例をもとに学ぶ。また新学習指導要領に基づいた新しい科目についての考え方を学ぶ。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn about the theory and practice of Japanese language education at junior high schools and high schools. In addition to Japanese language education, they learn about the actual situation in the classroom through examples and learn approaches to new subjects based on new guidelines for teaching.		
到達目標/Learning Goals	授業の到達目標及びテーマ 中学・高校における国語教育についての理論と実践を学ぶ。国語教育のみにとどまらず、現実の教育現場の状況を実例をもとに学ぶ。また新学習指導要領に基づいた新しい科目についての考え方を学ぶ。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will learn about the theory and practice of Japanese language education at junior high schools and high schools. In addition to Japanese language education, they will learn about the actual situation in the classroom through examples and learn approaches to new subjects based on new guidelines for teaching.		
授業方法 Course Format	対面授業 所属学部にてオンラインでの受講を認められた学生は教材や課題等の指示をLUNA等で確認すること		
関連科目/Related Courses	「国語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	なぜ国語を学ぶ・教えるのか		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	第1回: 今後の本講義の授業の進め方	
第2回 Session 2	第2回: 教材研究 古文の授業の進め方1	
第3回 Session 3	第3回: 教材研究 古文の授業の進め方2	
第4回 Session 4	第4回: 教材研究 古文の授業の進め方3	
第5回 Session 5	第5回: 教材研究 漢文の授業の進め方1	
第6回 Session 6	第6回: 現場の諸問題〔1〕生徒指導	
第7回 Session 7	第7回: 現場の諸問題〔2〕進路指導	
第8回 Session 8	第8回: 教材研究 古文の授業の進め方 模擬授業〔1〕	
第9回 Session 9	第9回: 教材研究 古文の授業の進め方 模擬授業〔2〕	
第10回 Session 10	第10回: 教材研究 古文の授業の進め方 模擬授業〔3〕	
第11回 Session 11	第11回: 教材研究 古文の授業の進め方 模擬授業〔4〕	
第12回 Session 12	第12回: 教材研究 漢文の授業の進め方 模擬授業〔5〕	
第13回 Session 13	第13回: 教育実習について その実践	
第14回 Session 14	第14回: 教材研究 探求的授業の進め方	
第15回 Session 15	第15回: 春学期試験	

授業外学習 Study Required outside Class	出席重視 課題等についてはLUNAで指示
---------------------------------------	----------------------

教科書 Required texts	『新探求国語総合(現代文・表現編)』『新探求国語総合(古典編)』桐原書店
参考文献・資料 Reference books	プリント配布 LUNAで指示

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	平常レポート
	その他／Others(99)	50%	試験制作
	備考 Note 授業中試験(Test conducted in class)/平常レポート(Ordinary paper)/その他(others) 試験・模擬授業・レポート提出等の総合評価		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_192898_1&cmp_tab_id=_228938_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 11時52分49秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜5時限	春学期／Spring	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48016002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】国語科教育法D 2／Methods of Teaching Japanese D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	秋田 久子(AKITA HISAKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、次期学習指導要領の内容理解に基づき、生徒が社会生活を営むために必要な言語感覚と言語による活動能力を育成し、国語への関心と尊重する態度を育てるための授業展開力を身に付けることを目的とする なお、この授業は実践的な訓練を重視するものとする		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to develop their teaching skills based on the new Course of Study in order to educate (junior) high school students so that they have the language sense necessary for social life and a superb ability to utilize the language. Also,this course takes account of practical training for teaching.		
到達目標/Learning Goals	以下の項目の習得を授業の目標とする。 ・学習指導要領における国語科の目標と内容および全体構造について理解している ・個別の学習内容について指導上の留意点を理解して学習指導計画が立てられる ・授業評価規準を踏まえた学習指導案が作成できる ・模擬授業とその振り返りを通じて授業改善の視点を身に付けている ・生徒の状況に対応した授業づくりができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the objectives, content, and whole structure of the Japanese language as a subject in the Course of Study, b) acquire the skills to grasp each teaching content and to make a teaching plan so that learners can appropriately understand, consider, and express, c) acquire the skills to make teaching plans based on some evaluation standards, d) acquire the ability to improve their teaching through trial classes and evaluations of them. e) acquire the ability to make teaching plans flexibly for various students.		
授業の概要・背景 Course Outline	新学習指導要領に見られる社会の変化への対応と教育の果たす役割について理解する。授業はもちろん教育活動全体において、目標および方法に関して担当者間で情報共有と検討ができる姿勢と能力の必要性を体験する。それらは生徒の主体的で対話的な深いまなびを組み立てるためにも重要な資質である。そこで、本授業では中学校・高等学校教科書等の教材および新聞を用いて、①「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、また、②主体的で対話的な探究・表現活動について、授業の事前学習・事後学習を視野に学習指導案を作成し、模擬授業の相互評価を通じて、生徒の活発な学習活動を企画設定できる力を身に付けていく。また、国語を指導する立場上、整った文字、正確な表記や話し方は大変重要である。そこで毎回の授業であた知見と自己の生徒時代の経験とを比較考察して文章化すること(以下「振り返りレポート」と呼ぶ)、提出して添削を受けること、さらに次回の授業で発表・共有することを、毎回の授業の導入として実施する。		
授業方法 Course Format	講義、発表、演習。授業が進むにつれて、発表、演習の比率が多くなります。 ペアワーク、グループワークについてはコロナ・ウイルス感染予防の観点から、用い方を口頭で適宜説明することとする また、関連する新聞記事等を配布して、教育現場や児童生徒を取り巻く状況等について視野を広げていく。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	本講義の概要説明。 全国学力調査の中学校国語過去問とあなたが中学校時代に受けた国語のテスト問題とを比較して、出題傾向を分析し、求められている国語力の変化について考察せよ。また、変化の理由について、根拠を具体的に示して考察せよ。	①振り返りレポートを作成する ②学習指導要領を読む
第2回 Session 2	第1回の考察を踏まえて、平成29年度告示中学校学習指導要領および平成30年度告示高等学校学習指導要領の趣旨を理解する。教育現場の課題について考察し、国語科教員としての在り方について考察する。	①振り返りレポートを作成する ②文学的文章の読解見取り図を作成する
第3回 Session 3	文学的文章の授業計画を作成するー「読解見取り図」を共有し、読解のポイントを整理して「授業計画(事前指導と授業及び事後指導の計画)」を作成する	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③模擬授業の準備をする
第4回 Session 4	文学的文章の模擬授業ー相互評価を実施し授業改善する 事前指導、事後指導について共有する	①振り返りレポートを作成する ②発展的探究・表現課題案を考える ③説明的文章の読解見取り図を作成する
第5回 Session 5	文学的文章の事後学習案(発展的探究・表現課題案)を共有し相互評価する 説明的文章の授業計画を作成するー「読解見取り図」を用いて、「授業計画(事前指導と授業及び事後指導の計画)」を作成する	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③模擬授業の準備をする
第6回 Session 6	説明的文章の模擬授業ー相互評価を実施し授業改善する 事前指導、事後指導について共有する	①振り返りレポートを作成する ②発展的探究・表現課題案を考える ③情報の取り入れ方について考察する
第7回 Session 7	説明的文章の事後学習案(発展的探究・表現課題案)を共有し相互評価する 図書館、新聞、インターネットを活用した探究的学習活動について	①振り返りレポートを作成する ②探究的学習活動と「話す・聞くこと」「読むこと」「書くこと」を組み合わせた授業案を考える
	探究的学習活動と「話す・聞くこと」「読むこと」「書くこと」を組み	①振り返りレポートを作成する

第8回 Session 8	合わせた授業案を共有する 発表指導、「聞く」指導について、また、伝達のための作文指等 事後定着の回り方について検討する 「書くこと」の指導～正確な文章記述について、指導と添削の要点について考察する	②古文教材の読解見取り図を作成する
第9回 Session 9	「伝統的な言語文化」①古文教材の授業計画を作成するー「読解見取り図」を用いて、「授業計画(事前指導と授業及び事後指導の計画)」を作成する	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③模擬授業の準備をする
第10回 Session 10	「伝統的な言語文化」①古文教材の模擬授業ー相互評価を実施し授業改善する 古文教材の読解を深める～音読について、習俗等背景知識の定着について	①振り返りレポートを作成する ②漢文教材の読解見取り図を作成する
第11回 Session 11	「伝統的な言語文化」②漢文教材の授業計画を作成するー「読解見取り図」を用いて、「授業計画(事前指導と授業及び事後指導の計画)」を作成する	①振り返りレポートを作成する ②授業計画表を作成する ③模擬授業の準備をする
第12回 Session 12	「伝統的な言語文化」②漢文教材の模擬授業ー相互評価を実施し授業改善する 漢文教材の理解を深める～音読について、王朝の変遷と背景の思想について、漢字と熟語について	①振り返りレポートを作成する ②これまでの教材の学習指導案を作成する ③模擬授業の準備をする
第13回 Session 13	模擬授業ー相互評価を実施し授業改善する 学習指導案の共有と改善	①振り返りレポートを作成する ②学習指導案に改善点を盛り込む ③模擬授業の準備をする
第14回 Session 14	模擬授業ー相互評価を実施し授業改善する 教育実習に向けてー準備と留意点について	①振り返りレポートを作成する ②学習指導案に改善点を盛り込む

授業外学習 Study Required outside Class	①毎授業で課す「振り返りレポート」は添削の上、次回の授業で共有する。 ②定期試験に代わるレポートは個別に添削の上、返却する。返却時期は最終授業日に連絡する。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	なし 教材については授業でプリントを配布する
参考文献・資料 Reference books	平成29年度告示中学校新学習指導要領 総則、国語 平成30年度告示高等学校新学習指導要領 総則、国語

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるレポート／ Term paper to replace the final examination(02)	40%	提出の有無と取り組み内容
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	提出の有無と取り組み内容
	その他／Others(99)	20%	模擬授業への取り組み
	備考 Note 生徒を育成指導する立場を目指すという観点から、正当な理由なく遅刻欠席した場合は減点する 1／3以上欠席した場合は修得を認めない 定期試験に代わるレポートの提出がない場合は評価の対象としない また、感染状況によって定期試験に代わるレポートはが実施できない場合は、平常のレポートと模擬授業への取り組みの2点で評価する		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/bb-group-mgmt-LEARN/execute/groupInventoryList?course_id=181262_1		
更新日時/Date of Update	2021年01月25日 17時06分23秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜2時限	秋学期／Fall	D－104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48017001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法A 1／Methods of Teaching English A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、英語教育学に関する基礎的な知識と技能を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to obtain the basic knowledge and skills in English language teaching.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の英語教師に必要な基礎的な知識・技能を身につけることができる。 2. 英語の学習理論を理解することができる。 3. 英語の指導法を理解し実践することができる。 4. 英語教育研究法の基本的事項を理解することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to obtain basic knowledge and skills necessary for English language teachers in Japan. 2. Students will be able to understand English language learning theories. 3. Students will be able to understand English language teaching methods and put them into practice. 4. Students will be able to understand the basic research methods of English language teaching.		
授業の概要・背景 Course Outline	英語教師になるためには、英語によるコミュニケーション能力に加え、応用言語学、第二言語習得、教育学、心理学、社会学などの幅広い知識・技能が必要となります。この授業では、英語教育学の理論と実践に関する基礎的・基本的な内容を学ぶとともに、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領への理解を深め、日本で英語を教えるために必要な基本的知識・技能を身につけてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回テーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。 注:1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業の録画データをオンデマンド配信」で対応する予定です。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:授業の概要説明、英語教育の目的	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.3～8を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:英語教育学とは何か、Self-Introduction	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.9～13を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:国際化時代の英語の役割と特徴	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 14～26を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:学習指導要領(1)小学校	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 27～31を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:学習指導要領(2)中学校	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 31～34を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:学習指導要領(3)高等学校	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 34～37を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:学習者要因(1)(年齢、言語適性、学習方略)	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 38～45を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:学習者要因(2)(動機づけ、学習者の誤り)	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 46～51を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:教師に関する要因	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 52～64を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:英語教授法(1)オーラル・イントロダクション	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 78～83を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:英語教授法(2)教授法の種類	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 83～96を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:第二言語習得研究	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 97～109を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:コミュニケーション能力の育成	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 110～119を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:望月昭彦(編著) タイトル:新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版 発行所:大修館書店 出版年:2018 ISBN:9784469246216
教科書 Required texts	文部科学省「小学校・中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」
参考書/Reference books	著者名:Ur, P. タイトル:A course in English language teaching (2nd ed.). 発行所:Cambridge University Press. 出版年:2012 ISBN:9781107684676
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆館出版販売 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 英語編」開隆堂出版 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編」開隆堂出版

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	50%	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生に対しては、授業中試験(50%)に代わる平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_199263_1&cmp_tab_id=_235303_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時30分28秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜1時限	春学期／Spring	D－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48017002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法A 2／Methods of Teaching English A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、英語教育学に関する基礎的な知識と技能を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to obtain the basic knowledge and skills in English language teaching.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の英語教師に必要な基礎的な知識・技能を身につけることができる。 2. 英語の学習理論を理解することができる。 3. 英語の指導法を理解し実践することができる。 4. 英語教育研究法の基本的事項を理解することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to obtain basic knowledge and skills necessary for English language teachers in Japan. 2. Students will be able to understand English language learning theories. 3. Students will be able to understand English language teaching methods and put them into practice. 4. Students will be able to understand the basic research methods of English language teaching.		
授業の概要・背景 Course Outline	英語教師になるためには、英語によるコミュニケーション能力に加え、応用言語学、第二言語習得、教育学、心理学、社会学などの幅広い知識・技能が必要となります。この授業では、英語教育学の理論と実践に関する基礎的・基本的な内容を学ぶとともに、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領への理解を深め、日本で英語を教えるために必要な基本的知識・技能を身につけてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回テーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。 注:1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業の録画データをオンデマンド配信」で対応する予定です。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:授業の概要説明、英語教育の目的	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.3～8を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:英語教育学とは何か、Self-Introduction	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.9～13を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:国際化時代の英語の役割と特徴	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 14～26を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:学習指導要領(1)小学校	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 27～31を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:学習指導要領(2)中学校	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 31～34を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:学習指導要領(3)高等学校	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 34～37を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:学習者要因(1)(年齢、言語適性、学習方略)	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 38～45を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:学習者要因(2)(動機づけ、学習者の誤り)	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 46～51を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:教師に関する要因	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 52～64を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:英語教授法(1)オーラル・イントロダクション	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 78～83を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:英語教授法(2)教授法の種類	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 83～96を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:第二言語習得研究	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 97～109を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:コミュニケーション能力の育成	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 110～119を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:望月昭彦(編著) タイトル:新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版 発行所:大修館書店 出版年:2018 ISBN:9784469246216
教科書 Required texts	文部科学省「小学校・中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」
参考書/Reference books	著者名:Ur, P. タイトル:A course in English language teaching (2nd ed.). 発行所:Cambridge University Press. 出版年:2012 ISBN:9781107684676
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆館出版販売 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 英語編」開隆堂出版 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編」開隆堂出版

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	50%	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生に対しては、授業中試験(50%)に代わる平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_193085_1&cmp_tab_id=_229125_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時31分55秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜2時限	春学期／Spring	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48017003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法A 3／Methods of Teaching English A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	大喜多 喜夫(OKITA YOSHIO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	コミュニケーション能力育成に向けての学習形態を正しく捉え、それを授業活動で取り入れる具体的な方法を確認するとともに、音声指導の基本を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the importance of communicative language learning (CLL) and to learn about practical classroom activities based on CLL.		
到達目標/Learning Goals	コミュニケーション能力育成のための実際的な指導方法を理解し、これを具体的に教室内で実践するための指導力を身につけることができるようになる。また、アクティブ・ラーニングを英語教育の中で取り入れるための具体的な指針を理解できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of approaches to enhance communicative competences of the learners and practical teaching skills in the classroom situations where learners actively participate in the learning process.		
授業方法 Course Format	対面授業		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	応用言語学についての歴史的考察とこのコースで、この学問について学ぶ意味。	
第2回 Session 2	Audio-lingual Method の誕生の経緯とその問題点 (p.27-p.28)	
第3回 Session 3	Communicative Language Teaching とコミュニケーション能力について何か (p.28-p.31)	
第4回 Session 4	Audio-lingual Method における文型練習 (p.32-33) と minimal-pair practice (p.85-p.86)	
第5回 Session 5	コミュニケーション活動としての Information gap activity (p.33-p.35) と role-play (p.37-40)	
第6回 Session 6	Acquisition-oriented listening と learning-oriented listening (p.9-p.10)	
第7回 Session 7	Total Physical Response と Bottom-up listening (p.10-p.15)	
第8回 Session 8	Top-down listening (p.18-p.23) と task-listening (p.24-p.26)	
第9回 Session 9	General American English と Received Pronunciation の定義とその違い (p.83-84)	
第10回 Session 10	Suprasegmental な発音指導の例 (1): compound noun と adjective + noun のアクセントの違いと指導法 (p.90) とチャンツの実際 (p.91)	
第11回 Session 11	Suprasegmental な発音指導の例 (2): prominence, intonation, back-chaining, flapping の指導例 (p.92-p.96)	
第12回 Session 12	Suprasegmentalな発音指導の例 (3): linking, assimilation, knock-knock jokes の具体例 (p.97-99)	
第13回 Session 13	4技能5領域の統語の意義と実際の例(1): Retelling activity や extensive reading と intensive reading とを組み合わせる。(p.101-p.102)	
第14回 Session 14	4技能5領域の統合の実際の例 (2): Pre- and post-reading activity の1つの活動として (p.102-p.103)	

授業計画 Overview for each class	リポートに対しては、提出の次の授業回において、全体の講評を伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	使用するテキスト及び配布資料の指定箇所を注意深く読み、課題に取り組んでください。

教科書/Required texts	著者名:大喜多喜夫 タイトル:To learn how to teach English 発行所:関西学院大学出版会 出版年:2015 ISBN:978-4-86283-207-8
教科書 Required texts	大喜多喜夫(2015)『To learn how to teach English』関西学院大学出版会
参考文献・資料 Reference books	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 『英語教員のための授業活動とその分析』(大喜多喜夫)(2004)昭和堂

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	平常レポートと QUIZ
更新日時/Date of Update	2021年02月11日 14時38分25秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜2時限	秋学期／Fall	G－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48017004	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法A 4／Methods of Teaching English A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、英語教育学に関する基礎的な知識と技能を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to obtain the basic knowledge and skills in English language teaching.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の英語教師に必要な基礎的な知識・技能を身につけることができる。 2. 英語の学習理論を理解することができる。 3. 英語の指導法を理解し実践することができる。 4. 英語教育研究法の基本的事項を理解することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to obtain basic knowledge and skills necessary for English language teachers in Japan. 2. Students will be able to understand English language learning theories. 3. Students will be able to understand English language teaching methods and put them into practice. 4. Students will be able to understand the basic research methods of English language teaching.		
授業の概要・背景 Course Outline	英語教師になるためには、英語によるコミュニケーション能力に加え、応用言語学、第二言語習得、教育学、心理学、社会学などの幅広い知識・技能が必要となります。この授業では、英語教育学の理論と実践に関する基礎的・基本的な内容を学ぶとともに、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領への理解を深め、日本で英語を教えるために必要な基本的知識・技能を身につけてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回テーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。 注:1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業の録画データをオンデマンド配信」で対応する予定です。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:授業の概要説明、英語教育の目的	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.3～8を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:英語教育学とは何か、Self-Introduction	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.9～13を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:国際化時代の英語の役割と特徴	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 14～26を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:学習指導要領(1)小学校	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 27～31を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:学習指導要領(2)中学校	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 31～34を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:学習指導要領(3)高等学校	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 34～37を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:学習者要因(1)(年齢、言語適性、学習方略)	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 38～45を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:学習者要因(2)(動機づけ、学習者の誤り)	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 46～51を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:教師に関する要因	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 52～64を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:英語教授法(1)オーラル・イントロダクション	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 78～83を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:英語教授法(2)教授法の種類	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 83～96を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:第二言語習得研究	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 97～109を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:コミュニケーション能力の育成	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 110～119を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:望月昭彦(編著) タイトル:新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版 発行所:大修館書店 出版年:2018 ISBN:9784469246216
教科書 Required texts	文部科学省「小学校・中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」
参考書/Reference books	著者名:Ur, P. タイトル:A course in English language teaching (2nd ed.). 発行所:Cambridge University Press. 出版年:2012 ISBN:9781107684676
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆館出版販売 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 英語編」開隆堂出版 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編」開隆堂出版

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	50%	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生に対しては、授業中試験(50%)に代わる平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196795_1&cmp_tab_id=_232835_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時33分31秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	I－101

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48017005	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法A 5／Methods of Teaching English A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	大喜多 喜夫(OKITA YOSHIO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	コミュニケーション能力育成に向けての学習形態を正しく捉え、それを授業活動で取り入れる具体的な方法を確認するとともに、音声指導の基本を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the importance of the transition of teaching styles from grammar translation method to commucation language learning (CLL) and to learn about practical classroom activities based on CLL.		
到達目標/Learning Goals	コミュニケーション能力育成のための実践的な指導方法を理解し、これを具体的に教室内で実践するための指導力を身につけることができるようになる。また、アクティブ・ラーニングを英語教育の中で取り入れるための具体的な指針を理解できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of approaches to enhance communicative competences of the learners and practical teaching skills in the classroom situations where learners actively participate in the learning process.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業授業で実施する。教材や課題などについては、LUNA で指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中で指示する)。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	応用言語学についての歴史的考察とこのコースで、この学問について学ぶ意味。 「オンライン受講生対象」オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降 zoom による同時配信」で対応する予定。3回目までは、オンデマンドで対応する。詳細は https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_206518_1&cmp_tab_id=_242558_1&editMode=true&mode=cpview を確認のこと。	
第2回 Session 2	Audio-lingual Method の誕生の経緯とその問題点 (p.27-p.28)	
第3回 Session 3	Communicative Language Teaching とコミュニケーション能力について何か (p.28-p.31)	
第4回 Session 4	Audio-lingual Method における文型練習 (p.32-33) と minimal-pair practice (p.85-p.86)	
第5回 Session 5	コミュニケーション活動としての Information gap activity (p.33-p.35) と role-play (p.37-40)	
第6回 Session 6	Acquisition-oriented listening と learning-oriented listening (p.9-p.10)	
第7回 Session 7	Total Physical Response と Bottom-up listening (p.10-p.15)	
第8回 Session 8	Top-down listening (p.18-p.23) と task-listening (p.24-p.26)	
第9回 Session 9	General American English と Received Pronunciation の定義とその違い (p.83-84)	
第10回 Session 10	Suprasegmental な発音指導の例 (1): compound noun と adjective + noun のアクセントの違いと指導法 (p.90) とチャンツの実際 (p.91)	
第11回 Session 11	Suprasegmental な発音指導の例 (2): prominence, intonation, back-chaining, flapping の指導例 (p.92-p.96)	
第12回 Session 12	Suprasegmentalな発音指導の例 (3): linking, assimilation, knock-knock jokes の具体例 (p.97-99)	
第13回 Session 13	4技能5領域の統語の意義と実際の例(1): Retelling activity や extensive reading と intensive reading とを組み合わせる。(p.101-p.102)	
第14回 Session 14	4技能5領域の統合の実際の例 (2): Pre- and post-reading activity の1つの活動として (p.102-p.103)	

授業計画 Overview for each class	レポートに対しては、提出の次の授業回において、全体の講評を伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	使用するテキスト及び配布資料の指定箇所を注意深く読み、課題に取り組んでください。

教科書/Required texts	著者名:大喜多喜夫 タイトル:To learn how to teach English 発行所:関西学院大学出版会 出版年:2015 ISBN:978-4-86283-207-8
教科書 Required texts	大喜多喜夫(2015)『To learn how to teach English』関西学院大学出版会
参考文献・資料 Reference books	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 『英語教員のための授業活動とその分析』(大喜多喜夫)(2004)昭和堂

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	100%	定期試験
	備考 Note		
	定期試験を予定しているが、今後、変更の可能性もある。オンライン授業受講生については別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_206518_1&cmp_tab_id=_242558_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 11時35分26秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜2時限	春学期／Spring	G－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48018001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法B 1／Methods of Teaching English B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	立花 千尋(TACHIBANA CHIIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	グローバル化に対応したコミュニケーション能力の育成のための授業づくりができるように、模擬授業を通して具体的な指導法を理解し、実際の学校現場の授業に生かされるような実践力を身につける。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the importance of communicative language teaching(CLT) and the practical language activities based on CLT through mock classes in the classroom settings.		
到達目標/Learning Goals	中等教育でのより良い英語授業づくりに向けて、その基本的な指導方法を習得することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students can learn the basic way of effective English language teaching for students in the secondary schools		
授業の概要・背景 Course Outline	中等英語科教育法の実践編であり、具体的な指導法を中心に学びつつ、なるべく理論に裏付けられた具体的指導方法を皆でアイデアを出し合いながら考える。		
授業方法 Course Format	オンライン授業:(ZOOMによる双方向型リアルタイムの授業とする) 科目ホームページURL(2021年度春学期「英語科教育法B1」) https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=205581_1&cmp_tab_id=241621_1&editMode=true&mode=cpview 講義を中心とし、発表・討論・実習(模擬授業)等を導入する オンライン提出課題の検討		
関連科目/Related Courses	英語科教育法A、英語科教育法C、英語科教育法D 「英語科教育法A」の単位を取得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	模擬授業、学習指導案、学習活動、言語活動、授業構成		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	授業オリエンテーション。授業の目標・シラバスとその進め方。 第1回目は、時間: 2021年4月13日 03:10 PM 以下のURLでZOOM授業に入室してください。 Zoomミーティングに参加する https://zoom.us/j/94303053057?pwd=YzVJQjkweEVpRnlQUVJ2WFJvbEVQUT09 ミーティングID: 943 0305 3057 パスコード: 817517	添付ファイルのパワーポイント資料を読んで把握してください。
第2回 Session 2	新学習指導要領に基づく授業の在り方。英語コミュニケーション能力の育成とは。	添付ファイルPDF(2枚)中学校・高等学校学習指導要領(英語編)に目を通しておいて下さい。学習指導要領で謳っている「英語コミュニケーション能力」とは何かを説明できるようにしてください。
第3回 Session 3	英語の授業(中学校編)、英語の授業(高校編)「第1章」	
第4回 Session 4	授業の構成(年間・単元指導計画・1時間の授業指導計画)、学習指導案作成「第2章」	
第5回 Session 5	Listeningの指導(インプット活動)「第3章」	
第6回 Session 6	Speakingの指導(アウトプット活動)「第4章」	
第7回 Session 7	Readingの指導(インプット活動)「第5章」	
第8回 Session 8	Writingの指導(アウトプット活動)「第6章」	
第9回 Session 9	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(1)Listening能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第3章」	
第10回 Session 10	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(2)Speaking能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第4章」	
第11回 Session 11	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(3)Reading能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第5章」	
第12回 Session 12	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(4)Writing能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第6章」	
第13回 Session 13	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(5)4技能総合的能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第7章」	
第14回 Session 14	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(6)4技能総合的能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第7章」 授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	シラバスに示している次時の授業で扱う教科書の章を読み、重要と思われる点を挙げておく。また、疑問点や気になる点があれば挙げておく。発表する模擬授業に関して与えられたテーマや課題に対する事前の準備をしておく。テーマに応じた題材、教材・教具をリサーチしリハーサルをして準備を整えておく。 オンライン授業はすべて「LUNA」を通して行います。
---------------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名: 米山朝治二 タイトル:『英語教育:実践から理論へ』 発行所:松柏社 出版年:2014 ISBN:978-4-402-01832-0 C4382, 978-4-7754-0010-4 著者名: 立花千尋、その他 タイトル: 文部科学省検定済教科書 中学校外国語科用「BLUE SKY English course1,2,3」 発行所: 啓林館 出版年: 2021 ISBN: 978-4-402-01830-6 C4382, 978-4-402-01832-0 C4382
教科書 Required texts	『英語教育:実践から理論へ』 文部科学省検定済教科書 中学校外国語科用「BLUE SKY English course1,2,3」啓林館
参考文献・資料 Reference books	『中学校学習指導要領解説:外国語(英語)編』 『高等学校学習指導要領解説:外国語(英語)編』 『英語科教育実習ハンドブック』(大修館書店)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.	
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	オンラインによる試験	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	オンラインによるレポート	
添付ファイル1/File Attachment 1	英語科教育法B(1)PDF.pdf		説明1/Explanation 1	第1回 オリエンテーション用資料PDF添付
添付ファイル3/File Attachment 3	中学校学習指導要領(平成29 年告示)解説.pdf		説明3/Explanation 3	新学習指導要領中学校、2021年度よりスタート
添付ファイル4/File Attachment 4	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説.pdf		説明4/Explanation 4	新学習指導要領高等学校2022年度よりスタート
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 16時50分45秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜4時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48018002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法B 2／Methods of Teaching English B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、日本で英語を教えるために必要な幅の広い知識・技能を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to obtain broad knowledge and skills necessary for teaching English in Japan.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の英語教師に必要な幅広い知識と技能を身につけることができる。 2. 英語の学習理論を理解することができる。 3. 英語の指導法を理解し実践することができる。 4. 英語教育研究法の基本的事項を理解することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to obtain broad knowledge and skills necessary for English language teachers in Japan. 2. Students will be able to understand English language learning theories. 3. Students will be able to understand English language teaching methods and put them into practice. 4. Students will be able to understand the basic research methods of English language teaching.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業では、英語教育学の理論と実践に関する基礎的・基本的な内容を幅広く学び、日本で英語を教えるために必要な基本的知識・技能を身につけてください。特に、学習指導案の作成と模擬授業の実施を通じて、効果的な英語授業の在り方について理論と実践の両面から理解を深めてください。また、ICTを活用した指導方法などについても理解を深めてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、学習指導案の作成や模擬授業の実施など、ペアーワークまたはグループワークなどによる議論、発表などを取り入れる。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:リスニングの指導	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.120～134を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:スピーキングの指導	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.135～147を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:リーディングの指導	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.148～162を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:ライティングの指導	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.163～177を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:学習指導案の作成(1)	【復習課題】学習指導案の指導計画を具体化しておくこと 【予習課題】教科書pp.274～292を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:学習指導案の作成(2)	【復習課題】学習指導案を完成させておくこと 【予習課題】自分の作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践できるよう練習する
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:模擬授業(1)	【復習課題】自分の実施した模擬授業を振り返り、計画通りにできた点と改善の必要な点について整理しておくこと。他者の模擬授業を参観した場合は、参考になった点を整理しておくこと。 【予習課題】自分の作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践できるよう練習する
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:模擬授業(2)	【復習課題】自分の実施した模擬授業を振り返り、計画通りにできた点と改善の必要な点について整理しておくこと。他者の模擬授業を参観した場合は、参考になった点を整理しておくこと。 【予習課題】自分の作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践できるよう練習する。
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:チーム・ティーチング	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.178～187を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:測定と評価	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.188～200を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:ICTとeラーニング	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 201～212を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:教科書と教材研究	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 213～225を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:文法の指導	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 226～240を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:望月昭彦(編著) タイトル:新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版 発行所:大修館書店 出版年:2018 ISB N:9784469246216
教科書 Required texts	文部科学省「小学校・中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」
参考書/Reference books	著者名:Ur, P. タイトル:A course in English language teaching (2nd ed.). 発行所:Cambridge University Press. 出版年:2012 ISBN:9781107684676
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆館出版販売 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 英語編』開隆堂出版 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編』開隆堂出版

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	30%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	その他／Others(99)	40%	模擬授業の内容・課題・討論への参加態度などによる評価
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 10時13分55秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜2時限	秋学期／Fall	C－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48018003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法B 3／Methods of Teaching English B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、日本で英語を教えるために必要な幅の広い知識・技能を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to obtain broad knowledge and skills necessary for teaching English in Japan.		
到達目標/Learning Goals	1. 日本の英語教師に必要な幅広い知識と技能を身につけることができる。 2. 英語の学習理論を理解することができる。 3. 英語の指導法を理解し実践することができる。 4. 英語教育研究法の基本的事項を理解することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to obtain broad knowledge and skills necessary for English language teachers in Japan. 2. Students will be able to understand English language learning theories. 3. Students will be able to understand English language teaching methods and put them into practice. 4. Students will be able to understand the basic research methods of English language teaching.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業では、英語教育学の理論と実践に関する基礎的・基本的な内容を幅広く学び、日本で英語を教えるために必要な基本的知識・技能を身につけてください。特に、学習指導案の作成と模擬授業の実施を通じて、効果的な英語授業の在り方について理論と実践の両面から理解を深めてください。また、ICTを活用した指導方法などについても理解を深めてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、学習指導案の作成や模擬授業の実施など、ペアーワークまたはグループワークなどによる議論、発表などを取り入れる。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:リスニングの指導	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.120～134を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:スピーキングの指導	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.135～147を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:リーディングの指導	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.148～162を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:ライティングの指導	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.163～177を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:学習指導案の作成(1)	【復習課題】学習指導案の指導計画を具体化しておくこと 【予習課題】教科書pp.274～292を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:学習指導案の作成(2)	【復習課題】学習指導案を完成させておくこと 【予習課題】自分の作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践できるよう練習する
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:模擬授業(1)	【復習課題】自分の実施した模擬授業を振り返り、計画通りにできた点と改善の必要な点について整理しておくこと。他者の模擬授業を参観した場合は、参考になった点を整理しておくこと。 【予習課題】自分の作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践できるよう練習する
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:模擬授業(2)	【復習課題】自分の実施した模擬授業を振り返り、計画通りにできた点と改善の必要な点について整理しておくこと。他者の模擬授業を参観した場合は、参考になった点を整理しておくこと。 【予習課題】自分の作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践できるよう練習する。
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:チーム・ティーチング	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.178～187を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:測定と評価	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.188～200を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:ICTとeラーニング	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 201～212を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:教科書と教材研究	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 213～225を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:文法の指導	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 226～240を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:望月昭彦(編著) タイトル:新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版 発行所:大修館書店 出版年:2018 ISB N:9784469246216
教科書 Required texts	文部科学省「小学校・中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」
参考書/Reference books	著者名:Ur, P. タイトル:A course in English language teaching (2nd ed.). 発行所:Cambridge University Press. 出版年:2012 ISBN:9781107684676
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆館出版販売 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 英語編』開隆堂出版 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編』開隆堂出版

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	30%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	その他／Others(99)	40%	模擬授業の内容・課題・討論への参加態度などによる評価
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 10時18分15秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜1時限	秋学期／Fall	D－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48018004	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法B 4/Methods of Teaching English B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	立花 千尋(TACHIBANA CHIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	グローバル化に対応したコミュニケーション能力の育成のための授業づくりができるように、模擬授業を通して具体的な指導法を理解し、実際の学校現場の授業に生かされるような実践力を身につける。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the importance of communicative language teaching(CLT) and the practical language activities based on CLT through mock classes in the classroom settings.		
到達目標/Learning Goals	中等教育でのより良い英語授業づくりに向けて、その基本的な指導方法を習得することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students can learn the basic way of effective English language teaching for students in the secondary schools		
授業の概要・背景 Course Outline	中等英語科教育法の実践編であり、具体的な指導法を中心に学びつつ、なるべく理論に裏付けられた具体的指導方法を皆でアイデアを出し合いながら考える。		
授業方法 Course Format	オンライン授業:(ZOOMIによる双方向型リアルタイムの授業とする) 講義を中心とし、発表・討論・実習(模擬授業)等を導入する オンライン提出課題の検討		
関連科目/Related Courses	英語科教育法A、英語科教育法C、英語科教育法D		
検索キーワード/Keywords	模擬授業、学習指導案、学習活動、言語活動、授業構成		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	授業オリエンテーション。授業の目標・シラバスとその進め方。	添付ファイルのパワーポイント資料を読んで把握してください。
第2回 Session 2	新学習指導要領に基づく授業の在り方。英語コミュニケーション能力の育成とは。	添付ファイルPDF(2枚)中学校・高等学校学習指導要領(英語編)に目を通しておいて下さい。学習指導要領で謳っている「英語コミュニケーション能力」とは何かを説明できるようにしてください。
第3回 Session 3	英語の授業(中学校編)、英語の授業(高校編)「第1章」	
第4回 Session 4	授業の構成(年間・単元指導計画・1時間の授業指導計画)、学習指導案作成「第2章」	
第5回 Session 5	Listeningの指導(インプット活動)「第3章」	
第6回 Session 6	Speakingの指導(アウトプット活動)「第4章」	
第7回 Session 7	Readingの指導(インプット活動)「第5章」	
第8回 Session 8	Writingの指導(アウトプット活動)「第6章」	
第9回 Session 9	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(1)Listening能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第3章」	
第10回 Session 10	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(2)Speaking能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第4章」	
第11回 Session 11	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(3)Reading能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第5章」	
第12回 Session 12	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(4)Writing能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第6章」	
第13回 Session 13	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(5)4技能総合的能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第7章」	
第14回 Session 14	模擬授業or授業DVD視聴による授業研究(6)4技能総合的能力育成のための言語活動を取り入れた授業「第7章」	
	授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	シラバスに示している次時の授業で扱う教科書の章を読み、重要と思われる点を挙げておく。また、疑問点や気になる点があれば挙げておく。発表する模擬授業に関して与えられたテーマや課題に対する事前の準備をしておく。テーマに応じた題材、教材・教具をリサーチしリハールをして準備を整えておく。 オンライン授業はすべて「LUNA」を通して行います。
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名: 米山朝治二 タイトル:『英語教育:実践から理論へ』 発行所: 松柏社 出版年: 2014 ISBN: 978-4-7754-0010-4 著者名: 立花千尋、その他 タイトル: 文部科学省検定済教科書 中学校外国語科用「BLUE SKY English course1,2,3」 発行所: 啓林館 出版年: 2021 ISBN: 978-4-402-01830-6 C4382, 978-4-402-01832-0 C4382
教科書 Required texts	『英語教育:実践から理論へ』 文部科学省検定済教科書 中学校外国語科用「BLUE SKY English course1,2,3」啓林館
参考文献・資料 Reference books	『中学校学習指導要領解説:外国語(英語)編』 『高等学校学習指導要領解説:外国語(英語)編』 『英語科教育実習ハンドブック』(大修館書店)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.	
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	オンラインによる試験	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	オンラインによるレポート	
添付ファイル1/File Attachment 1	英語科教育法B(1)PDF.pdf		説明1/Explanation 1	第1回 オリエンテーション用資料PDF添付
添付ファイル3/File Attachment 3	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説.pdf		説明3/Explanation 3	新学習指導要領中学校、2021年度よりスタート
添付ファイル4/File Attachment 4	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説.pdf		説明4/Explanation 4	新学習指導要領高等学校2022年度よりスタート
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 16時50分08秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜4時限	秋学期／Fall	教室未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48019001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法C 1／Methods of Teaching English C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	大喜多 喜夫(OKITA YOSHIO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	Grammar Translation Method (GTM) における reading 指導と作文指導の特徴を認識し、さらにその発展的させたりリーディング活動とライティング活動を理解し、実際の教育現場に反映できるようにする。また、語彙指導の基本を理解するとともに、アクティブラーニングを取り入れる具体的な方法についても理解する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the importance of communicative language learning (CLL), choice of teaching materials in CLL through mock classes, and the application of the materials to a real teaching situation.		
到達目標/Learning Goals	多様なリーディング活動とクリエイティブ・ライティングの指導のありかたを理解し、これを実際に教室内で反映するための必要な教材の選択について、理解できるようになる。また、アクティブ・ラーニングを英語教育の中で取り入れるための具体的な指導方法について理解できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will understand practical knowledge of approaches to enhance CLL, better choice of teaching materials in the process in mock classes, and applicable teaching ways to activate students classroom participation.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業授業で実施する。教材や課題などについては、LUNA で指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中で指示する)。		
関連科目/Related Courses	「英語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	GTM におけるリーディング活動について(p.47～p.48)「オンライン受講生対象」オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降 zoom による同時配信」で対応する予定。3回目までは、オンデマンドで対応する。詳細は https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196035_1&cmp_tab_id=_232075_1&editMode=true&mode=cpview を確認のこと。	
第2回 Session 2	Bottom-up reading と top-down reading と interactive reading について:理論と実践 (p.48～51)	
第3回 Session 3	The three-stage reading と rapid reading について:理論と実践 (p.52～p.56)	
第4回 Session 4	Skimming としての intra-paragraph reading について:理論と実践 (p.56～p.60)	
第5回 Session 5	Skimming としての inter-paragraph reading について: 理論と実践 (p.60～p.62)	
第6回 Session 6	Scanning について:理論と実践、及び skimming と scanning の違いについて (p.60～p.62)	
第7回 Session 7	Composition と communicative writing の違い (p.63～p.64)	
第8回 Session 8	Composition から writing への移行課題例(1): active vocabulary を目指して (p.65～p.68)	
第9回 Session 9	Composition から writing への移行課題例(2): free writing を目指す試み (p.71～p.73)	
第10回 Session 10	語彙の学習の方法とその実践例	
第11回 Session 11	Vocabulary games の効用 (p.115～p.119)	
第12回 Session 12	Vocabulary games の実際と作成 (p.116～p.119)	
第13回 Session 13	Classroom dynamics (1): Teacher talk の効果と実際 (p.130～137)	
第14回 Session 14	Classroom dynamics (2): Pair-work, group-work の効果と実際 (p.138～141)	

授業外学習 Study Required outside Class	使用するテキスト及び配布資料の指定個所を注意深く読み、課題に取り組んでください。
---------------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名:大喜多喜夫 タイトル:To Learn How to Teach English 発行所:関西学院大学出版会 出版年:2020 ISBN:978-4-86283-207-8-C3082
教科書 Required texts	『To Learn How to Teach English』大喜多喜夫(2020) 関西学院大学出版会
参考文献・資料 Reference books	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 『英語教員のための授業活動とその分析』大喜多喜夫(2004)(昭和堂)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	100%	定期試験
	備考 Note		
	定期試験を予定しているが、今後、変更の可能性はある。オンライン授業受講生については、別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196035_1&cmp_tab_id=_232075_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 11時37分03秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	B－102

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48019002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法C 2／Methods of Teaching English C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	澤田 和哉(SAWADA KAZUYA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	英語／English		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	中学校及び高等学校における4領域の指導方法について、テキストを通じて理解を深めお互いの実践する模擬授業を評価しあって実践的な能力を高める。		
授業目的(英文) Course Purpose	Students are to learn how to teach English in junior and senior high school by reading the textbook as well as giving a short lesson in front of the class and exchanging ideas as to how to improve their own lessons.		
到達目標/Learning Goals	4技能の言語活動指導に実体験を通じて習熟する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students are expected to learn four skills of English, listening, speaking , reading, and writing through hands-on activities.		
授業の概要・背景 Course Outline	履修者はtextの概説を聞き与えられた授業の内容に基づき、授業体験、模擬授業をすることで、授業の実践力を習得する。		
授業方法 Course Format	Various examples in the textbook are demonstrated and students are to give a short lesson regarding one area or two as they the textbook. Zoomによる双方向型オンライン授業と模擬授業の発表。参加できない場合はオンデマンド授業の配信を見ること。Lunaに提示した課題をこなすこと。		
関連科目/Related Courses	「英語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	課題、評価についての説明。当面LUNAでの課題提出が評価の中心となる。模擬授業をzoomで行う予定日を指定するので都合の悪い人は申し出ること。accessができない人のために第1回～3回はon demand での配信も行う。	Lunaに提示した課題。
第2回 Session 2	Zoomでテキストに従ってスピーキング・リスニングの指導法について概説する。on demand での配信も行う。	
第3回 Session 3	リスニング(bottom-upな側面)の指導に関する模擬授業とその批評。on demand での配信も行う。	
第4回 Session 4	リスニング(top-downな側面)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第5回 Session 5	スピーキング(closed-ended taskを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第6回 Session 6	スピーキング(open-ended taskを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	Lunaに提示した課題。
第7回 Session 7	テキストに従ってリーディング、ライティングの指導法について概説する。	
第8回 Session 8	リーディング(精読)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第9回 Session 9	リーディング(速読)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第10回 Session 10	ライティング(closed-ended taskを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第11回 Session 11	ライティング(open-ended t発音の諸相に関する概説と発音指導の実例の紹介。askを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	Lunaに提示した課題。
第12回 Session 12	発音の諸相に関する概説と発音指導の実例の紹介。	
第13回 Session 13	発音指導模擬授業とその批評。	Lunaに提示した課題。
第14回 Session 14	語彙の指導に関する理論背景の概説と語彙指導の実例の紹介。	

授業計画 Overview for each class	期限までに提出した課題のフィードバックを個人に送り、全体の講評は期限の翌週に口頭で行う。
授業外学習 Study Required outside Class	テキストの該当箇所を精読してくること。

教科書/Required texts	著者名:大喜多嘉夫 タイトル:To Learn How to Teach English 発行所:Kwainsei Gakuin University Press 出版年: ISBN: 978-4-86283-207-8
参考文献・資料 Reference books	大喜多嘉夫『英語教員のための授業活動とその分析』(昭和堂)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	
	その他／Others(99)	20%	模擬授業と授業への参加度等
備考 Note	科目のホームページ– (kwansei.ac.jp)		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_176947_1&cmp_tab_id=_205814_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 14時32分26秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜2時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48019003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法C 3／Methods of Teaching English C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	大喜多 喜夫(OKITA YOSHIO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	Grammar Translation Method (GTM) における reading 指導と作文指導の特徴を認識し、さらにその発展的させたりリーディング活動とライティング活動を理解し、実際の教育現場に反映できるようにする。また、語彙指導の基本を理解するとともに、アクティブラーニングを取り入れる具体的な方法についても理解する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the importance of communicative language learning (CLL), choice of teaching materials in CLL through mock classes, and the application of the materials to a real teaching situation.		
到達目標/Learning Goals	多様なリーディング活動とクリエイティブ・ライティングの指導のありかたを理解し、これを実際に教室内で反映するための必要な教材の選択について、理解できるようになる。また、アクティブ・ラーニングを英語教育の中で取り入れるための具体的な指導方法について理解できるようになる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will understand practical knowledge of approaches to enhance CLL, better choice of teaching materials in the process in mock classes, and applicable teaching ways to activate students classroom participation.		
授業方法 Course Format	対面で行う		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	GTM におけるリーディング活動について(p.47-p.48)	
第2回 Session 2	Bottom-up reading と top-down reading と interactive reading について:理論と実践 (p.48-51)	
第3回 Session 3	The three-stage reading と rapid reading について:理論と実践 (p.52-p.56)	
第4回 Session 4	Skimming としての intra-paragraph reading について:理論と実践 (p.56-p.60)	
第5回 Session 5	Skimming としての inter-paragraph reading について: 理論と実践 (p.60-p.62)	
第6回 Session 6	Scanning について:理論と実践、及び skimming と scanning の違いについて (p.60-p.62)	
第7回 Session 7	Composition と communicative writing の違い (p.63-p.64)	
第8回 Session 8	Composition から writing への移行課題例(1): active vocabulary を目指して (p.65-p.68)	
第9回 Session 9	Composition から writing への移行課題例(2): free writing を目指す試み (p.71-p.73)	
第10回 Session 10	語彙の学習の方法とその実践例	
第11回 Session 11	Vocabulary games の効用 (p.115-p.119)	
第12回 Session 12	Vocabulary games の実際と作成 (p.116-p.119)	
第13回 Session 13	Classroom dynamics (1): Teacher talk の効果と実際 (p.130-137)	
第14回 Session 14	Classroom dynamics (2): Pair-work, group-work の効果と実際 (p.138-141)	

授業外学習 Study Required outside Class	使用するテキスト及び配布資料の指定箇所を注意深く読み、課題に取り組んでください。
---------------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名:大喜多喜夫 タイトル:To Learn How to Teach English 発行所:関西学院大学出版会 出版年:2020 ISBN:978-4-86283-207-8-C3082
教科書 Required texts	『To Learn How to Teach English』大喜多喜夫 (2020) 関西学院大学出版会
参考文献・資料 Reference books	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 『英語教員のための授業活動とその分析』大喜多喜夫(2004)(昭和堂)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	平常レポートとQUIZ
更新日時/Date of Update	2021年02月24日 10時39分16秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	G－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48019004	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法C 4/Methods of Teaching English C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	澤田 和哉(SAWADA KAZUYA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	英語/English		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	中学校及び高等学校における4領域の指導方法について、テキストを通じて理解を深めお互いの実践する模擬授業を評価しあって実践的な能力を高める。		
授業目的(英文) Course Purpose	Students are to learn how to teach English in junior and senior high school by reading the textbook as well as giving a short lesson in front of the class and exchanging ideas as to how to improve their own lessons.		
到達目標/Learning Goals	4技能の言語活動指導に実体験を通じて習熟する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students are expected to learn four skills of English, listening, speaking , reading, and writing through hands-on activities.		
授業の概要・背景 Course Outline	履修者はtextの概説を聞き与えられた授業の内容に基づき、授業体験、模擬授業をすることで、授業の実践力を習得する。		
授業方法 Course Format	Various examples in the textbook are demonstrated and students are to give a short lesson regarding one area or two as they the textbook. Zoomによるオンライン授業とオンデマンド授業配信(第1～3回)、プレゼンテーション発表。		
関連科目/Related Courses	「英語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	課題、評価についての説明。当面LUNAでの課題提出が評価の中心となる。模擬授業をzoomで行う予定日を指定するので都合の悪い人は申し出ること。オンデマンド授業配信も第1～3回は行う。	Lunaに提示した課題提出。
第2回 Session 2	Zoomでテキストに従ってスピーキング・リスニングの指導法について概説する。	
第3回 Session 3	リスニング(bottom-upな側面)の指導に関する模擬授業とその批評。課題のフィードバック。	
第4回 Session 4	リスニング(top-downな側面)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第5回 Session 5	スピーキング(closed-ended taskを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第6回 Session 6	スピーキング(open-ended taskを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	Lunaに提示した課題提出。
第7回 Session 7	テキストに従ってリーディング、ライティングの指導法について概説する。課題のフィードバック。	
第8回 Session 8	リーディング(精読)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第9回 Session 9	リーディング(速読)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第10回 Session 10	ライティング(closed-ended taskを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	
第11回 Session 11	ライティング(open-ended taskを中心とする)の指導に関する概説と発音指導の実例の紹介。askを中心とする)の指導に関する模擬授業とその批評。	Lunaに提示した課題提出。
第12回 Session 12	発音の諸相に関する概説と発音指導の実例の紹介。課題のフィードバック。	
第13回 Session 13	発音指導模擬授業とその批評。	Lunaに提示した課題提出。
第14回 Session 14	語彙の指導に関する理論背景の概説と語彙指導の実例の紹介。課題のフィードバック。	

授業外学習 Study Required outside Class	テキストの該当箇所を精読してくること。
---------------------------------------	---------------------

教科書/Required texts	著者名:大喜多嘉夫 タイトル:To Learn How to Teach English 発行所:Kwainsei Gakuin University Press 出版年: ISBN: 978-4-86283-207-8
参考文献・資料 Reference books	大喜多嘉夫『英語教員のための授業活動とその分析』(昭和堂)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	
	その他／Others(99)	20%	模擬授業と授業への参加度等
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_193462_1&cmp_tab_id=_229502_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 14時32分43秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜2時限	春学期／Spring	教室未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48020001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法D 1／Methods of Teaching English D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	澤田 和哉(SAWADA KAZUYA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	英語／English		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	これまでの英語教育の理論の流れと言語習得理論を概観する。言語はどのように習得されるか、またどのように教えられてきたかということについての基本的な知識を得る。さらに実際の研究実践記録を読み効果的な指導法を探る。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to overview the theories concerning English education and how language is acquired. Students will acquire basic knowledge about how language is acquired and how it has been taught. Furthermore, they are expected to learn about effective methods through documents that recorded various kinds of instruction.		
到達目標/Learning Goals	現在の言語習得理論、効果的教授法に関する基本知識の習得。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will learn about current language learning principles as well as basic ideas concerning teaching methodologies.		
授業方法 Course Format	オンデマンド配信の解説でヒントを得てテキストを読み、重要かつ基本的な内容に関する設問に答えて提出する形式で行う。提出期限翌日時間割で指定された時間帯に音声入りで解答解説を配信する。(文章だけでなく音声入り指導法のプレゼンテーション等も提出させる。)		
関連科目/Related Courses	「英語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	コース概略。英語教育の常識、流れについての概説。	章ごとにLUNAで指示された課題を章ごとに提出。
第2回 Session 2	第1章 Language Learning in early childhood(1) 括弧内は読むべき章の番号	
第3回 Session 3	behaviorists, innativistsの第一言語習得観(1)	
第4回 Session 4	第2章 Second language 誤答分析等learningL1の影響について考察する 年齢と習得の関係 (2)	
第5回 Session 5	communicative competenceとpragmatics等の習得について(2)	
第6回 Session 6	第3章 L2学習に関わる資質の個人差、学習スタイルと言語習得との関係 (3)	
第7回 Session 7	L2学習を始める年齢と指導法との関係、how to motivate in class等(3)	
第8回 Session 8	第4章 L2学習の言語観:behaviorist' view(4)	
第9回 Session 9	KrashenのMonitor Modelからinteraction等cognitivists' view(4)	
第10回 Session 10	第5章 授業観察:natural approachの実例観察記録(5)	
第11回 Session 11	form focused instruction の実例観察(5)文法の指導法プレゼンテーションについて。	
第12回 Session 12	頻出する誤りの処理方法(5)	
第13回 Session 13	第6章:proposal for teaching(6)grammar plus communication, input flood 等の再考、それぞれの指導法の効果の検証等。	
第14回 Session 14	第7章 Popular ideas about language learning	

授業計画 Overview for each class	期限までに提出した課題のフィードバックを個人に送り、提出期限翌日時間割で指定された時間帯に音声入りで解答解説を配信する。
授業外学習 Study Required outside Class	テキストで次の時間に解説する箇所を精読した上で概要を掴み設問に答えて提出すること。文法の指導法等のプレゼンテーション提出。

教科書/Required texts	著者名:Patsy M. Lightbown & Nina Spada(4th edition) タイトル:How Languages are Learned 発行所:Oxford 出版年:2017 ISBN:9780194541268
参考文献・資料 Reference books	大喜多喜夫『英語教員のための応用言語学』(昭和堂, 2000) 大喜多喜夫 To Learn How to Teach English (KG Press,2015)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	100%	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_184181_1&cmp_tab_id=_213048_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 14時32分59秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜4時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48020002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法D 2／Methods of Teaching English D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	澤田 和哉(SAWADA KAZUYA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	英語／English		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	これまでの英語教育の理論の流れと言語習得理論を概観する。言語はどのように習得されるか、またどのように教えられてきたかということについての基本的な知識を得る。さらに実際の実践記録を読み効果的な指導法を探る。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to overview the theories concerning English education and how language is acquired. Students will acquire basic knowledge about how language is acquired and how it has been taught. Furthermore, they are expected to learn about effective methods through documents that recorded various kinds of instruction.		
到達目標/Learning Goals	現在の言語習得理論、教授法に関する基本知識の習得。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will learn about current language learning principles as well as basic teaching methodologies.		
授業方法 Course Format	オンデマンド配信でヒントを得てテキストを読み、重要かつ基本的な内容に関する設問に答えて提出する形式で行う。提出期限の翌日音声付きの解答解説配信。(音声入り文法の指導法のプレゼンテーション等も提出。)		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	コース概略。英語教育の流れについての概説。	LUNAで指示された課題を章ごとに提出。
第2回 Session 2	第1章 Language Learning in early childhood(1) 括弧内は読むべき章の番号	
第3回 Session 3	behaviorists, innativistsの第一言語習得観(1)	
第4回 Session 4	第2章 Second language 誤答分析等 L1の影響について考察する 年齢と習得の関係 (2)	
第5回 Session 5	pragmatics等の指導、習得について (2)	
第6回 Session 6	第3章 L2学習に関わる資質の個人差、学習スタイル (3)	
第7回 Session 7	L2学習を始める年齢と指導法との関係、how to motivate in class等(3)	
第8回 Session 8	第4章 L2学習の言語観:behaviorists' view(4)	
第9回 Session 9	KrashenのMonitor Modelからinteraction等cognitivists' view(4)	
第10回 Session 10	第5章 授業観察:natural approach観察(5)	
第11回 Session 11	form focused instruction 観察(5)文法の指導法プレゼンテーションについて。	
第12回 Session 12	頻出する誤りの様々な処理方法検討(5)	
第13回 Session 13	第6章:proposal for teaching(6)grammar plus communication, input flood 等の再考、効果の検証。	
第14回 Session 14	第7章 Popular ideas about language learning(7)	

授業計画 Overview for each class	期限までに提出した課題のフィードバックを個人に送り、提出期限翌日時間割で指定された時間帯に音声入りで解答解説を配信する。
授業外学習 Study Required outside Class	テキストで次の時間に解説する箇所を精読した上で概要を掴み、設問に答えLUNAで提出すること。文法の指導法のプレゼンテーション等も提出。

教科書/Required texts	著者名:Patsy M. Lightbown & Nina Spada(4th edition) タイトル:How Languages are Learned 発行所:Oxford 出版年:2017 ISBN:9780194541268
参考文献・資料 Reference books	大喜多喜夫『英語教員のための応用言語学』(昭和堂, 2000)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	100%	
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 16時02分24秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜2時限	秋学期／Fall	G－209

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48020003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法D 3／Methods of Teaching English D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	澤田 和哉(SAWADA KAZUYA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	英語／English		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	これまでの英語教育の理論の流れと言語習得理論を概観する。言語はどのように習得されるか、またどのように教えられてきたかということについての基本的な知識を得る。さらに実際の実践記録を読み効果的な指導法を探る。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to overview the theories concerning English education and how language is acquired. Students will acquire basic knowledge about how language is acquired and how it has been taught. Furthermore, they are expected to learn about effective methods through documents that recorded various kinds of instruction.		
到達目標/Learning Goals	現在の言語習得理論、教授法に関する基本知識の習得。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will learn about current language learning principles as well as basic teaching methodologies.		
授業方法 Course Format	オンデマンド配信でヒントを得てテキストを読み、重要かつ基本的な内容に関する設問に答えて提出する形式で行う。提出期限の翌日音声付解答解説の配信をする。(音声入り文法の指導法のプレゼンテーションも提出。)		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	コース概略。英語教育の流れについての概説。	LUNAで指示された課題を章ごとに提出。
第2回 Session 2	第1章 Language Learning in early childhood(1) 括弧内は読むべき章の番号	
第3回 Session 3	behaviorists, innativistsの第一言語習得観(1)	
第4回 Session 4	第2章 Second language 誤答分析等learningL1の影響について考察する 年齢と習得の関係 (2)	
第5回 Session 5	pragmatics等の習得について (2)	
第6回 Session 6	第3章 L2学習に関わる資質の個人差、学習スタイル (3)	
第7回 Session 7	L2学習を始める年齢と指導法との関係、how to motivate in class等(3)	
第8回 Session 8	第4章L2学習の言語観:behaviorists' and nativists' view(4)	
第9回 Session 9	KrashenのMonitor Modelからinteraction等cognitivists' view(4)	
第10回 Session 10	第5章授業観察:natural approach観察(5)	
第11回 Session 11	form focused instruction 観察(5)文法の指導法プレゼンテーションについて。	
第12回 Session 12	頻出する誤りの様々な処理方法(5)	
第13回 Session 13	第6章:proposal for teaching(6)grammar plus communication, input flood 等の再考、効果の検証。	
第14回 Session 14	第7章 Popular ideas about language learning	

授業計画 Overview for each class	期限までに提出した課題のフィードバックを個人に送り、提出期限翌日時間割で指定された時間帯に音声入りで解答解説を配信する。
授業外学習 Study Required outside Class	テキストで次の時間に解説する箇所を精読した上で概要を掴み設問に答え、LUNAで提出すること。文法の指導法のプレゼンテーション等も提出。

教科書/Required texts	著者名:Patsy M. Lightbown & Nina Spada(4th edition) タイトル:How Languages are Learned 発行所:Oxford 出版年:2017 ISBN:9780194541268
参考文献・資料 Reference books	大喜多喜夫『英語教員のための応用言語学』(昭和堂, 2000)

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	100%	
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 16時04分54秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜4時限	秋学期／Fall	G－209

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48020004	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】英語科教育法D 4/Methods of Teaching English D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、第二言語習得に関する理論を学習し、それらを日本の英語教育に応用する能力を身につけることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn second language acquisition theories and apply them to English language teaching in Japan.		
到達目標/Learning Goals	1. 第二言語習得に関する理論を理解することができる。 2. 第二言語習得に関する理論を日本の英語教育に応用することができる。 3. 英語教育研究法の基本的事項を理解することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to understand second language acquisition theories. 2. Students will be able to apply second language acquisition theories to English language teaching in Japan. 3. Students will be able to understand the basic research methods of English language teaching.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業では、第二言語習得に関する基礎的・基本的な内容を幅広く学び、その内容に基づいて効果的な英語指導が実践できる能力を身につけてください。また、音声指導の方法や指導による効果の評価方法などについても理解を深めてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回のテーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:文法指導の変遷	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.3～12を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:目標項目を目立たせよう(インプット強化)	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.13～26を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:目標項目の処理を手助けしよう(処理指導)	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.27～44を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:話す活動と文法指導(フィードバック)	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.45～62を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:ライティングのフィードバック効果	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.63～74を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:タスクの効果的活用法	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.75～88を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:ペア・グループワークの活用	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.89～105を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:発音指導	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.106～123を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:語彙指導	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.124～140を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:語用論指導	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.141～157を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:個人差とコンテキスト	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.158～168を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:指導の評価(スキル学習理論の観点から)	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.169～183を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:フォーカス・オン・フォームの指導	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp.184～189を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:鈴木 渉 タイトル:実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導 発行所:大修館書店 出版年:2017 ISBN:9784469246117
教科書 Required texts	文部科学省「小学校・中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」
参考書/Reference books	著者名:Bill VanPatten タイトル:Key questions in second language acquisition: An introduction 発行所:Cambridge University Press 出版年:2019 ISBN:9781108708173
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆館出版販売 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 英語編」開隆堂出版 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編」開隆堂出版

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	50%	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
更新日時/Date of Update	2021年02月01日 10時19分47秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜2時限	秋学期／Fall	I-206

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48021000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】フランス語科教育法A／Methods of Teaching French A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	高橋 克欣(TAKAHASHI KATUYOSHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	主に中等教育機関でフランス語教育を実践するために必要な知識や技能を身につける。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand and acquire basic knowledge necessary for French language teaching (mainly in secondary education).		
到達目標/Learning Goals	学習指導要領における外国語教育に関する指針や第二言語習得に関するさまざまな理論を理解し、フランス語の運用能力を向上させるための効果的な学習活動を工夫し授業を組み立てることができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to understand the descriptions of Curriculum guidelines and the major concepts of Second Language Acquisition, to design appropriate learning activities and to create effective lesson plans for developing French language skills.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 4回目以降の授業では、授業担当者が基本的な概念等の解説を行った後、効果的な学習活動や授業計画の考え方について受講者間で議論を行う。また、受講者の実態に応じて適宜模擬授業活動を行うこともある。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「音声付きパワーポイントの配信」で対応する予定です。(3回目までは、すべての受講生に対してオンデマンドA型オンライン授業を実施します。詳細は、以下のLUNAの「科目のホームページ」を確認してください。URL: https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202469_1&cmp_tab_id=_238509_1&editMode=true&mode=cpview		
検索キーワード/Keywords	フランス語 外国語教育 授業活動		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	授業概要の説明;教科書や参考図書の紹介;授業担当者と受講者の自己紹介;「フランス語科教育法」とは？	復習(2時間)
第2回 Session 2	第二言語習得理論の変遷、各種外国語教育法の検討(1)	予習・復習(2時間)
第3回 Session 3	第二言語習得理論の変遷、各種外国語教育法の検討(2)	予習・復習(2時間)
第4回 Session 4	学習指導要領に基づく授業デザイン	予習・復習(2時間)
第5回 Session 5	中学校、高等学校におけるフランス語授業	予習・復習(2時間)
第6回 Session 6	コミュニケーション活動(1)	予習・復習(2時間)
第7回 Session 7	コミュニケーション活動(2)	予習・復習(2時間)
第8回 Session 8	発音学習(1)	予習・復習(2時間)
第9回 Session 9	発音学習(2)	予習・復習(2時間)
第10回 Session 10	文法学習(1)	予習・復習(2時間)
第11回 Session 11	文法学習(2)	予習・復習(2時間)
第12回 Session 12	聴解学習	予習・復習(2時間)
第13回 Session 13	読解学習	予習・復習(2時間)
第14回 Session 14	全体のまとめ(期末レポート作成)	予習・復習(2時間)

授業外学習 Study Required outside Class	模擬授業(数分程度)等の発表活動を行う場合には事前に予告しますので、じゅうぶんに準備をして発表に臨んでください。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著(2018)『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』大修館書店
参考文献・資料 Reference books	教科書以外の参考文献については、必要に応じて授業中に紹介します。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	授業中の学習活動および期末レポートの内容等を総合的に判断して評価を行う。 【オンライン受講生対象】毎回授業後に提出してもらう授業レポートおよび期末レポートの内容を総合的に判断して評価を行う。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202469_1&cmp_tab_id=_238509_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月21日 19時17分49秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48022000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】フランス語科教育法B／Methods of Teaching Frech B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	高橋 克欣(TAKAHASHI KATUYOSHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	フランス語科教育法Aで学習した内容をふまえ、主に中等教育機関でフランス語教育を実践するためのより高度な知識や技能を身につける。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand and acquire advanced knowledge necessary for French language teaching (mainly in secondary education).		
到達目標/Learning Goals	複言語主義・複文化主義の考え方を理解し、フランス語の運用能力を向上させるための効果的な学習活動を工夫し授業を組み立てることができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to understand the concepts of plurilingualism and pluriculturalism, to design appropriate learning activities and to create effective lesson plans for developing French language skills.		
授業方法 Course Format	毎回の授業では、受講者が順番に発表や演習を行った後、効果的な学習活動や授業計画の考え方について受講者間で議論を行う。また、受講者の実態に応じて適宜模擬授業活動を行うこともある。		
関連科目/Related Courses	フランス語科教育法A		
検索キーワード/Keywords	フランス語 外国語教育 授業活動		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	授業概要の説明;教科書や参考図書の紹介;授業担当者と受講者の自己紹介;「フランス語科教育法」とは？	復習(2時間)
第2回 Session 2	複言語主義・複文化主義と中学校、高等学校におけるフランス語教育(1)	予習・復習(2時間)
第3回 Session 3	複言語主義・複文化主義と中学校、高等学校におけるフランス語教育(2)	予習・復習(2時間)
第4回 Session 4	フランス語学習と動機づけ	予習・復習(2時間)
第5回 Session 5	フランス語学習と学習方略	予習・復習(2時間)
第6回 Session 6	学習活動と評価	予習・復習(2時間)
第7回 Session 7	フランス語学習と授業外活動	予習・復習(2時間)
第8回 Session 8	授業実践演習(1)	予習・復習(2時間)
第9回 Session 9	授業実践演習(2)	予習・復習(2時間)
第10回 Session 10	授業実践演習(3)	予習・復習(2時間)
第11回 Session 11	授業実践演習(4)	予習・復習(2時間)
第12回 Session 12	授業実践演習(5)	予習・復習(2時間)
第13回 Session 13	授業実践演習(6)	予習・復習(2時間)
第14回 Session 14	全体のまとめ(期末レポート作成)	予習・復習(2時間)

授業外学習 Study Required outside Class	発表や演習(10分程度)を行う場合には、事前に予告をしますので、授業前にきちんと準備をしておいてください。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著(2018)『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』大修館書店
参考文献・資料 Reference books	教科書以外の参考文献については、必要に応じて授業中に紹介します。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	授業中の学習活動、期末レポート等
更新日時/Date of Update	2021年01月25日 16時39分12秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48023000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】フランス語科教育法C／Methods of Teaching French C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	岩根 久(IWANE HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	フランス語教師として必要な力を身につけるために、外国語の習得・教育に関する理論から教育実践に及ぶ様々な問題について講義と討論を行なう。またフランス語を使用している人々の日常生活や風俗習慣など、多様なものの考え方や見方を理解し、言語と文化に対する学習者の関心を高めるための授業形態についても討論する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students acquire the ability to teach the French language.		
到達目標/Learning Goals	フランス語教育に携わるために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなどの能力・知識を身につけることを目指す。外国語習得のしくみと日仏語の構造に関する知識を深めて日本の学習者がぶつかる問題を理解し、フランス語運用能力を効果的に養成する授業のあり方を考える。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to acquire the ability to teach the French language.		
授業方法 Course Format	対面授業(教室はF号館303教室を予定)で行う。アクティブ・ラーニングを念頭に置き、特に学習者のモバイル端末を用いた学習支援法を検討する。フランス語学習支援にあたって、学習内容に従ってどのような様式が適切なのかを具体的に検討する。フランス語科教育法Cでは、特に語彙や文法習得支援について検討する。本年度は、原則として対面授業を行うが、状況によっては、同時双方型オンライン授業に切り替えることができるよう授業設計している。また、オンラインでどのように授業を実践するのかを学習する。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生は、授業にZoomで参加することも可能(ミーティングのID、パスワードはLUNAに記載する)。また、授業を録画し、オンデマンド配信する予定である。 【対面授業、オンライン受講者共通】 教材や課題等の指示は、LUNAに掲示する。		
関連科目/Related Courses	「フランス語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	フランス語学習支援 アクティブ・ラーニング		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	本授業の受講を希望する人、試しに覗いてみようと考えている人は、4月12日(月)にF号館303教室にて今学期の授業方針を説明しますので、気楽に参加してください。 第2回以降は、下記のトピックを中心に学習しますが、遠隔授業の方法についても学習します。遠隔授業で有用な様々なツール(Flipgrid, Google フォーム, Padlet, Kahoot!, BookWidgets, Edpuzzleなど)について紹介します。	LUNAの「教材・課題・テスト」を参照してください。
第2回 Session 2	アクティブラーニングについて	
第3回 Session 3	語彙習得、文法習得のためのプロセスの検討	
第4回 Session 4	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(発音と綴り字の関係)	
第5回 Session 5	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(人称代名詞と動詞)	
第6回 Session 6	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(名詞と形容詞)	
第7回 Session 7	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(数形容詞・数量の表現)	
第8回 Session 8	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(疑問詞・疑問文)	
第9回 Session 9	語彙学習について	
第10回 Session 10	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(動詞の時制:複合過去・半過去・大過去)	
第11回 Session 11	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(動詞の時制:単純未来・前未来)	
第12回 Session 12	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(中性代名詞・関係代名詞)	
第13回 Session 13	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(動詞の法:条件法)	
第14回 Session 14	文法学習についての教材と学習支援方法の検討(動詞の法:接続法)	
	学生による授業計画・授業デザインの発表と討論	

授業外学習 Study Required outside Class	LMS上に、必要な資料をアップロードしておくので、指示に従って参照すること。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	授業に必要な資料については、授業中に配布、あるいはLMSを通じて配布する。
参考文献・資料 Reference books	森朋子・溝上慎一編『アクティブラーニング型授業としての反転授業[理論編]』, ナカニシヤ出版, 2017年5月. 森朋子・溝上慎一編『アクティブラーニング型授業としての反転授業[実践編]』, ナカニシヤ出版, 2017年5月. その他の参考文献は授業中に指示、資料は授業中に配布、あるいはLMSを通じて配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	
	備考 Note 平常レポート(Ordinary paper) 各授業におけるプレゼンテーション(オンラインも含む)、提出物によって評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_199139_1&cmp_tab_id=_235179_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 19時15分57秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜2時限	春学期／Spring	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48024000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】フランス語科教育法D／Methods of Teaching Frech D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	岩根 久(IWANE HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	フランス語教師としての高度な力を身につけるために、外国語の習得・教育に関する理論から教育実践に及ぶ様々な問題についての理解を深化するための講義と多角的な討論を行なう。またフランス語を使用している人々の日常生活や風俗習慣など、多様なものの考え方や見方を深く理解し、言語と文化に対する学習者の関心を高めるための実践的な授業形態についても討論する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students acquire a higher level of ability to teach the French language.		
到達目標/Learning Goals	フランス語教育に携わるために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなど、より高度な能力・知識を身につけることを目指す。 外国語習得のしくみと日仏語の構造に関する知識をさらに身につけ、日本の学習者がぶつかる問題を深く理解した上で、フランス語運用能力を効果的に養成する授業のあり方を考えることができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to acquire a higher level of ability to teach the French language.		
授業方法 Course Format	アクティブ・ラーニングを念頭に置き、特に学習者のモバイル端末を用いた学習支援法を検討する。フランス語学習支援にあたって、学習内容に従ってどのような様式が適切なのかを具体的に検討する。フランス語科教育法Dでは、特にコミュニケーション能力のや読解能力の養成について検討する。本年度は、原則として対面授業を行うが、状況によっては、同時双方型オンライン授業に切り替えることができるよう授業設計している。また、オンラインでどのように授業を実践するのかを学習する。		
検索キーワード/Keywords	フランス語学習支援 アクティブ・ラーニング 遠隔授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今学期の授業方針を説明します。第2回以降は、下記のトピックを中心に学習しますが、遠隔授業の方法についても学習します。遠隔授業で有用な様々なツール(Flipgrid, Google フォーム, Padlet, Kahoot!, BookWidgets, Edpuzzleなど)について紹介します。	
第2回 Session 2	コミュニケーション能力や読解能力の養成のプロセスの検討(日常会話1)	
第3回 Session 3	コミュニケーション能力養成のための教材と学習支援方法の検討(日常会話2)	
第4回 Session 4	コミュニケーション能力養成のための教材と学習支援方法の検討(経験を語る1)	
第5回 Session 5	コミュニケーション能力養成のための教材と学習支援方法の検討(経験を語る2)	
第6回 Session 6	コミュニケーション能力養成のための教材と学習支援方法の検討(テキストについて語る1)	
第7回 Session 7	コミュニケーション能力養成のための教材と学習支援方法の検討(テキストについて語る2)	
第8回 Session 8	読解能力養成のための教材と学習支援方法の検討(簡単な読み物1)	
第9回 Session 9	読解能力養成のための教材と学習支援方法の検討(簡単な読み物1)	
第10回 Session 10	読解能力養成のための教材と学習支援方法の検討(時事問題1)	
第11回 Session 11	読解能力養成のための教材と学習支援方法の検討(時事問題2)	
第12回 Session 12	読解能力養成のための教材と学習支援方法の検討(文学テキスト1)	
第13回 Session 13	読解能力養成のための教材と学習支援方法の検討(文学テキスト2)	
第14回 Session 14	学生による授業計画・授業デザインの発表と討論	

授業計画 Overview for each class	LMS上に、必要な資料をアップロードしておくので、指示に従って参照すること。
授業外学習 Study Required outside Class	具体的な指示は授業中に行う

教科書 Required texts	授業に必要な資料については、授業中に配布、あるいはLMSを通じて配布する。
参考文献・資料 Reference books	森朋子・溝上慎一編『アクティブラーニング型授業としての反転授業[理論編]』, ナカニシヤ出版, 2017年5月. 森朋子・溝上慎一編『アクティブラーニング型授業としての反転授業[実践編]』, ナカニシヤ出版, 2017年5月. その他の参考文献は授業中に指示、資料は授業中に配布、あるいはLMSを通じて配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中にアンケートを行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	
	備考 Note 平常レポート(Ordinary paper) 授業におけるプレゼンテーション、提出物によって評価する。		
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 17時00分10秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜2時限	秋学期／Fall	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48025000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】ドイツ語科教育法A／Methods of Teaching German A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	西田 隆雄(NISHIDA TAKAO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	初学者がいかにか効果的かつ実質的にドイツ語を学べるか、その教育法の要点を理解し、実践に応用する力を養う。この授業ではドイツ語文法の基礎部分を扱う。わかりやすい授業をするためには、教える側の確実な豊富な知識が必要不可欠なので、これまでに受講生が得たドイツ語文法の知識をさらに詳しく深く掘り下げ、各自のドイツ語の力をより確実に豊かにすることを目指す。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the key points of teaching methods that ensure that beginners can learn German in an effective and substantive manner and to develop their abilities to apply them practically. Specifically, the basics of German grammar are covered in this course. To provide classes in a comprehensible manner, it is essential for the teacher to have rich and reliable knowledge. Accordingly, an aim of this course is to further explore the knowledge of German grammar obtained by students and steadily enrich their German language skills.		
到達目標/Learning Goals	初学者がいかにか効果的かつ実質的にドイツ語を学べるか、その教育法の要点を理解し、実践に応用する力を養う。この授業ではドイツ語文法の基礎部分を扱う。わかりやすい授業をするためには、教える側の確実な豊富な知識が必要不可欠なので、これまでに受講生が得たドイツ語文法の知識をさらに詳しく深く掘り下げ、各自のドイツ語の力をより確実に豊かにすることを目指す。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will understand the key points of teaching methods that ensure that beginners can learn German in an effective and substantive manner and develop their abilities to apply them practically. Specifically, students will learn about the basics of German grammar in this course. To provide classes in a comprehensible manner, it is essential for the teacher to have rich and reliable knowledge. Accordingly, students will further explore the knowledge of German grammar they have obtained and steadily enrich their German language skills.		
授業方法 Course Format	大学教室における対面授業を実施する。しかし第1回から3回目の授業は、「対面授業」「Zoomによるリアルタイム型オンライン授業」「オンデマンド型オンライン授業A型」の3通りの方法で実施する。受講生は、対面授業に出席するのが望ましいが、他の2つの授業形態で授業に参加することも可能である。後者の場合は、 ishiya53@gmail.com (西田隆雄)までご連絡ください。第4回目以降は、対面授業のみ実施する。なお大学学部から、基礎疾患等の理由でオンライン授業への参加が認められている受講生は、全学期期間、Zoomによるリアルタイム型オンライン授業に参加することができる。		
	講義形式とワークショップ形式で授業を進めていく。学期中、1回20分程度の模擬授業を各受講生が担当する。		
	本授業のLUNA科目ホームページは、4月中はゲストにも一般公開されている。履修登録完了前の時点において誰でも見ることができる。履修希望者は、「お知らせ」と「教材・課題・テスト」を随時、チェックしてください。		
	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195927_1&cmp_tab_id=_231967_1&editMode=true&mode=cpview		
検索キーワード/Keywords	中等教育におけるドイツ語 第二外国語 第三外国語 外国語教育 異文化理解 ヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	第1回目授業のテーマ「ドイツ語の知識がゼロである中高校生に、ドイツ語授業第1日目にどんな内容の授業をするか？」 受講生はまず、このテーマについてグループ作業を行なう。その後、上記のテーマについての受講生の発表とディスカッションを行なう。 受講生各自が最初に学んだドイツ語授業で使用した教科書を持参すること。	各自が最初に学んだドイツ語教科書に目を通しておくこと。 課題作成
第2回 Session 2	前回の授業にもとづいて、授業時間内で「ドイツ語授業第1回目用教材」を作成する。教材作成の過程で、名詞の文法的性の説明方法と人称代名詞の導入方法について考える。	課題作成
第3回 Session 3	格機能を導入せずに文の構造を説明する方法。動詞の現在人称変化の導入方法。	課題作成
第4回 Session 4	4格の導入の仕方	課題作成
第5回 Session 5	文における1・3・4格の機能と動詞との関係。動詞の結合価をどのように教科書中で分りやすく導入するか？ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR(「セファール」と読む)との関連における格機能の扱い方。	課題作成
第6回 Session 6	2格の導入方法と教材の作成。また、教科書中でいつ2格を導入すべきかについて考える。(中高生のドイツ語授業では、通常、2格は取り上げられていない)	課題作成
第7回 Session 7	現在時制の機能について。ドイツ語と日本語の現在時制の違いは何か？普遍言語の観点からみた時制について。	課題作成
第8回 Session 8	名詞について。単数が複数か？また冠詞に関しては、定冠詞か不定冠詞かゼロ冠詞か？冠詞をもたない日本語の話者にとって、最も苦手の文法について考える。	課題作成
第9回 Session 9	ドイツ語に4つしかない格を補う前置詞の役割	課題作成
第10回 Session 10	会話教材・練習問題の作成方法1	課題作成
第11回 Session 11	会話教材・練習問題の作成方法2	課題作成
第12回	模擬授業1(日程の変更があり得る)	課題作成

Session 12		
第13回 Session 13	模擬授業2(日程の変更があり得る)	課題作成
第14回 Session 14	今学期のまとめとレポートについて。	課題作成

学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	学期末のアンケート
---	-----------

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	課題レポート
	備考 Note 基礎疾患等の理由による配慮学生も、他の受講生と同様に「平常レポート100%」で成績評価する。		
備考 Note	本授業のLUNA科目ホームページは、4月中はゲストにも一般公開されている。履修登録完了前の時点において誰でも見ることができる。履修希望者は、「お知らせ」と「教材・課題・テスト」を随時、チェックしてください。 https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195927_1&cmp_tab_id=_231967_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 08時31分32秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜3時限	春学期／Spring	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48026000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】ドイツ語科教育法B／Methods of Teaching German B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	西田 隆雄(NISHIDA TAKAO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	初学者がいかにか効果的かつ実質的にドイツ語を学べるか、その教育法の要点を理解し、実践に応用する力を養う。この授業ではドイツ語文法の基礎部分を扱う。わかりやすい授業をするためには、教える側の確実な豊富な知識が必要不可欠なので、これまでに受講生が得たドイツ語文法の知識をさらに詳しく深く掘り下げ、各自のドイツ語の力をより確実に豊かにすることを目指す。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the key points of teaching methods that ensure that beginners can learn German in an effective and substantive manner and to develop their abilities to apply them practically. Specifically, the basics of German grammar are covered in this course. To provide classes in a comprehensible manner, it is essential for the teacher to have rich and reliable knowledge. Accordingly, an aim of this course is to further explore the knowledge of German grammar obtained by students and steadily enrich their German language skills.		
到達目標/Learning Goals	初学者がいかにか効果的かつ実質的にドイツ語を学べるか、その教育法の要点を理解し、実践に応用する力を養う。この授業ではドイツ語文法の基礎部分を扱う。わかりやすい授業をするためには、教える側の確実な豊富な知識が必要不可欠なので、これまでに受講生が得たドイツ語文法の知識をさらに詳しく深く掘り下げ、各自のドイツ語の力をより確実に豊かにすることを目指す。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will understand the key points of teaching methods that ensure that beginners can learn German in an effective and substantive manner and develop their abilities to apply them practically. Specifically, students will learn about the basics of German grammar in this course. To provide classes in a comprehensible manner, it is essential for the teacher to have rich and reliable knowledge. Accordingly, students will further explore the knowledge of German grammar they have obtained and steadily enrich their German language skills.		
授業方法 Course Format	大学教室における対面授業を実施する。講義形式とワークショップ形式で授業を進めていく。学期中に一回、20分程度の模擬授業を各受講生が担当する。		
検索キーワード/Keywords	中等教育におけるドイツ語 第二外国語 第三外国語 外国語教育 異文化理解 ヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	分離動詞と話法の助動詞の導入方法。	課題作成
第2回 Session 2	現在完了は、「過去」か「完了」か？このテーマについての受講生はグループ作業をする。その後、クラスでディスカッションを行なう。	課題作成
第3回 Session 3	現在完了の教材をグループで作成する。	課題作成
第4回 Session 4	現在完了と過去をどのように扱うか？	課題作成
第5回 Session 5	複合文の導入の仕方。日付の導入方法と序数。	課題作成
第6回 Session 6	時を意味する名詞につける前置詞の導入方法。時を意味する4格名詞の導入方法。	課題作成
第7回 Session 7	場所を意味する名詞につける3格の前置詞と4格の前置詞、さらに前置詞 ZUの導入方法。	課題作成
第8回 Session 8	形容詞の修飾語的用法の導入方法。形容詞の比較級と最上級の導入方法。	課題作成
第9回 Session 9	ランデスクンデの扱い方とその教材。	課題作成
第10回 Session 10	指示代名詞と不定代名詞の導入方法。	課題作成
第11回 Session 11	再帰代名詞と再帰動詞の導入方法。	課題作成
第12回 Session 12	接続法をめぐる日本語とドイツ語の違いについて。	課題作成
第13回 Session 13	書き取りの練習方法について。ヒアリングの練習方法について。	課題作成
第14回 Session 14	今学期のまとめ。課題レポートについて。	課題作成

授業計画 Overview for each class	模擬授業を適当な時期に実施する。
---------------------------------	------------------

学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	学期末のアンケート		
成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	100%	課題レポート
更新日時/Date of Update	2021年03月04日 16時56分23秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜3時限	秋学期／Fall	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48027000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】ドイツ語科教育法C／Methods of Teaching German C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	藤原 三枝子(FUJIWARA MIEKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業の目的は、学生が外国語教育の動向を理解し、外国語を学ぶということの意味、効果的な授業方法を理解する能力を身につけることを目的としています。 ★ドイツ語教員免許取得希望者だけでなく、言葉を学ぶことや教えることに関心のある人に受講を勧めます。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the ability to understand the trends of foreign language education, the significance of learning foreign languages, and methods of teaching them effectively. In addition to students aiming to acquire a German language teacher's license, students interested in learning and teaching foreign languages are encouraged to participate in this course.		
到達目標/Learning Goals	次の点を授業の目標として設定しています。 ・ドイツ語の聞く・話す・読む・書くの言語スキルを効果的に教えることができる。 ・ドイツ語の授業について独力で授業案を作成することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) teach effectively German language skills, including listening, speaking, reading, and writing, b) independently design lesson plans for German classes.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 教師の説明だけでなく、受講者がこれまでの学習経験を振り返りながら、外国語学習のよりよい環境や授業方法を皆で考えながら授業を進めていく。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応します。LUNAに資料を掲載していますので確認してください。掲載場所:シラバス付加情報のURLリンク1(LUNAドイツ語科教育法)		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	授業計画(教案)、外国語教育の動向、学習観、ヨーロッパ言語共通参照枠		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。 導入:自分の外国語学習観および多様な学習観を知る 何のために外国語・ドイツ語を学ぶのか	
第2回 Session 2	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。 ドイツ語でのコミュニケーション能力をどう育成するか:教材分析	
第3回 Session 3	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。 外国語(ドイツ語)能力の客観的な指標:国内の基準と国際的な基準(国内の検定試験)	
第4回 Session 4	対面で実施の予定。 外国語(ドイツ語)能力の客観的な指標:国内の基準と国際的な基準(国際的な検定試験)	
第5回 Session 5	対面で実施の予定。 学習意欲を高めるための学習環境:教育心理学の観点から コミュニケーション能力を養成するための授業形態:一斉授業・ペアワーク・グループワーク	
第6回 Session 6	対面で実施の予定。 ヒアリング・スピーキング能力の養成	
第7回 Session 7	対面で実施の予定。 ライティング能力の養成:(一貫性と結束性)としての文章の組み立て リーディング能力の養成とその指導	
第8回 Session 8	対面で実施の予定。 授業案作成の際の要点(対象者、授業の目的、授業方法:学習者の活動と教師行動、教材、授業形態)	
第9回 Session 9	対面で実施の予定。 授業案の作成と模擬授業	
第10回 Session 10	対面で実施の予定。 最近の言語教育の動向:ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR・複言語能力と複文化能力	
第11回 Session 11	対面で実施の予定。 学習者の積極的な授業参加を促すために:プロジェクト授業	
第12回 Session 12	対面で実施の予定。 授業観察(ビデオを使用) 学習者の活動と教師の役割りを考える	
第13回 Session 13	対面で実施の予定。 言語と社会の関係を授業でどのように扱うか	
第14回 Session 14	対面で実施の予定。 まとめ:教師に求められる能力	

授業外学習 Study Required outside Class	各回のテーマについて、関連の資料を読んだり自分で調べて授業に臨む。
---------------------------------------	-----------------------------------

教科書 Required texts	授業中に適宜、資料を配布する
参考書/Reference books	著者名:市川伸一 タイトル:学ぶ意欲の心理学 発行所:PHP研究所 出版年:2001 ISBN: 著者名:Council of Europe. タイトル:Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment. 発行所:Cambridge, UK: Cambridge University Press 出版年:2001 ISBN: 著者名:吉島茂他(訳・編) タイトル:外国語教育Ⅱー外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠 発行所:朝日出版社 出版年:2004 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所:東山書房 出版年:2011 ISBN:

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	授業への積極的参加と課題
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_192571_1&cmp_tab_id=_228611_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月15日 07時49分01秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜4時限	春学期／Spring	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48028000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】ドイツ語科教育法D／Methods of Teaching German D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	金城 朱美(KANESHIRO AKEMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	初学者がいかに効果的かつ実質的にドイツ語を学べるか、その教育法の要点を理解し、実践に応用する力を養う。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the key points of teaching methods that ensure that beginners can learn German in an effective and substantive manner and to develop their abilities to apply them practically.		
到達目標/Learning Goals	この授業ではドイツ語中級文法も理解できることを目標とする。わかりやすい授業をするためには、教える側の確実な豊富な知識が必要不可欠なので、これまでに受講生が得たドイツ語文法の知識やさらに詳しく深く掘り下げ、各自のドイツ語力をより確実に豊かにすることを目指す。ドイツ文化などさらに深く理解し、その知識を授業で使えるようにすることを目指す。		
到達目標(英文) Learning Goals	Specifically, students will learn about the middle of German grammar in this course. To provide classes in a comprehensible manner, it is essential for the teacher to have rich and reliable knowledge. Accordingly, students will further explore the knowledge of German grammar they have obtained and steadily enrich their German language skills. Students understand enrich German culture etc. and can use their knowledge in lesson.		
授業方法 Course Format	講義と実践(学生が模擬授業を行う)。対面授業。 Lessons and trial lesson by students		
検索キーワード/Keywords	ドイツ語 外国語教育 異文化理解		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション 基礎文法の復習	1. ドイツ語で自己紹介の文章を作成し、LUNAで提出する(メールアドレスはLUNAの課題に明記しています) 2. 苦手な文法項目を1の自己紹介の文章にも書き、復習しておくこと。
第2回 Session 2	教材研究(今まで使ってきたドイツ語教科書を持参し、分析する) 基礎文法の復習	1. 今まで使用したドイツ語教科書を用意し、一冊ずつ使ってみた感想(良い点・悪い点・改良点など)を書き出し、教員に前日までにメールで提出。 2. 文法問題を解き次週の授業までに。LUNA経由、あるいはメールで教員に授業の前日に提出
第3回 Session 3	教科書分析	1. 新しい教科書を見て、どういう印象を持ったのか書く。 2. 授業前にドイツ語の授業で大事なことは何か考えて書き出しておく。
第4回 Session 4	分析内容の発表、ドイツ語練習問題	
第5回 Session 5	ドイツ語教育の実情、中学校・高等学校学習指導要領について解説	
第6回 Session 6	民間伝承(グリム童話、現代伝説)を取り入れたドイツ語授業について	
第7回 Session 7	ドイツ語教材とランデスクンデについて(1) 教科書 1.Die geteilte Suppe, 2. Die Handbremse	
第8回 Session 8	ドイツ語教材とランデスクンデについて(2) 教科書 5. Zweierlei Passa. 6. Dreimal geblitzt	
第9回 Session 9	ドイツ語教材とランデスクンデについて(3) 教科書 7. Die Katze im Fluggepäck, 8. Wo Bruno nach seinem Tod hinkam	
第10回 Session 10	ドイツ語教材とランデスクンデについて(4) 教科書 10. Geburtstagsüberraschung	
第11回 Session 11	模擬授業(1)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)、まとめ	

授業計画 Overview for each class	対面授業。第12回～第14回は受講者に模擬授業を行ってもらう。履修者数により、授業内容に変更が生じることもある。
授業外学習 Study Required outside Class	随時、初級文法の復習をしておくこと。また毎回課題を出すので授業前に取り組んでくること。授業内容を復習すること。文法書を活用すること。 質問事項があればakemi.kaneshiro@kwansei.ac.jpで受け付けます。次回授業までに回答します(一部、授業のフィードバックとして資料として使わせてもらうこともあります)。

教科書/Required texts	著者名:三瓶慎一 タイトル:ホントにあったウソみたいな話 ドイツ語総合力養成ゼミ 発行所:白水社 出版年:2002 ISBN:9784560013779
教科書 Required texts	三瓶慎一『ホントにあったウソみたいな話 ドイツ語総合力養成ゼミ』白水社
参考書/Reference books	著者名:中島悠爾他 タイトル:改訂版必携ドイツ文法総まとめ 発行所:白水社 出版年:2003 ISBN:978-4-560-00492-0
参考文献・資料 Reference books	ランデСКンデなどに関する参考文献は随時授業中に紹介する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	学期末のアンケート

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	毎週の課題提出(50%)と模擬授業(50%教案提出ならびに事後反省レポートを含む)
	備考 Note 模擬授業(教案提出ならびに事後反省レポートを含む)50%、平常評価(授業への参加度、課題提出)50%		
更新日時/Date of Update	2021年01月25日 16時09分10秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜4時限	秋学期／Fall	F－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48029001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・地理歴史科教育法 1／Meth of Tch Social Stds Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	蔭木 原洋(KAGEKI MOTOHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、受講生が、(中学校・社会、高等学校・地理歴史の教員免許状取得のため)教科及び教科の指導法に関しての能力を身に着けることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire abilities regarding subjects and teaching methods (for obtaining a teacher's license for junior high school/social studies , high school/ geography history).		
到達目標/Learning Goals	・受講生が、中学校社会科における地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。 ・受講生が高等学校の地理歴史科の教科内容を学習指導要領や教科書・資料から理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	・Students will be able to understand the contents and learning methods of the geographical and historical fields in junior high school social studies and acquire practical teaching ability that allows lessons to be developed based on the learning guidance plan created by onself. ・Students will be able to understand the subject contents of the geography and history department of high school from the curriculum guidelines,textbooks and materials,and acquire practical leadership that allows lessons to be developed based on the curriculum guidelines created by onself.		
授業の概要・背景 Course Outline	新学習指導要領が目指す①基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得②「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成③主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成 以上3点を盛り込んだ模擬授業を、講師と受講生が協力して作り上げていきましょう。		
授業方法 Course Format	本授業は、初回から対面授業で行います。授業では第7回までは講義型を中心とするが、随時アクティブラーニング形式を取り入れる。第8回以降は、受講生による模擬授業の実習を中心に、実践力を養う。【オンライン受講対象者】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「Zoomによる同時配信」で対応する予定です。(3回目までもZoomによる同時配信で対応予定です。詳細は haz36030@kwansei.ac.jpまたは、motopi0611@yahoo.co.jp)		
関連科目/Related Courses	教科「公共」		
検索キーワード/Keywords	主体的・対話的で深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今、求められる教師とは－教育界の現状と課題	
第2回 Session 2	今、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として何をすべきか	
第3回 Session 3	教材編成・研究の実際 I 授業指導計画、学習指導案の作成、授業展開、教育評価	
第4回 Session 4	教材編成・研究の実際 II 中学校地理・歴史的分野	
第5回 Session 5	教材編成・研究の実際 III 高等学校－日本史	
第6回 Session 6	教材編成・研究の実際 IV 高等学校－世界史	
第7回 Session 7	教材編成・研究の実際 V 高等学校－地理	
第8回 Session 8	授業研究 I (情報機器・教材の活用方法、ICT教育など)	
第9回 Session 9	授業研究 II (受講生による模擬授業を中心に)	
第10回 Session 10	授業研究 III (受講生による模擬授業を中心に)	
第11回 Session 11	授業研究 IV (受講生による模擬授業を中心に)	
第12回 Session 12	授業研究 V (受講生による模擬授業を中心に)	
第13回 Session 13	授業研究 VI (受講生による模擬授業を中心に)	
第14回 Session 14	授業研究 VII (テスト問題の作成と評価の方法)	
第15回 Session 15	授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	受講者は、自分の授業研究(模擬授業)に向けて、当該箇所の参考書を読み、資料研究を行っておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	授業中の配布するレジュメを使用する。
参考文献・資料 Reference books	東井義雄『一日一言』 森信三『修身教授録・一日一言』 兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本『世界と日本』

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	その他／Others(99)	50%	模擬授業の実践と取り組み姿勢
	備考 Note 【オンライン受講生対象】レポート(50%)と模擬授業の録画データ(50%)で評価する。		
更新日時/Date of Update	2021年03月20日 12時17分27秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜3時限	春学期／Spring	G－IS206

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48029002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・地理歴史科教育法 2／Meth of Tch Social Stds Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	蔭木 原洋(KAGEKI MOTOHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、受講生が、(中学校・社会、高等学校・地理歴史の教員免許状取得のため)教科及び教科の指導法に関しての能力を身に着けることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire abilities regarding subjects and teaching methods (for obtaining a teacher's license for junior high school/social studies , high school/ geography history) .		
到達目標/Learning Goals	・受講生が、中学校社会科における地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。 ・受講生が高等学校の地理歴史科の教科内容を学習指導要領や教科書・資料から理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	・Students will be able to understand the contents and learning methods of the geographical and historical fields in junior high school social studies and acquire practical teaching ability that allows lessons to be developed based on the learning guidance plan created by onself. ・Students will be able to understand the subject contents of the geography and history department of high school from the curriculum guidelines,textbooks and materials,and acquire practical leadership that allows lessons to be developed based on the curriculum guidelines created by onself.		
授業の概要・背景 Course Outline	新学習指導要領が目指す①基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得②「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成③主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成 以上3点を盛り込んだ模擬授業を、講師と受講生が協力して作り上げていきましょう。		
授業方法 Course Format	本授業は、初回から対面授業で行います。授業では第7回までは講義型を中心とするが、随時アクティブラーニング形式を取り入れる。第8回以降は、受講生による模擬授業の実習を中心に、実践力を養う。【オンライン受講対象者】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「Zoomによる同時配信」で対応する予定です。(3回目までもZoomによる同時配信で対応予定です。詳細は haz36030@kwansei.ac.jpまたは、motopi0611@yahoo.co.jp)		
関連科目/Related Courses	教科「公共」		
検索キーワード/Keywords	主体的・対話的で深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今、求められる教師とは－教育界の現状と課題	
第2回 Session 2	今、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として何をすべきか	
第3回 Session 3	教材編成・研究の実際 I 授業指導計画、学習指導案の作成、授業展開、教育評価	
第4回 Session 4	教材編成・研究の実際 II 中学校地理・歴史的分野	
第5回 Session 5	教材編成・研究の実際 III 高等学校－日本史	
第6回 Session 6	教材編成・研究の実際 IV 高等学校－世界史	
第7回 Session 7	教材編成・研究の実際 V 高等学校－地理	
第8回 Session 8	授業研究 I (情報機器・教材の活用方法、ICT教育など)	
第9回 Session 9	授業研究 II (受講生による模擬授業を中心に)	
第10回 Session 10	授業研究 III (受講生による模擬授業を中心に)	
第11回 Session 11	授業研究 IV (受講生による模擬授業を中心に)	
第12回 Session 12	授業研究 V (受講生による模擬授業を中心に)	
第13回 Session 13	授業研究 VI (受講生による模擬授業を中心に)	
第14回 Session 14	授業研究 VII (テスト問題の作成と評価の方法)	
第15回 Session 15	授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	受講者は、自分の授業研究(模擬授業)に向けて、当該箇所の参考書を読み、資料研究を行っておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	授業中の配布するレジュメを使用する。
参考文献・資料 Reference books	東井義雄『一日一言』 森信三『修身教授録・一日一言』 兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本『世界と日本』

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	その他／Others(99)	50%	模擬授業の実践と取り組み姿勢
	備考 Note 【オンライン受講生対象】レポート(50%)と模擬授業の録画データ(50%)で評価する。		
更新日時/Date of Update	2021年03月20日 12時22分47秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜4時限	春学期／Spring	G－IS207

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48029003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・地理歴史科教育法 3／Meth of Tch Social Stds Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	蔭木 原洋(KAGEKI MOTOHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、受講生が、(中学校・社会、高等学校・地理歴史の教員免許状取得のため)教科及び教科の指導法に関しての能力を身に着けることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire abilities regarding subjects and teaching methods (for obtaining a teacher's license for junior high school/social studies , high school/ geography history).		
到達目標/Learning Goals	・受講生が、中学校社会科における地理的分野・歴史的分野の内容及学習方法を理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。 ・受講生が高等学校の地理歴史科の教科内容を学習指導要領や教科書・資料から理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	・Students will be able to understand the contents and learning methods of the geographical and historical fields in junior high school social studies and acquire practical teaching ability that allows lessons to be developed based on the learning guidance plan created by onself. ・Students will be able to understand the subject contents of the geography and history department of high school from the curriculum guidelines,textbooks and materials,and acquire practical leadership that allows lessons to be developed based on the curriculum guidelines created by onself.		
授業の概要・背景 Course Outline	新学習指導要領が目指す①基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得②「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成③主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成 以上3点を盛り込んだ模擬授業を、講師と受講生が協力して作り上げていきましょう。		
授業方法 Course Format	本授業では第7回までは講義型を中心とするが、随時アクティブラーニング形式を取り入れる。第8回以降は、受講生による模擬授業の実習を中心に、実践力を養う。		
関連科目/Related Courses	教科「公共」		
検索キーワード/Keywords	主体的・対話的で深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今、求められる教師とはー教育界の現状と課題	
第2回 Session 2	今、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として何をすべきか	
第3回 Session 3	教材編成・研究の実際 I 授業指導計画、学習指導案の作成、授業展開、教育評価	
第4回 Session 4	教材編成・研究の実際 II 中学校地理・歴史的分野	
第5回 Session 5	教材編成・研究の実際 III 高等学校ー日本史	
第6回 Session 6	教材編成・研究の実際 IV 高等学校ー世界史	
第7回 Session 7	教材編成・研究の実際 V 高等学校ー地理	
第8回 Session 8	授業研究 I (情報機器・教材の活用方法、ICT教育など)	
第9回 Session 9	授業研究 II (受講生による模擬授業を中心に)	
第10回 Session 10	授業研究 III (受講生による模擬授業を中心に)	
第11回 Session 11	授業研究 IV (受講生による模擬授業を中心に)	
第12回 Session 12	授業研究 V (受講生による模擬授業を中心に)	
第13回 Session 13	授業研究 VI (受講生による模擬授業を中心に)	
第14回 Session 14	授業研究 VII (テスト問題の作成と評価の方法)	
第15回 Session 15	授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	受講者は、自分の授業研究(模擬授業)に向けて、当該箇所の参考書を読み、資料研究を行っておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	授業中の配布するレジュメを使用する。
参考文献・資料 Reference books	東井義雄『一日一言』 森信三『修身教授録・一日一言』 兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本『世界と日本』

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるリポート／ Term paper to replace the final examination(02)	50%	
	その他／Others(99)	50%	模擬授業の実践と取り組み姿勢
更新日時/Date of Update		2021年01月26日 23時02分34秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜3時限	秋学期／Fall	院－205

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48029004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・地理歴史科教育法 4／Meth of Tch Social Stds Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	蔭木 原洋(KAGEKI MOTOHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、受講生が、(中学校・社会、高等学校・地理歴史の教員免許状取得のため)教科及び教科の指導法に関しての能力を身に着けることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire abilities regarding subjects and teaching methods (for obtaining a teacher's license for junior high school/social studies , high school/ geography history).		
到達目標/Learning Goals	・受講生が、中学校社会科における地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。 ・受講生が高等学校の地理歴史科の教科内容を学習指導要領や教科書・資料から理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	・Students will be able to understand the contents and learning methods of the geographical and historical fields in junior high school social studies and acquire practical teaching ability that allows lessons to be developed based on the learning guidance plan created by onself. ・Students will be able to understand the subject contents of the geography and history department of high school from the curriculum guidelines,textbooks and materials,and acquire practical leadership that allows lessons to be developed based on the curriculum guidelines created by onself.		
授業の概要・背景 Course Outline	新学習指導要領が目指す①基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得②「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成③主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成 以上3点を盛り込んだ模擬授業を、講師と受講生が協力して作り上げていきましょう。		
授業方法 Course Format	本授業では第7回までは講義型を中心とするが、随時アクティブラーニング形式を取り入れる。第8回以降は、受講生による模擬授業の実習を中心に、実践力を養う。		
関連科目/Related Courses	教科「公共」		
検索キーワード/Keywords	主体的・対話的で深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今、求められる教師とはー教育界の現状と課題	
第2回 Session 2	今、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として何をすべきか	
第3回 Session 3	教材編成・研究の実際 I 授業指導計画、学習指導案の作成、授業展開、教育評価	
第4回 Session 4	教材編成・研究の実際 II 中学校地理・歴史的分野	
第5回 Session 5	教材編成・研究の実際 III 高等学校ー日本史	
第6回 Session 6	教材編成・研究の実際 IV 高等学校ー世界史	
第7回 Session 7	教材編成・研究の実際 V 高等学校ー地理	
第8回 Session 8	授業研究 I (情報機器・教材の活用方法、ICT教育など)	
第9回 Session 9	授業研究 II (受講生による模擬授業を中心に)	
第10回 Session 10	授業研究 III (受講生による模擬授業を中心に)	
第11回 Session 11	授業研究 IV (受講生による模擬授業を中心に)	
第12回 Session 12	授業研究 V (受講生による模擬授業を中心に)	
第13回 Session 13	授業研究 VI (受講生による模擬授業を中心に)	
第14回 Session 14	授業研究 VII (テスト問題の作成と評価の方法)	
第15回 Session 15	授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	受講者は、自分の授業研究(模擬授業)に向けて、当該箇所の参考書を読み、資料研究を行っておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	授業中の配布するレジュメを使用する。
参考文献・資料 Reference books	東井義雄『一日一言』 森信三『修身教授録・一日一言』 兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本『世界と日本』

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるリポート／ Term paper to replace the final examination(02)	50%	
	その他／Others(99)	50%	模擬授業の実践と取り組み姿勢
更新日時/Date of Update		2021年01月26日 23時04分04秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜4時限	秋学期／Fall	院－205

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48029005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・地理歴史科教育法 5／Meth of Tch Social Stds Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	蔭木 原洋(KAGEKI MOTOHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、受講生が、(中学校・社会、高等学校・地理歴史の教員免許状取得のため)教科及び教科の指導法に関しての能力を身に着けることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire abilities regarding subjects and teaching methods (for obtaining a teacher's license for junior high school/social studies , high school/ geography history).		
到達目標/Learning Goals	・受講生が、中学校社会科における地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。 ・受講生が高等学校の地理歴史科の教科内容を学習指導要領や教科書・資料から理解し、自ら作成した学習指導案によって授業が展開できる実践的指導力を身に着けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	・Students will be able to understand the contents and learning methods of the geographical and historical fields in junior high school social studies and acquire practical teaching ability that allows lessons to be developed based on the learning guidance plan created by onself. ・Students will be able to understand the subject contents of the geography and history department of high school from the curriculum guidelines,textbooks and materials,and acquire practical leadership that allows lessons to be developed based on the curriculum guidelines created by onself.		
授業の概要・背景 Course Outline	新学習指導要領が目指す①基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得②「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成③主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成 以上3点を盛り込んだ模擬授業を、講師と受講生が協力して作り上げていきましょう。		
授業方法 Course Format	本授業では第7回までは講義型を中心とするが、随時アクティブラーニング形式を取り入れる。第8回以降は、受講生による模擬授業の実習を中心に、実践力を養う。		
関連科目/Related Courses	教科「公共」		
検索キーワード/Keywords	主体的・対話的で深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	今、求められる教師とはー教育界の現状と課題	
第2回 Session 2	今、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として何をすべきか	
第3回 Session 3	教材編成・研究の実際 I 授業指導計画、学習指導案の作成、授業展開、教育評価	
第4回 Session 4	教材編成・研究の実際 II 中学校地理・歴史的分野	
第5回 Session 5	教材編成・研究の実際 III 高等学校ー日本史	
第6回 Session 6	教材編成・研究の実際 IV 高等学校ー世界史	
第7回 Session 7	教材編成・研究の実際 V 高等学校ー地理	
第8回 Session 8	授業研究 I (情報機器・教材の活用方法、ICT教育など)	
第9回 Session 9	授業研究 II (受講生による模擬授業を中心に)	
第10回 Session 10	授業研究 III (受講生による模擬授業を中心に)	
第11回 Session 11	授業研究 IV (受講生による模擬授業を中心に)	
第12回 Session 12	授業研究 V (受講生による模擬授業を中心に)	
第13回 Session 13	授業研究 VI (受講生による模擬授業を中心に)	
第14回 Session 14	授業研究 VII (テスト問題の作成と評価の方法)	
第15回 Session 15	授業中試験	

授業外学習 Study Required outside Class	受講者は、自分の授業研究(模擬授業)に向けて、当該箇所の参考書を読み、資料研究を行っておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	授業中の配布するレジュメを使用する。
参考文献・資料 Reference books	東井義雄『一日一言』 森信三『修身教授録・一日一言』 兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本『世界と日本』

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるリポート／ Term paper to replace the final examination(02)	50%	
	その他／Others(99)	50%	模擬授業の実践と取り組み姿勢
更新日時/Date of Update		2021年01月26日 23時05分25秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜4時限	秋学期／Fall	I－105

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48030001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・公民科教育法 1／Meth of Tch Social Stds & Civcs		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	倉橋 忠(KURAHASHI TADASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業は、受講生が、中学校社会科公民的分野を指導するために必要な知識と技能を習得し、実践的指導力を獲得することを目的に行います。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the knowledge and skills necessary to teach the civics field of social studies in junior high school and gain practical leadership skills.		
到達目標/Learning Goals	(1)受講生は、中学校社会科公民的分野の内容を理解し、指導計画及び学習指導案を作成することができる。 (2)受講生は、評価方法について理解し、学習指導案と評価問題を作成することができる。 (3)受講生は、自ら作成した学習指導案によって模擬授業を行うことができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to (1) understand the contents of the civics field of social studies in junior high school and prepare lesson plans and teaching plans, (2) understand the evaluation methods and create teaching plans and evaluation test questions, (3) conduct simulated lessons with the teaching plans they create.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業は、具体的な目標として、「思考力・判断力・表現力」を育成するための「学習指導案」・「板書計画」・「パフォーマンス課題」を、受講生が作成することができるようになることをすすめています。 そのために、教育方法的な理論と具体的な実践事例の両側面から学びます。主な学習内容は、社会科の歴史、学習指導要領の趣旨、教育目標と教材の関係、目標に準拠した評価の方法、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、授業設計の方法などです。 また、公民的分野の授業実践事例を通して、多様な生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するための、発問の仕方や教材開発の方法、学習集団の育成法、ICTなど教育機器の活用方法について学びます。 さらに、本授業では、受講生全員に模擬授業を実演してもらいます。模擬授業後には、授業担当者(倉橋)による講評及び、受講生同士による相互評価を行う場面を設定して、学習指導案の完成度を高めたり、授業実践力を培えるようにします。		
授業方法 Course Format	この授業は、オンデマンドA型オンライン授業(時間割設定あり・一部対面授業を含む)で行います。終盤の授業(10回～14回)を対面授業で行います。 授業動画のURLとレジュメや資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」に、授業実施日の3日前までにアップロードします。 初回から中盤の授業(1回～9回)までは、オンデマンドA型オンライン授業で、授業動画とレジュメ等を使って講義と演習を行います。終盤の授業(10回～14回)は対面授業で行い、受講生による模擬授業を軸とする演習中心に行います。10回目の授業で、模擬授業を行う上での留意点の説明と発表順等を決定します。 毎回の授業で「時間外の学習課題」を出題します。「時間外の学習課題」の提出方法は、LUNAの掲示板の「フォーラム」を活用します。授業担当者は授業日から5日以内の「フォーラムへの書き込み」に対してコメントを返します。そのことで、受講生同士や授業担当者との「意見交換」を行います。 なお、今後の新型コロナウィルスの感染状況によっては、終盤に予定している模擬授業もZOOMを使用して行うかも知れません(同時双方向型授業)。ZOOMで模擬授業を実施する際には、参加出来るかどうかを受講生に希望調査を行います。ZOOMによる模擬授業実施の場合は、中盤以降の授業の、授業時間帯に30分～40分程度の「意見交換」(「ZOOM対談」と略す)の場面を設けます。ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談は参加希望者のみで行います。その際には、ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談に参加しないことを成績評価上で不利に扱うことはしません。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会・地理歴史科教育法、地理歴史教育法		
検索キーワード/Keywords	公民的分野 学習指導案 指導案の書き方 指導計画 板書 教材 発問 模擬授業 思考力 判断力 表現力 目標準拠評価 評価基準 パフォーマンス課題アクティブ・ラーニング 主体的・対話的な深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	社会科教育の課題	【オンデマンドA型オンライン授業】 授業動画のURLとレジュメや資料等は、授業実施日の3日前までにLUNAで配布します。科目のホームページは「URLリンク欄」を確認して下さい。 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:「社会科の授業に関する意識調査」に回答し提出すること。回答の提出方法・期限は授業内で指示する。
第2回 Session 2	社会科の歴史と教育関係法令及び学習指導要領	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:社会科の歴史を踏まえ、改定学習指導要領の特徴と「自分の社会科の授業に対するイメージ」との異同について整理すること。
第3回 Session 3	社会科・公民的分野の特質と道徳教育及び総合的な学習の時間	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:改訂学習指導要領の社会科・公民的分野の教育目標と道徳教育及び総合的な学習の時間の異同を整理し、学習指導の実践的課題を予想すること。
	授業設計と学習指導案の書き方	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭

第4回 Session 4		に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学校の実際の年間行予定表を参考にして、公民的分野の年間指導計画を建ててみる。そのことから、感じ取れる1単位時間の授業の「分量」を自分の言葉でまとめてみる。
第5回 Session 5	事例研究(1)「公民」の学習指導と「目標標準評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業で紹介する「試験問題」を一つだけ取り上げて、「評価と授業の一体化」を実現するために必要なことを具体的に整理すること。
第6回 Session 6	事例研究(2)「主体的・対話的な深い学び」と「パフォーマンス評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 生徒の書いた「作文」を実際に採点して、「パフォーマンス評価」を具現化する際に必要なことを整理しておくこと。
第7回 Session 7	事例研究(3)「公民」の学習指導と教材・教具の活用方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 教育目標と教材づくりの関係を具体的な場面を想定して整理しておくこと。
第8回 Session 8	事例研究(4)「公民」の学習指導と授業のユニバーサル・デザイン化	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業のユニバーサル・デザイン化を実現する方法について整理しておくこと。
第9回 Session 9	事例研究(5)「公民」の学習指導を支える板書と発問の方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習内容を構造化した板書の実現方法について整理しておくこと。
第10回 Session 10	事例研究(6)「公民」の学習指導と学習集団の育成(模擬授業の計画を含む)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習集団の育成と「思考力・判断力・表現力」の関係性を具体的な場面で整理しておくこと。
第11回 Session 11	授業研究(1)「模擬授業」(「現代社会と文化」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「現代社会と文化」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第12回 Session 12	授業研究(2)「模擬授業」(「民主政治」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「民主政治」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第13回 Session 13	授業研究(3)「模擬授業」(「暮らしと経済」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「暮らしと経済」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第14回 Session 14	授業研究(4)「模擬授業」(「国際社会の諸課題」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「貧困問題」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。

教科書 Required texts	レジュメ及び参考資料等を配布します。レジュメや参考資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」にアップロードしますのでダウンロードして活用して下さい。
参考文献・資料 Reference books	(1)文部科学省『中学校学習指導要領』(最新版) (2)文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) (3)文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) (4)文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(最新版) (5)中学校・公民的分野の教科書(受講生の出身校で使用されているものが望ましい。母校の教科書が手に入らないときは、他社のものでも最新の教科書であれば可)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査、及び学期末に自作アンケートによる調査で授業評価を行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	「学習指導案」、「板書計画」及び「パフォーマンス課題」の作成と提出を求めます。	
	その他／Others(99)	20%	授業中に提示する「学習課題」への回答態度、及び「模擬授業」の完成度で評価します。	
	備考 Note 作品等の評価は、「成績評価のためのルーブリック」に基づき行います。授業中の課題に対する「意見」の評価基準は、意見を求められた課題の趣旨に沿う内容であることです。			
添付ファイル1/File Attachement 1	成績評価のためのルーブリック.pdf		説明1/Explanation 1	成績評価のためのルーブリック(評価基準)です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_191309_1&cmp_tab_id=_227349_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月09日 17時06分08秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜3時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48030002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・公民科教育法 2／Meth of Tch Social Stds & Civcs		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	倉橋 忠(KURAHASHI TADASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業は、受講生が、中学校社会科公民的分野を指導するために必要な知識と技能を習得し、実践的指導力を獲得することを目的に行います。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the knowledge and skills necessary to teach the civics field of social studies in junior high school and gain practical leadership skills.		
到達目標/Learning Goals	(1)受講生は、中学校社会科公民的分野の内容を理解し、指導計画及び学習指導案を作成することができる。 (2)受講生は、評価方法について理解し、学習指導案と評価問題を作成することができる。 (3)受講生は、自ら作成した学習指導案によって模擬授業を行うことができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to (1) understand the contents of the civics field of social studies in junior high school and prepare lesson plans and teaching plans, (2) understand the evaluation methods and create teaching plans and evaluation test questions, (3) conduct simulated lessons with the teaching plans they create.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業は、具体的な目標として、「思考力・判断力・表現力」を育成するための「学習指導案」・「板書計画」・「パフォーマンス課題」を、受講生が作成することができるようになることをすすめています。 そのために、教育方法的な理論と具体的な実践事例の両側面から学びます。主な学習内容は、社会科の歴史、学習指導要領の趣旨、教育目標と教材の関係、目標に準拠した評価の方法、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、授業設計の方法などです。 また、公民的分野の授業実践事例を通して、多様な生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するための、発問の仕方や教材開発の方法、学習集団の育成法、ICTなど教育機器の活用方法について学びます。 さらに、本授業では、受講生全員に模擬授業を実演してもらいます。模擬授業後には、授業担当者(倉橋)による講評及び、受講生同士による相互評価を行う場面を設定して、学習指導案の完成度を高めたり、授業実践力を培えるようにします。		
授業方法 Course Format	この授業は、オンデマンドA型オンライン授業(時間割設定あり・一部対面授業を含む)で行います。終盤の授業(10回～14回)を対面授業で行います。 授業動画のURLとレジュメや資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」に、授業実施日の3日前までにアップロードします。 初回から中盤の授業(1回～9回)までは、オンデマンドA型オンライン授業で、授業動画とレジュメ等を使って講義と演習を行います。終盤の授業(10回～14回)は対面授業で行い、受講生による模擬授業を軸とする演習中心に行います。10回目の授業で、模擬授業を行う上での留意点の説明と発表順等を決定します。 毎回の授業で「時間外の学習課題」を出題します。「時間外の学習課題」の提出方法は、LUNAの掲示板の「フォーラム」を活用します。授業担当者は授業日から5日以内の「フォーラムへの書き込み」に対してコメントを返します。そのことで、受講生同士や授業担当者との「意見交換」を行います。 なお、今後の新型コロナウィルスの感染状況によっては、終盤に予定している模擬授業もZOOMを使用して行うかも知れません(同時双方向型授業)。ZOOMで模擬授業を実施する際には、参加出来るかどうかを受講生に希望調査を行います。ZOOMによる模擬授業実施の場合は、中盤以降の授業の、授業時間帯に30分～40分程度の「意見交換」(「ZOOM対談」と略す)の場面を設けます。ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談は参加希望者のみで行います。その際には、ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談に参加しないことを成績評価上で不利に扱うことはしません。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会・地理歴史科教育法、地理歴史教育法		
検索キーワード/Keywords	公民的分野 学習指導案 指導案の書き方 指導計画 板書 教材 発問 模擬授業 思考力 判断力 表現力 目標準拠評価 評価基準 パフォーマンス課題アクティブ・ラーニング 主体的・対話的な深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	社会科教育の課題	【オンデマンドA型オンライン授業】 授業動画のURLとレジュメや資料等は、授業実施日の3日前までにLUNAで配布します。科目のホームページは「URLリンク欄」を確認して下さい。 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:「社会科の授業に関する意識調査」に回答し提出すること。回答の提出方法・期限は授業内で指示する。
第2回 Session 2	社会科の歴史と教育関係法令及び学習指導要領	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:社会科の歴史を踏まえ、改定学習指導要領の特徴と「自分の社会科の授業に対するイメージ」との異同について整理すること。
第3回 Session 3	社会科・公民的分野の特質と道徳教育及び総合的な学習の時間	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:改訂学習指導要領の社会科・公民的分野の教育目標と道徳教育及び総合的な学習の時間の異同を整理し、学習指導の実践的課題を予想すること。
	授業設計と学習指導案の書き方	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭

第4回 Session 4		に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学校の実際の年間行予定表を参考にして、公民的分野の年間指導計画を建ててみる。そのことから、感じ取れる1単位時間の授業の「分量」を自分の言葉でまとめてみる。
第5回 Session 5	事例研究(1)「公民」の学習指導と「目標標準評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業で紹介する「試験問題」を一つだけ取り上げて、「評価と授業の一体化」を実現するために必要なことを具体的に整理すること。
第6回 Session 6	事例研究(2)「主体的・対話的な深い学び」と「パフォーマンス評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 生徒の書いた「作文」を実際に採点して、「パフォーマンス評価」を具現化する際に必要なことを整理しておくこと。
第7回 Session 7	事例研究(3)「公民」の学習指導と教材・教具の活用方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 教育目標と教材づくりの関係を具体的な場面を想定して整理しておくこと。
第8回 Session 8	事例研究(4)「公民」の学習指導と授業のユニバーサル・デザイン化	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業のユニバーサル・デザイン化を実現する方法について整理しておくこと。
第9回 Session 9	事例研究(5)「公民」の学習指導を支える板書と発問の方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習内容を構造化した板書の実現方法について整理しておくこと。
第10回 Session 10	事例研究(6)「公民」の学習指導と学習集団の育成(模擬授業の計画を含む)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習集団の育成と「思考力・判断力・表現力」の関係性を具体的な場面で整理しておくこと。
第11回 Session 11	授業研究(1)「模擬授業」(「現代社会と文化」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「現代社会と文化」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第12回 Session 12	授業研究(2)「模擬授業」(「民主政治」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「民主政治」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第13回 Session 13	授業研究(3)「模擬授業」(「暮らしと経済」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「暮らしと経済」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第14回 Session 14	授業研究(4)「模擬授業」(「国際社会の諸課題」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「貧困問題」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。

教科書 Required texts	レジュメ及び参考資料等を配布します。レジュメや参考資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」にアップロードしますのでダウンロードして活用して下さい。
参考文献・資料 Reference books	(1)文部科学省『中学校学習指導要領』(最新版) (2)文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) (3)文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) (4)文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(最新版) (5)中学校・公民的分野の教科書(受講生の出身校で使用されているものが望ましい。母校の教科書が手に入らないときは、他社のものでも最新の教科書であれば可)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査、及び学期末に自作アンケートによる調査で授業評価を行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常レポート／Individual reports(04)	80%	「学習指導案」、「板書計画」及び「パフォーマンス課題」の作成と提出を求めます。	
	その他／Others(99)	20%	授業中に提示する「学習課題」への回答態度、及び「模擬授業」の完成度で評価します。	
	備考 Note 作品等の評価は、「成績評価のためのルーブリック」に基づき行います。授業中の課題に対する「意見」の評価基準は、意見を求められた課題の趣旨に沿う内容であることです。			
添付ファイル1/File Attachement 1	成績評価のためのルーブリック.pdf		説明1/Explanation 1	成績評価のためのルーブリック(評価基準)です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_201171_1&cmp_tab_id=_237211_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月09日 17時07分17秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜4時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48030003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・公民科教育法 3／Meth of Tch Social Stds & Civcs		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	倉橋 忠(KURAHASHI TADASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業は、受講生が、中学校社会科公民的分野を指導するために必要な知識と技能を習得し、実践的指導力を獲得することを目的に行います。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the knowledge and skills necessary to teach the civics field of social studies in junior high school and gain practical leadership skills.		
到達目標/Learning Goals	(1)受講生は、中学校社会科公民的分野の内容を理解し、指導計画及び学習指導案を作成することができる。 (2)受講生は、評価方法について理解し、学習指導案と評価問題を作成することができる。 (3)受講生は、自ら作成した学習指導案によって模擬授業を行うことができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to (1) understand the contents of the civics field of social studies in junior high school and prepare lesson plans and teaching plans, (2) understand the evaluation methods and create teaching plans and evaluation test questions, (3) conduct simulated lessons with the teaching plans they create.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業は、具体的な目標として、「思考力・判断力・表現力」を育成するための「学習指導案」・「板書計画」・「パフォーマンス課題」を、受講生が作成することができるようになることをすすめています。 そのために、教育方法的な理論と具体的な実践事例の両側面から学びます。主な学習内容は、社会科の歴史、学習指導要領の趣旨、教育目標と教材の関係、目標に準拠した評価の方法、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、授業設計の方法などです。 また、公民的分野の授業実践事例を通して、多様な生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するための、発問の仕方や教材開発の方法、学習集団の育成法、ICTなど教育機器の活用方法について学びます。 さらに、本授業では、受講生全員に模擬授業を実演してもらいます。模擬授業後には、授業担当者(倉橋)による講評及び、受講生同士による相互評価を行う場面を設定して、学習指導案の完成度を高めたり、授業実践力を培えるようにします。		
授業方法 Course Format	この授業は、オンデマンドA型オンライン授業(時間割設定あり・一部対面授業を含む)で行います。終盤の授業(10回～14回)を対面授業で行います。 授業動画のURLとレジュメや資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」に、授業実施日の3日前までにアップロードします。 初回から中盤の授業(1回～9回)までは、オンデマンドA型オンライン授業で、授業動画とレジュメ等を使って講義と演習を行います。終盤の授業(10回～14回)は対面授業で行い、受講生による模擬授業を軸とする演習中心に行います。10回目の授業で、模擬授業を行う上での留意点の説明と発表順等を決定します。 毎回の授業で「時間外の学習課題」を出題します。「時間外の学習課題」の提出方法は、LUNAの掲示板の「フォーラム」を活用します。授業担当者は授業日から5日以内の「フォーラムへの書き込み」に対してコメントを返します。そのことで、受講生同士や授業担当者との「意見交換」を行います。 なお、今後の新型コロナウィルスの感染状況によっては、終盤に予定している模擬授業もZOOMを使用して行うかも知れません(同時双方向型授業)。ZOOMで模擬授業を実施する際には、参加出来るかどうかを受講生に希望調査を行います。ZOOMによる模擬授業実施の場合は、中盤以降の授業の、授業時間帯に30分～40分程度の「意見交換」(「ZOOM対談」と略す)の場面を設けます。ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談は参加希望者のみで行います。その際には、ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談に参加しないことを成績評価上で不利に扱うことはしません。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会・地理歴史科教育法、地理歴史教育法		
検索キーワード/Keywords	公民的分野 学習指導案 指導案の書き方 指導計画 板書 教材 発問 模擬授業 思考力 判断力 表現力 目標準拠評価 評価基準 パフォーマンス課題アクティブ・ラーニング 主体的・対話的な深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	社会科教育の課題	【オンデマンドA型オンライン授業】 授業動画のURLとレジュメや資料等は、授業実施日の3日前までにLUNAで配布します。科目のホームページは「URLリンク欄」を確認して下さい。 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:「社会科の授業に関する意識調査」に回答し提出すること。回答の提出方法・期限は授業内で指示する。
第2回 Session 2	社会科の歴史と教育関係法令及び学習指導要領	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:社会科の歴史を踏まえ、改定学習指導要領の特徴と「自分の社会科の授業に対するイメージ」との異同について整理すること。
第3回 Session 3	社会科・公民的分野の特質と道徳教育及び総合的な学習の時間	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:改訂学習指導要領の社会科・公民的分野の教育目標と道徳教育及び総合的な学習の時間の異同を整理し、学習指導の実践的課題を予想すること。
	授業設計と学習指導案の書き方	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭

第4回 Session 4		に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学校の実際の年間行予定表を参考にして、公民的分野の年間指導計画を建ててみる。そのことから、感じ取れる1単位時間の授業の「分量」を自分の言葉でまとめてみる。
第5回 Session 5	事例研究(1)「公民」の学習指導と「目標標準評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業で紹介する「試験問題」を一つだけ取り上げて、「評価と授業の一体化」を実現するために必要なことを具体的に整理すること。
第6回 Session 6	事例研究(2)「主体的・対話的な深い学び」と「パフォーマンス評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 生徒の書いた「作文」を実際に採点して、「パフォーマンス評価」を具現化する際に必要なことを整理しておくこと。
第7回 Session 7	事例研究(3)「公民」の学習指導と教材・教具の活用方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 教育目標と教材づくりの関係を具体的な場面を想定して整理しておくこと。
第8回 Session 8	事例研究(4)「公民」の学習指導と授業のユニバーサル・デザイン化	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業のユニバーサル・デザイン化を実現する方法について整理しておくこと。
第9回 Session 9	事例研究(5)「公民」の学習指導を支える板書と発問の方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習内容を構造化した板書の実現方法について整理しておくこと。
第10回 Session 10	事例研究(6)「公民」の学習指導と学習集団の育成(模擬授業の計画を含む)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習集団の育成と「思考力・判断力・表現力」の関係性を具体的な場面で整理しておくこと。
第11回 Session 11	授業研究(1)「模擬授業」(「現代社会と文化」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「現代社会と文化」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第12回 Session 12	授業研究(2)「模擬授業」(「民主政治」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「民主政治」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第13回 Session 13	授業研究(3)「模擬授業」(「暮らしと経済」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「暮らしと経済」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第14回 Session 14	授業研究(4)「模擬授業」(「国際社会の諸課題」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「貧困問題」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。

教科書 Required texts	レジュメ及び参考資料等を配布します。レジュメや参考資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」にアップロードしますのでダウンロードして活用して下さい。
参考文献・資料 Reference books	(1)文部科学省『中学校学習指導要領』(最新版) (2)文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) (3)文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) (4)文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(最新版) (5)中学校・公民的分野の教科書(受講生の出身校で使用されているものが望ましい。母校の教科書が手に入らないときは、他社のものでも最新の教科書であれば可)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査、及び学期末に自作アンケートによる調査で授業評価を行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	「学習指導案」、「板書計画」及び「パフォーマンス課題」の作成と提出を求めます。	
	その他／Others(99)	20%	授業中に提示する「学習課題」への回答態度、及び「模擬授業」の完成度で評価します。	
	備考 Note 作品等の評価は、「成績評価のためのルーブリック」に基づき行います。授業中の課題に対する「意見」の評価基準は、意見を求められた課題の趣旨に沿う内容であることです。			
添付ファイル1/File Attachement 1	成績評価のためのルーブリック.pdf		説明1/Explanation 1	成績評価のためのルーブリック(評価基準)です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195022_1&cmp_tab_id=_231062_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月09日 17時08分32秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜1時限	秋学期／Fall	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48030004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・公民科教育法 4／Meth of Tch Social Stds & Civcs		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	倉橋 忠(KURAHASHI TADASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業は、受講生が、中学校社会科公民的分野を指導するために必要な知識と技能を習得し、実践的指導力を獲得することを目的に行います。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the knowledge and skills necessary to teach the civics field of social studies in junior high school and gain practical leadership skills.		
到達目標/Learning Goals	(1)受講生は、中学校社会科公民的分野の内容を理解し、指導計画及び学習指導案を作成することができる。 (2)受講生は、評価方法について理解し、学習指導案と評価問題を作成することができる。 (3)受講生は、自ら作成した学習指導案によって模擬授業を行うことができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to (1) understand the contents of the civics field of social studies in junior high school and prepare lesson plans and teaching plans, (2) understand the evaluation methods and create teaching plans and evaluation test questions, (3) conduct simulated lessons with the teaching plans they create.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業は、具体的な目標として、「思考力・判断力・表現力」を育成するための「学習指導案」・「板書計画」・「パフォーマンス課題」を、受講生が作成することができるようになることをすすめています。 そのために、教育方法的な理論と具体的な実践事例の両側面から学びます。主な学習内容は、社会科の歴史、学習指導要領の趣旨、教育目標と教材の関係、目標に準拠した評価の方法、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、授業設計の方法などです。 また、公民的分野の授業実践事例を通して、多様な生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するための、発問の仕方や教材開発の方法、学習集団の育成法、ICTなど教育機器の活用方法について学びます。 さらに、本授業では、受講生全員に模擬授業を実演してもらいます。模擬授業後には、授業担当者(倉橋)による講評及び、受講生同士による相互評価を行う場面を設定して、学習指導案の完成度を高めたり、授業実践力を培えるようにします。		
授業方法 Course Format	この授業は、オンデマンドA型オンライン授業(時間割設定あり・一部対面授業を含む)で行います。終盤の授業(10回～14回)を対面授業で行います。 授業動画のURLとレジュメや資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」に、授業実施日の3日前までにアップロードします。 初回から中盤の授業(1回～9回)までは、オンデマンドA型オンライン授業で、授業動画とレジュメ等を使って講義と演習を行います。終盤の授業(10回～14回)は対面授業で行い、受講生による模擬授業を軸とする演習中心に行います。10回目の授業で、模擬授業を行う上での留意点の説明と発表順等を決定します。 毎回の授業で「時間外の学習課題」を出題します。「時間外の学習課題」の提出方法は、LUNAの掲示板の「フォーラム」を活用します。授業担当者は授業日から5日以内の「フォーラムへの書き込み」に対してコメントを返します。そのことで、受講生同士や授業担当者との「意見交換」を行います。 なお、今後の新型コロナウィルスの感染状況によっては、終盤に予定している模擬授業もZOOMを使用して行うかも知れません(同時双方向型授業)。ZOOMで模擬授業を実施する際には、参加出来るかどうかを受講生に希望調査を行います。ZOOMによる模擬授業実施の場合は、中盤以降の授業の、授業時間帯に30分～40分程度の「意見交換」(「ZOOM対談」と略す)の場面を設けます。ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談は参加希望者のみで行います。その際には、ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談に参加しないことを成績評価上で不利に扱うことはしません。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会・地理歴史科教育法、地理歴史教育法		
検索キーワード/Keywords	公民的分野 学習指導案 指導案の書き方 指導計画 板書 教材 発問 模擬授業 思考力 判断力 表現力 目標準拠評価 評価基準 パフォーマンス課題アクティブ・ラーニング 主体的・対話的な深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	社会科教育の課題	【オンデマンドA型オンライン授業】 授業動画のURLとレジュメや資料等は、授業実施日の3日前までにLUNAで配布します。科目のホームページは「URLリンク欄」を確認して下さい。 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:「社会科の授業に関する意識調査」に回答し提出すること。回答の提出方法・期限は授業内で指示する。
第2回 Session 2	社会科の歴史と教育関係法令及び学習指導要領	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:社会科の歴史を踏まえ、改定学習指導要領の特徴と「自分の社会科の授業に対するイメージ」との異同について整理すること。
第3回 Session 3	社会科・公民的分野の特質と道徳教育及び総合的な学習の時間	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:改訂学習指導要領の社会科・公民的分野の教育目標と道徳教育及び総合的な学習の時間の異同を整理し、学習指導の実践的課題を予想すること。
	授業設計と学習指導案の書き方	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭

第4回 Session 4		に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学校の実際の年間行予定表を参考にして、公民的分野の年間指導計画を建ててみる。そのことから、感じ取れる1単位時間の授業の「分量」を自分の言葉でまとめてみる。
第5回 Session 5	事例研究(1)「公民」の学習指導と「目標標準評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業で紹介する「試験問題」を一つだけ取り上げて、「評価と授業の一体化」を実現するために必要なことを具体的に整理すること。
第6回 Session 6	事例研究(2)「主体的・対話的な深い学び」と「パフォーマンス評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 生徒の書いた「作文」を実際に採点して、「パフォーマンス評価」を具現化する際に必要なことを整理しておくこと。
第7回 Session 7	事例研究(3)「公民」の学習指導と教材・教具の活用方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 教育目標と教材づくりの関係を具体的な場面を想定して整理しておくこと。
第8回 Session 8	事例研究(4)「公民」の学習指導と授業のユニバーサル・デザイン化	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業のユニバーサル・デザイン化を実現する方法について整理しておくこと。
第9回 Session 9	事例研究(5)「公民」の学習指導を支える板書と発問の方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習内容を構造化した板書の実現方法について整理しておくこと。
第10回 Session 10	事例研究(6)「公民」の学習指導と学習集団の育成(模擬授業の計画を含む)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習集団の育成と「思考力・判断力・表現力」の関係性を具体的な場面で整理しておくこと。
第11回 Session 11	授業研究(1)「模擬授業」(「現代社会と文化」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「現代社会と文化」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第12回 Session 12	授業研究(2)「模擬授業」(「民主政治」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「民主政治」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第13回 Session 13	授業研究(3)「模擬授業」(「暮らしと経済」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「暮らしと経済」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第14回 Session 14	授業研究(4)「模擬授業」(「国際社会の諸課題」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「貧困問題」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。

教科書 Required texts	レジュメ及び参考資料等を配布します。レジュメや参考資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」にアップロードしますのでダウンロードして活用して下さい。
参考文献・資料 Reference books	(1)文部科学省『中学校学習指導要領』(最新版) (2)文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) (3)文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) (4)文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(最新版) (5)中学校・公民的分野の教科書(受講生の出身校で使用されているものが望ましい。母校の教科書が手に入らないときは、他社のものでも最新の教科書であれば可)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査、及び学期末に自作アンケートによる調査で授業評価を行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	「学習指導案」、「板書計画」及び「パフォーマンス課題」の作成と提出を求めます。	
	その他／Others(99)	20%	授業中に提示する「学習課題」への回答態度、及び「模擬授業」の完成度で評価します。	
	備考 Note 作品等の評価は、「成績評価のためのルーブリック」に基づき行います。授業中の課題に対する「意見」の評価基準は、意見を求められた課題の趣旨に沿う内容であることです。			
添付ファイル1/File Attachement 1	成績評価のためのルーブリック.pdf		説明1/Explanation 1	成績評価のためのルーブリック(評価基準)です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_204756_1&cmp_tab_id=_240796_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月09日 17時09分42秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜2時限	秋学期／Fall	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48030005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】社会・公民科教育法 5/Meth of Tch Social Stds & Civcs		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	倉橋 忠(KURAHASHI TADASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	この授業は、受講生が、中学校社会科公民的分野を指導するために必要な知識と技能を習得し、実践的指導力を獲得することを目的に行います。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the knowledge and skills necessary to teach the civics field of social studies in junior high school and gain practical leadership skills.		
到達目標/Learning Goals	(1)受講生は、中学校社会科公民的分野の内容を理解し、指導計画及び学習指導案を作成することができる。 (2)受講生は、評価方法について理解し、学習指導案と評価問題を作成することができる。 (3)受講生は、自ら作成した学習指導案によって模擬授業を行うことができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to (1) understand the contents of the civics field of social studies in junior high school and prepare lesson plans and teaching plans, (2) understand the evaluation methods and create teaching plans and evaluation test questions, (3) conduct simulated lessons with the teaching plans they create.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業は、具体的な目標として、「思考力・判断力・表現力」を育成するための「学習指導案」・「板書計画」・「パフォーマンス課題」を、受講生が作成することができるようになることをすすめています。 そのために、教育方法的な理論と具体的な実践事例の両側面から学びます。主な学習内容は、社会科の歴史、学習指導要領の趣旨、教育目標と教材の関係、目標に準拠した評価の方法、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、授業設計の方法などです。 また、公民的分野の授業実践事例を通して、多様な生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するための、発問の仕方や教材開発の方法、学習集団の育成法、ICTなど教育機器の活用方法について学びます。 さらに、本授業では、受講生全員に模擬授業を実演してもらいます。模擬授業後には、授業担当者(倉橋)による講評及び、受講生同士による相互評価を行う場面を設定して、学習指導案の完成度を高めたり、授業実践力を培えるようにします。		
授業方法 Course Format	この授業は、オンデマンドA型オンライン授業(時間割設定あり・一部対面授業を含む)で行います。終盤の授業(10回～14回)を対面授業で行います。 授業動画のURLとレジュメや資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」に、授業実施日の3日前までにアップロードします。 初回から中盤の授業(1回～9回)までは、オンデマンドA型オンライン授業で、授業動画とレジュメ等を使って講義と演習を行います。終盤の授業(10回～14回)は対面授業で行い、受講生による模擬授業を軸とする演習中心に行います。10回目の授業で、模擬授業を行う上での留意点の説明と発表順等を決定します。 毎回の授業で「時間外の学習課題」を出題します。「時間外の学習課題」の提出方法は、LUNAの掲示板の「フォーラム」を活用します。授業担当者は授業日から5日以内の「フォーラムへの書き込み」に対してコメントを返します。そのことで、受講生同士や授業担当者との「意見交換」を行います。 なお、今後の新型コロナウィルスの感染状況によっては、終盤に予定している模擬授業もZOOMを使用して行うかも知れません(同時双方向型授業)。ZOOMで模擬授業を実施する際には、参加出来るかどうかを受講生に希望調査を行います。ZOOMによる模擬授業実施の場合は、中盤以降の授業の、授業時間帯に30分～40分程度の「意見交換」(「ZOOM対談」と略す)の場面を設けます。ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談は参加希望者のみで行います。その際には、ZOOMによる模擬授業及びZOOM対談に参加しないことを成績評価上で不利に扱うことはしません。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会・地理歴史科教育法、地理歴史教育法		
検索キーワード/Keywords	公民的分野 学習指導案 指導案の書き方 指導計画 板書 教材 発問 模擬授業 思考力 判断力 表現力 目標準拠評価 評価基準 パフォーマンス課題アクティブ・ラーニング 主体的・対話的な深い学び		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	社会科教育の課題	【オンデマンドA型オンライン授業】 授業動画のURLとレジュメや資料等は、授業実施日の3日前までにLUNAで配布します。科目のホームページは「URLリンク欄」を確認して下さい。 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:「社会科の授業に関する意識調査」に回答し提出すること。回答の提出方法・期限は授業内で指示する。
第2回 Session 2	社会科の歴史と教育関係法令及び学習指導要領	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:社会科の歴史を踏まえ、改定学習指導要領の特徴と「自分の社会科の授業に対するイメージ」との異同について整理すること。
第3回 Session 3	社会科・公民的分野の特質と道徳教育及び総合的な学習の時間	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題:改訂学習指導要領の社会科・公民的分野の教育目標と道徳教育及び総合的な学習の時間の異同を整理し、学習指導の実践的課題を予想すること。
	授業設計と学習指導案の書き方	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題:事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭

第4回 Session 4		に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学校の実際の年間行予定表を参考にして、公民的分野の年間指導計画を建ててみる。そのことから、感じ取れる1単位時間の授業の「分量」を自分の言葉でまとめてみる。
第5回 Session 5	事例研究(1)「公民」の学習指導と「目標標準評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業で紹介する「試験問題」を一つだけ取り上げて、「評価と授業の一体化」を実現するために必要なことを具体的に整理すること。
第6回 Session 6	事例研究(2)「主体的・対話的な深い学び」と「パフォーマンス評価」	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 生徒の書いた「作文」を実際に採点して、「パフォーマンス評価」を具現化する際に必要なことを整理しておくこと。
第7回 Session 7	事例研究(3)「公民」の学習指導と教材・教具の活用方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 教育目標と教材づくりの関係を具体的な場面を想定して整理しておくこと。
第8回 Session 8	事例研究(4)「公民」の学習指導と授業のユニバーサル・デザイン化	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 授業のユニバーサル・デザイン化を実現する方法について整理しておくこと。
第9回 Session 9	事例研究(5)「公民」の学習指導を支える板書と発問の方法	【オンデマンドA型オンライン授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習内容を構造化した板書の実現方法について整理しておくこと。
第10回 Session 10	事例研究(6)「公民」の学習指導と学習集団の育成(模擬授業の計画を含む)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 学習集団の育成と「思考力・判断力・表現力」の関係性を具体的な場面で整理しておくこと。
第11回 Session 11	授業研究(1)「模擬授業」(「現代社会と文化」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「現代社会と文化」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第12回 Session 12	授業研究(2)「模擬授業」(「民主政治」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「民主政治」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第13回 Session 13	授業研究(3)「模擬授業」(「暮らしと経済」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「暮らしと経済」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。
第14回 Session 14	授業研究(4)「模擬授業」(「国際社会の諸課題」の授業研究を中心に)	【対面授業】 予習の課題: 事前に配布するレジュメを読み、レジュメの冒頭に示す「学習課題」への「自分なりの提案」を考えること。 復習の課題: 「貧困問題」を指導する際に注目させたいことについて整理すること。

教科書 Required texts	レジュメ及び参考資料等を配布します。レジュメや参考資料等は、LUNAの「教材・課題・テスト」にアップロードしますのでダウンロードして活用して下さい。
参考文献・資料 Reference books	(1)文部科学省『中学校学習指導要領』(最新版) (2)文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) (3)文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) (4)文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(最新版) (5)中学校・公民的分野の教科書(受講生の出身校で使用されているものが望ましい。母校の教科書が手に入らないときは、他社のものでも最新の教科書であれば可)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査、及び学期末に自作アンケートによる調査で授業評価を行う。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常リポート／Individual reports(04)	80%	「学習指導案」、「板書計画」及び「パフォーマンス課題」の作成と提出を求めます。	
	その他／Others(99)	20%	授業中に提示する「学習課題」への回答態度、及び「模擬授業」の完成度で評価します。	
	備考 Note 作品等の評価は、「成績評価のためのルーブリック」に基づき行います。授業中の課題に対する「意見」の評価基準は、意見を求められた課題の趣旨に沿う内容であることです。			
添付ファイル1/File Attachement 1	成績評価のためのルーブリック.pdf		説明1/Explanation 1	成績評価のためのルーブリック(評価基準)です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196874_1&cmp_tab_id=_232914_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月09日 17時10分58秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜3時限	秋学期／Fall	教室未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48033001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】地理歴史科教育法 1／Meth of Tch Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校地理歴史科の基本的な概念を理解し、地理及び歴史の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of geography and history education and learn the basics of teaching methods for geography and history.		
到達目標/Learning Goals	1. 地理歴史科の目標、内容、方法について理解する。 2. 地理歴史科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, content, and methods of geography and history education, 2. design lesson plans of for geography and history and perform mock geography and history lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の地理歴史科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい地理歴史科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校地理歴史科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。前半はレジュメおよび多様な資料を活用しながらワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、感染防止対策を行ったうえで、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニング(対話・協働学習)や個別指導も取り入れる。【オンライン受講生対象】の授業方法の詳細については備考欄へ		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	地理歴史科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	地理歴史科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「歴史系」科目の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「地理系」科目の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	地理歴史科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	地理歴史科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	地理歴史科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	「歴史系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第10回 Session 10	「地理系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	「高等学校学習指導要領(最新版)」及び「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」の予習・復習、時事問題(教育・地理・歴史関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」、高等学校地理歴史科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
備考 Note	【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については、授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_194420_1&cmp_tab_id=_230460_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 19時01分38秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	D－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48033002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】地理歴史科教育法 2／Meth of Tch Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校地理歴史科の基本的な概念を理解し、地理及び歴史の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of geography and history education and learn the basics of teaching methods for geography and history.		
到達目標/Learning Goals	1. 地理歴史科の目標、内容、方法について理解する。 2. 地理歴史科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, content, and methods of geography and history education, 2. design lesson plans of for geography and history and perform mock geography and history lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の地理歴史科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい地理歴史科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校地理歴史科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。前半はレジュメおよび多様な資料を活用しながらワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、感染防止対策を行ったうえで、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニング(対話・協働学習)や個別指導も取り入れる。【オンライン受講生対象】の授業方法の詳細については備考欄へ		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	地理歴史科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	地理歴史科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「歴史系」科目の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「地理系」科目の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	地理歴史科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	地理歴史科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	地理歴史科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	「歴史系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第10回 Session 10	「地理系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	「高等学校学習指導要領(最新版)」及び「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」の予習・復習、時事問題(教育・地理・歴史関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」、高等学校地理歴史科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
備考 Note	【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については、授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_204202_1&cmp_tab_id=_240242_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 19時02分55秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜4時限	春学期／Spring	D－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48033003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】地理歴史科教育法 3／Meth of Tch Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校地理歴史科の基本的な概念を理解し、地理及び歴史の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of geography and history education and learn the basics of teaching methods for geography and history.		
到達目標/Learning Goals	1. 地理歴史科の目標、内容、方法について理解する。 2. 地理歴史科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, content, and methods of geography and history education, 2. design lesson plans of for geography and history and perform mock geography and history lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の地理歴史科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい地理歴史科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校地理歴史科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	前半は主として講義形式で行い、レジュメおよび多様な資料を活用しながら毎時のワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、ペアワークやグループワークなどのアクティブラーニングや個別指導も取り入れる。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	地理歴史科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	地理歴史科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「歴史系」科目の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「地理系」科目の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	地理歴史科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	地理歴史科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	地理歴史科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	「歴史系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第10回 Session 10	「地理系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	「高等学校学習指導要領(最新版)」及び「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」の予習・復習、時事問題(教育、地理・歴史関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領（最新版）」、「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（最新版）」、高等学校地理歴史科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート（シヤトルメール）、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業（評価シート・集団協議を含む）
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 18時16分10秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	D－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48033004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】地理歴史科教育法 4／Meth of Tch Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校地理歴史科の基本的な概念を理解し、地理及び歴史の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of geography and history education and learn the basics of teaching methods for geography and history.		
到達目標/Learning Goals	1. 地理歴史科の目標、内容、方法について理解する。 2. 地理歴史科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, content, and methods of geography and history education, 2. design lesson plans of for geography and history and perform mock geography and history lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の地理歴史科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい地理歴史科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校地理歴史科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	前半は主として講義形式で行い、レジュメおよび多様な資料を活用しながら毎時のワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニングや個別指導も取り入れる。		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	地理歴史科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	地理歴史科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「歴史系」科目の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「地理系」科目の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	地理歴史科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	地理歴史科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	地理歴史科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	「歴史系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第10回 Session 10	「地理系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	「高等学校学習指導要領(最新版)」及び「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」の予習・復習、時事問題(教育、地理・歴史関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領（最新版）」、「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（最新版）」、高等学校地理歴史科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート（シヤトルメール）、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業（評価シート・集団協議を含む）
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 18時17分01秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜4時限	秋学期／Fall	D－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48033005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】地理歴史科教育法 5/Meth of Tch Geogrphy & Hstry		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校地理歴史科の基本的な概念を理解し、地理及び歴史の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of geography and history education and learn the basics of teaching methods for geography and history.		
到達目標/Learning Goals	1. 地理歴史科の目標、内容、方法について理解する。 2. 地理歴史科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, content, and methods of geography and history education, 2. design lesson plans of for geography and history and perform mock geography and history lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の地理歴史科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい地理歴史科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校地理歴史科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。前半はレジュメおよび多様な資料を活用しながらワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、感染防止対策を行ったうえで、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニング(対話・協働学習)や個別指導も取り入れる。【オンライン受講生対象】の授業方法の詳細については備考欄へ		
関連科目/Related Courses	公民科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	地理歴史科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	地理歴史科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「歴史系」科目の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「地理系」科目の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	地理歴史科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	地理歴史科の指導計画と評価(2)(学習指導案と評価)	
第8回 Session 8	地理歴史科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	「歴史系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第10回 Session 10	「地理系」科目の授業づくり(教材研究と指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	「高等学校学習指導要領(最新版)」及び「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」の予習・復習、時事問題(教育・地理・歴史関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(最新版)」、高等学校地理歴史科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
備考 Note	【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については、授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_199859_1&cmp_tab_id=_235899_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 19時03分30秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜1時限	春学期／Spring	I－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48034001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】公民科教育法 1／Methods of Teaching Civics		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校公民科の基本的な概念を理解し、公民科の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of civics and learn the basics of teaching methods for civics.		
到達目標/Learning Goals	1. 公民科の目標、内容、方法について理解する。 2. 公民科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, contents, and methods of civics education, 2. create lesson plans of for civics and perform mock civics lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の公民科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい公民科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校公民科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。前半はレジュメおよび多様な資料を活用しながらワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、感染防止対策を行ったうえで、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニング(対話・協働学習)や個別指導も取り入れる。【オンライン受講生対象】の授業方法の詳細については備考欄へ		
関連科目/Related Courses	地理歴史科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	公民科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	公民科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「公共」の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「倫理」「政治・経済」の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	公民科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	公民科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	公民科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成①)	
第10回 Session 10	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成②)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	学習指導要領及び同解説の予習・復習、時事問題(教育、「公民科」関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 公民編(最新版)」、高等学校公民科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
備考 Note	【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については、授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_200718_1&cmp_tab_id=_236758_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 19時04分05秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜2時限	春学期／Spring	B－102

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48034002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】公民科教育法 2／Methods of Teaching Civics		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校公民科の基本的な概念を理解し、公民科の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of civics and learn the basics of teaching methods for civics.		
到達目標/Learning Goals	1. 公民科の目標、内容、方法について理解する。 2. 公民科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, contents, and methods of civics education, 2. create lesson plans of for civics and perform mock civics lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の公民科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい公民科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校公民科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	前半は主として講義形式で行い、レジュメおよび多様な資料を活用しながら毎時のワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニングや個別指導も取り入れる。		
関連科目/Related Courses	地理歴史科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	公民科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	公民科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「公共」の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「倫理」「政治・経済」の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	公民科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	公民科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	公民科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成①)	
第10回 Session 10	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成②)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	学習指導要領及び同解説の予習・復習、時事問題(教育、「公民科」関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 公民編(最新版)」、高等学校公民科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 18時19分49秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜3時限	秋学期／Fall	D－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48034003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】公民科教育法 3／Methods of Teaching Civics		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校公民科の基本的な概念を理解し、公民科の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of civics and learn the basics of teaching methods for civics.		
到達目標/Learning Goals	1. 公民科の目標、内容、方法について理解する。 2. 公民科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, contents, and methods of civics education, 2. create lesson plans of for civics and perform mock civics lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の公民科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい公民科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校公民科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	前半は主として講義形式で行い、レジュメおよび多様な資料を活用しながら毎時のワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニングや個別指導も取り入れる。		
関連科目/Related Courses	地理歴史科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	公民科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	公民科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「公共」の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「倫理」「政治・経済」の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	公民科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	公民科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	公民科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成①)	
第10回 Session 10	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成②)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	学習指導要領及び同解説の予習・復習、時事問題(教育、「公民科」関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 公民編(最新版)」、高等学校公民科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 18時20分38秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜4時限	秋学期／Fall	D－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48034004	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】公民科教育法 4／Methods of Teaching Civics		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	加藤 昌宏(KATO MASAHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校公民科の基本的な概念を理解し、公民科の授業実践力の基礎を習得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of civics and learn the basics of teaching methods for civics.		
到達目標/Learning Goals	1. 公民科の目標、内容、方法について理解する。 2. 公民科の指導計画を作成し、模擬授業を行う。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1. understand the purpose, contents, and methods of civics education, 2. create lesson plans of for civics and perform mock civics lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	前半は高等学校学習指導要領の公民科及び各科目の目標と内容の分析を行い、新しい公民科の方向性を理解する。後半は指導計画の作成や模擬授業の実践・評価・改善を展開することにより、変化の激しい時代を担う高等学校公民科の担当教員として必要な資質能力を育成する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。前半はレジュメおよび多様な資料を活用しながらワーク課題に取り組む。後半は指導計画の作成や模擬授業の実演と評価に重点を置く。前・後半を通して、感染防止対策を行ったうえで、ペアトークやグループワークなどのアクティブラーニング(対話・協働学習)や個別指導も取り入れる。【オンライン受講生対象】の授業方法の詳細については備考欄へ		
関連科目/Related Courses	地理歴史科教育法、社会科教育法		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション、導入アンケート、学校教育関係諸法令と学習指導要領の位置付け	
第2回 Session 2	公民科の現状と課題、新しい学習指導要領の方向性	
第3回 Session 3	公民科の目標と科目の編成	
第4回 Session 4	「公共」の目標と指導内容、指導法	
第5回 Session 5	「倫理」「政治・経済」の目標と指導内容、指導法	
第6回 Session 6	公民科の指導計画と評価(1)(年間指導計画を中心に)	
第7回 Session 7	公民科の指導計画と評価(2)(学習指導案の作成と評価)	
第8回 Session 8	公民科における学習方法、ICTと教材の活用	
第9回 Session 9	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成①)	
第10回 Session 10	公民科の授業づくり(教材研究と指導案作成②)	
第11回 Session 11	模擬授業(1)(ガイダンス、評価の要点、自己評価・相互評価、講評)	
第12回 Session 12	模擬授業(2)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第13回 Session 13	模擬授業(3)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評)	
第14回 Session 14	模擬授業(4)(模擬授業、自己評価・相互評価、講評・まとめ)、授業評価アンケート	

授業外学習 Study Required outside Class	学習指導要領及び同解説の予習・復習、時事問題(教育、「公民科」関連)の学習など、授業で指示する。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	教科書は指定せず、レジュメ・資料を毎時配布して使用する。
参考文献・資料 Reference books	「高等学校学習指導要領(最新版)」、「高等学校学習指導要領解説 公民編(最新版)」、高等学校公民科の現行の教科書。その他は授業で指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	シヤトルシート(シヤトルメール)、授業評価アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	60%	シヤトルシート等(30),年間指導計画(20),学習指導案(10)
	その他／Others(99)	40%	模擬授業(評価シート・集団協議を含む)
備考 Note	【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については、授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196466_1&cmp_tab_id=_232506_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 19時05分03秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜2時限	春学期／Spring	I－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48037000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】商業科教育法A／Methods of Teaching Commerce A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	長谷川 義人(HASEGAWA YOSHITO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校の商業教育についての基礎的な理論と実践を学習する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn about the theory and practice of general commerce education in high schools and to train talented people to fulfill their social missions as members of society through business in particular.		
到達目標/Learning Goals	社会経済の発展と商業教育の変遷を顧みるとともに、新しい商業教育の理論と実践についても理解を深めることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will reflect on changes in the development of the social economy and commerce education and aim to deepen their understanding of the theory and practice of new commerce education.		
授業の概要・背景 Course Outline	学習指導要領における教科「商業」の概念と意義・目的を学び、また、商業教育の歴史を振り返るだけでなく、現代の日本経済の動向をふまえながら、商業教育の現状と課題、そして今後の在り方を考察する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 本授業では、講義型を中心とする。 講義型授業の時は、グループワークを取り入れ、各グループ発表を行う。 【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
検索キーワード/Keywords	商業教育 簿記 商業検定		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	商業教育の意義、我が国の教育の現代的課題、商業科の教師になるための心構え	オンデマンド型でのオンライン授業を実施する。教材はLUNAで配信する。
第2回 Session 2	商業の概念(流通経済の発展とマーケティングの概念)	オンデマンド型でのオンライン授業を実施する。教材はLUNAで配信する。
第3回 Session 3	商業教育の意義と目的、(商業教育の領域、法令と学習指導要領による目的と目標)	オンデマンド型でのオンライン授業を実施する。教材はLUNAで配信する。
第4回 Session 4	学習指導要領「商業」の改訂の変遷(戦前、戦後の教育改革と商業教育)	対面授業実施 各人の授業の取り組みに対する心構えの発表を行う。
第5回 Session 5	高度経済成長と商業教育	
第6回 Session 6	商業科目と教科の組織(1)教科・科目の意義、商業教科の組織とその変遷	
第7回 Session 7	商業科目と教科の組織(2)商業教科の変遷、商業教育に関する学問の構成	
第8回 Session 8	新しい学習指導要領と商業教育における教材研究と学習指導案作成の意義	
第9回 Session 9	教育課程の意義、教育課程編成の原理、教育課程編成の事例、学習指導案の作成方法	
第10回 Session 10	商業科目の学習指導法の原理	次週の学習指導法について、どの教科でも構わないので授業開始時の導入部分を考えてくる。
第11回 Session 11	商業科目の学習指導法と評価の方法	
第12回 Session 12	商業教育と人間形成	
第13回 Session 13	海外の商業教育研究と新しい商業教育の展望(1)海外の商業教育研究の意義、 主要国の教育制度と商業教育	
第14回 Session 14	海外の商業教育研究と新しい商業教育の展望(2)今後の商業教育の在り方。	

教科書 Required texts	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(最新版)
参考文献・資料 Reference books	文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) 榎本信義『商業科教育法 ー理論編ー』 高等学校で使用する教科書、各検定試験問題集

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	レポート提出、意見発表、授業への取り組み姿勢等による
	備考 Note レポート提出、意見発表、授業への取り組み姿勢等による総合点とする		
更新日時/Date of Update		2021年03月19日 18時20分38秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜4時限	春学期／Spring	G－112

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48038000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】商業科教育法B／Methods of Teaching Commerce B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	長谷川 義人(HASEGAWA YOSHITO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校の商業教育についての発展的な理論と実践を学習する。特にビジネスを通して社会の一員として自己の社会的使命を果たす人材の養成に携わることについて理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn about the theory and practice of special commerce education in high schools and to train talented persons to fulfill their social missions as members of society through business in particular.		
到達目標/Learning Goals	商業教育の方法、特に高等学校における商業教育の目標実現に向かっての効果的な学習指導をいかにすべきか、その基本的な知識・技術を習得し、教師として望ましい心構えや理念を身につけることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will learn how to provide effective educational guidance to realize commercial education, especially in high schools, and acquire basic knowledge and skills and attitudes and philosophy that are desirable for a teacher.		
授業の概要・背景 Course Outline	学習指導要領における教科「商業」の概念と意義・目的を学び、また、商業教育の歴史を振り返るだけでなく、現代の日本経済の動向をふまえながら、商業教育の現状と課題、そして今後の在り方を考察する。		
授業方法 Course Format	対面授業で実施。 本授業では、講義型を中心とする。実際に教師として教壇に立ち、受講生を高校生と見立てて模擬授業を行っていく。		
検索キーワード/Keywords	商業教育 簿記 商業検定		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教育方法の概念と学習指導法	
第2回 Session 2	学習指導法(教授法)の基本様式	
第3回 Session 3	学習指導法の形態と技術	
第4回 Session 4	学習教科の学習指導法(指導目標、重点等)	
第5回 Session 5	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導案の作成と指導法	「ビジネス基礎」の学習指導案を作成し、次週提出する。分野は各自で選択して作成する。
第6回 Session 6	研究授業・・・「ビジネス基礎」の研究授業を行う 「マーケティング分野」の学習指導	
第7回 Session 7	「マネジメント分野」の学習指導	「会計分野」の学習指導案を作成し
第8回 Session 8	「会計分野」の学習指導(1)授業計画作成と模擬授業の実践、留意事項等	「会計分野」の学習指導案を作成し次週提出する。分野は各自で選択して作成する。
第9回 Session 9	「会計分野」の学習指導(2)授業計画作成と模擬授業の実践、留意事項等	
第10回 Session 10	「マーケティング・ビジネス分野」の学習指導	兵庫県にの商業高校における進路状況を調べ、最終週までに提出する。様式は各自に任せる。
第11回 Session 11	総合的科目群の学習指導(1)「総合実践」の学習指導	次週の「課題研究」について説明を行うので、各自「課題研究」の内容について考えてくる。 次週発表を行う。
第12回 Session 12	総合的科目群の学習指導(2)「課題研究」の学習指導	全国の商業高等学校における「課題研究」の実施内容を調べ、一覧にして最終週までに提出する。様式は各自に任せる。最低2高校は調べ、まとめること。
第13回 Session 13	商業高校における進路指導とキャリア教育	次週の「簿記」の研究授業のために学習指導案を作成してくる。分野は別に定める。
第14回 Session 14	商業高校における検定・資格取得の指導 研究授業・・・「簿記」の研究授業を行う	

教科書 Required texts	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(最新版)
参考文献・資料 Reference books	文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) 榎本信義『商業科教育法 ー理論編ー』 高等学校で使用する教科書、各検定試験問題集

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	レポート提出、意見発表、授業への取り組み姿勢等による
	備考 Note レポート提出、意見発表、授業への取り組み姿勢等による総合点とする		
更新日時/Date of Update		2021年01月14日 19時56分41秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜4時限	秋学期／Fall	G－112

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48039001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法A 1／Methods of Teaching Science A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	理科教育において、生徒の興味・関心を高める授業を行う知識と技能を身につけ、また学習指導要領を理解し、生徒の能力開発を目指す理科教育の実践力を培うことができる。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire, in the field of science education, knowledge and skills to conduct lessons that attract the interest of students, understand the course of study, and cultivate the practical teaching abilities for science education aiming for high-school students' ability development		
到達目標/Learning Goals	・授業計画を立て、授業の展開方法・教材の工夫などを行うことができる。 ・ICTなどを活用して授業を編成する能力を身に付けることができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・plan lessons and devise teaching materials; ・acquire the ability to organize lessons using ICT and field works.		
授業方法 Course Format	・講義、各種演習、体験的な活動、模擬授業、ディスカッション ・①～③回の授業はZoom型オンライン授業で実施。ZoomのURLあるいはミーティングID、パスワードはLUNAの「お知らせ」で連絡します。また、教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。		
関連科目/Related Courses	● 理科教育法B～Cの履修については、理科教育法Aの修得または併行して履修することが望ましい		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 体験的活動, 協同学習, アクティブラーニング, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(現在の中学校、高等学校における理科教育の現状)	【復習】中学校・高等学校の理科教科書をアカデミックcommons 2階の資料室などで閲覧する 【予習】学習指導要領の目標・内容について調べる
第2回 Session 2	理科教育が目指すもの(学習指導要領の目標や内容について)	【復習】アクティブラーニングに関する資料を収集する 【予習】言語活動の充実について、学習指導要領などをもとに調べる
第3回 Session 3	言語活動と理科教育ーレポート、プレゼンテーション、ディスカッション	【復習】「聴く・書く・話す」ことによる理科における言語活動について整理する
第4回 Session 4	言語活動を取り入れた学習指導案の作成	【復習】学習指導案を作成する 【予習】ICTについて調べる
第5回 Session 5	ICTの活用と理科教育	【復習】ICTの活用について整理する 【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第6回 Session 6	ICTを用いた模擬授業	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】校内でのフィールド学習に必要な準備物を調達する
第7回 Session 7	理科におけるフィールドワーク(野外実習)のあり方及び教材研究	【復習】身近な学校外施設を利用する際の安全教育・安全指導についてまとめる 【予習】服装・持参すべきもの、場所・時間を確認する
第8回 Session 8	学校外施設(関西学院千刈キャンパス・人と自然の博物館など)の体験学習1	【復習】講義や実習をまとめ、提出用のレポートを作成する
第9回 Session 9	学校外施設(ゲストティーチャーによる講義など)の体験学習2	【予習】レポートをもとに各自で発表の準備をする
第10回 Session 10	体験的活動と理科教育(教材研究及び学習指導案の作成)	【復習】体験したことは何かを考え、発表後の”学び合い”をふまえて整理する 【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第11回 Session 11	体験的活動と理科教育(模擬授業)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える
第12回 Session 12	理科と協同学習(ブレインストーミング&KJ法)	【復習】実施した協同学習をまとめる
第13回 Session 13	様々な理科教育のあり方ー環境教育や道德教育と理科教育	【復習】道德教育や環境教育の課題についてレポートする 【予習】今までの授業を踏まえて、自らの教育ビジョンの作成
第14回 Session 14	理科教育のあり方とまとめ、理科の教員としてのビジョン作り	【復習】理科教員としてのビジョンを振り返る

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版)
参考書/Reference books	著者名: 畑中忠雄 タイトル: 若い先生のための理科教育概論 発行所: 東洋館出版社 出版年: 2004 ISBN: 4-491-01976-2
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校の「理科教科書」, 新聞記事 「若い先生のための理科教育概論」(東洋館出版社) 講義資料を配布する
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	内容評価	
	その他／Others(99)	20%	授業への意欲, 態度。模擬授業の評価、発表など	
	備考 Note 配慮対象のオンライン受講生への「定期試験」に代わる成績評価はLUNAなどにより個別に知らせます。また、「平常レポート」「その他」については基本的に対面式授業と同じですが、変更があればLUNAなどにより個別に連絡します。			
添付ファイル1/File Attachement 1	学習指導案の書き方.docx		説明1/Explanation 1	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_198707_1&cmp_tab_id=_234747_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時06分42秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜2時限	春学期／Spring	IV－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48039002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法A 2／Methods of Teaching Science A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	理科教育において、生徒の興味・関心を高める授業を行う知識と技能を身につけ、また学習指導要領を理解し、生徒の能力開発を目指す理科教育の実践力を培うことができる。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire, in the field of science education, knowledge and skills to conduct lessons that attract the interest of students, understand the course of study, and cultivate the practical teaching abilities for science education aiming for high-school students' ability development		
到達目標/Learning Goals	・授業計画を立て、授業の展開方法・教材の工夫などを行うことができる。 ・ICTなどを活用して授業を編成する能力を身に付けることができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・plan lessons and devise teaching materials; ・acquire the ability to organize lessons using ICT and field works.		
授業方法 Course Format	講義, 各種演習, 体験的な活動, 模擬授業, ディスカッション 教材や課題等についてはLUNAで指示します。		
関連科目/Related Courses	● 理科教育法B～Cの履修については、理科教育法Aの修得または併行して履修することが望ましい		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 体験的活動, 協同学習, アクティブラーニング, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(現在の中学校、高等学校における理科教育の現状)	【復習】中学校・高等学校の理科教科書をアカデミックコモンズ2階の資料室などで閲覧する 【予習】学習指導要領の目標・内容について調べる
第2回 Session 2	理科教育が目指すもの(学習指導要領の目標や内容について)	【復習】アクティブラーニングに関する資料を収集する 【予習】言語活動の充実について、学習指導要領などをもとに調べる
第3回 Session 3	言語活動と理科教育 -レポート、プレゼンテーション、ディスカッション	【復習】「聴く・書く・話す」ことによる理科における言語活動について整理する
第4回 Session 4	言語活動を取り入れた学習指導案の作成	【復習】学習指導案を作成する 【予習】ICTについて調べる
第5回 Session 5	ICTの活用と理科教育	【復習】ICTの活用について整理する 【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予定演習を実施する
第6回 Session 6	ICTを用いた模擬授業	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】校内でのフィールド学習に必要な準備物を調達する
第7回 Session 7	理科におけるフィールドワーク(野外実習)のあり方及び教材研究	【復習】身近な学校外施設を利用する際の安全教育・安全指導についてまとめる 【予習】服装・持参すべきもの、場所・時間を確認する
第8回 Session 8	学校外施設(関西学院千刈キャンパス・人と自然の博物館など)の体験学習1	【復習】講義や実習をまとめ、提出用のレポートを作成する
第9回 Session 9	学校外施設(ゲストティーチャーによる講義など)の体験学習2	【予習】レポートをもとに各自で発表の準備をする
第10回 Session 10	体験的活動と理科教育(教材研究及び学習指導案の作成)	【復習】体験したことは何かを考え、発表後の”学び合い”をふまえて整理する 【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予定演習を実施する
第11回 Session 11	体験的活動と理科教育(模擬授業)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える
第12回 Session 12	理科と協同学習(ブレインストーミング&KJ法)	【復習】実施した協同学習をまとめる
第13回 Session 13	様々な理科教育のあり方ー環境教育や道徳教育と理科教育	【復習】道徳教育や環境教育の課題についてレポートする 【予習】今までの授業を踏まえて、自らの教育ビジョンの作成
第14回 Session 14	理科教育のあり方とまとめ、理科の教員としてのビジョン作り	【復習】理科教員としてのビジョンを振り返る

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版)
参考書/Reference books	著者名: 畑中忠雄 タイトル: 若い先生のための理科教育概論 発行所: 東洋館出版社 出版年: 2004 ISBN: 4-491-01976-2
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校の「理科教科書」, 新聞記事 「若い先生のための理科教育概論」(東洋館出版社) 講義資料を配布する
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	内容評価	
	その他／Others(99)	20%	授業への意欲, 態度。模擬授業の評価、発表など	
添付ファイル1/File Attachment 1	学習指導案の書き方.docx		説明1/Explanation 1	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_192502_1&cmp_tab_id=_228542_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時23分37秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜2時限	秋学期／Fall	IV－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48039003	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法A 3/Methods of Teaching Science A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	理科教育において、生徒の興味・関心を高める授業を行う知識と技能を身につけ、また学習指導要領を理解し、生徒の能力開発を目指す理科教育の実践力を培うことができる。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire, in the field of science education, knowledge and skills to conduct lessons that attract the interest of students, understand the course of study, and cultivate the practical teaching abilities for science education aiming for high-school students' ability development		
到達目標/Learning Goals	・授業計画を立て、授業の展開方法・教材の工夫などを行うことができる。 ・ICTなどを活用して授業を編成する能力を身に付けることができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・plan lessons and devise teaching materials; ・acquire the ability to organize lessons using ICT and field works.		
授業方法 Course Format	・講義、各種演習、体験的な活動、模擬授業、ディスカッション ・①～③回の授業はZoom型オンライン授業で実施。ZoomのURLあるいはミーティングID、パスワードはLUNAの「お知らせ」で連絡します。また、教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。		
関連科目/Related Courses	● 理科教育法B～Cの履修については、理科教育法Aの修得または併行して履修することが望ましい		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 体験的活動, 協同学習, アクティブラーニング, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(現在の中学校、高等学校における理科教育の現状)	【復習】中学校・高等学校の理科教科書をアカデミックcommons 2階の資料室などで閲覧する 【予習】学習指導要領の目標・内容について調べる
第2回 Session 2	理科教育が目指すもの(学習指導要領の目標や内容について)	【復習】アクティブラーニングに関する資料を収集する 【予習】言語活動の充実について、学習指導要領などをもとに調べる
第3回 Session 3	言語活動と理科教育ーレポート、プレゼンテーション、ディスカッション	【復習】「聴く・書く・話す」ことによる理科における言語活動について整理する
第4回 Session 4	言語活動を取り入れた学習指導案の作成	【復習】学習指導案を作成する 【予習】ICTについて調べる
第5回 Session 5	ICTの活用と理科教育	【復習】ICTの活用について整理する 【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予定演習を実施する
第6回 Session 6	ICTを用いた模擬授業	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】校内でのフィールド学習に必要な準備物を調達する
第7回 Session 7	理科におけるフィールドワーク(野外実習)のあり方及び教材研究	【復習】身近な学校外施設を利用する際の安全教育・安全指導についてまとめる 【予習】服装・持参すべきもの、場所・時間を確認する
第8回 Session 8	学校外施設(関西学院千刈キャンパス・人と自然の博物館など)の体験学習1	【復習】講義や実習をまとめ、提出用のレポートを作成する
第9回 Session 9	学校外施設(ゲストティーチャーによる講義など)の体験学習2	【予習】レポートをもとに各自で発表の準備をする
第10回 Session 10	体験的活動と理科教育(教材研究及び学習指導案の作成)	【復習】体験したことは何かを考え、発表後の”学び合い”をふまえて整理する 【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予定演習を実施する
第11回 Session 11	体験的活動と理科教育(模擬授業)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える
第12回 Session 12	理科と協同学習(ブレインストーミング&KJ法)	【復習】実施した協同学習をまとめる
第13回 Session 13	様々な理科教育のあり方ー環境教育や道德教育と理科教育	【復習】道德教育や環境教育の課題についてレポートする 【予習】今までの授業を踏まえて、自らの教育ビジョンの作成
第14回 Session 14	理科教育のあり方とまとめ、理科の教員としてのビジョン作り	【復習】理科教員としてのビジョンを振り返る

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版)
参考書/Reference books	著者名: 畑中忠雄 タイトル: 若い先生のための理科教育概論 発行所: 東洋館出版社 出版年: 2004 ISBN: 4-491-01976-2
参考文献・資料 Reference books	中学校・高等学校の「理科教科書」, 新聞記事 「若い先生のための理科教育概論」(東洋館出版社) 講義資料を配布する
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	内容評価	
	その他／Others(99)	20%	授業への意欲, 態度。模擬授業の評価、発表など	
	備考 Note 配慮対象のオンライン受講生への「定期試験」に代わる成績評価はLUNAなどにより個別に知らせます。また、「平常レポート」「その他」については基本的に対面式授業と同じですが、変更があればLUNAなどにより個別に連絡します。			
添付ファイル1/File Attachement 1	学習指導案の書き方.docx		説明1/Explanation 1	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202344_1&cmp_tab_id=_238384_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時25分35秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜4時限	春学期／Spring	II－302

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48040001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法B 1／Methods of Teaching Science B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	秋吉 博之(AKIYOSHI HIROYUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	・主に高等学校における理科の学習内容を,学習指導要領に基づき理解するとともに学習評価の考え方について理解する。 ・目標や目指す資質・能力に留意し,主として高校「物理」「化学」「生物」「地学」分野の学習内容について背景となる科学との関連も含めて理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the contents of science in secondary school based on the course of study and the concept of learning evaluation. Attention should be paid to the goals, and the intended qualities and abilities. They deeply understand the contents of learning of “physics”, “chemistry”, “biology”, and “geology” in the high school including the relationship with their scientific backgrounds.		
到達目標/Learning Goals	主に高等学校の理科の授業において、生徒の興味関心を高める授業をすることができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to teach secondary school science classes to enhance interests of high school students.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。 教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する。) 講義、班別ディスカッション、模擬授業と振り返り(高等学校理科全分野)/ 連絡事項や授業資料については、LUNAの「お知らせ」また、LUNAのコンテンツで確認してください。詳細は「備考欄へ」		
関連科目/Related Courses	「理科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 学習指導案の作成, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	高等学校学習指導要領における理科の目標・内容と評価について	【復習】高等学校の学習指導要領(理科編・理数編)の内容と評価についてまとめる 【予習】物理の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第2回 Session 2	物理分野(物体の運動とエネルギー、波、電気と磁気)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正す
第3回 Session 3	物理分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第4回 Session 4	物理分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】化学の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第5回 Session 5	化学分野(物質の構成、物質の変化と平衡、有機化合物の性質)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正する
第6回 Session 6	化学分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第7回 Session 7	化学分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】生物の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第8回 Session 8	生物分野(生物の体内環境、生物の多様性と生態系、生命現象と物質)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正する
第9回 Session 9	生物分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第10回 Session 10	生物分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】地学の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第11回 Session 11	地学分野(地球のすがた、地球の活動と歴史、宇宙の構造)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正する
第12回 Session 12	地学分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施す
第13回 Session 13	地学分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】高等学校の理科の授業方法や今後の理科教育について課題について整理する
第14回 Session 14	理科教育についてのディスカッション	【予習】本講座から得た知見を踏まえ、学習指導案のねらいを明確にする 【復習】高等学校の学習指導要領(理科編)の目標・内容を再確認するとともに、効果的な学習評価についてまとめる

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版)※文部科学省のWebサイトにもある。
参考書/Reference books	著者名: 左巻健男, 内村 浩 他 タイトル: 授業に生かす理科教育法 発行所: 東京書籍 出版年: 2015 ISBN: 978-4-487-80335-4 著者名: 中西敏昭 タイトル: みんなの生物学 発行所: 大学教育出版 出版年: 2012 ISBN: 978-4-86429-149-1 著者名: 秋吉博之 他 タイトル: 理科教育法第3版 発行所: 大学教育出版 出版年: 2018 ISBN: 978-4-86429-987-9
参考文献・資料 Reference books	「授業に生かす理科教育法」(東京書籍), 「理科教育法」(大学教育出版), 「みんなの生物学」(大学教育出版) ・中学校・高等学校の「理科教科書」, とくに自分の専門科目の高等学校教科書(新課程)は購入するのが望ましい。教職教育研究センターの資料室資料室で閲覧もできる。 ・文科省webサイト ・授業の中で資料を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケートなど

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	内容評価	
	その他／Others(99)	20%	模擬授業の評価, 討論・発表への意欲・態度	
	備考 Note 配慮対象のオンライン受講生への「定期試験」に代わる成績評価はLUNAなどにより個別に知らせます。また、「平常リポート」「その他」については基本的に対面式授業と同じですが、変更があればLUNAなどにより個別に連絡します。			
備考 Note	【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「Zoomによる同時配信」で対応する予定です。(3回目まではオンデマンド配信で対応予定です。詳細は、下記の「URLリンク1 URL 1」を確認してください。／3回目までの対応方法はシラバスを更新しお知らせします。)			
添付ファイル5/File Attachment 5	学習指導案の書き方.docx		説明5/Explanation 5	学習指導案の書き方
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_192627_1&cmp_tab_id=_228667_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 16時34分54秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜2時限	春学期／Spring	II-109

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48040002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法B 2／Methods of Teaching Science B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	・主に高等学校における理科の学習内容を,学習指導要領に基づき理解するとともに学習評価の考え方について理解する。 ・目標や目指す資質・能力に留意し,主として高校「物理」「化学」「生物」「地学」分野の学習内容について背景となる科学との関連も含めて理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the contents of science in secondary school based on the course of study and the concept of learning evaluation. Attention should be paid to the goals, and the intended qualities and abilities. They deeply understand the contents of learning of “physics”, “chemistry”, “biology”, and “geology” in the high school including the relationship with their scientific backgrounds.		
到達目標/Learning Goals	主に高等学校の理科の授業において、生徒の興味関心を高める授業をすることができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to teach secondary school science classes to enhance interests of high school students.		
授業方法 Course Format	講義、班別ディスカッション、模擬授業と振り返り(高等学校理科全分野)／連絡事項や授業資料については、LUNAの「お知らせ」また、LUNAのコンテンツで確認してください。		
関連科目/Related Courses	「理科教育法A」の修得または併行して履修することが望ましい		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 学習指導案の作成, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	高等学校学習指導要領における理科の目標・内容と評価について	【復習】高等学校の学習指導要領(理科編・理数編)の内容と評価についてまとめる 【予習】物理の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第2回 Session 2	物理分野(物体の運動とエネルギー、波、電気と磁気)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正す
第3回 Session 3	物理分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第4回 Session 4	物理分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】化学の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第5回 Session 5	化学分野(物質の構成、物質の変化と平衡、有機化合物の性質)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正する
第6回 Session 6	化学分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第7回 Session 7	化学分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】生物の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第8回 Session 8	生物分野(生物の体内環境、生物の多様性と生態系、生命現象と物質)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正する
第9回 Session 9	生物分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施する
第10回 Session 10	生物分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】地学の3分野について、班で分担して学習指導案を作成する
第11回 Session 11	地学分野(地球のすがた、地球の活動と歴史、宇宙の構造)に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて、学習指導案を校正する
第12回 Session 12	地学分野に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて、予行演習を実施す
第13回 Session 13	地学分野に関する模擬授業と振り返り(全体)	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】高等学校の理科の授業方法や今後の理科教育について課題について整理する
第14回 Session 14	理科教育についてのディスカッション	【予習】本講座から得た知見を踏まえ、学習指導案のねらいを明確にする 【復習】高等学校の学習指導要領(理科編)の目標・内容を再確認するとともに、効果的な学習評価についてまとめる

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版)※文部科学省のWebサイトにもある。
参考書/Reference books	著者名:左巻健男, 内村 浩 他 タイトル:授業に生かす理科教育法 発行所:東京書籍 出版年:2015 ISBN:978-4-487-80335-4 著者名:中西敏昭 タイトル:みんなの生物学 発行所:大学教育出版 出版年:2012 ISBN:978-4-86429-149-1 著者名:秋吉博之 他 タイトル:理科教育法第3版 発行所:大学教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4-86429-987-9
参考文献・資料 Reference books	「授業に生かす理科教育法」(東京書籍), 「理科教育法」(大学教育出版), 「みんなの生物学」(大学教育出版) ・中学校・高等学校の「理科教科書」, とくに自分の専門科目の高等学校教科書(新課程)は購入するのが望ましい。教職教育研究センターの資料室資料室で閲覧もできる。 ・文科省webサイト ・授業の中で資料を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケートなど

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	内容評価	
	その他／Others(99)	20%	模擬授業の評価, 討論・発表への意欲・態度	
添付ファイル5/File Attachment 5	学習指導案の書き方.docx		説明5/Explanation 5	学習指導案の書き方
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202479_1&cmp_tab_id=_238519_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時32分16秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜3時限	秋学期／Fall	II-110

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48041001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法C 1／Methods of Teaching Science C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	内山 裕之(UCHIYAMA HIROYUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	主に中学校における理科の学習内容を,学習指導要領に基づき小学校とのつながりも含めて理解する。また, 目標や目指す資質・能力に留意し,主として中学校理科「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の内容について,背景となる科学との関連も含めて理解を深め、模擬授業を実施することができる。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the contents of science in secondary school based on the course of study and the concept of learning evaluation , including the connection with courses of elementary school. Attention should be paid to the goals, and the intended qualities and abilities. They deeply understand the contents of learning of “energy”, “particles”, “life”, and “earth” mainly in junior the high schools including the relationship with their scientific backgrounds.		
到達目標/Learning Goals	1 新学習指導要領の考え方である生徒の育成すべき資質・能力を自分の言葉で説明することができる。 2 新学習指導要領の考え方にそった学習指導案を作成することができる。 3 中学校理科の領域で生徒の興味・関心を高め、高度な科学概念を育成しようとする授業に取り組むことができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to teach secondary school science classes to enhance interests of junior high school students.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する) 講義、班別ディスカッション、模擬授業と振り返り(中学校理科全分野) 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きのパワーポイントの配信で対応します。LUNAに資料を掲載しますので、掲載されましたら、すぐに確認してください。掲載場所は受講開始後、すぐに連絡します。		
関連科目/Related Courses	「理科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 学習指導案の作成, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	1回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する) 中学校「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の学習指導要領の目標と評価	【復習】新学習指導要領中学校理科の目標における改訂のポイントについて整理し、説明することができる。
第2回 Session 2	2回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する) 「エネルギー」に関する学習内容と教材研究	【復習】エネルギー領域に関する学習内容と実験教材を理解し分類・まとめをすることができる。
第3回 Session 3	3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する) 「エネルギー」に関する学習指導案の作成	【復習】指導案の書き方を理解し、エネルギー領域の指導案を作成することができる。
第4回 Session 4	「エネルギー」に関する模擬授業のモデルの紹介と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善のあり方を具体的に説明することができる。
第5回 Session 5	「粒子」に関する学習内容と教材研究	【復習】粒子領域に関する学習内容と実験教材を理解し分類・まとめをすることができる。
第6回 Session 6	「粒子」に関する学習指導案の作成(班別)	【復習】指導案の書き方を理解し、粒子領域の指導案を作成することができる。
第7回 Session 7	「粒子」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善のあり方を具体的に説明することができる。
第8回 Session 8	「生命」に関する学習内容と教材研究	【復習】生命領域に関する学習内容と実験教材を理解し分類・まとめをすることができる。
第9回 Session 9	「生命」に関する学習指導案の作成(班別)	【復習】指導案の書き方を理解し、生命領域の指導案を作成することができる。
第10回 Session 10	「生命」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善のあり方を具体的に説明することができる。
第11回 Session 11	「地球」に関する学習内容と教材研究	【復習】地球領域に関する学習内容と実験教材を理解し分類・まとめをすることができる。
第12回 Session 12	「地球」に関する学習指導案の作成(班別)	【復習】指導案の書き方を理解し、地球領域の指導案を作成することができる。
第13回 Session 13	「地球」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善のあり方を具体的に説明することができる。
第14回 Session 14	自然環境の保全と科学技術の利用に関する学習内容と教材研究・学習指導案の作成	【復習】自然環境の保全と科学技術の利用に関する学習内容が説明でき、その指導案を作成することができる。

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編理数編(すべて文部科学省の最新版) 講義の中で重要部分の資料プリントを配布する
参考書/Reference books	著者名: 広木正紀 内山裕之 タイトル: 理科の授業づくり 発行所: 東京書籍 出版年: 2012 ISBN: 978-4-487-80688-1
参考文献・資料 Reference books	「理科の授業づくり」(東京書籍) 講義の中で重要な部分の資料プリントを配布する
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケートなど

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	70%	レポートの記述内容の評価
	その他／Others(99)	30%	模擬授業発表及び指導案の評価
	備考 Note 【オンライン受講生対象の成績評価方法】オンライン(LUNA)で出された課題のレポート70%およびZOOMでのオンライン模擬授業発表および作成した指導案30%で行います。		
更新日時/Date of Update		2021年03月22日 14時56分08秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜3時限	春学期／Spring	II-110

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48041002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法C 2/Methods of Teaching Science C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	主に中学校における理科の学習内容を,学習指導要領に基づき小学校とのつながりも含めて理解する。また,目標や目指す資質・能力に留意し,主として中学校理科「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の内容について,背景となる科学との関連も含めて理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the contents of science in secondary school based on the course of study and the concept of learning evaluation , including the connection with courses of elementary school. Attention should be paid to the goals, and the intended qualities and abilities. They deeply understand the contents of learning of “energy”, “particles”, “life”, and “earth” mainly in junior the high schools including the relationship with their scientific backgrounds.		
到達目標/Learning Goals	主に中学校の理科の授業において,生徒の興味関心を高める授業をすることができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to teach secondary school science classes to enhance interests of junior high school students.		
授業方法 Course Format	講義, 班別ディスカッション, 模擬授業と振り返り(中学校理科全分野)/ 連絡事項や授業資料については,LUNAの「お知らせ」また, LUNAのコンテンツで確認してください。		
関連科目/Related Courses	「理科教育法A」の修得または併行して履修することが望ましい		
検索キーワード/Keywords	理科教育, 学習指導案の作成, 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	中学校学習指導要領における理科の学習指導要領の目標と評価	【復習】中学校の学習指導要領(理科編)の内容と評価についてまとめる 【予習】「エネルギー」分野について, 班で分担して学習指導案を作成する
第2回 Session 2	「エネルギー」に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて, 学習指導案を校正する
第3回 Session 3	「エネルギー」に関する学習指導案の作成(班別検討)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて, 予行演習を実施
第4回 Session 4	「エネルギー」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】「粒子」分野について, 班で分担して学習指導案を作成する
第5回 Session 5	「粒子」に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて, 学習指導案を校正する
第6回 Session 6	「粒子」に関する学習指導案の作成(班別)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて, 予行演習を実施する
第7回 Session 7	「粒子」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】「生命」分野について, 班で分担して学習指導案を作成する
第8回 Session 8	「生命」に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて, 学習指導案を校正する
第9回 Session 9	「生命」に関する学習指導案の作成(班別)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて, 予行演習を実施する
第10回 Session 10	「生命」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】「地球」分野について, 班で分担して学習指導案を作成する
第11回 Session 11	「地球」に関する学習内容と教材研究	【予習】教材研究の結果を踏まえて, 学習指導案を校正する
第12回 Session 12	「地球」に関する学習指導案の作成(班別)	【予習】模擬授業のポイントを中心に板書を含めて, 予行演習を実施する
第13回 Session 13	「地球」に関する模擬授業と振り返り	【復習】模擬授業の振り返りと授業改善を考える 【予習】「環境」分野について, 班で分担して学習指導案を作成する
第14回 Session 14	自然環境の保全と科学技術の利用に関する学習内容と教材研究・学習指導案の作成(班別)	【予習】・教材研究の結果を踏まえて, 学習指導案を校正する ・模擬授業のポイントを中心に板書を含めて, 予行演習を実施する

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版)文部科学省のWebサイトにもあります。
参考書/Reference books	著者名: 左巻健男, 内村 浩 他 タイトル: 授業に生かす理科教育法 発行所: 東京書籍 出版年: 2015 ISBN: 978-4-487-80335-4
参考文献・資料 Reference books	「授業に生かす理科教育法」(東京書籍) ・中学校・高等学校の「理科教科書」, とくに自分の専門科目の教科書(新課程)は購入するのが望ましい。教職教育研究センターの資料室資料室で閲覧できる。 ・授業の中で資料を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケートなど

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	内容評価	
	その他／Others(99)	20%	模擬授業, 討論・発表への意欲・態度	
添付ファイル5/File Attachment 5	学習指導案の書き方.docx		説明5/Explanation 5	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_192816_1&cmp_tab_id=_228856_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時37分35秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	IV－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48042001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法D 1／Methods of Teaching Science D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	理科のおもしろさを体得するために、実験・実習・観察の技法を学び、実験書(教材)の開発を行い、よりよい指導方法を修得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn the techniques of experiments, practical training, observation, and devise experiment sheets (teaching materials), and finally gain better teaching methods aiming at acquiring interests of students in the science.		
到達目標/Learning Goals	安全に留意しながら、身近な材料を用いて実験・実習・観察するスキルを身に付けることができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to acquire skills for experiments, practical training and observation using familiar materials with attention paid to the safety.		
授業方法 Course Format	・講義, 実験演習, 演示実験を含んだ模擬授業 ・①～③回の授業はZoom型オンライン授業で実施。ZoomのURLあるいはミーティングID、パスワードはLUNAの「お知らせ」で連絡します。また、教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。		
関連科目/Related Courses	「理科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	理科教育法 演示実験 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	魅力のある理科の授業とは何か ー理科における実験・観察の意義	【復習】理科教育における安全教育、安全指導(身近な教材の利用) 【予習】エネルギー・物理分野の身近な演示実験の準備
第2回 Session 2	エネルギー・物理分野の魅力ある授業のための自主教材研究1 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第3回 Session 3	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】粒子・化学分野の身近な演示実験の準備
第4回 Session 4	粒子・化学分野の魅力ある授業のための自主教材研究2 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第5回 Session 5	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】生命・環境・生物分野の身近な演示実験の準備
第6回 Session 6	生命・環境・生物分野の魅力ある授業のための自主教材研究3 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第7回 Session 7	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】地球・地学分野の身近な演示実験の準備
第8回 Session 8	地球・地学分野の魅力ある授業のための自主教材研究4 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第9回 Session 9	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】全体模擬授業1の準備
第10回 Session 10	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業1(物理)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(物理)の完成 【予習】全体模擬授業2の準備
第11回 Session 11	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業2(化学)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(化学)の完成 【予習】全体模擬授業3の準備
第12回 Session 12	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業3(生物)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(生物)の完成 【予習】全体模擬授業4の準備
第13回 Session 13	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業4(地学)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(地学)の完成 【予習】分担された実験教材DVDの作成
第14回 Session 14	観察・実験の評価と授業デザインの改善 ー「楽しくて、よく分かる理科授業に必要な要素」とは	【復習】ディスカッションのまとめ 本授業や他の理科教育法などを受講して得られた知見などから、魅力ある授業を考える また、班ごとに自主教材DVDの完成

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版) 文部科学省のWebサイトにもあります。
参考文献・資料 Reference books	・中学校・高等学校の「理科教科書」, とくに自分の専門科目の高等学校教科書(新課程)は購入するのが望ましい。大学への登校が可能であれば, 教職教育研究センターの資料室資料室で閲覧できる。 ※ 講義資料はLUNAで事前に配布する
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケートなど

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	レポート内容評価, 実験指導書・学習指導案の内容評価
	その他／Others(99)	50%	模擬授業および実験の評価, 討論・発表への意欲・態度
	備考 Note 配慮対象のオンライン受講生への「定期試験」に代わる成績評価はLUNAなどにより個別に知らせます。また、「平常レポート」「その他」については基本的に対面式授業と同じですが、変更があればLUNAなどにより個別に連絡します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_205313_1&cmp_tab_id=_241353_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時26分40秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜3時限	春学期／Spring	II－110

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48042002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】理科教育法D 2／Methods of Teaching Science D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	理科のおもしろさを体得するために、実験・実習・観察の技法を学び、実験書(教材)の開発を行い、よりよい指導方法を修得する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to learn the techniques of experiments, practical training, observation, and devise experiment sheets (teaching materials), and finally gain better teaching methods aiming at acquiring interests of students in the science.		
到達目標/Learning Goals	安全に留意しながら、身近な材料を用いて実験・実習・観察するスキルを身に付けることができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to acquire skills for experiments, practical training and observation using familiar materials with attention paid to the safety.		
授業方法 Course Format	講義, 実験演習, 演示実験を含んだ模擬授業		
関連科目/Related Courses	●「理科教育法A」の修得または併行して履修することが望ましい		
検索キーワード/Keywords	理科教育法 演示実験 模擬授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	魅力のある理科の授業とは何か ー理科における実験・観察の意義	【復習】理科教育における安全教育、安全指導 (身近な教材の利用) 【予習】エネルギー・物理分野の身近な演示実験の準備
第2回 Session 2	エネルギー・物理分野の魅力ある授業のための自主教材研究1 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第3回 Session 3	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】粒子・化学分野の身近な演示実験の準備
第4回 Session 4	粒子・化学分野の魅力ある授業のための自主教材研究2 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第5回 Session 5	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】生命・環境・生物分野の身近な演示実験の準備
第6回 Session 6	生命・環境・生物分野の魅力ある授業のための自主教材研究3 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第7回 Session 7	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】地球・地学分野の身近な演示実験の準備
第8回 Session 8	地球・地学分野の魅力ある授業のための自主教材研究4 ～班別演示実験	【復習】演示実験の修正と学習指導案の検討 【予習】模擬授業の準備
第9回 Session 9	実験・観察を含んだ学習指導案の検討及び作成(班別模擬授業)	【復習】模擬授業を踏まえて、学習指導案・実験の修正 【予習】全体模擬授業1の準備
第10回 Session 10	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業1(物理)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(物理)の完成 【予習】全体模擬授業2の準備
第11回 Session 11	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業2(化学)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(化学)の完成 【予習】全体模擬授業3の準備
第12回 Session 12	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業3(生物)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(生物)の完成 【予習】全体模擬授業4の準備
第13回 Session 13	実験指導書(自主教材)を用いた模擬授業4(地学)と授業の振り返り	【復習】学習指導案及び実験指導書(地学)の完成 【予習】分担された実験教材DVDの作成
第14回 Session 14	観察・実験の評価と授業デザインの改善 ー「楽しくて、よく分かる理科授業に必要な要素」とは	【復習】ディスカッションのまとめ 本授業や他の理科教育法などを受講して得られた知見などから、魅力ある授業を考える

教科書 Required texts	中学校学習指導要領, 中学校学習指導要領解説理科編, 高等学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領理科編理数編(すべて文部科学省の最新版) 文部科学省のWebサイトにもあります。
参考文献・資料 Reference books	・中学校・高等学校の「理科教科書」, とくに自分の専門科目の高等学校教科書(新課程)は購入するのが望ましい。大学への登校が可能であれば, 教職教育研究センターの資料室資料室で閲覧できる。 ※ 講義資料はLUNAで事前に配布する
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケートなど

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	レポート内容評価, 実験指導書・学習指導案の内容評価
	その他／Others(99)	50%	模擬授業および実験の評価, 討論・発表への意欲・態度
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_199151_1&cmp_tab_id=_235191_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時35分54秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜4時限	秋学期／Fall	II－110

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48043001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法A 1／Methods of Teaching Mathematics A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	片岡 啓(KATAOKA KEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	中学校、高等学校の数学教育について、学習指導要領と小学校算数とのつながり、数学教育史、内外の教育諸調査、各領域の主な内容とその系統性、学習指導案と模擬授業、科学技術の活用など、基礎的な知識と技能を得ることを目標とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the contents of the national course of study, history of mathematics education, lesson plans, and use of technology to acquire basic knowledge and skills related to secondary mathematics education.		
到達目標/Learning Goals	中等数学教育の内容やその課題について基礎的な知識と理解を持ち、基本的な授業計画が設計できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire basic knowledge about the contents of secondary mathematics education and will be able to design basic lesson plans.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。下記URL1参照。 なお、第4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、第4回目以降も各授業に合った方法によって配信で対応します。詳しくはLUNA等に掲載します(下記URL1参照)。		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学習指導案 模擬授業 数学教育		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	中学校、高等学校の学習内容の概観	
第2回 Session 2	中学校、高等学校学習指導要領とそのつながり	
第3回 Session 3	中学校、高等学校学習指導要領と小学校算数との関連	
第4回 Session 4	中学校「数と式」領域の概要	
第5回 Session 5	中学校「数と式」領域の学習指導計画づくり	
第6回 Session 6	中学校「数と式」領域の模擬授業	
第7回 Session 7	中等数学教育の歴史(1)太平洋戦争まで	
第8回 Session 8	中等数学教育の歴史(2)戦後の教育	
第9回 Session 9	中学校「図形」領域の概要	
第10回 Session 10	中学校「図形」領域の学習指導計画づくり	
第11回 Session 11	中学校「図形」領域の模擬授業	
第12回 Session 12	中学校「関数」「資料の活用」領域の概要	
第13回 Session 13	高等学校「数学I」の概要とPC等の活用	
第14回 Session 14	高等学校「数学I」の学習指導計画づくり	

授業外学習 Study Required outside Class	教育政策、教育課題に常に関心を持つ。数学の一般書を数多く読む。
---------------------------------------	---------------------------------

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 数学科編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 ISBN:978-4536590129
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 数学編理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:978-4762505355

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	50%	実施不可の場合, 平常レポートを80%とする。
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	その他／Others(99)	20%	プレゼン, 模擬授業など
	備考 Note 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては, 平常レポート100%で成績評価します。		
URLリンク1/URL 1		https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195766_1&cmp_tab_id=_231806_1&editMode=true&mode=cpview	
更新日時/Date of Update		2021年03月19日 15時58分00秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜4時限	春学期／Spring	IV－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48043002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法A 2/Methods of Teaching Mathematics A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	片岡 啓(KATAOKA KEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	中学校、高等学校の数学教育について、学習指導要領と小学校算数とのつながり、数学教育史、内外の教育諸調査、各領域の主な内容とその系統性、学習指導案と模擬授業、科学技術の活用など、基礎的な知識と技能を得ることを目標とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the contents of the national course of study, history of mathematics education, lesson plans, and use of technology to acquire basic knowledge and skills related to secondary mathematics education.		
到達目標/Learning Goals	中等数学教育の内容やその課題について基礎的な知識と理解を持ち、基本的な授業計画が設計できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire basic knowledge about the contents of secondary mathematics education and will be able to design basic lesson plans.		
授業方法 Course Format	対面授業。講義，グループワーク，一部実習		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学習指導案 模擬授業 数学教育		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	中学校、高等学校の学習内容の概観	
第2回 Session 2	中学校、高等学校学習指導要領とそのつながり	
第3回 Session 3	中学校、高等学校学習指導要領と小学校算数との関連	
第4回 Session 4	中学校「数と式」領域の概要	
第5回 Session 5	中学校「数と式」領域の学習指導計画づくり	
第6回 Session 6	中学校「数と式」領域の模擬授業	
第7回 Session 7	中等数学教育の歴史(1)太平洋戦争まで	
第8回 Session 8	中等数学教育の歴史(2)戦後の教育	
第9回 Session 9	中学校「図形」領域の概要	
第10回 Session 10	中学校「図形」領域の学習指導計画づくり	
第11回 Session 11	中学校「図形」領域の模擬授業	
第12回 Session 12	中学校「関数」「資料の活用」領域の概要	
第13回 Session 13	高等学校「数学I」の概要とPC等の活用	
第14回 Session 14	高等学校「数学I」の学習指導計画づくり	

授業外学習 Study Required outside Class	教育政策，教育課題に常に関心を持つ。数学の一般書を数多く読む。
---------------------------------------	---------------------------------

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 数学科編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 ISBN:978-4536590129 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 数学編理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:978-4762505355
--------------------	---

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	50%	実施不可の場合，平常レポートを80%とする。
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	その他／Others(99)	20%	プレゼン，模擬授業など
更新日時/Date of Update		2021年01月26日 13時02分58秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	IV－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48043003	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法A 3／Methods of Teaching Mathematics A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、数学科における今求められる教育の上に立つ指導方法の在り方を捉えるとともに、教えることの楽しさを感じることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to grasp how the method of instruction should be on the education required now in mathematics, and also to experience a delight of teaching.		
到達目標/Learning Goals	本講義を履修することにより、中学校及び高等学校数学科の指導における基礎的な知識と授業構築にかかわる実践的な能力、すなわち、教材分析、指導プロセスや評価の設定、指導方法や教材の選択・開発に関する能力を修得することができ、授業を実践できる自己効力感を持ち、「数学を教えたい」という確かな気持ちが生まれることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to gain the basic knowledge and the practical abilities about lesson organization on the instruction of mathematics in junior high schools and high schools, that is, to learn analysis of teaching materials, instruction process, setting the evaluation, method of instruction and the ability about selection and development of teaching materials, and to have a sense of self-efficacy to practice lessons and to arise definite feeling “I’d like to teach math.”		
授業の概要・背景 Course Outline	理解と楽しさに焦点をあて、中学校及び高等学校数学科における指導の在り方について考察する。特に中学校及び高等学校数学科の指導について、その全体像を捉える。授業VTRの視聴や担当者による模範授業を経験することから、以後の内容を鮮明にする。前半は、学習指導要領や教科書から、数学科のカリキュラムや数学を通して生徒に育成すべき資質・能力、今求められる数学教育について捉える。後半は、ICTの活用や数学教育における観察・実験に焦点をあて、これらの実習を通して、理解と楽しさの授業空間を生む方法を経験する。さらに、学習指導案の作成、模擬授業を実践する。本授業は、数学科の内容における具体的な場面を通して、確かな理解を促進する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定しています(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。 講義、議論、演習、発表、グループワーク LUNAに教材(PowerPoint、Word等)を掲載します。 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業のZoomによる同時配信」で対応する予定です。3回目までは音声付パワーポイントでの配信で対応します。LUNAに教材等を掲載します(下記「URLリンク1」)。		
関連科目/Related Courses	数学科教育法B、数学科教育法C、数学科教育法D		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学習指導案 模擬授業 ICT 観察・実験 授業参観		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	ガイダンス、授業の構成【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の構成を確認する。
第2回 Session 2	数学科のカリキュラム(数学科のカリキュラムの概観)【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「中学校数学科の内容の構成」(p12,13)及び「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容」(p15,16)を確認する。
第3回 Session 3	学習指導要領と数学的に考える資質・能力(学習指導要領の特徴、数学科の目標、数学的に考える資質・能力、数学的な見方・考え方)【講義】【演習】	【復習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(p20-29)または「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」(p23-30)の「数学科の目標」を読む。
第4回 Session 4	数学科の授業の実践(授業VTRの視聴や担当者による模範授業)【講義】【議論】	【復習課題】記憶に残る数学の授業についてのレポートを提出する。
第5回 Session 5	数学教育のキーワード(今求められる数学教育、学習指導要領の概観)【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(p6-10)及び「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」(p6-10)の「数学科改訂の趣旨及び要点」を読む。
第6回 Session 6	数学科に関する生徒の実態(諸調査からの生徒の実態)【講義】【演習】	【復習課題】数学科に関する生徒の実態にかかわるレポートを提出する。
第7回 Session 7	数学的活動(数学的活動の具体例とその意義)【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(p94-99, p125-130, p158-161)の「各学年の目標及び内容」の「数学的活動」を読む。
第8回 Session 8	授業構築の基礎(教材分析、指導プロセスや評価の設定、指導方法や教材の選択・開発の方法、評価の方法、指導と評価の一体化)【講義】【演習】	【復習課題】授業構築の基礎、今までの授業を踏まえ、自分が目指す授業像をつくる。
第9回 Session 9	学習指導案の作成の方法(学習指導案の意義や形式)、学習指導案作成のための資料による授業づくりの計画、作成開始【講義】【演習】	【復習課題】自分が構築する授業の単元を決め、学習指導案を作成し、提出する。
第10回 Session 10	ICTの活用(図形や関数学習用のソフト、デジタル教科書の活用、ICTを授業に組み込む方法)【講義】【演習】	【復習課題】授業で使用した図形や関数学習用のソフトに関する操作練習をするとともに、授業での活用方法を考える。
第11回 Session 11	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅰ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】レポート「模擬授業の実践」を提出する。
第12回 Session 12	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅱ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】レポート「模擬授業の実践」を提出する。

第13回 Session 13	授業参観(中学校における数学科の授業参観(実施回の変更の可能性あり))【講義】【演習】	【復習課題】授業参観についてのレポートを提出する。
第14回 Session 14	数学教育における観察・実験(数学教育における観察・実験の具体例とその意義(ICTの活用を含む)), まとめ【講義】【演習】	【復習課題】数学教育における現物実験と思考実験の具体例を採す。

授業計画 Overview for each class	「フィードバック方法」 課題(レポート)提出後2～3週間後を目途に、授業において全体の講評を口頭で伝える。 模擬授業に関しての講評は、実施授業内で授業者に口頭で伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	「授業外学習」内の【予習課題】はその授業に向けて、【復習課題】はその授業を受講してから取り組むものです。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 IS BN:9784536590129 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:9784762505355 著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN: 9784827815580 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所:東山書房 出版年:2019 ISBN: 9784827815672
参考書/Reference books	著者名:澁谷久 タイトル:わかるから楽しい! 中学校数学おもしろ教材コレクション 発行所:明治図書 出版年:2012 ISBN: 9784180606467 著者名:澁谷久 タイトル:見てふれて、納得! 中学校数学 おもしろ教材&授業アイデア 発行所:明治図書 出版年:2019 I SBN:9784180697274

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート/Individual reports(04)	40%	
	その他/Others(99)	60%	模擬授業の実践(学習指導案) 40, 学習への取り組み状況など 20
	備考 Note 上記の項目により総合的に評価します。平常レポート, 学習指導案・模擬授業の評価の観点は事前に示します。 オンラインでの受講を許可された学生に対しても、成績評価方法は変わりません。模擬授業も「Zoom!による同時配信」により実践することになります。		
備考 Note	・[教科書]のうち「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」文部科学省, 2018年, 日本文教出版, 9784536590129 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」文部科学省, 2019年, 学校図書, 9784762505355は毎回持参してください。 ・以下のものを持参するようにしてください(前時に指示します)。 はさみ, カッター, のり, セロハンテープ, 定規, コンパス ・授業中での飲食は禁止しますが, 水分の補給としての飲は可とします。		
添付ファイル1/File Attachment 1	数学科学習指導案型.rtf	説明1/Explanation 1	模擬授業で使用する学習指導案の型です。
添付ファイル2/File Attachment 2	授業参観についてのレポート 用紙.docx	説明2/Explanation 2	授業参観についてのレポート用紙です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_199340_1&cmp_tab_id=_235380_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月20日 18時29分23秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期/Spring	木曜3時限	春学期/Spring	IV-202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48044001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法B 1/Methods of Teaching Mathematics B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	片岡 啓(KATAOKA KEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	主として高等学校の数学教育における教材研究と授業づくりをテーマとして取り上げ、基礎的な知識と技能を得るとともに、学習指導案作成や模擬授業などを通して実践的な授業力を培うことを目標とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the planning of lessons mainly for high school mathematics to acquire practical skills for developing mathematics classes.		
到達目標/Learning Goals	高校数学の教材研究と授業づくりに関心と知識、理解を持ち、基本的な授業計画が設計できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire interest and basic knowledge about the planning of lessons for high school mathematics and will be able to develop their own lesson plans.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。下記URL1参照。 なお、第4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、第4回目以降も各授業に合った方法によって配信で対応します。詳しくはLUNA等に掲載します(下記URL1参照)。		
関連科目/Related Courses	「数学科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学習指導案 模擬授業 数学教育		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	高等学校学習指導要領と小学校、中学校とのつながり	
第2回 Session 2	数と式分野の教材研究	
第3回 Session 3	数と式分野の学習指導計画とそのプレゼン(グループごと)	
第4回 Session 4	数と式分野の模擬授業	
第5回 Session 5	関数、解析分野の教材研究	
第6回 Session 6	関数、解析分野の学習指導計画とそのプレゼン(グループごと)	
第7回 Session 7	関数、解析分野の模擬授業	
第8回 Session 8	図形分野の教材研究	
第9回 Session 9	図形分野の学習指導計画とそのプレゼン(グループごと)	
第10回 Session 10	図形分野の模擬授業	
第11回 Session 11	PCを用いた高校数学の教材づくり(1)数と式分野	
第12回 Session 12	PCを用いた高校数学の教材づくり(2)関数、解析分野	
第13回 Session 13	PCを用いた高校数学の教材づくり(3)図形分野	
第14回 Session 14	PCを用いた高校数学の教材づくり(4)統計分野	

授業外学習 Study Required outside Class	教育政策、教育課題に常に関心を持つ。数学の一般書を数多く読む。
---------------------------------------	---------------------------------

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 数学科編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 ISBN:978-4536590129
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 数学編理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:978-4762505355

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	50%	実施不可の場合，平常レポートを80%とする。
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	その他／Others(99)	20%	プレゼン，模擬授業など
	備考 Note 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては，平常レポート100%で成績評価します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202077_1&cmp_tab_id=_238117_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 15時59分17秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	IV－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48044002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法B 2/Methods of Teaching Mathematics B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	片岡 啓(KATAOKA KEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	主として高等学校の数学教育における教材研究と授業づくりをテーマとして取り上げ、基礎的な知識と技能を得るとともに、学習指導案作成や模擬授業などを通して実践的な授業力を培うことを目標とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the planning of lessons mainly for high school mathematics to acquire practical skills for developing mathematics classes.		
到達目標/Learning Goals	高校数学の教材研究と授業づくりに関心と知識、理解を持ち、基本的な授業計画が設計できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire interest and basic knowledge about the planning of lessons for high school mathematics and will be able to develop their own lesson plans.		
授業方法 Course Format	対面授業。講義，グループワーク，一部実習		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学習指導案 模擬授業 数学教育		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	高等学校学習指導要領と小学校、中学校とのつながり	
第2回 Session 2	数と式分野の教材研究	
第3回 Session 3	数と式分野の学習指導計画とそのプレゼン(グループごと)	
第4回 Session 4	数と式分野の模擬授業	
第5回 Session 5	関数、解析分野の教材研究	
第6回 Session 6	関数、解析分野の学習指導計画とそのプレゼン(グループごと)	
第7回 Session 7	関数、解析分野の模擬授業	
第8回 Session 8	図形分野の教材研究	
第9回 Session 9	図形分野の学習指導計画とそのプレゼン(グループごと)	
第10回 Session 10	図形分野の模擬授業	
第11回 Session 11	PCを用いた高校数学の教材づくり(1)数と式分野	
第12回 Session 12	PCを用いた高校数学の教材づくり(2)関数、解析分野	
第13回 Session 13	PCを用いた高校数学の教材づくり(3)図形分野	
第14回 Session 14	PCを用いた高校数学の教材づくり(4)統計分野	

授業外学習 Study Required outside Class	教育政策，教育課題に常に関心を持つ。数学の一般書を数多く読む。
---------------------------------------	---------------------------------

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 数学科編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 ISBN:978-4536590129 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 数学編理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:978-4762505355
--------------------	---

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	50%	実施不可の場合，平常レポートを80%とする。
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	その他／Others(99)	20%	プレゼン，模擬授業など
更新日時/Date of Update		2021年01月26日 13時06分37秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜4時限	秋学期／Fall	IV－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48045001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法C 1／Methods of Teaching Mathematics C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、中学校及び高等学校数学科の指導内容の数学的な価値に根拠を置いて生徒の学びを拓く授業の在り方を考え、授業を構築する技能を高めることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to predicate on mathematical value of instruction contents in mathematics in junior high school and high school, and examine how the lessons which open up students’ studying should be, and to improve the skill to organize the lessons.		
到達目標/Learning Goals	本講義を履修することにより、数学とはどんな学問か、指導する立場からその特性、すなわち、教科書の内容は、数学の本質をどの程度表しているのか、どのような数学的意味や価値をもつのかを捉えることができ、中学校数学科の内容構成とそれに関連する高等学校数学科の内容に即して進め「数学をみる力」と「数学を整理する力」を修得することができる。さらに、創意をもって学習指導案を作成し、授業を実践できる技能を身に付けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to grasp the characteristic, what the mathematics is, from the instructor’s point of view, that is, how much essence of mathematics the contents of textbooks signify and what mathematical meaning and value they have,based on the contents organization of mathematics in junior high school and the contents of mathematics in high school according to it, and learn “the ability to see mathematics” and “the ability to sort mathematics”.Additionally, the purpose is to make teaching plans with an originality and gain the skill to practice lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	数学教育は、時代や子供の実態により変化し、画一的な方法では限界があることを理解し、そこには教員個々の創造的な営みに期待することが大きいことを捉える。指導と研究を繰り返しながら、新しい数学教育を創る一員としての自覚と意欲を高める。内容を広く構造・体系的に設定し、中学校数学科の各領域における数学とそれに関連する高等学校数学科における数学を見渡す。前半は中学校数学科の「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」各領域の各内容とそれに関連する高等学校数学科の各内容に即し、学問としての数学の基礎を学ぶ。後半は、学習指導案の作成、及び、模擬授業の実践(ICTの活用を含む)により、指導における実践力を高める。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定しています(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。 講義、議論、演習、発表、グループワーク LUNAに教材(PowerPoint、Word等)を掲載します。 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業のZoomによる同時配信」で対応する予定です。3回目までは音声付パワーポイントでの配信で対応します。LUNAに教材等を掲載します(下記「URLリンク1」)。		
関連科目/Related Courses	数学科教育法A、数学科教育法B、数学科教育法D 「数学科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学びを拓く授業 教具・学習具 学習指導案 模擬授業 ICT		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	ガイダンス、授業の構成、学びを拓く授業【講義】【演習】	【復習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「中学校数学科の内容の構成」p12,13及び「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容」p15,16を確認する。
第2回 Session 2	中学校数学科の「数と式」領域:「正の数・負の数」、「文字を用いた式」、「文字を用いた式の四則計算」、「平方根」、「式の展開と因数分解」、「一元一次方程式(比例式)」、「連立二元一次方程式」、「二次方程式」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「数と式」(p65-74, p102-107, p133-142)を読む。 【復習課題】中学校数学科の「数と式」領域の内容にかかわる指導法のレポートを提出する。
第3回 Session 3	中学校数学科「数と式」と高等学校数学科「代数」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「代数」に関する部分を読む(内容は第2回の授業で示す)。
第4回 Session 4	中学校数学科の「図形」領域:「平面図形」、「空間図形」、「基本的な平面図形と平行線の性質」、「図形の合同」、「図形の相似」、「円周角と中心角」、「三平方の定理」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「図形」(p74-82, p108-116, p143-151)を読む。 【復習課題】中学校数学科の「図形」領域の内容にかかわる指導法のレポートを提出する。
第5回 Session 5	中学校数学科「図形」と高等学校数学科「幾何」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「図形」に関する部分を読む(内容は第4回の授業で示す)。
第6回 Session 6	中学校数学科の「関数」領域:「比例、反比例」、「一次関数」、「関数y=ax ² 」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「関数」(p82-87, p117-120, p152-154)を読む。
第7回 Session 7	中学校数学科「関数」と高等学校数学科「解析」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「解析」に関する部分を読む(内容は第6回の授業で示す)。
第8回 Session 8	中学校数学科の「データの活用」領域:「データの分布の傾向」、「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率」、「データの分布の比較」、「場合の数を基にして得られる確率」、「標本調査」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「データの活用」(p87-94, p120-125, p154-157)を読む。 【復習課題】中学校数学科の「データの活用」領域の内容にかかわる指導法のレポートを提出する。

第9回 Session 9	中学校数学科「データの活用」と高等学校数学科「確率・統計」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「確率・統計」に関する部分を読む(内容は第8回の授業で示す)。
第10回 Session 10	学習指導案作成のための資料による授業づくりの計画, 作成開始【講義】【演習】	【予習課題】事前にLUNAに配信した(「数学科教育法A」では学習済み)「学習指導案の作成について」を読む。 【復習課題】自分が構築する授業の単元を決め, 学習指導案を作成し, 提出する。
第11回 Session 11	中高の数学科における数学的構成の意義(縦断的・横断的視点から)【講義】【演習】	【復習課題】引き続き学習指導案の作成に取り組む。
第12回 Session 12	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅰ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は, 模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】レポート「模擬授業の実践」を提出する。
第13回 Session 13	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅱ【演習】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は, 模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】レポート「模擬授業の実践」を提出する。
第14回 Session 14	数学科における障害のある生徒への指導, まとめ【講義】【演習】	【予習課題】模擬授業の学習指導案及び「模擬授業の実践」を見直しておく。

授業計画 Overview for each class	「フィードバック方法」 課題(レポート)提出後2～3週間後を目途に, 授業において全体の講評を口頭で伝える。 模擬授業に関する講評は, 実施授業内で授業者に口頭で伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	「授業外学習」内の【予習課題】はその授業に向けて, 【復習課題】はその授業を受講してから取り組むものです。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 IS BN:9784536590129
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:9784762505355
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN: 9784827815580
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所:東山書房 出版年:2019 ISBN: 9784827815672
参考書/Reference books	著者名:澁谷久 タイトル:わかるから楽しい! 中学校数学おもしろ教材コレクション 発行所:明治図書 出版年:2012 ISBN: 9784180606467
	著者名:澁谷久 タイトル:見てふれて, 納得! 中学校数学 おもしろ教材&授業アイデア 発行所:明治図書 出版年:2019 I SBN:9784180697274

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート/Individual reports(04)	40%	
	その他/Others(99)	60%	模擬授業の実践(学習指導案) 40, 学習への取り組み状況など 20
	備考 Note 上記の項目により総合的に評価します。平常レポート, 学習指導案・模擬授業の評価の観点は事前に示します。 オンラインでの受講を許可された学生に対しても, 成績評価方法は変わりません。模擬授業も「Zoomによる同時配信」により実践することになります。		
備考 Note	・[教科書]のうち「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」文部科学省, 2018年, 日本文教出版, 9784536590129 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」文部科学省, 2019年, 学校図書, 9784762505355は毎回持参してください。 ・以下のものを持参するようにしてください(前時に指示します)。 はさみ, カッター, のり, セロハンテープ, 定規, コンパス ・授業中での飲食は禁止しますが, 水分の補給としての飲は可とします。		
添付ファイル1/File Attachement 1	数学科学習指導案型.rtf	説明1/Explanation 1	模擬授業で使用する学習指導案の型です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_192404_1&cmp_tab_id=_228444_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月17日 17時20分56秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期/Spring	水曜1時限	春学期/Spring	IV－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48045002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法C 2／Methods of Teaching Mathematics C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、中学校及び高等学校数学科の指導内容の数学的な価値に根拠を置いて生徒の学びを拓く授業の在り方を考え、授業を構築する技能を高めることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to predicate on mathematical value of instruction contents in mathematics in junior high school and high school, and examine how the lessons which open up students’ studying should be, and to improve the skill to organize the lessons.		
到達目標/Learning Goals	本講義を履修することにより、数学とはどんな学問か、指導する立場からその特性、すなわち、教科書の内容は、数学の本質をどの程度表しているのか、どのような数学的意味や価値をもつのかを捉えることができ、中学校数学科の内容構成とそれに関連する高等学校数学科の内容に即して進め「数学をみる力」と「数学を整理する力」を修得することができる。さらに、創意をもって学習指導案を作成し、授業を実践できる技能を身に付けることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to grasp the characteristic, what the mathematics is, from the instructor’s point of view, that is, how much essence of mathematics the contents of textbooks signify and what mathematical meaning and value they have,based on the contents organization of mathematics in junior high school and the contents of mathematics in high school according to it, and learn “the ability to see mathematics” and “the ability to sort mathematics”.Additionally, the purpose is to make teaching plans with an originality and gain the skill to practice lessons.		
授業の概要・背景 Course Outline	数学教育は、時代や子供の実態により変化し、画一的な方法では限界があることを理解し、そこには教員個々の創造的な営みに期待することが大きいことを捉える。指導と研究を繰り返しながら、新しい数学教育を創る一員としての自覚と意欲を高める。内容を広く構造・体系的に設定し、中学校数学科の各領域における数学とそれに関連する高等学校数学科における数学を見渡す。前半は中学校数学科の「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」各領域の各内容とそれに関連する高等学校数学科の各内容に即し、学問としての数学の基礎を学ぶ。後半は、学習指導案の作成、及び、模擬授業の実践(ICTの活用を含む)により、指導における実践力を高める。		
授業方法 Course Format	講義、議論、演習、発表、グループワーク LUNAに教材(PowerPoint、Word等)を掲示します。		
関連科目/Related Courses	数学科教育法A、数学科教育法B、数学科教育法D		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 学びを拓く授業 教具・学習具 学習指導案 模擬授業 ICT		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	ガイダンス、授業の構成、学びを拓く授業【講義】【演習】	【復習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「中学校数学科の内容の構成」p12,13及び「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容」p15,16を確認する。
第2回 Session 2	中学校数学科の「数と式」領域:「正の数・負の数」、「文字を用いた式」、「文字を用いた式の四則計算」、「平方根」、「式の展開と因数分解」、「一元一次方程式(比例式)」、「連立二元一次方程式」、「二次方程式」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「数と式」(p65-74, p102-107, p133-142)を読む。 【復習課題】中学校数学科の「数と式」領域の内容にかかわる指導法のレポートを提出する。
第3回 Session 3	中学校数学科「数と式」と高等学校数学科「代数」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「代数」に関する部分を読む(内容は第2回の授業で示す)。
第4回 Session 4	中学校数学科の「図形」領域:「平面図形」、「空間図形」、「基本的な平面図形と平行線の性質」、「図形の合同」、「図形の相似」、「円周角と中心角」、「三平方の定理」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「図形」(p74-82, p108-116, p143-151)を読む。 【復習課題】中学校数学科の「図形」領域の内容にかかわる指導法のレポートを提出する。
第5回 Session 5	中学校数学科「図形」と高等学校数学科「幾何」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「図形」に関する部分を読む(内容は第4回の授業で示す)。
第6回 Session 6	中学校数学科の「関数」領域:「比例、反比例」、「一次関数」、「関数y=ax ² 」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「関数」(p82-87, p117-120, p152-154)を読む。
第7回 Session 7	中学校数学科「関数」と高等学校数学科「解析」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「解析」に関する部分を読む(内容は第6回の授業で示す)。
第8回 Session 8	中学校数学科の「データの活用」領域:「データの分布の傾向」、「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率」、「データの分布の比較」、「場合の数を基にして得られる確率」、「標本調査」の中核的概念・原理・法則とその数学的意味や価値、及び、学びを拓く授業のデザイン【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」の「各学年の内容」の中の「データの活用」(p87-94, p120-125, p154-157)を読む。 【復習課題】中学校数学科の「データの活用」領域の内容にかかわる指導法のレポートを提出する。
第9回 Session 9	中学校数学科「データの活用」と高等学校数学科「確率・統計」のつながり【講義】【演習】	【予習課題】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」の「各科目の内容と内容の取扱い」の中の「確率・統計」に関する部分を読む(内容は第8回の授業で示す)。
第10回 Session 10	学習指導案作成のための資料による授業づくりの計画、作成開始【講義】【演習】	【予習課題】事前にLUNAに配信した(「数学科教育法A」では学習済み)「学習指導案の作成について」を読む。 【復習課題】自分が構築する授業の単元を決め、学習指導案

		を作成し、提出する。
第11回 Session 11	中高の数学科における数学的構成の意義(縦断的・横断的視点から)【講義】【演習】	【復習課題】引き続き学習指導案の作成に取り組む。
第12回 Session 12	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅰ【演習】【議論】【発表】 【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第13回 Session 13	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅱ【演習】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第14回 Session 14	数学科における障害のある生徒への指導、まとめ【講義】【演習】	【予習課題】模擬授業の学習指導案及び「模擬授業の実践」を見直しておく。

授業計画 Overview for each class	「フィードバック方法」 課題(リポート)提出後2～3週間後を目途に、授業において全体の講評を口頭で伝える。 模擬授業に関する講評は、実施授業内で授業者に口頭で伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	「授業外学習」内の【予習課題】はその授業に向けて、【復習課題】はその授業を受講してから取り組むものです。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 IS BN:9784536590129
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:9784762505355
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN: 9784827815580
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所:東山書房 出版年:2019 ISBN: 9784827815672
参考書/Reference books	著者名:澁谷久 タイトル:わかるから楽しい! 中学校数学おもしろ教材コレクション 発行所:明治図書 出版年:2012 ISBN: 9784180606467
	著者名:澁谷久 タイトル:見てふれて、納得! 中学校数学 おもしろ教材&授業アイデア 発行所:明治図書 出版年:2019 I SBN:9784180697274

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート／Individual reports(04)	40%	
	その他／Others(99)	60%	模擬授業の実践(学習指導案) 40, 学習への取り組み状況など 20
	備考 Note 上記の項目により総合的に評価します。平常リポート、学習指導案・模擬授業の評価の観点は事前に示します。		
備考 Note	・[教科書]のうち「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」文部科学省、2018年、日本文教出版、9784536590129 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」文部科学省、2019年、学校図書、9784762505355は毎回持参してください。 ・以下のものを持参するようにしてください(前時に指示します)。 はさみ、カッター、のり、セロハンテープ、定規、コンパス ・授業中での飲食は禁止しますが、水分の補給としての飲は可とします。		
添付ファイル1/File Attachement 1	数学科学習指導案型.rtf	説明1/Explanation 1	模擬授業で使用する学習指導案の型です。
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 22時42分09秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜2時限	秋学期／Fall	IV－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48046001	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法D 1／Methods of Teaching Mathematics D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、中学校及び高等学校数学科における授業づくりの観点を鮮明にし、「授業をみる目」、「授業をつくる目」を養うことである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to make the point of lesson planning in mathematics in junior high school and high school clearer, and to cultivate “eyes of watching lessons” and “eyes of lesson planning.”		
到達目標/Learning Goals	本講義を履修することにより、中学校及び高等学校数学科の教科指導の中核となる題材を捉え、課題場面での具体的展開例を考察し、生徒のつまずきに対応できる力を備えることができる。また、学習指導案の作成、及び、模擬授業の実践を通して、学習指導の重みを感じ、理論と実践の往還による授業を確かにみる目、つくる目をもち、授業づくりに対する意欲を高めることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to grasp the theme which is in the center of guidance of school courses of mathematics in junior high school and high school and examine the practical examples of developing in the scene of task and prepare for responding the students’ failures.Also, the purpose is to experience the importance of educational guidance, have eyes which see and make lessons definitely by coming and going of theory and practice through the making of teaching plans and the practice of trial lessons, and to enhance motivation for lesson planning.		
授業の概要・背景 Course Outline	諸調査によると日本の中学生は数学に自信がないとされ、高校生も含め、数学における興味・関心や楽しみの程度は低い。本講義では、数学科各科目で習得した学問としての数学と授業づくりの理論に基づきながら、中学校及び高等学校数学科における「わかって、楽しい」授業を行うために必要な要素を総合的にまとめる。また、数学的教具・学習具の開発、学習指導案の作成、及び、模擬授業(ICTの活用を含む)の実践により、授業づくりの技能を高める。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定しています(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。 講義、議論、演習、発表、グループワーク LUNAに教材(PowerPoint、Word等)を掲載します。 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業のZoomによる同時配信」で対応する予定です。3回目までは音声付パワーポイントでの配信で対応します。LUNAに教材等を掲載します(下記「URLリンク1」)。		
関連科目/Related Courses	数学科教育法A、数学科教育法B、数学科教育法C 「数学科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 教具・学習具の開発 学習指導案 模擬授業 わかって楽しい授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	ガイダンス、授業の構成【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(p6-10)及び「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」(p6-10)の「数学科改訂の趣旨及び要点」を読む。
第2回 Session 2	数学科におけるわかって楽しい授業【講義】【演習】	【復習課題】数学科における「わかって楽しい」授業を行うために必要な要素を総合的にまとめ、授業構築の基盤とする。
第3回 Session 3	数学科の背景となる領域とその関係、教材研究への活用【講義】【演習】【議論】	【復習課題】模擬授業の実践を見通し、教材の開発に活かせる書籍を探し読む。
第4回 Session 4	数学科における課題場面での展開(数学科の教科指導の中核となる題材と課題場面での具体的展開例)【講義】【演習】	【復習課題】授業で扱った題材とは異なる課題場面での具体的展開例を考え、提出する。
第5回 Session 5	数学的教具・学習具とその開発の方法【講義】【演習】	【復習課題】開発する数学的教具または学習具を使用する単元や内容を決める。
第6回 Session 6	数学的教具・学習具の開発【講義】【演習】	【復習課題】数学的教具または学習具を開発し、画像にて提出する(説明リポートを添付する)。
第7回 Session 7	数学科教育における実践研究の動向と授業設計の向上【講義】【演習】【議論】	【復習課題】授業で配付した数学科教育における実践研究に関する資料を読む(読み切れなかった部分)。引き続き数学的教具・学習具の開発に取り組む。
第8回 Session 8	発展的な学習内容についての探究と学習指導への位置付け【講義】【演習】	【予習課題】中学校または高等学校の数学科の教科書における発展的な学習の内容を捉える。
第9回 Session 9	中学校及び高等学校数学科の先生の作成した学習指導案からの学び、授業づくりの計画、学習指導案の作成開始、グループによる模擬授業実践の計画【講義】【演習】【議論】【グループワーク】	【復習課題】LUNAに配信した(「数学科教育法A」では学習済み)「学習指導案の作成について」を読む。自分が構築する授業の単元を決め、学習指導案を作成し、提出する。
第10回 Session 10	数学科の場面指導にかかわる問題への取り組み【講義】【演習】	【復習課題】引き続き学習指導案の作成に取り組む。
第11回 Session 11	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅰ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第12回 Session 12	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅱ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第13回 Session 13	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅲ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第14回	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅳ、まとめ【演習】【議論】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行

第14回 Session 14	【発表】【グループワーク】 う。 【復習課題】レポート「模擬授業の実践」を提出する。
--------------------	--

授業計画 Overview for each class	「フィードバック方法」 課題(レポート)、開発した教具・学習具の提出後2～3週間後を目途に、授業において全体の講評を口頭で伝える。 模擬授業についての講評は、実施授業内で授業者に口頭で伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	「授業外学習」内の【予習課題】はその授業に向けて、【復習課題】はその授業を受講してから取り組むものです。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 IS BN:9784536590129 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:9784762505355 著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN: 9784827815580 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所:東山書房 出版年:2019 ISBN: 9784827815672
参考書/Reference books	著者名:澁谷久 タイトル:わかるから楽しい! 中学校数学おもしろ教材コレクション 発行所:明治図書 出版年:2012 ISBN: 9784180606467 著者名:澁谷久 タイトル:見てふれて、納得! 中学校数学 おもしろ教材&授業アイデア 発行所:明治図書 出版年:2019 I SBN:9784180697274

	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
成績評価 Grading	平常レポート/Individual reports(04)	50%	平常レポート 20, 教具・学習具の開発 30
	その他/Others(99)	50%	模擬授業の実践(学習指導案) 30, 学習への取り組み状況など 20
	備考 Note		
	上記の項目により総合的に評価します。平常レポート、教具・学習具の開発、学習指導案・模擬授業の評価の観点は事前に示します。 オンラインでの受講を許可された学生に対しても、成績評価方法は変わりません。模擬授業も「Zoom!による同時配信」により実践することになります。		
備考 Note	・[教科書]のうち「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」文部科学省、2018年、日本文教出版、9784536590129 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」文部科学省、2019年、学校図書、9784762505355は毎回持参してください。 ・以下のものを持参するようにしてください(前時に指示します)。 はさみ、カッター、のり、セロハンテープ、定規、コンパス ・授業中での飲食は禁止しますが、水分の補給としての飲は可とします。		
添付ファイル1/File Attachment 1	数学科学習指導案型.rtf	説明1/Explanation 1	模擬授業で使用する学習指導案の型です。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_198766_1&cmp_tab_id=_234806_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月17日 17時20分03秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期/Spring	木曜4時限	春学期/Spring	IV-203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48046002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】数学科教育法D 2／Methods of Teaching Mathematics D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、中学校及び高等学校数学科における授業づくりの観点を鮮明にし、「授業をみる目」、「授業をつくる目」を養うことである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to make the point of lesson planning in mathematics in junior high school and high school clearer, and to cultivate “eyes of watching lessons” and “eyes of lesson planning.”		
到達目標/Learning Goals	本講義を履修することにより、中学校及び高等学校数学科の教科指導の中核となる題材を捉え、課題場面での具体的展開例を考察し、生徒のつまずきに対応できる力を備えることができる。また、学習指導案の作成、及び、模擬授業の実践を通して、学習指導の重みを感じ、理論と実践の往還による授業を確かにみる目、つくる目をもち、授業づくりに対する意欲を高めることを目標とする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to grasp the theme which is in the center of guidance of school courses of mathematics in junior high school and high school and examine the practical examples of developing in the scene of task and prepare for responding the students’ failures.Also, the purpose is to experience the importance of educational guidance, have eyes which see and make lessons definitely by coming and going of theory and practice through the making of teaching plans and the practice of trial lessons, and to enhance motivation for lesson planning.		
授業の概要・背景 Course Outline	諸調査によると日本の中学生は数学に自信がないとされ、高校生も含め、数学における興味・関心や楽しみの程度は低い。本講義では、数学科各科目で習得した学問としての数学と授業づくりの理論に基づきながら、中学校及び高等学校数学科における「わかって、楽しい」授業を行うために必要な要素を総合的にまとめる。また、数学的教具・学習具の開発、学習指導案の作成、及び、模擬授業(ICTの活用を含む)の実践により、授業づくりの技能を高める。		
授業方法 Course Format	講義、議論、演習、発表、グループワーク LUNAに教材(PowerPoint、Word等)を掲示します。		
関連科目/Related Courses	数学科教育法A、数学科教育法B、数学科教育法C		
検索キーワード/Keywords	数学科教育 学習指導要領 教具・学習具の開発 学習指導案 模擬授業 わかって楽しい授業		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	ガイダンス、授業の構成【講義】【演習】	【予習課題】「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(p6-10)及び「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」(p6-10)の「数学科改訂の趣旨及び要点」を読む。
第2回 Session 2	数学科におけるわかって楽しい授業【講義】【演習】	【復習課題】数学科における「わかって楽しい」授業を行うために必要な要素を総合的にまとめ、授業構築の基盤とする。
第3回 Session 3	数学科の背景となる領域とその関係、教材研究への活用【講義】【演習】【議論】	【復習課題】模擬授業の実践を見直し、教材の開発に活かせる書籍を探し読む。
第4回 Session 4	数学科における課題場面での展開(数学科の教科指導の中核となる題材と課題場面での具体的展開例)【講義】【演習】	【復習課題】授業で扱った題材とは異なる課題場面での具体的展開例を考え、提出する。
第5回 Session 5	数学的教具・学習具とその開発の方法【講義】【演習】	【復習課題】開発する数学的教具または学習具を使用する単元や内容を決める。
第6回 Session 6	数学的教具・学習具の開発【講義】【演習】	【復習課題】数学的教具または学習具を開発し、画像にて提出する(説明リポートを添付する)。
第7回 Session 7	数学科教育における実践研究の動向と授業設計の向上【講義】【演習】【議論】	【復習課題】授業で配付した数学科教育における実践研究に関する資料を読む(読み切れなかった部分)。引き続き数学的教具・学習具の開発に取り組む。
第8回 Session 8	発展的な学習内容についての探究と学習指導への位置付け【講義】【演習】	【予習課題】中学校または高等学校の数学科の教科書における発展的な学習の内容を捉える。
第9回 Session 9	中学校及び高等学校数学科の先生の作成した学習指導案からの学び、授業づくりの計画、学習指導案の作成開始、グループによる模擬授業実践の計画【講義】【演習】【議論】【グループワーク】	【復習課題】LUNAに配信した(「数学科教育法A」では学習済み)「学習指導案の作成について」を読む。自分が構築する授業の単元を決め、学習指導案を作成し、提出する。
第10回 Session 10	数学科の場面指導にかかわる問題への取り組み【講義】【演習】	【復習課題】引き続き学習指導案の作成に取り組む。
第11回 Session 11	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅰ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第12回 Session 12	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅱ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第13回 Session 13	グループによる模擬授業の実践と考察Ⅲ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。
第14回 Session 14	ループによる模擬授業の実践と考察Ⅳ、まとめ【演習】【議論】【発表】【グループワーク】	【予習課題】授業者は、模擬授業のトライアウト(予備実践)を行う。 【復習課題】リポート「模擬授業の実践」を提出する。

授業計画 Overview for each class	「フィードバック方法」 課題(レポート), 開発した教具・学習具の提出後2～3週間後を目途に, 授業において全体の講評を口頭で伝える。 模擬授業についての講評は, 実施授業内で授業者に口頭で伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	「授業外学習」内の【予習課題】はその授業に向けて, 【復習課題】はその授業を受講してから取り組むものです。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編 発行所:日本文教出版 出版年:2018 IS BN:9784536590129
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編 発行所:学校図書 出版年:2019 ISBN:9784762505355
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所:東山書房 出版年:2018 ISBN: 9784827815580
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所:東山書房 出版年:2019 ISBN: 9784827815672
参考書/Reference books	著者名:澁谷久 タイトル:わかるから楽しい! 中学校数学おもしろ教材コレクション 発行所:明治図書 出版年:2012 ISBN: 9784180606467
	著者名:澁谷久 タイトル:見てふれて, 納得! 中学校数学 おもしろ教材&授業アイデア 発行所:明治図書 出版年:2019 I SBN:9784180697274

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	平常レポート 20, 教具・学習具の開発 30	
	その他／Others(99)	50%	模擬授業の実践(学習指導案) 30, 学習への取り組み状況など 20	
	備考 Note			
	上記の項目により総合的に評価します。平常レポート, 教具・学習具の開発, 学習指導案・模擬授業の評価の観点は事前に示します。			
備考 Note	・[教科書]のうち「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」文部科学省, 2018年, 日本文教出版, 9784536590129 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編」文部科学省, 2019年, 学校図書, 9784762505355は毎回持参してください。 ・以下のものを持参するようにしてください(前時に指示します)。 はさみ, カッター, のり, セロハンテープ, 定規, コンパス ・授業中での飲食は禁止しますが, 水分の補給としての飲は可とします。			
添付ファイル1/File Attachment 1	数学科学学習指導案型.rtf		説明1/Explanation 1	模擬授業で使用する学習指導案の型です。
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 23時16分10秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期/Fall	木曜3時限	秋学期/Fall	IV-202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48047000	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】情報科教育法A/Methods of Teaching Information A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	畑井 克彦(HATAI KATSUHIKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校教科「情報」について、この科目で教育すべき授業内容についての理解を深め、授業を実践できるようにする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is to obtain and be ale to apply content knowledge, teaching and assessment methods of the high school subject "Information".		
到達目標/Learning Goals	高等学校における情報教育の意義を理解し、情報教育情報科の教員としての幅広い知識・意識・技能・態度を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Understand the importance/significance of Informatics education and obtain broad knowledge and various teaching methods to be an effective teacher of high school subject "Information".		
授業の概要・背景 Course Outline	社会の情報化に対応するため2003年から教科情報が設置された。情報社会において信頼のネットワークが求められている。ICT技術にも精通しながら、情報社会の進展についての大きな方向性を見定める力が求められている。各自が情報端末(スマートフォンなど)を持つ時代では、一人の呼びかけによって社会的に大きな事柄を成し遂げることが可能である。このような時代に「自己実現できる生徒」を導ける教師を目指す講座である。		
	2022年度より新学習指導要領での実施になる。1年先行的に情報ⅠとⅡに取り組む。		
授業方法 Course Format	対面授業。 【オンライン受講生対象】所属学部 to オンラインでの受講を認められた学生は、科目のホームページ示したZoomでの受講をすること。		
	講義と個人・グループによる課題プロジェクト学習およびプレゼン、討議を組み合わせた "Active Learning" を実践する。模擬授業を数多く実施し、経験が積めるようにしている。		
	いたまちSNS(http://sns.itamachi.jp/)をリフレクションや課題提出に活用する。授業後に提出を行い、受講生相互による対話を促進していく。教育関係情報(書籍・ネット・研究会)を相互に情報提供し合い、創発的に授業を進めることをねらっている。		
	アフター・ウィズコロナ時代のオンライン授業に積極的に取り組む。		
関連科目/Related Courses	情報科教育法B		
検索キーワード/Keywords	情報活用の実践力/情報の科学的理解/情報社会に参画する態度/Active Learning/模擬授業/社会構成主義/質的研究		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	授業概要、参加型・プロジェクト学習、模擬授業等についてのオリエンテーション いたまちSNSへ登録 学びの経験をストーリー化し共有。	授業のリフレクションと課題(0.5h) いたまちSNSへの投稿(以下略)
第2回 Session 2	今後の更なる「Society5.0」で求められる資質・能力(コンピテンシー等) 学習指導要領における教科情報の科目編成の理念と内容構成① 高校での「地域連携授業」の実践紹介、1分間スピーチ①	授業のリフレクションと課題(0.5h) 学習指導要領の事前学習(0.5h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第3回 Session 3	教科「情報」で育成すべき資質・能力 学習指導要領における教科情報の科目編成の理念と内容構成② マイクロティーチング① 一分間スピーチ②	授業のリフレクションと課題(0.5h) マイクロティーチング指導案の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第4回 Session 4	教員研修用教材-序章 「年間指導計画」作成の理念と方法 「単元指導計画」作成の理念と方法 マイクロティーチング②	授業のリフレクションと課題(0.5h) マイクロティーチング指導案の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第5回 Session 5	教員研修用教材-第1章 「各校時の指導計画(教案)」作成の理念と方法 学習指導要領における科目「情報Ⅰ」の内容と取り扱い マイクロティーチング③	授業のリフレクションと課題(0.5h) マイクロティーチング授業の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第6回 Session 6	教員研修用教材-第2章 マイクロティーチングから得られたことのまとめ	授業のリフレクションと課題(0.5h) 学習指導要領の事前学習(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第7回 Session 7	教員研修用教材-第3章① 模擬授業①:「情報Ⅰ」	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第8回 Session 8	教員研修用教材-第3章② 模擬授業②:「情報Ⅰ」	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第9回 Session 9	教員研修用教材-第4章① 模擬授業③:「情報Ⅰ」	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h)) 種々の教育問題についてテーマを準備(0.5h)
第10回 Session 10	種々の教育問題についてテーマ設定し対話 指導案の改良版提出について	授業のリフレクションと課題(0.5h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第11回	教員研修用教材-第4章②	授業のリフレクションと課題(0.5h)

第11回 Session 11	模擬授業④:「情報Ⅰ」	模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材の事前学習(1h)
第12回 Session 12	模擬授業⑤:「情報Ⅰ」 Gergen『現実はいつも対話から生まれる』(情報科教育法Bの教科書)について 教育実践を支える考え方について 斉藤喜博『授業入門』、国土社について	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h)
第13回 Session 13	模擬授業⑥:「情報Ⅰ」 模擬授業についてのリフレクション	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業全体を通じたリフレクション(1h)
第14回 Session 14	授業全体のまとめと振り返り;今後の情報科教育の展望、情報科教員の課題と期待	得られたことの総括(0.5h) 最終レポートの提出(1h)

授業外学習 Study Required outside Class	初回の授業については、科目のホームページの「お知らせ」で確認すること。
---------------------------------------	-------------------------------------

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説情報編(平成30年告示) 発行所:開隆館出版販売 出版年:2019 ISBN:978-4304021633 著者名:文部科学省 タイトル:「情報Ⅰ」教員研修用教材(本編) 発行所: 出版年:2020 ISBN:
参考書/Reference books	著者名:K.J.Gergen、L.Hersted タイトル:ダイアログ・マネジメント 発行所:ディスカバー・トゥエンティワン 出版年:2015 IS BN:978-4-7993-1816-4 著者名:K.J.Gergen,M.Gergen タイトル:現実はいつも対話から生まれる 発行所:ディスカバー・トゥエンティワン 出版年:2018 ISBN:978-4-7993-2356-4
参考文献・資料 Reference books	授業で適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	40%	マイクロ授業・模擬授業(指導案等を含む)
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	リフレクションと他者へのコメントなど
	その他／Others(99)	20%	教育課題の対話、レポート その他
備考 Note	以下のリンクの資料を事前に読んでおくこと。 インターネットやTV(WBSなどで我が国における情報教育の現状と課題について情報収集に心掛けること。 特に、社会構成主義や質的研究についての知識を広く収集し、模擬授業の参考とすること		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195338_1&cmp_tab_id=_231378_1&editMode=true&mode=cpview		
URLリンク2/URL 2	https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/		
URLリンク3/URL 3	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 19時49分41秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜5時限	春学期／Spring	II-112

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48048000	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】情報科教育法B／Methods of Teaching Information B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	畑井 克彦(HATAI KATSUHIKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	高等学校教科「情報」について、この科目で教育すべき授業内容についての理解を深め、授業実践できるようにする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is to obtain and be ale to apply content knowledge, teaching and assessment methods of the high school subject “Information”.		
到達目標/Learning Goals	高等学校における情報教育の意義を理解し、情報教育情報科の教員としての幅広い知識・意識・技能・態度を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Understand the importance/significance of Informatics education and obtain broad knowledge and various teaching methods to be an effective teacher of high school subject “Information”.		
授業の概要・背景 Course Outline	社会の情報化に対応するため2003年から教科情報が設置された。情報社会において信頼のネットワークが求められている。ICT技術にも精通しながら、情報社会の進展についての大きな方向性を見定める力が求められている。各自が情報端末(スマートフォンなど)を持つ時代では、一人の呼びかけによって社会的に大きな事柄を成し遂げることが可能である。このような時代に「自己実現できる生徒」を導ける教師を目指す講座である。 2022年度より新学習指導要領での実施になる。1年先行的に情報ⅠとⅡに取り組む。(情報Ⅱの実施は2023年度から)		
授業方法 Course Format	講義と個人・グループによる課題プロジェクト学習およびプレゼン、討議を組み合わせた “Active Learning” を実践する。模擬授業を数多く実施し、経験が詰めるようにしている。 いたまちSNS(http://sns.itamachi.jp/)をリフレクションや課題提出に活用する。授業後に提出を行い、受講生相互による対話を促進していく。教育関係情報(書籍・ネット・研究会)を相互に情報提供し合い、創発的に授業を進めることをねらっている。 アフター・ウィズコロナ時代のオンライン授業に積極的に取り組む。		
関連科目/Related Courses	情報科教育法A		
検索キーワード/Keywords	情報活用の実践力/情報の科学的理解/情報社会に参画する態度/Active Learning/模擬授業/社会構成主義/質的研究		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	授業概要、参加型・プロジェクト学習、模擬授業等についてのオリエンテーション いたまちSNSへ未登録者の登録 学びの経験をストーリー化し共有。	授業のリフレクションと課題(0.5h) いたまちSNSへの投稿(以下略)
第2回 Session 2	今後の更なる「Society5.0」で求められる資質・能力(コンピテンシー等) 「自己分析」の実施 教員研修用教材について	授業のリフレクションと課題(0.5h) 学習指導要領の事前学習(0.5h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第3回 Session 3	教員研修用教材―第1章 マイクロティーチング①、	授業のリフレクションと課題(0.5h) マイクロティーチング指導案の準備(0.5h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第4回 Session 4	教員研修用教材―第2章 マイクロティーチング②、	授業のリフレクションと課題(0.5h) マイクロティーチング指導案の準備(0.5h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第5回 Session 5	教員研修用教材―第3章 マイクロティーチング③、	授業のリフレクションと課題(0.5h) マイクロティーチング授業の準備(0.5h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第6回 Session 6	マイクロティーチングから得られたことのまとめ 教員研修用教材―第4章	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第7回 Session 7	模擬授業①:「情報Ⅱ」 教員研修用教材―第5章①	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第8回 Session 8	模擬授業②:「情報Ⅱ」 教員研修用教材―第5章②	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 教員研修用教材について事前学習(1h)
第9回 Session 9	模擬授業③:「情報Ⅱ」 現実対話(現実はいつも対話から生まれる)1章	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 現実はいつも対話から生まれるの事前学習(1h)
第10回 Session 10	種々の教育問題についてテーマ設定し対話 現実対話2章	授業のリフレクションと課題(0.5h) 現実はいつも対話から生まれるの事前学習(1h)
第11回 Session 11	模擬授業④:「情報Ⅱ」 現実対話3章	授業のリフレクションと課題(0.5h) 現実はいつも対話から生まれるの事前学習(1h) 模擬授業の準備(1h)
第12回 Session 12	模擬授業⑤:「情報Ⅱ」 現実対話4章	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業の準備(1h) 現実はいつも対話から生まれるの事前学習
第13回 Session 13	模擬授業⑥:「情報Ⅱ」 現実対話5章	授業のリフレクションと課題(0.5h) 模擬授業全体を通じたリフレクション(1h)
第14回	授業全体のまとめと振り返り;今後の情報科教育の展望、情報	得られたことの総括(1h)

Session 14	科教員の課題と期待	最終レポートの提出(1h)
------------	-----------	---------------

授業外学習 Study Required outside Class	初回の授業については、科目のホームページで、「お知らせ」で確認すること。
---------------------------------------	--------------------------------------

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:「情報Ⅱ」教員研修用教材(本編) 発行所: 出版年:2020 ISBN: 著者名:K.J.Gergen,M.Gergen タイトル:現実はいつも対話から生まれる 発行所:ディスカバー・トゥエンティワン 出版年:2018 ISBN:978-4-7993-2356-4
参考書/Reference books	著者名:岡本 敏雄, 高橋 参吉他 タイトル:情報科教育法 第2版 発行所:丸善出版 出版年:2015 ISBN:978-4621089071 著者名:K.J.Gergen, L.Hersted タイトル:ダイアログ・マネジメント 発行所:ディスカバー・トゥエンティワン 出版年:2015 IS BN:978-4-7993-1816-4
参考文献・資料 Reference books	授業で適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	40%	マイクロ授業・模擬授業(指導案等を含む)
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	リフレクションと他者へのコメントなど
	その他／Others(99)	20%	教育課題の対話、レポート その他
備考 Note	以下のリンクの資料を事前に読んでおくこと。 インターネットやTV(WBSなどで我が国における情報教育の現状と課題について情報収集に心掛けること。 特に、社会構成主義や質的研究についての知識を広く収集し、模擬授業の参考とすること		
URLリンク2/URL 2	https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/		
URLリンク3/URL 3	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00742.html		
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 23時19分54秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜5時限	秋学期／Fall	II-112

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48049000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】保健体育科教育法A／Methods of Teaching Health and Physical Education A		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	松田 雅彦(MATSUDA MASAHIKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業がめざすのは、保健体育科の方向性と目標をふまえ、それをめざしたカリキュラムのあり方を理解することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students is to understand the goals, objectives, content, and curriculum of the subject of health and physical education in (junior) high school education.		
到達目標/Learning Goals	1. 人間の成長と学習の関係について理解すること 2. 保健体育科の目標の変遷とこれからの方向性について知る 3. 目的—内容—方法—評価という学習サイクルに基づいた学習指導のあり方について理解する		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the relationship between growth and learning of humans, b) understand the history and future of health and physical education in schools with a focus on its objectives, c) understand teaching approaches based on the cyclic relationship between goals, content, methods, and evaluations.		
授業方法 Course Format	1～3回目は、オンデマンドA型オンライン授業で実施する。 教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお4回目以降は講義とグループワークによる対面授業で実施予定。(変更があれば授業中もしくはLUNAで指示する) 配慮対象学生への対応については備考欄に追記する。		
検索キーワード/Keywords	体育 保健 プレイ論		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション 学校のいまここ	【予習課題】学習指導要領の保健体育の内容を読んでおくこと 【復習課題】配布したプリントを再読して学校の現状を把握する
第2回 Session 2	人間の成長と学習について(1)資料分析と教材研究 宮崎作品「千と千尋の神隠し」に見る人間の成長と学習その1 (千と千尋、前半)	【予習課題】以前に本映画を見たことがある人は、なるべく全体像を思い出しておくこと 【復習課題】映画の前半について構成を整理しておく
第3回 Session 3	人間の成長と学習について(2)議論 宮崎作品「千と千尋の神隠し」に見る人間の成長と学習その2 (千と千尋、後半)	【予習課題】作品のストーリーをもとに教育との関係について考えておく 【復習課題】前回の内容も含め映画の全体についての構成について教育という視点から整理しておく
第4回 Session 4	「自己－ヒト－モノ」の世界と学習・成長の関係について グループワークおよび発表	講義の終わりに議論について整理し、発表内容及び前回までの学習の講評をする。 【予習課題】人物と場所を中心にしてメタメッセージについて考えておくこと 【復習課題】授業内のワークでの内容に関してメタメッセージを自分なりに整理する
第5回 Session 5	体育のねらいとしてのメタ認知 体育における学習過程の比較から体育の目標を読み解く	【予習課題】自分が体験した体育の授業の目標について考えておく 【復習課題】講師で学習した体育の目標にふさわしい内容とは何かを考えておく
第6回 Session 6	体育の目標論(1) 目標と学習過程の関係	【予習課題】学習過程とは何かを調べておく 【復習課題】授業で紹介した2つの学習過程がなぜ導き出されたかを考えておく
第7回 Session 7	体育の目標論(2) 目標と内容の関係	提出物などから学習過程の違いと目的の関係に関して講評する。 【予習課題】スポーツを楽しむことのないようにに関して自分なりに整理しておく 【復習課題】スポーツの楽しさを説明で切るようにまとめておくこと
第8回 Session 8	体育の目標論(3) プレイ論と体育の目標	目的論に関しての提出物の内容に関して講評する。 【予習課題】スポーツの語源について調べておく 【復習課題】遊びとスポーツの関係を再度整理しておくこと
第9回 Session 9	学習内容論(1) (体育の特性論を中心に学習する)	提出物からプレイと体育に関して講評する 【予習課題】体育の目的論に関しての理解を深めておく 【復習課題】人間がスポーツに引き込まれる魅力について自分なりの意見を持っておく 【復習課題】ダンスとスポーツの特性についてまとめておくこと
第10回 Session 10	子どもから見た特性と学習の手がかり(情報機器・教材の活用を含む)	【予習課題】自分が生徒だったときに面白かった授業を思い出しておくこと 【復習課題】子どもの様子に授業を合わせることの意義について再確認しておくこと
第11回 Session 11	学習指導案作成を目標にした学習のねらいの設定と学習過程(情報機器・教材の活用を含む)	【予習課題】学習過程論を再度読み返すこと 【復習課題】授業構成の手がかりと子供から見た特性の関係に関して振り返りをしておくこと
第12回 Session 12	体育の評価 「診断的評価・形成的評価・総括的評価」「絶対評価と相対評価」	前回までの学習指導案作成のポイントについて提出物の内容をふまえて講評する 【予習課題】自分が生徒だったときの体育の評価方法について思い出しておくこと

		【復習課題】絶対評価と相対評価およびルーブリックについて説明できるように振り返りを行うこと
第13回 Session 13	保健学習の考え方	【予習課題】自分が生徒だったときに面白かった保険授業について其の理由を考えておくこと 【復習課題】保健の目標と教科書の内容に関して再確認しておくこと
第14回 Session 14	保健学習の実際(プレゼンテーションとディベート)及び春学期のまとめ	【予習課題】アクティブラーニングについて調べておくこと 【復習課題】授業の進め方と評価のあり方に関して振り返りを行うこと 保健体育の考え方について自分の考えをまとめること

授業外学習 Study Required outside Class	学習指導要領及び学習指導要領解説を熟読し、体育分野及び保健分野の学習指導のあり方について事前に理解をふかめておくこと LUNAの掲示板をつかわない形で連絡を取りたい場合には、下記のアドレスにメールください。その場合、タイトルには関西学院大学の学生であることを明示すること。 masahiko@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
---------------------------------------	---

教科書 Required texts	中学校・高等学校の学習指導要領(最新版)および解説は各自で購入しておくこと その他については授業の中で紹介する
参考書/Reference books	著者名: 杉山重利・園山和夫 タイトル: 最新保健体育科教育法 発行所: 大修館書店 出版年: 2008 ISBN: 著者名: 杉山重利・佐藤豊・園山和夫 タイトル: めざそう! 保健体育教師 発行所: 朝日出版 出版年: 2010 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	学習指導要領および解説(最新版)及び解説
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	関西学院大学の方法による

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	50%	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	備考 Note 平常レポートと授業中試験により評価する。2/3の出席を求める。 コロナウイルスの感染状況の変化によっては実施ができない場合には、レポートなどにより代替える。 配慮対象学生に関しては授業中試験に代わるレポートで対応する。		
備考 Note	配慮対象学生については、4回目以降もビデオデマンドA型オンライン授業で対応する。詳細は適宜LUNAで指示する。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 17時07分17秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜5時限	春学期／Spring	G-119

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48050000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】保健体育科教育法B／Methods of Teaching Health and Physical Education B		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	松田 雅彦(MATSUDA MASAHICO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業は、保健体育科の目標・内容・方法・評価の理解の上に、授業設計を身につけることをめざす。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to develop the skills needed to make teaching plans for health and physical education in (junior) high school.		
到達目標/Learning Goals	1. 学習指導案を作成することができる 2. テーマとしての単元のとらえ方を理解する 3. 模擬授業を通して教授スキルを向上させるとともに、学習指導の構造について理解する		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) make teaching plans for the school subject of health and physical education, b) understand how to grasp learning units as the themes of health and physical education, c) develop their teaching skills and understand the structure of teaching-learning, through trial classes.		
授業方法 Course Format	講義形式と個人活動・グループワークおよび発表		
検索キーワード/Keywords	楽しい体育 学習指導案 体育 保健		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	体育の三つの目標論	【予習課題】体育の目標論について予習する 【復習課題】体育の3つの目標の関連性について振り返りをする
第2回 Session 2	体育の学習過程論	【予習課題】体育の学習過程のタイプについて予習しておくこと 【復習課題】学習過程の決定プロセスについて振り返り学習をすること
第3回 Session 3	体育の教材研究と学習指導案の作成方法	【予習課題】単元全体の構成について予習しておくこと 体育の目的・内容・方法の一貫性に関して提出物などを参考に講評する 【復習課題】指導案作成において学習目的・内容と単元構成のあり方に関して具体的に考えておくこと
第4回 Session 4	個別運動領域(体づくり・個人競技・知識等)の指導(1)学習指導案実践	【予習課題】個人種目の教材研究をしておくこと 【復習課題】他の学生の指導案と授業構成の違いについて整理しておくこと
第5回 Session 5	個別運動領域(体づくり・個人競技・知識等)の指導(2)グループ活動(模擬授業の展開)	発表等の終了後に内容について講評する 【予習課題】前回の学習における単元構成の多様性について考え、合意プロセスを考えておくこと 【復習課題】それぞれの指導案構成メリットとデメリットについてまとめておくこと
第6回 Session 6	個別運動領域(対人競技・武道ダンス等)の指導(1)学習指導案実践	【予習課題】対人種目・武道ダンスの教材研究をしておくこと 【復習課題】他の学生の指導案と授業構成の違いについて整理しておくこと
第7回 Session 7	個別運動領域(対人競技・武道ダンス等)の指導(2)グループ活動(模擬授業の展開)	発表等の終了後に内容について講評する 【予習課題】前回の学習における単元構成の多様性について考え、合意プロセスを考えておくこと 【復習課題】それぞれの指導案構成メリットとデメリットについてまとめておくこと
第8回 Session 8	個別運動領域(球技種目等)の指導(1)学習指導案実践	【予習課題】球技種目の教材研究をしておくこと 【復習課題】他の学生の指導案と授業構成の違いについて整理しておくこと
第9回 Session 9	個別運動領域(球技種目等)の指導(2)グループ活動(模擬授業の展開)	発表等の終了後に内容について講評する 【予習課題】前回の学習における単元構成の多様性について考え、合意プロセスを考えておくこと 【復習課題】それぞれの指導案構成メリットとデメリットについてまとめておくこと
第10回 Session 10	体育の評価のあり方	【予習課題】体育の評価の種類について予習しておくこと 【復習課題】評価の時期と内容および機能について振り返りをして、まとめておくこと
第11回 Session 11	体育の選択制授業およびテーマ単元の可能性について	評価に関する提出物の講評をする 【予習課題】スポーツ文化について説明できるように予習する 【復習課題】具体的なテーマを複数考えること
第12回 Session 12	保健の教材研究と学習指導(情報機器・教材の活用を含む)について	【予習課題】健康の定義について予習しておくこと 【復習課題】保健の各領域をクロスするテーマについて考えておくこと
第13回 Session 13	保健授業の実際(1)ディベートの論点	【予習課題】新聞記事などで保健のディベートのテーマになるような内容を調べておくこと 【復習課題】ディベートのテーマに関する本質課題について自分の考えを整理しておくこと
第14回 Session 14	保健授業の実際(2)ディベートを取り入れた授業づくりおよび秋学期のまとめ	前回の授業の提出物について講評する 【予習課題】テーマに関連する情報を収集しておくこと 【復習課題】今回の授業で足りなかった情報を収集しておくこと 秋学期全体について自分なりにまとめておくこと

教科書 Required texts	学習指導要領および学習指導要領解説(最新版)については各自で購入しておくこと その他については授業の中で紹介します
参考文献・資料 Reference books	学習指導要領および学習指導要領解説(最新版)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	関西学院大学の方法による

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	60%	
	その他／Others(99)	40%	グループワークの活動成果や授業への積極性など
	備考 Note 平常レポート及び授業中の提出物などにより総合的に評価する。 正当な理由なく欠席した場合は減点対象となる。全体の2/3の出席を求める。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_178934_1&cmp_tab_id=_207801_1&mode=view		
更新日時/Date of Update	2021年01月26日 12時14分23秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜5時限	秋学期／Fall	G－119

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48051000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】保健体育科教育法C／Methods of Teaching Health and Physical Education C		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	中須賀 巧(NAKASUGA TAKUMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義は、体育で取り扱う運動やスポーツ(素材)が持つ学習内容(教材観)について理解を深めることを目的とする。また保健体育科に求められる学力や体育に臨む生徒の心理社会的要因などにも触れながら学習する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand of the learning contents (view of teaching materials) of sports and sports (materials) handled in physical education. In addition, Students learn about the academic skills needs for physical education and the psychosocial factors of children engaged in physical education.		
到達目標/Learning Goals	保健体育科に求められる学力、子どものやる気を高める心理社会的要因、指導要領に示されている運動・スポーツが持つ学習内容(教材観)について理解を深め、さらに自己の考えや意見を持ち、説明することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will their understand of the academic skills needed for physical education, psychosocial factors that increase children's motivation, and the learning content (view of teaching materials) of exercise and sports. In addition, they have their own thoughts and opinions and can explain.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 【オンライン受講生対象】4回目以降の授業方法の詳細については授業中あるいはLUNA等で別途指示する。		
関連科目/Related Courses	「保健体育科教育法A」を修得済または並行して履修することが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	保健体育科、各領域の目標および内容の理解	
第2回 Session 2	現代に求められる学力と保健体育との関連	
第3回 Session 3	保健体育授業に取り組む生徒の実態と問題	
第4回 Session 4	様々な二極化現象の実態と体育授業の関連	
第5回 Session 5	生涯スポーツと体育授業について	
第6回 Session 6	体育における楽しさ・面白さの理解と問題	
第7回 Session 7	教材観・生徒観・指導観の「観」のもつ意味	
第8回 Session 8	教材観の構築と種目理解①体づくり運動	
第9回 Session 9	教材観の構築と種目理解②器械運動	
第10回 Session 10	教材観の構築と種目理解③陸上競技	
第11回 Session 11	教材観の構築と種目理解④水泳	
第12回 Session 12	教材観の構築と種目理解⑤球技	
第13回 Session 13	教材観の構築と種目理解⑥武道	
第14回 Session 14	教材観の構築と種目理解⑦ダンス	

授業外学習 Study Required outside Class	予習:各回の最後に次回の内容について予告する。その内容について著書、論文、ネット記事などから情報を収集しておくこと。 復習:各回で取り組んだ内容を整理し、自己の意見や考えを含め、まとめシートを作成しておくこと。
---------------------------------------	--

参考文献・資料 Reference books	学習指導要領および解説 中学校・高等学校の学習指導要領および解説(保健体育科)は各自購入しておくこと。
----------------------------	--

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常レポート／Individual reports(04)	60%	キャンパス(あるいはオンライン)による毎回の課題レポートによって評価	
	その他／Others(99)	40%	キャンパス(あるいはオンライン)による最終レポートによって評価	
添付ファイル1/File Attachment 1	学習指導要領解説(中学校保健体育編)平成29年7月.pdf		説明1/Explanation 1	中学校学習指導要領解説保健体育編
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_184749_1&cmp_tab_id=_213616_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 05時58分44秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜4時限	春学期／Spring	G－106

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48052000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【300】保健体育科教育法D／Methods of Teaching Health and Physical Education D		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	中須賀 巧(NAKASUGA TAKUMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義では、保健体育科で取り扱う内容の教材観(何を教え、学ばせるのかといった学習内容)を中核とした授業を計画する。また模擬授業では、省察(授業分析)や指導と評価の一体化について理解を深める。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purposes of this course is for students to planned of simulated lesson focus the view of teaching materials (learning contents such as what to teach and learn) in the contents handled in physical education. In addition, for students understand of the reflection and the evaluation for simulated lesson.		
到達目標/Learning Goals	教材観(学習内容)について自己の考えや意見を持ち、説明ができる。教材観・生徒観・指導観について考え、指導案を作成できる。模擬授業を省察し、自己および他者の授業改善点や工夫について提案・説明ができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire have their own thoughts and opinions on teaching material views (learning contents) and will be able to explain, think about teaching material views, student views, and teaching views, and will be able to create lesson plans, reflect on simulated lessons, and propose and explain will be able to self- and others' lessons improvement points and ideas,		
授業方法 Course Format	授業は一斉型講義形式とグループディスカッション形式の両方を学習の進捗状況もみながら行っていく。また模擬授業を行い、意見発表の機会も設ける。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	教材観①:素材・学習内容・教材の関連	
第2回 Session 2	教材観②:あなたは体育で何を教えるの	
第3回 Session 3	教材観③:学習内容から教材へ	
第4回 Session 4	教材観④:学習内容と評価の密接なつながり	
第5回 Session 5	生徒観:生徒理解に向けた多様な視点	
第6回 Session 6	指導観:多様な指導実践事例についての紹介	
第7回 Session 7	学習指導案の作成と検討	
第8回 Session 8	学習指導案の提案と修正	
第9回 Session 9	模擬授業の取り組み方と分析法	
第10回 Session 10	模擬授業の実践とグループ分析①体づくり運動	
第11回 Session 11	模擬授業の実践とグループ分析②器械運動	
第12回 Session 12	模擬授業の実践とグループ分析③球技ゴール型:その1	
第13回 Session 13	模擬授業の実践とグループ分析④球技ゴール型:その2	
第14回 Session 14	模擬授業の実践とグループ分析⑤球技ネット型	

授業外学習 Study Required outside Class	予習:各回の最後に次回の内容について予告する。その内容について著書、論文、ネット記事などから情報を収集しておくこと。 復習:各回で取り組んだ内容を整理し、自己の意見や考えを含め、まとめシートを作成しておくこと。
---------------------------------------	--

参考文献・資料 Reference books	学習指導要領および解説(最新版) 中学校および高等学校の学習指導要領および解説(保健体育科)は各自購入しておくこと。
----------------------------	---

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	キャンパス(もしくはオンライン)で実施する最終レポートで評価。
	その他／Others(99)	50%	キャンパス(もしくはオンライン)による毎回のレポート課題で評価(40%)。模擬授業とディスカッションへの取り組み、参加状況(10%)。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_175869_1&cmp_tab_id=_204736_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年01月30日 11時28分57秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜2時限	秋学期／Fall	G-203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48053001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】道徳教育論 1／Principles of Moral Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	下野 厚子(SHIMONO ATSUKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	学校において道徳教育を展開するために必要な基礎的理論と指導のあり方を理解する		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories and method of moral education.		
到達目標/Learning Goals	次の3点を授業の目標とする。 ・道徳とその教育に関する諸理論および歴史を理解する ・諸法令や学習指導要領等から学校における道徳教育と道徳科の授業を理解する ・多様な道徳科の指導方法とその指導計画・授業実践・評価等を学ぶ		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・understand basic moral theories and the history of moral education ・understand moral education at school and a class according to laws, ordinances and the Course of Study for moral education ・develop various teaching methods, teaching plans , lesson practices and evaluation methods for moral education		
授業方法 Course Format	対面授業。 視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料を掲載する。教材や課題等の指示をLUNA等で確認すること。 所属学部オンラインでの受講を認められた学生は、対面授業の録画データをオンデマンド配信で対応する予定。同時配信等、配信方法の変更があれば別途連絡をします。		
検索キーワード/Keywords	道徳教育／授業実践		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	道徳とは何か	
第2回 Session 2	人間形成における道徳性	
第3回 Session 3	道徳性をめぐる現状の課題	
第4回 Session 4	道徳教育の歴史(1)近代	
第5回 Session 5	道徳教育の歴史(2)特設道徳から教科化へ	
第6回 Session 6	学校における道徳教育と道徳科	
第7回 Session 7	道徳教育と道徳科の目標と内容	
第8回 Session 8	道徳教育の諸計画	
第9回 Session 9	道徳教育の指導法と教材(1)読み物資料を中心に	
第10回 Session 10	道徳教育の指導法と教材(2)問題解決学習とロールプレイ	
第11回 Session 11	読み物資料を中心とした授業(1)指導案について	
第12回 Session 12	読み物資料を中心とした授業(2)発問について	
第13回 Session 13	読み物資料を中心とした授業(3)子供の発言と活動について	
第14回 Session 14	読み物資料を中心とした授業(4)授業実践と評価方法	

授業計画 Overview for each class	レポートに関しては、提出後の授業回において全体の講評を口頭で伝えるかLUNAへ掲載する。 また、模擬授業などの発表後に質疑応答を行うことで、課題へのフィードバックとする。
授業外学習 Study Required outside Class	授業の資料は、事前にLUNAに掲載するので、授業前に読んでおくこと。 授業中に学んだ項目やキーワード等については、よく復習をして理解を深めておくこと。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4827815597
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別な教科 道徳編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4316300849
参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄・田代尚弘・堺正之編 タイトル:道徳教育の可能性 発行所:福村出版 出版年:2012 ISBN:978-4571101557
	著者名:横山利弘 タイトル:道徳教育とは何だろうか 発行所:暁教育図書 出版年:2007 ISBN:978-4252782891
	著者名:横山利弘監修 タイトル:楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2017 ISBN:978-4623080854
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note 平常レポート、授業内試験、受講態度などによって総合的に評価を行う。所属学部オンラインでの受講を認められた学生は、平常レポートおよび授業内試験に代わる課題の提出により評価を行う。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_197128_1&cmp_tab_id=_233168_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 12時53分56秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜3時限	春学期／Spring	B-103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48053002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】道徳教育論 2／Principles of Moral Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	下野 厚子(SHIMONO ATSUKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	学校において道徳教育を展開するために必要な基礎的理論と指導のあり方を理解する		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories and method of moral education.		
到達目標/Learning Goals	次の3点を授業の目標とする。 ・道徳とその教育に関する諸理論および歴史を理解する ・諸法令や学習指導要領等から学校における道徳教育と道徳科の授業を理解する ・多様な道徳科の指導方法とその指導計画・授業実践・評価等を学ぶ		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・understand basic moral theories and the history of moral education ・understand moral education at school and a class according to laws, ordinances and the Course of Study for moral education ・develop various teaching methods, teaching plans , lesson practices and evaluation methods for moral education		
授業方法 Course Format	対面授業。 視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料を掲載する。教材や課題等の指示をLUNA等で確認すること。 所属学部オンラインでの受講を認められた学生は、対面授業の録画データをオンデマンド配信で対応する予定。同時配信等、配信方法の変更があれば別途連絡をします。		
検索キーワード/Keywords	道徳教育／授業実践		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	道徳とは何か	
第2回 Session 2	人間形成における道徳性	
第3回 Session 3	道徳性をめぐる現状の課題	
第4回 Session 4	道徳教育の歴史(1)近代	
第5回 Session 5	道徳教育の歴史(2)特設道徳から教科化へ	
第6回 Session 6	学校における道徳教育と道徳科	
第7回 Session 7	道徳教育と道徳科の目標と内容	
第8回 Session 8	道徳教育の諸計画	
第9回 Session 9	道徳教育の指導法と教材(1)読み物資料を中心に	
第10回 Session 10	道徳教育の指導法と教材(2)問題解決学習とロールプレイ	
第11回 Session 11	読み物資料を中心とした授業(1)指導案について	
第12回 Session 12	読み物資料を中心とした授業(2)発問について	
第13回 Session 13	読み物資料を中心とした授業(3)子供の発言と活動について	
第14回 Session 14	読み物資料を中心とした授業(4)授業実践と評価方法	

授業計画 Overview for each class	レポートに関しては、提出後の授業回において全体の講評を口頭で伝えるかLUNAへ掲載する。 また、模擬授業などの発表後に質疑応答を行うことで、課題へのフィードバックとする。
授業外学習 Study Required outside Class	授業の資料は、事前にLUNAに掲載するので、授業前に読んでおくこと。 授業中に学んだ項目やキーワード等については、よく復習をして理解を深めておくこと。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4827815597
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別な教科 道徳編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4316300849
参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄・田代尚弘・堺正之編 タイトル:道徳教育の可能性 発行所:福村出版 出版年:2012 ISBN:978-4571101557
	著者名:横山利弘 タイトル:道徳教育とは何だろうか 発行所:暁教育図書 出版年:2007 ISBN:978-4252782891
	著者名:横山利弘監修 タイトル:楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2017 ISBN:978-4623080854
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note		
	平常レポート、授業内試験、受講態度などによって総合的に評価を行う。 所属学部オンラインでの受講を認められた学生は、平常レポートおよび授業内試験に代わる課題の提出により評価を行う。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_206846_1&cmp_tab_id=_242886_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 13時03分13秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜4時限	春学期／Spring	B－204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48053003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】道徳教育論 3／Principles of Moral Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	下野 厚子(SHIMONO ATSUKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	学校において道徳教育を展開するために必要な基礎的理論と指導のあり方を理解する		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories and method of moral education.		
到達目標/Learning Goals	次の3点を授業の目標とする。 ・道徳とその教育に関する諸理論および歴史を理解する ・諸法令や学習指導要領等から学校における道徳教育と道徳科の授業を理解する ・多様な道徳科の指導方法とその指導計画・授業実践・評価等を学ぶ		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・understand basic moral theories and the history of moral education ・understand moral education at school and a class according to laws, ordinances and the Course of Study for moral education ・develop various teaching methods, teaching plans , lesson practices and evaluation methods for moral education		
授業方法 Course Format	視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	道徳教育／授業実践		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	道徳とは何か	
第2回 Session 2	人間形成における道徳性	
第3回 Session 3	道徳性をめぐる現状の課題	
第4回 Session 4	道徳教育の歴史(1)近代	
第5回 Session 5	道徳教育の歴史(2)特設道徳から教科化へ	
第6回 Session 6	学校における道徳教育と道徳科	
第7回 Session 7	道徳教育と道徳科の目標と内容	
第8回 Session 8	道徳教育の諸計画	
第9回 Session 9	道徳教育の指導法と教材(1)読み物資料を中心に	
第10回 Session 10	道徳教育の指導法と教材(2)問題解決学習とロールプレイ	
第11回 Session 11	読み物資料を中心とした授業(1)指導案について	
第12回 Session 12	読み物資料を中心とした授業(2)発問について	
第13回 Session 13	読み物資料を中心とした授業(3)子供の発言と活動について	
第14回 Session 14	読み物資料を中心とした授業(4)授業実践と評価方法	

授業計画 Overview for each class	レポートに関しては、提出後の授業回において全体の講評を口頭で伝えるかLUNAへ掲載する。 また、模擬授業などの発表後に質疑応答を行うことで、課題へのフィードバックとする。
授業外学習 Study Required outside Class	授業の資料は、事前にLUNAに掲載するので、授業前に読んでおくこと。 授業中に学んだ項目やキーワード等については、よく復習をして理解を深めておくこと。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4827815597
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別な教科 道徳編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4316300849
参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄・田代尚弘・堺正之編 タイトル:道徳教育の可能性 発行所:福村出版 出版年:2012 ISBN:978-4571101557
	著者名:横山利弘 タイトル:道徳教育とは何だろうか 発行所:暁教育図書 出版年:2007 ISBN:978-4252782891
	著者名:横山利弘監修 タイトル:楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2017 ISBN:978-4623080854
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note		
	レポート、授業内試験、受講態度などによって総合的に評価を行う。		
更新日時/Date of Update	2021年02月11日 09時18分59秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜4時限	秋学期／Fall	B-201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48053004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】道徳教育論 4／Principles of Moral Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	学校において道徳教育を展開するため必要な基礎的理論と指導のあり方を理解する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories and methods of moral education.		
到達目標/Learning Goals	次の3点を授業の目標としている。 ・基礎的な道徳理論と道徳教育の歴史を理解する ・日本の道徳教育に関する諸法令や学習指導要領を理解する ・道徳教育に関するカリキュラム・指導方法・評価の基本的な知識を身につける		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・understand basic moral theories and the history of moral education, ・understand laws, ordinances and the Course of Study for moral education in Japan, and ・develop their basic knowledge of curriculums, teaching methods and evaluation methods for moral education.		
授業方法 Course Format	視聴覚機器を使用した講義形式。LUNAに資料等を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	道徳教育／授業実践		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	道徳とは何か ～カントと功利主義を手掛かりに考える～	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	人間形成における道徳性 ～美と道徳、罪責と道徳～	
第3回 Session 3	現代の課題としての道徳 ～若者と将来の道徳性～	
第4回 Session 4	近代の道徳教育の歴史	
第5回 Session 5	特設道徳から教科化への歴史	
第6回 Session 6	学校における道徳教育と道徳科	
第7回 Session 7	道徳教育と道徳科の目標と内容	
第8回 Session 8	道徳教育の諸計画(カリキュラム)	
第9回 Session 9	道徳教育の指導法と教材(1)～読み物教材を中心に～	
第10回 Session 10	道徳教育の指導法と教材(2)～問題解決学習とロールプレイ～	
第11回 Session 11	読み物を中心とした授業とその指導案	
第12回 Session 12	読み物を中心とした授業実践とその批評	
第13回 Session 13	活動を中心とした授業とその指導案	
第14回 Session 14	活動を中心とした授業実践とその批評・まとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	授業の資料は事前にLUNAに掲載するので、内容を授業前に理解しておくこと。また他の予習としては、日本史と世界に関する基本的な知識を得ておくこと。また学校教育に関するニュースを集めておくこと。復習としては、授業中に学んだキーワード等について簡単な説明ができるようにすること。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年: ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4316300849
参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄・田代尚弘・塚正之編 タイトル:道徳教育の可能性 発行所:福村出版 出版年:2012 ISBN:978-4571101557
	著者名:横山利弘 タイトル:道徳教育とは何だろうか 発行所:暁教育図書 出版年:2007 ISBN:978-4252782891
	著者名:横山利弘監修 タイトル:楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2017 ISBN:978-4623080854
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常リポート／Individual reports(04)	30%	
更新日時/Date of Update	2021年01月08日 09時29分07秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜1時限	秋学期／Fall	B－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48053005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】道徳教育論 5/Principles of Moral Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	学校において道徳教育を展開するため必要な基礎的理論と指導のあり方を理解する。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories and methods of moral education.		
到達目標/Learning Goals	次の3点を授業の目標としている。 ・基礎的な道徳理論と道徳教育の歴史を理解する ・日本の道徳教育に関する諸法令や学習指導要領を理解する ・道徳教育に関するカリキュラム・指導方法・評価の基本的な知識を身につける		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・understand basic moral theories and the history of moral education, ・understand laws, ordinances and the Course of Study for moral education in Japan, and ・develop their basic knowledge of curriculums, teaching methods and evaluation methods for moral education.		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNA(下記のURLリンクをクリック)で指示する。4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。オンライン受講生には4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	道徳教育／授業実践		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	道徳とは何か ～カントと功利主義を手掛かりに考える～	授業日に資料等をLUNAで配信する(第1回は印刷して授業に参加する必要は無い)。LUNAの科目のホームページURLは、下の「URLリンク」欄を確認のこと。
第2回 Session 2	人間形成における道徳性 ～美と道徳、罪責と道徳～	
第3回 Session 3	現代の課題としての道徳 ～若者と将来の道徳性～	
第4回 Session 4	近代の道徳教育の歴史	
第5回 Session 5	特設道徳から教科化への歴史	
第6回 Session 6	学校における道徳教育と道徳科	
第7回 Session 7	道徳教育と道徳科の目標と内容	
第8回 Session 8	道徳教育の諸計画(カリキュラム)	
第9回 Session 9	道徳教育の指導法と教材(1)～読み物教材を中心に～	
第10回 Session 10	道徳教育の指導法と教材(2)～問題解決学習とロールプレイ～	
第11回 Session 11	読み物を中心とした授業とその指導案	
第12回 Session 12	読み物を中心とした授業実践とその批評	
第13回 Session 13	活動を中心とした授業とその指導案	
第14回 Session 14	活動を中心とした授業実践とその批評・まとめ	

授業計画 Overview for each class	複数回、講義の際に課題を課す。課題の内容に対する講評は次回以降の授業中に行う。
授業外学習 Study Required outside Class	授業の資料は事前にLUNAに掲載するので、内容を授業前に理解しておくこと。また他の予習としては、日本史と世界に関する基本的な知識を得ておくこと。また学校教育に関するニュースを集めておくこと。復習としては、授業中に学んだキーワード等について簡単な説明ができるようにすること。

教科書/Required texts	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年: ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 発行所:教育出版 出版年:2018 ISBN:978-4316300849
参考書/Reference books	著者名:小笠原道雄・田代尚弘・塚正之編 タイトル:道徳教育の可能性 発行所:福村出版 出版年:2012 ISBN:978-4571101557
	著者名:横山利弘 タイトル:道徳教育とは何だろうか 発行所:暁教育図書 出版年:2007 ISBN:978-4252782891
	著者名:横山利弘監修 タイトル:楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2017 ISBN:978-4623080854
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note		
	オンライン受講生には平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202614_1&cmp_tab_id=_238654_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 10時56分07秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜3時限	春学期／Spring	VII－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動論 1／Principles of Special Activities		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	天野 義美(AMANO YOSHIMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 1(教職(専門))/特別活動論 1(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質や意義、内容、指導方法について考察することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to consider the characteristic significance, contents, and instruction methods of Special Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	下記の事項について修得することを目標とする。 1 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容を把握することができる。 2 教育の今日的課題解決に向けて、特別活動および総合的な学習(探究)の時間が果たすべき役割を理解することができる。 3 主体的な学びを通して、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導方法や実践方法についての考えを確立することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1 understand the aim, significance, and contents of Special Activities and Integrated Studies. 2 understand the role of Special Activities and Integrated Studies in solving contemporary problems in education. 3 establish, through active learning, ideas about instruction and practice methods for Special Activities and Integrated Studies.		
授業の概要・背景 Course Outline	特別活動や総合的な学習(探究)の時間は、教育課程に位置付く教育活動であることが学校教育法施行規則で法的に定められている。すなわち、学校現場では所有する教員免許状の教科如何にかかわらず、全教職員が特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導に取り組まなければならない。従って、教職課程の授業で、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と方法を学ぶ必要がある。本講義では、「児童生徒の人間形成や生きる力の育成の基本となる教育活動は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間である」という視点で、特別活動や総合的な学習(探究)の時間の大切さ、素晴らしさについて共に追究する。		
授業方法 Course Format	対面授業。本授業では、講義型を中心とするが、一方的な講義に終始するのではなく、グループでの話し合いや、教育実践での事例紹介や、映像画像などを適宜織り交ぜて、履修生の理解や思考の促進を図る。 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。教材や課題等の指示をLUNAで確認すること。掲載場所: https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=198227_1&cmp_tab_id=234267_1&editMode=true&mode=cpview		
関連科目/Related Courses	特に無し		
検索キーワード/Keywords	学級活動(ホームルーム活動) 生徒会活動 学校行事 人間関係形成 社会参画 自己実現 探究的な学習過程 考えるための技法		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 授業の概要 1 特別活動とは何か 2 総合的な学習(探究)の時間とは何か 3 学校教育での位置付け 【グループワーク】 本講義を通しての学習グループを編成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp10-15,24,162)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特別活動(以下 特活)及び総合的な学習・探究の時間(以下 総合)とは、どのような教育活動なのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:教職課程の授業科目に「特活・総合の指導法」の学修が必修とされているのは何故か。
第2回 Session 2	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質 1 子どもの現状と課題 2 特別活動の特質 3 総合的な学習(探究)の時間の特質 【グループワーク】 学級目標を話し合って作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp14-19,32-35,104,197-202)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:教育の今日的課題の解決に向けて、特活及び総合が果たす役割とは何か？ 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:今、子ども達に育む力として、特活や総合の学びが何故必要なのか。
第3回 Session 3	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容 1 それぞれの目標と教育的意義 2 それぞれの内容とその取扱い 3 校種間の関連と授業時数 【グループワーク】 職場体験について、経験してきたことを基に振り返る。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp24-29,162-172)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特活及び総合の目標、意義、内容にはどのようなものがあるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。

		「復習の課題」: 特活と総合との違いについて、生徒や保護者の理解を得るために、どのように説明するか。
第4回 Session 4	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の学習指導 1 探究的な学習過程 2 協働的な学習 3 「考えるための技法」 【グループワーク】 中高時代に体験した総合の学びについて情報を交換する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp194-202)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 探究的な学習過程を基にした総合の学習展開とはどのようなものなのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 探究的な学習過程に沿った事例に準じて、ワークシートを作成する。
第5回 Session 5	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の指導実践 1 課題の設定 2 情報の収集 3 整理・分析 4 まとめ・表現 【グループワーク】 探究的な学習過程に沿って、事例を展開する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp214-235)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 探究的な学習過程に沿った総合の事例には、どのようなものが考えられるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 紹介された総合の2事例について、探究的な学習過程で展開されていることを確認する。
第6回 Session 6	【講義】 特別活動(学級活動・ホームルーム活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 よりよい学級を目指して、問題点を協議する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp40-59,60)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学級活動の目標、並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 創意工夫次第で、学級の生活が豊かになるような係活動を考案する。
第7回 Session 7	【講義】 特別活動(学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画)の指導実践 1 指導の実際 2 事前－本時－事後の流れ 3 展開事例 【グループワーク】 学級集会活動の議題について、学級目標や提案理由に基づいた話合いに取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp38,46-67,68-75)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: よりよい学級や学校づくりに向けて、学級活動(1)の話合い活動を充実させるための留意点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 事例について、学級のみんがが楽しめる学級集会活動の在り方を検討する。
第8回 Session 8	【講義】 特別活動(生徒会活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 生徒会の活動目標・スローガンを作成して、活動計画を立てる。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp78-102)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 生徒会活動の目標 並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: ある高校の生徒会活動の事例について、社会参画の視点で考察する。
第9回 Session 9	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容① 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い (1)儀式的行事 (2)文化的行事 【グループワーク】 儀式的行事「入学式」に関して報道された記事について意見を交換する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学校行事の目標、並びに、それを達成するための儀式的行事、文化的行事の内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事に関する課題と、それを克服する手立てについて考察する。
第10回 Session 10	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容② 1 内容とその取扱い (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事 2 取扱い上の留意点 【グループワーク】 遠足を実施する想定で、事前に下見する時のポイントを考え合う。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を再度読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のねらいと内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事の在り方と、生徒の自主的・実践的な態度の育成との兼ね合いを事例で検討する。
第11回 Session 11	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と他の教育活動との関連、ならびに指導計画 1 他の教育活動との関連 2 全体計画 3 年間指導計画 【グループワーク】 学校行事の年間計画を協議して作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書 (pp147-148,206-207,62-67,83-91,132-135,176-180,184-189) を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学校教育目標達成に向けて、特活・総合と他の教育活動との関連、及び、指導計画作成の要点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事の精選のポイントは、教育的意義や価値の有無にあることを事例を通して考察する。
第12回 Session 12	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の評価 1 学力のとらえ方 2 特別活動および総合的な学習(探究)の時間で育つ力 3 評価の実際 【演習】 提供された素材について、個人内絶対評価で評価する演習に取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp150-157,242-246,191)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 評価のもつ意味と、特活・総合にふさわしい評価のあり方。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: よいところを積極的に認め合う相互評価の教育的な価値を考察する。
第13回 Session 13	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間をめぐる諸問題 1 教育的意義の理解 2 学校力・教師力 3 活動時間の確保 【グループワーク】	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp144-146,149-150,207-211,240-241)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 特活・総合の教育的意義の理解を深めるためにはどのような取組が求められるか。

Session 10	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の事例研究。	【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明 とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:コロナ禍の中で生じた人間関係の不安等、今 日の学校教育の問題を考察する。
第14回 Session 14	【講義】 これからの学校教育と特別活動および総合的な学習(探究)の 時間 1 新学習指導要領の趣旨 2 特別活動の課題と展望 3 総合的な学習(探究)の時間の課題と展望 4 キーワードでの振り返り・まとめ	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp16-19,22,30-31,37,159,248)を読んで授業に備えるこ と。 「予習の視点」:新学習指導要領から読み取れる特活・総合の 課題と展望。 【授業後の復習】(2時間) 特活および総合に関する知識・理解を確かなものにして、それ ぞれの指導法を確立する。 「復習の課題」:全授業を振り返って、特活・総合の理論と方法 について学修したことをまとめる。

授業計画 Overview for each class	【課題に対するフィードバック方法】 ① グループ協議での提出物については、直接コメントを記入したり朱を入れたりしたものを、次の授業回で返却する。同時に、口頭でも説明 する。 ② 個別が提出する課題については、全体の講評を次の授業回で口頭で伝えるか、文章で記述した解説を配布する。 ③ 平常レポートについては、提出締切り後の数週間以内に、全体の講評をLUNAへ掲載する。
---------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名: 中園大三郎・松田修・中尾豊喜編著 タイトル: 特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導 発行所: 学術研究出版 出 版年: 2020 ISBN: 978-4-910415-05-5
参考書/Reference books	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278- 1558-0 著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 IS BN: 978-4-8278-1562-7 著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 発行所: 東山書房 出版 年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1561-0 著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2019 ISBN: 978-4- 8278-1567-2 著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編 発行所: 東京書籍 出版年: 2019 I SBN: 978-4-4872-8635-5 著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 発行所: 学校図書 出版 年: 2019 ISBN: 978-4-7625-0536-2 著者名: 赤坂雅裕・佐藤光友編著 タイトル: やさしく学ぶ特別活動 発行所: ミネルヴァ書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-623- 08282-7 著者名: 国立教育政策研究所 タイトル: 学級・学校文化を創造する特別活動 中学校編 発行所: 東京書籍 出版年: 2016 IS BN: 978-4-487-80961-5
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査として実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート/Individual reports(04)	50%	
	その他/Others(99)	50%	授業時の参加態度(20%)、課題等の提出物(30%)
	備考 Note 公欠を除く出席すべき授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、原則として評価対象外とする。(遅刻・中抜け・早退は3回で欠席1回相 当とみなす。) 正当な理由の無い欠席や遅刻・早退、及び課題等の不提出は、減点の対象とする。 授業中のスマホ使用、内職(本講義以外の作業等)は認めない。声掛けに従わない場合は、減点の対象となる。 【オンライン受講生対象】毎授業後の課題回答と、平常レポートの内容とを総合的に評価する。授業後の課題については、授業終了時に合わ せてLUNAの「科目のホームページ」に提供する「復習用補助説明」の末尾に提示するので、添付する課題回答用紙を用いて提出すること。 なお、期日(授業日を含めて3日以内)までに課題回答がない場合は、欠席とする。		
備考 Note	本講義では、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法について、概論(第1回)→総論(第2～3回)→各論(第4～10回)→ 細論(第11～13回)→結論・まとめ(第14・15回)で展開し、それぞれの理解を図ったうえで、最後にレポートの提出を課す。 各回の授業に備えて、教科書の関連ページを指定するので、授業までに読んでおくこと。 授業終了時に合わせて、「復習用補助説明」を科目のホームページに提供するので、復習に活用すること。末尾には課題を提示しているの で、課題回答用紙を用いて授業日を含めて3日以内に提出すること。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_178794_1&cmp_tab_id=_207661_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 10時49分01秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期/Spring	月曜4時限	春学期/Spring	B-204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動論 2／Principles of Special Activities		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2(教職(専門))/特別活動論 2(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義や内容等に加え、特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連、特別活動および総合的な学習(探究)の時間を効果的に実施する上での学級経営の重要性について理解するとともに、指導上のポイントや留意点を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the significance for class management, and the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義(目標や内容を含む)の理解 2. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけに対する理解 3. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点の理解 4. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連の理解 5. 学級経営の重要性についての理解 6. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間の指導上のポイントや留意点の理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 2. the positioning of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies in a course of study, 3. the common features and different features between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 4. the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 5. the significance for class management, 6. the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
授業方法 Course Format	1～3回目の授業については、オンデマンド型オンラインで実施する。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降の授業については、対面で実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。対面授業では、講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。詳しくは、あらためてLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	
第2回 Session 2	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義	
第3回 Session 3	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけ	
第4回 Session 4	特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点	
第5回 Session 5	特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連	
第6回 Session 6	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容	
第7回 Session 7	学級活動(ホームルーム活動)の実践事例	
第8回 Session 8	生徒会活動および学校行事の目標と内容	
第9回 Session 9	生徒会活動および学校行事の実践事例	
第10回 Session 10	総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成	
第11回 Session 11	総合的な学習(探究)の時間の指導と評価	
第12回 Session 12	総合的な学習(探究)の時間の実践事例	
第13回 Session 13	学級経営の重要性	
第14回 Session 14	学級経営の三領域(「必然的領域」「計画的領域」「偶発的領域」)	
授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で扱うテーマについて前もって学習しておくこと。	

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター タイトル:学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 発行所:東京書籍 出版年:2016 ISBN:
	著者名:白松賢 タイトル:学級経営の教科書 発行所:東洋館出版 出版年:2017 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
	備考 Note		
	【オンライン受講生対象者】 平常レポートのみで評価する。ただし、定期試験を実施しない分、対面授業対象者よりも多くのレポートを課すことになる。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 12時43分38秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜1時限	春学期／Spring	B－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動論 3／Principles of Special Activities		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	天野 義美(AMANO YOSHIMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 3(教職(専門))/特別活動論 3(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質や意義、内容、指導方法について考察することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to consider the characteristic significance, contents, and instruction methods of Special Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	下記の事項について修得することを目標とする。 1 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容を把握することができる。 2 教育の今日的課題解決に向けて、特別活動および総合的な学習(探究)の時間が果たすべき役割を理解することができる。 3 主体的な学びを通して、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導方法や実践方法についての考えを確立することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1 understand the aim, significance, and contents of Special Activities and Integrated Studies. 2 understand the role of Special Activities and Integrated Studies in solving contemporary problems in education. 3 establish, through active learning, ideas about instruction and practice methods for Special Activities and Integrated Studies.		
授業の概要・背景 Course Outline	特別活動や総合的な学習(探究)の時間は、教育課程に位置付く教育活動であることが学校教育法施行規則で法的に定められている。すなわち、学校現場では所有する教員免許状の教科如何にかかわらず、全教職員が特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導に取り組まなければならない。従って、教職課程の授業で、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と方法を学ぶ必要がある。本講義では、「児童生徒の人間形成や生きる力の育成の基本となる教育活動は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間である」という視点で、特別活動や総合的な学習(探究)の時間の大切さ、素晴らしさについて共に追究する。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とするが、一方的な講義に終始するのではなく、グループでの話し合いや、教育実践での事例紹介や、映像画像などを適宜織り交ぜて、履修生の理解や思考の促進を図る。		
関連科目/Related Courses	特に無し		
検索キーワード/Keywords	学級活動(ホームルーム活動) 生徒会活動 学校行事 人間関係形成 社会参画 自己実現 探究的な学習過程 考えるための技法		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 授業の概要 1 特別活動とは何か 2 総合的な学習(探究)の時間とは何か 3 学校教育での位置付け 【グループワーク】 本講義を通しての学習グループを編成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp10-15,24,162)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特別活動(以下 特活)及び総合的な学習・探究の時間(以下 総合)とは、どのような教育活動なのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:教職課程の授業科目に「特活・総合の指導法」の学修が必修とされているのは何故か。
第2回 Session 2	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質 1 子どもの現状と課題 2 特別活動の特質 3 総合的な学習(探究)の時間の特質 【グループワーク】 学級目標を話し合って作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp14-19,32-35,104,197-202)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:教育の今日的課題の解決に向けて、特活及び総合が果たす役割とは何か？ 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:今、子ども達に育む力として、特活や総合の学びが何故必要なのか。
第3回 Session 3	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容 1 それぞれの目標と教育的意義 2 それぞれの内容とその取扱い 3 校種間の関連と授業時数 【グループワーク】 職場体験について、経験してきたことを基に振り返る。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp24-29,162-172)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特活及び総合の目標、意義、内容にはどのようなものがあるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:特活と総合との違いについて、生徒や保護者の理解を得るために、どのように説明するか。
	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の学習指導	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp194-202)を読んで授業に備えること。

第4回 Session 4	1 探究的な学習過程 2 協働的な学習 3 「考えるための技法」 【グループワーク】 中高時代に体験した総合の学びについて情報を交換する。	「予習の視点」:探究的な学習過程を基にした総合の学習展開とはどのようなものなのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:探究的な学習過程に沿った事例に準じて、ワークシートを作成する。
第5回 Session 5	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の指導実践 1 課題の設定 2 情報の収集 3 整理・分析 4 まとめ・表現 【グループワーク】 探究的な学習過程に沿って、事例を展開する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp214-235)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:探究的な学習過程に沿った総合の事例には、どのようなものが考えられるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:紹介された総合の2事例について、探究的な学習過程で展開されていることを確認する。
第6回 Session 6	【講義】 特別活動(学級活動・ホームルーム活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 よりよい学級を目指して、問題点を協議する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp40-59,60)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学級活動の目標、並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:創意工夫次第で、学級の生活が豊かになるような係活動を考案する。
第7回 Session 7	【講義】 特別活動(学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画)の指導実践 1 指導の実際 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 学級集会活動の議題について、学級目標や提案理由に基づいた話し合いに取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp38,46-67,68-75)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:よりよい学級や学校づくりに向けて、学級活動(1)の話し合い活動を充実させるための留意点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:事例について、学級のみなが楽しめる学級集会活動の在り方を検討する。
第8回 Session 8	【講義】 特別活動(生徒会活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 生徒会の活動目標・スローガンを作成して、活動計画を立てる。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp78-102)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:生徒会活動の目標 並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:ある高校の生徒会活動の事例について、社会参画の視点で考察する。
第9回 Session 9	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容① 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い (1)儀式的行事 (2)文化的行事 【グループワーク】 儀式的行事「入学式」に関して報道された記事について意見を交換する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校行事の目標、並びに、それを達成するための儀式的行事、文化的行事の内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:学校行事に関する課題と、それを克服する手立てについて考察する。
第10回 Session 10	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容② 1 内容とその取扱い (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事 2 取扱い上の留意点 【グループワーク】 遠足を実施する想定で、事前に下見する時のポイントを考え合う。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を再度読んで授業に備えること。 「予習の視点」:健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のねらいと内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:学校行事の在り方と、生徒の自主的・実践的な態度の育成との兼ね合いを事例で検討する。
第11回 Session 11	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と他の教育活動との関連、ならびに指導計画 1 他の教育活動との関連 2 全体計画 3 年間指導計画 【グループワーク】 学校行事の年間計画を協議して作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書 (pp147-148,206-207,62-67,83-91,132-135,176-180,184-189) を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育目標達成に向けて、特活・総合と他の教育活動との関連、及び、指導計画作成の要点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:学校行事の精選のポイントは、教育的意義や価値の有無にあることを事例を通して考察する。
第12回 Session 12	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の評価 1 学力のとらえ方 2 特別活動および総合的な学習(探究)の時間で育つ力 3 評価の実際 【演習】 提供された素材について、個人内絶対評価で評価する演習に取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp150-157,242-246,191)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:評価のもつ意味と、特活・総合にふさわしい評価のあり方。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:よいところを積極的に認め合う相互評価の教育的な価値を考察する。
第13回 Session 13	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間をめぐる諸問題 1 教育的意義の理解 2 学校力・教師力 3 活動時間の確保 【グループワーク】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の事例研究	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp144-146,149-150,207-211,240-241)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:特活・総合の教育的意義の理解を深めるためにはどのような取組が求められるか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:コロナ禍の中で生じた人間関係の不安等、今

		日の学校教育の問題を考察する。
第14回 Session 14	【講義】 これからの学校教育と特別活動および総合的な学習(探究)の時間 1 新学習指導要領の趣旨 2 特別活動の課題と展望 3 総合的な学習(探究)の時間の課題と展望 4 キーワードでの振り返り・まとめ	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp16-19,22,30-31,37,159,248)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:新学習指導要領から読み取れる特活と総合の課題と展望。 【授業後の復習】(2時間) 特活および総合に関する知識・理解を確かなものにして、それぞれの指導法を確立する。 「復習の課題」:全授業を振り返って、特活・総合の理論と方法について学修したことをまとめる。

授業計画 Overview for each class	【課題に対するフィードバック方法】 ① グループ協議での提出物については、直接コメント記入したり朱を入れたりしたものを、次の授業回で返却する。同時に、口頭でも説明する。 ② 個別が提出する課題については、全体の講評を次の授業回で口頭で伝えるか、文章で記述した解説を配布する。 ③ 平常レポートについては、提出締切り後の数週間以内に、全体の講評をLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名: 中国大 三郎・松田 修・中尾 豊喜 編著 タイトル: 特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導 発行所: 学術研究出版 出版年: 2020 ISBN: 978-4-910415-05-5
参考書/Reference books	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1558-0
	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1562-7
	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1561-0
	著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2019 ISBN: 978-4-8278-1567-2
	著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編 発行所: 東京書籍 出版年: 2019 ISBN: 978-4-4872-8635-5
	著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 発行所: 学校図書 出版年: 2019 ISBN: 978-4-7625-0536-2
	著者名: 赤坂雅裕・佐藤光友 編著 タイトル: やさしく学ぶ特別活動 発行所: ミネルヴァ書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-623-08282-7
	著者名: 国立教育政策研究所 タイトル: 学級・学校文化を創造する特別活動 中学校編 発行所: 東京書籍 出版年: 2016 ISBN: 978-4-487-80961-5
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査として実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	その他／Others(99)	50%	授業時の参加態度(20%)、課題等の提出物(30%)
	備考 Note 公欠を除く出席すべき授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、原則として評価対象外とする。(遅刻・中抜け・早退は3回で欠席1回相当とみなす。) 正当な理由の無い欠席や遅刻・早退、及び課題等の不提出は、減点の対象とする。 授業中のスマホ使用、内職(本講義以外の作業等)は認めない。声掛けに従わない場合は、減点の対象となる。		
備考 Note	本講義では、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法について、概論(第1回)→総論(第2～3回)→各論(第4～10回)→細論(第11～13回)→結論・まとめ(第14・15回)で展開し、それぞれの理解を図ったうえで、最後にレポートの提出を課す。		
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 17時27分24秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜4時限	秋学期／Fall	B-104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動論 4／Principles of Special Activities		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 4(教職(専門))/特別活動論 4(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義や内容等に加え、特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連、特別活動および総合的な学習(探究)の時間を効果的に実施する上での学級経営の重要性について理解するとともに、指導上のポイントや留意点を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the significance for class management, and the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義(目標や内容を含む)の理解 2. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけに対する理解 3. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点の理解 4. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連の理解 5. 学級経営の重要性についての理解 6. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間の指導上のポイントや留意点の理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 2. the positioning of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies in a course of study, 3. the common features and different features between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 4. the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 5. the significance for class management, 6. the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
授業方法 Course Format	講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	
第2回 Session 2	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義	
第3回 Session 3	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけ	
第4回 Session 4	特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点	
第5回 Session 5	特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連	
第6回 Session 6	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容	
第7回 Session 7	学級活動(ホームルーム活動)の実践事例	
第8回 Session 8	生徒会活動および学校行事の目標と内容	
第9回 Session 9	生徒会活動および学校行事の実践事例	
第10回 Session 10	総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成	
第11回 Session 11	総合的な学習(探究)の時間の指導と評価	
第12回 Session 12	総合的な学習(探究)の時間の実践事例	
第13回 Session 13	学級経営の重要性	
第14回 Session 14	学級経営の三領域(「必然的領域」「計画的領域」「偶発的領域」)	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で取り扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷をしておくこと。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所: 出版年:2018 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2018 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 発行所: 出版年:2018 ISBN: 著者名:文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター タイトル:学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 発行所:東京書籍 出版年:2016 ISBN: 著者名:白松賢 タイトル:学級経営の教科書 発行所:東洋館出版 出版年:2017 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 17時27分24秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜2時限	秋学期／Fall	H－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動論 5/Principles of Special Activities		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 5(教職(専門))/特別活動論 5(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義や内容等に加え、特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連、特別活動および総合的な学習(探究)の時間を効果的に実施する上での学級経営の重要性について理解するとともに、指導上のポイントや留意点を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the significance for class management, and the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義(目標や内容を含む)の理解 2. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけに対する理解 3. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点の理解 4. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連の理解 5. 学級経営の重要性についての理解 6. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間の指導上のポイントや留意点の理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 2. the positioning of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies in a course of study, 3. the common features and different features between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 4. the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 5. the significance for class management, 6. the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
授業方法 Course Format	1～3回目の授業については、オンデマンド型オンラインで実施する。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降の授業については、対面で実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。対面授業では、講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。詳しくは、あらためてLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	
第2回 Session 2	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義	
第3回 Session 3	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけ	
第4回 Session 4	特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点	
第5回 Session 5	特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連	
第6回 Session 6	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容	
第7回 Session 7	学級活動(ホームルーム活動)の実践事例	
第8回 Session 8	生徒会活動および学校行事の目標と内容	
第9回 Session 9	生徒会活動および学校行事の実践事例	
第10回 Session 10	総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成	
第11回 Session 11	総合的な学習(探究)の時間の指導と評価	
第12回 Session 12	総合的な学習(探究)の時間の実践事例	
第13回 Session 13	学級経営の重要性	
第14回 Session 14	学級経営の三領域(「必然的領域」「計画的領域」「偶発的領域」)	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター タイトル:学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 発行所:東京書籍 出版年:2016 ISBN: 著者名:白松賢 タイトル:学級経営の教科書 発行所:東洋館出版 出版年:2017 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
	備考 Note 【オンライン受講生対象者】 平常レポートのみで評価する。ただし、定期試験を実施しない分、対面授業対象者よりも多くのレポートを課すことになる。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 12時44分53秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	III－325

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054301	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 1／Methods of Special Activities and Integrated Studies		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	天野 義美(AMANO YOSHIMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 1(教職(専門))/特別活動論 1(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質や意義、内容、指導方法について考察することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to consider the characteristic significance, contents, and instruction methods of Special Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	下記の事項について修得することを目標とする。 1 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容を把握することができる。 2 教育の今日的課題解決に向けて、特別活動および総合的な学習(探究)の時間が果たすべき役割を理解することができる。 3 主体的な学びを通して、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導方法や実践方法についての考えを確立することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1 understand the aim, significance, and contents of Special Activities and Integrated Studies. 2 understand the role of Special Activities and Integrated Studies in solving contemporary problems in education. 3 establish, through active learning, ideas about instruction and practice methods for Special Activities and Integrated Studies.		
授業の概要・背景 Course Outline	特別活動や総合的な学習(探究)の時間は、教育課程に位置付く教育活動であることが学校教育法施行規則で法的に定められている。すなわち、学校現場では所有する教員免許状の教科如何にかかわらず、全教職員が特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導に取り組まなければならない。従って、教職課程の授業で、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と方法を学ぶ必要がある。本講義では、「児童生徒の人間形成や生きる力の育成の基本となる教育活動は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間である」という視点で、特別活動や総合的な学習(探究)の時間の大切さ、素晴らしさについて共に追究する。		
授業方法 Course Format	対面授業。本授業では、講義型を中心とするが、一方的な講義に終始するのではなく、グループでの話し合いや、教育実践での事例紹介や、映像画像などを適宜織り交ぜて、履修生の理解や思考の促進を図る。 【オンライン受講生対象】オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。教材や課題等の指示をLUNAで確認すること。掲載場所: https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=198227_1&cmp_tab_id=234267_1&editMode=true&mode=cpview		
関連科目/Related Courses	特に無し		
検索キーワード/Keywords	学級活動(ホームルーム活動) 生徒会活動 学校行事 人間関係形成 社会参画 自己実現 探究的な学習過程 考えるための技法		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 授業の概要 1 特別活動とは何か 2 総合的な学習(探究)の時間とは何か 3 学校教育での位置付け 【グループワーク】 本講義を通しての学習グループを編成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp10-15,24,162)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特別活動(以下 特活)及び総合的な学習・探究の時間(以下 総合)とは、どのような教育活動なのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:教職課程の授業科目に「特活・総合の指導法」の学修が必修とされているのは何故か。
第2回 Session 2	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質 1 子どもの現状と課題 2 特別活動の特質 3 総合的な学習(探究)の時間の特質 【グループワーク】 学級目標を話し合って作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp14-19,32-35,104,197-202)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:教育の今日的課題の解決に向けて、特活及び総合が果たす役割とは何か？ 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:今、子ども達に育む力として、特活や総合の学びが何故必要なのか。
第3回 Session 3	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容 1 それぞれの目標と教育的意義 2 それぞれの内容とその取扱い 3 校種間の関連と授業時数 【グループワーク】 職場体験について、経験してきたことを基に振り返る。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp24-29,162-172)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特活及び総合の目標、意義、内容にはどのようなものがあるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。

		「復習の課題」: 特活と総合との違いについて、生徒や保護者の理解を得るために、どのように説明するか。
第4回 Session 4	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の学習指導 1 探究的な学習過程 2 協働的な学習 3 「考えるための技法」 【グループワーク】 中高時代に体験した総合の学びについて情報を交換する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp194-202)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 探究的な学習過程を基にした総合の学習展開とはどのようなものなのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 探究的な学習過程に沿った事例に準じて、ワークシートを作成する。
第5回 Session 5	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の指導実践 1 課題の設定 2 情報の収集 3 整理・分析 4 まとめ・表現 【グループワーク】 探究的な学習過程に沿って、事例を展開する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp214-235)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 探究的な学習過程に沿った総合の事例には、どのようなものが考えられるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 紹介された総合の2事例について、探究的な学習過程で展開されていることを確認する。
第6回 Session 6	【講義】 特別活動(学級活動・ホームルーム活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 よりよい学級を目指して、問題点を協議する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp40-59,60)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学級活動の目標、並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 創意工夫次第で、学級の生活が豊かになるような係活動を考案する。
第7回 Session 7	【講義】 特別活動(学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画)の指導実践 1 指導の実際 2 事前－本時－事後の流れ 3 展開事例 【グループワーク】 学級集会活動の議題について、学級目標や提案理由に基づいた話し合いに取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp38,46-67,68-75)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: よりよい学級や学校づくりに向けて、学級活動(1)の話し合い活動を充実させるための留意点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 事例について、学級のみなが楽しめる学級集会活動の在り方を検討する。
第8回 Session 8	【講義】 特別活動(生徒会活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 生徒会の活動目標・スローガンを作成して、活動計画を立てる。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp78-102)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 生徒会活動の目標 並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: ある高校の生徒会活動の事例について、社会参画の視点で考察する。
第9回 Session 9	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容① 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い (1)儀式的行事 (2)文化的行事 【グループワーク】 儀式的行事「入学式」に関して報道された記事について意見を交換する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学校行事の目標、並びに、それを達成するための儀式的行事、文化的行事の内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事に関する課題と、それを克服する手立てについて考察する。
第10回 Session 10	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容② 1 内容とその取扱い (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事 2 取扱い上の留意点 【グループワーク】 遠足を実施する想定で、事前に下見する時のポイントを考え合う。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を再度読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のねらいと内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事の在り方と、生徒の自主的・実践的な態度の育成との兼ね合いを事例で検討する。
第11回 Session 11	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と他の教育活動との関連、ならびに指導計画 1 他の教育活動との関連 2 全体計画 3 年間指導計画 【グループワーク】 学校行事の年間計画を協議して作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書 (pp147-148,206-207,62-67,83-91,132-135,176-180,184-189) を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学校教育目標達成に向けて、特活・総合と他の教育活動との関連、及び、指導計画作成の要点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事の精選のポイントは、教育的意義や価値の有無にあることを事例を通して考察する。
第12回 Session 12	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の評価 1 学力のとらえ方 2 特別活動および総合的な学習(探究)の時間で育つ力 3 評価の実際 【演習】 提供された素材について、個人内絶対評価で評価する演習に取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp150-157,242-246,191)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 評価のもつ意味と、特活・総合にふさわしい評価のあり方。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: よいところを積極的に認め合う相互評価の教育的な価値を考察する。
第13回 Session 13	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間をめぐる諸問題 1 教育的意義の理解 2 学校力・教師力 3 活動時間の確保 【グループワーク】	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp144-146,149-150,207-211,240-241)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 特活・総合の教育的意義の理解を深めるためにはどのような取組が求められるか。

Session 10	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の事例研究。	【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:コロナ禍の中で生じた人間関係の不安等、今日の学校教育の問題を考察する。
第14回 Session 14	【講義】 これからの学校教育と特別活動および総合的な学習(探究)の時間 1 新学習指導要領の趣旨 2 特別活動の課題と展望 3 総合的な学習(探究)の時間の課題と展望 4 キーワードでの振り返り・まとめ	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp16-19,22,30-31,37,159,248)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:新学習指導要領から読み取れる特活・総合の課題と展望。 【授業後の復習】(2時間) 特活および総合に関する知識・理解を確かなものにして、それぞれの指導法を確立する。 「復習の課題」:全授業を振り返って、特活・総合の理論と方法について学修したことをまとめる。

授業計画 Overview for each class	【課題に対するフィードバック方法】 ① グループ協議での提出物については、直接コメントを記入したり朱を入れたりしたものを、次の授業回で返却する。同時に、口頭でも説明する。 ② 個別が提出する課題については、全体の講評を次の授業回で口頭で伝えるか、文章で記述した解説を配布する。 ③ 平常リポートについては、提出締切り後の数週間以内に、全体の講評をLUNAへ掲載する。
---------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名: 中国大三郎・松田修・中尾豊喜編著 タイトル: 特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導 発行所: 学術研究出版 出版年: 2020 ISBN: 978-4-910415-05-5
参考書/Reference books	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1558-0 著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1562-7 著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1561-0 著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2019 ISBN: 978-4-8278-1567-2 著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編 発行所: 東京書籍 出版年: 2019 ISBN: 978-4-4872-8635-5 著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 発行所: 学校図書 出版年: 2019 ISBN: 978-4-7625-0536-2 著者名: 赤坂雅裕・佐藤光友編著 タイトル: やさしく学ぶ特別活動 発行所: ミネルヴァ書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-623-08282-7 著者名: 国立教育政策研究所 タイトル: 学級・学校文化を創造する特別活動 中学校編 発行所: 東京書籍 出版年: 2016 ISBN: 978-4-487-80961-5
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査として実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常リポート/Individual reports(04)	50%	
	その他/Others(99)	50%	授業時の参加態度(20%)、課題等の提出物(30%)
	備考 Note 公欠を除く出席すべき授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、原則として評価対象外とする。(遅刻・中抜け・早退は3回で欠席1回相当とみなす。) 正当な理由の無い欠席や遅刻・早退、及び課題等の不提出は、減点の対象とする。 授業中のスマホ使用、内職(本講義以外の作業等)は認めない。声掛けに従わない場合は、減点の対象となる。 【オンライン受講生対象】毎授業後の課題回答と、平常リポートの内容とを総合的に評価する。授業後の課題については、授業終了時に合わせてLUNAの「科目のホームページ」に提供する「復習用補助説明」の末尾に提示するので、添付する課題回答用紙を用いて提出すること。 なお、期日(授業日を含めて3日以内)までに課題回答がない場合は、欠席とする。		
備考 Note	本講義では、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法について、概論(第1回)→総論(第2～3回)→各論(第4～10回)→細論(第11～13回)→結論・まとめ(第14・15回)で展開し、それぞれの理解を図ったうえで、最後にレポートの提出を課す。 各回の授業に備えて、教科書の関連ページを指定するので、授業までに読んでおくこと。 授業終了時に合わせて、「復習用補助説明」を科目のホームページに提供するので、復習に活用すること。末尾には課題を提示しているので、課題回答用紙を用いて授業日を含めて3日以内に提出すること。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_178794_1&cmp_tab_id=_207661_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 10時49分01秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期/Spring	月曜4時限	春学期/Spring	B-204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054302	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2／Methods of Special Activities and Integrated Studies		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2(教職(専門))/特別活動論 2(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義や内容等に加え、特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連、特別活動および総合的な学習(探究)の時間を効果的に実施する上での学級経営の重要性について理解するとともに、指導上のポイントや留意点を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the significance for class management, and the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義(目標や内容を含む)の理解 2. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけに対する理解 3. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点の理解 4. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連の理解 5. 学級経営の重要性についての理解 6. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間の指導上のポイントや留意点の理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 2. the positioning of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies in a course of study, 3. the common features and different features between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 4. the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 5. the significance for class management, 6. the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
授業方法 Course Format	1～3回目の授業については、オンデマンド型オンラインで実施する。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降の授業については、対面で実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。対面授業では、講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。詳しくは、あらためてLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	
第2回 Session 2	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義	
第3回 Session 3	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけ	
第4回 Session 4	特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点	
第5回 Session 5	特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連	
第6回 Session 6	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容	
第7回 Session 7	学級活動(ホームルーム活動)の実践事例	
第8回 Session 8	生徒会活動および学校行事の目標と内容	
第9回 Session 9	生徒会活動および学校行事の実践事例	
第10回 Session 10	総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成	
第11回 Session 11	総合的な学習(探究)の時間の指導と評価	
第12回 Session 12	総合的な学習(探究)の時間の実践事例	
第13回 Session 13	学級経営の重要性	
第14回 Session 14	学級経営の三領域(「必然的領域」「計画的領域」「偶発的領域」)	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷をしておくこと。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター タイトル:学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 発行所:東京書籍 出版年:2016 ISBN: 著者名:白松賢 タイトル:学級経営の教科書 発行所:東洋館出版 出版年:2017 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
	備考 Note 【オンライン受講生対象者】 平常レポートのみで評価する。ただし、定期試験を実施しない分、対面授業対象者よりも多くのレポートを課すことになる。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 12時43分38秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜1時限	春学期／Spring	B－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054303	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 3／Methods of Special Activities and Integrated Studies		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	天野 義美(AMANO YOSHIMI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 3(教職(専門))/特別活動論 3(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質や意義、内容、指導方法について考察することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to consider the characteristic significance, contents, and instruction methods of Special Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	下記の事項について修得することを目標とする。 1 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容を把握することができる。 2 教育の今日的課題解決に向けて、特別活動および総合的な学習(探究)の時間が果たすべき役割を理解することができる。 3 主体的な学びを通して、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導方法や実践方法についての考えを確立することができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to 1 understand the aim, significance, and contents of Special Activities and Integrated Studies. 2 understand the role of Special Activities and Integrated Studies in solving contemporary problems in education. 3 establish, through active learning, ideas about instruction and practice methods for Special Activities and Integrated Studies.		
授業の概要・背景 Course Outline	特別活動や総合的な学習(探究)の時間は、教育課程に位置付く教育活動であることが学校教育法施行規則で法的に定められている。すなわち、学校現場では所有する教員免許状の教科如何にかかわらず、全教職員が特別活動および総合的な学習(探究)の時間の指導に取り組まなければならない。従って、教職課程の授業で、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と方法を学ぶ必要がある。本講義では、「児童生徒の人間形成や生きる力の育成の基本となる教育活動は、特別活動および総合的な学習(探究)の時間である」という視点で、特別活動や総合的な学習(探究)の時間の大切さ、素晴らしさについて共に追究する。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とするが、一方的な講義に終始するのではなく、グループでの話し合いや、教育実践での事例紹介や、映像画像などを適宜織り交ぜて、履修生の理解や思考の促進を図る。		
関連科目/Related Courses	特に無し		
検索キーワード/Keywords	学級活動(ホームルーム活動) 生徒会活動 学校行事 人間関係形成 社会参画 自己実現 探究的な学習過程 考えるための技法		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 授業の概要 1 特別活動とは何か 2 総合的な学習(探究)の時間とは何か 3 学校教育での位置付け 【グループワーク】 本講義を通しての学習グループを編成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp10-15,24,162)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特別活動(以下 特活)及び総合的な学習・探究の時間(以下 総合)とは、どのような教育活動なのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:教職課程の授業科目に「特活・総合の指導法」の学修が必修とされているのは何故か。
第2回 Session 2	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の特質 1 子どもの現状と課題 2 特別活動の特質 3 総合的な学習(探究)の時間の特質 【グループワーク】 学級目標を話し合って作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp14-19,32-35,104,197-202)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:教育の今日的課題の解決に向けて、特活及び総合が果たす役割とは何か？ 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:今、子ども達に育む力として、特活や総合の学びが何故必要なのか。
第3回 Session 3	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の目標、意義、内容 1 それぞれの目標と教育的意義 2 それぞれの内容とその取扱い 3 校種間の関連と授業時数 【グループワーク】 職場体験について、経験してきたことを基に振り返る。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp24-29,162-172)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:学校教育における特活及び総合の目標、意義、内容にはどのようなものがあるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」:特活と総合との違いについて、生徒や保護者の理解を得るために、どのように説明するか。
	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の学習指導	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp194-202)を読んで授業に備えること。

第4回 Session 4	1 探究的な学習過程 2 協働的な学習 3 「考えるための技法」 【グループワーク】 中高時代に体験した総合の学びについて情報を交換する。	「予習の視点」: 探究的な学習過程を基にした総合の学習展開とはどのようなものなのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 探究的な学習過程に沿った事例に準じて、ワークシートを作成する。
第5回 Session 5	【講義】 総合的な学習(探究)の時間の指導実践 1 課題の設定 2 情報の収集 3 整理・分析 4 まとめ・表現 【グループワーク】 探究的な学習過程に沿って、事例を展開する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp214-235)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 探究的な学習過程に沿った総合の事例には、どのようなものが考えられるのか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 紹介された総合の2事例について、探究的な学習過程で展開されていることを確認する。
第6回 Session 6	【講義】 特別活動(学級活動・ホームルーム活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 よりよい学級を目指して、問題点を協議する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp40-59,60)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学級活動の目標、並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 創意工夫次第で、学級の生活が豊かになるような係活動を考案する。
第7回 Session 7	【講義】 特別活動(学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画)の指導実践 1 指導の実際 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 学級集会活動の議題について、学級目標や提案理由に基づいた話合いに取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp38,46-67,68-75)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: よりよい学級や学校づくりに向けて、学級活動(1)の話合い活動を充実させるための留意点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 事例について、学級のみなが楽しめる学級集会活動の在り方を検討する。
第8回 Session 8	【講義】 特別活動(生徒会活動)の目標と内容 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い 3 展開事例 【グループワーク】 生徒会の活動目標・スローガンを作成して、活動計画を立てる。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp78-102)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 生徒会活動の目標 並びに、目標を達成するための内容はどのように構成されているか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: ある高校の生徒会活動の事例について、社会参画の視点で考察する。
第9回 Session 9	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容① 1 目標と教育的意義 2 内容とその取扱い (1)儀式的行事 (2)文化的行事 【グループワーク】 儀式的行事「入学式」に関して報道された記事について意見を交換する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学校行事の目標、並びに、それを達成するための儀式的行事、文化的行事の内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事に関する課題と、それを克服する手立てについて考察する。
第10回 Session 10	【講義】 特別活動(学校行事)の目標と内容② 1 内容とその取扱い (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事 2 取扱い上の留意点 【グループワーク】 遠足を実施する想定で、事前に下見する時のポイントを考え合う。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp128-139)を再度読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事のねらいと内容構成。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事の在り方と、生徒の自主的・実践的な態度の育成との兼ね合いを事例で検討する。
第11回 Session 11	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と他の教育活動との関連、ならびに指導計画 1 他の教育活動との関連 2 全体計画 3 年間指導計画 【グループワーク】 学校行事の年間計画を協議して作成する。	【授業前の予習】(2時間) 教科書 (pp147-148,206-207,62-67,83-91,132-135,176-180,184-189) を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 学校教育目標達成に向けて、特活・総合と他の教育活動との関連、及び、指導計画作成の要点。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: 学校行事の精選のポイントは、教育的意義や価値の有無にあることを事例を通して考察する。
第12回 Session 12	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の評価 1 学力のとらえ方 2 特別活動および総合的な学習(探究)の時間で育つ力 3 評価の実際 【演習】 提供された素材について、個人内絶対評価で評価する演習に取り組む。	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp150-157,242-246,191)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 評価のもつ意味と、特活・総合にふさわしい評価のあり方。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: よいところを積極的に認め合う相互評価の教育的な価値を考察する。
第13回 Session 13	【講義】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間をめぐる諸問題 1 教育的意義の理解 2 学校力・教師力 3 活動時間の確保 【グループワーク】 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の事例研究	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp144-146,149-150,207-211,240-241)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」: 特活・総合の教育的意義の理解を深めるためにはどのような取組が求められるか。 【授業後の復習】(2時間) 配布したPowerPointのスライドと、LUNAに提供する復習用説明とを見比べて学修内容の定着を図ること。 「復習の課題」: コロナ禍の中で生じた人間関係の不安等、今

		日の学校教育の問題を考察する。
第14回 Session 14	【講義】 これからの学校教育と特別活動および総合的な学習(探究)の時間 1 新学習指導要領の趣旨 2 特別活動の課題と展望 3 総合的な学習(探究)の時間の課題と展望 4 キーワードでの振り返り・まとめ	【授業前の予習】(2時間) 教科書(pp16-19,22,30-31,37,159,248)を読んで授業に備えること。 「予習の視点」:新学習指導要領から読み取れる特活と総合の課題と展望。 【授業後の復習】(2時間) 特活および総合に関する知識・理解を確かなものにして、それぞれの指導法を確立する。 「復習の課題」:全授業を振り返って、特活・総合の理論と方法について学修したことをまとめる。

授業計画 Overview for each class	【課題に対するフィードバック方法】 ① グループ協議での提出物については、直接コメント記入したり朱を入れたりしたものを、次の授業回で返却する。同時に、口頭でも説明する。 ② 個別が提出する課題については、全体の講評を次の授業回で口頭で伝えるか、文章で記述した解説を配布する。 ③ 平常レポートについては、提出締切り後の数週間以内に、全体の講評をLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名: 中国大 三郎・松田 修・中尾 豊喜 編著 タイトル: 特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導 発行所: 学術研究出版 出版年: 2020 ISBN: 978-4-910415-05-5
参考書/Reference books	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1558-0
	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1562-7
	著者名: 文部科学省 タイトル: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 発行所: 東山書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-8278-1561-0
	著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 発行所: 東山書房 出版年: 2019 ISBN: 978-4-8278-1567-2
	著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編 発行所: 東京書籍 出版年: 2019 ISBN: 978-4-4872-8635-5
	著者名: 文部科学省 タイトル: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 発行所: 学校図書 出版年: 2019 ISBN: 978-4-7625-0536-2
	著者名: 赤坂雅裕・佐藤光友 編著 タイトル: やさしく学ぶ特別活動 発行所: ミネルヴァ書房 出版年: 2018 ISBN: 978-4-623-08282-7
	著者名: 国立教育政策研究所 タイトル: 学級・学校文化を創造する特別活動 中学校編 発行所: 東京書籍 出版年: 2016 ISBN: 978-4-487-80961-5
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査として実施

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	その他／Others(99)	50%	授業時の参加態度(20%)、課題等の提出物(30%)
	備考 Note 公欠を除く出席すべき授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、原則として評価対象外とする。(遅刻・中抜け・早退は3回で欠席1回相当とみなす。) 正当な理由の無い欠席や遅刻・早退、及び課題等の不提出は、減点の対象とする。 授業中のスマホ使用、内職(本講義以外の作業等)は認めない。声掛けに従わない場合は、減点の対象となる。		
備考 Note	本講義では、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法について、概論(第1回)→総論(第2～3回)→各論(第4～10回)→細論(第11～13回)→結論・まとめ(第14・15回)で展開し、それぞれの理解を図ったうえで、最後にレポートの提出を課す。		
更新日時/Date of Update	2021年01月25日 21時38分22秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜4時限	秋学期／Fall	B-104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054304	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 4／Methods of Special Activities and Integrated Studies		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 4(教職(専門))/特別活動論 4(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義や内容等に加え、特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連、特別活動および総合的な学習(探究)の時間を効果的に実施する上での学級経営の重要性について理解するとともに、指導上のポイントや留意点を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the significance for class management, and the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義(目標や内容を含む)の理解 2. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけに対する理解 3. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点の理解 4. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連の理解 5. 学級経営の重要性についての理解 6. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間の指導上のポイントや留意点の理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 2. the positioning of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies in a course of study, 3. the common features and different features between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 4. the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 5. the significance for class management, 6. the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
授業方法 Course Format	講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	
第2回 Session 2	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義	
第3回 Session 3	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけ	
第4回 Session 4	特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点	
第5回 Session 5	特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連	
第6回 Session 6	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容	
第7回 Session 7	学級活動(ホームルーム活動)の実践事例	
第8回 Session 8	生徒会活動および学校行事の目標と内容	
第9回 Session 9	生徒会活動および学校行事の実践事例	
第10回 Session 10	総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成	
第11回 Session 11	総合的な学習(探究)の時間の指導と評価	
第12回 Session 12	総合的な学習(探究)の時間の実践事例	
第13回 Session 13	学級経営の重要性	
第14回 Session 14	学級経営の三領域(「必然的領域」「計画的領域」「偶発的領域」)	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で取り扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 発行所: 出版年:2017 ISBN:
	著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 発行所: 出版年:2018 ISBN:
	著者名:文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター タイトル:学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 発行所:東京書籍 出版年:2016 ISBN:
	著者名:白松賢 タイトル:学級経営の教科書 発行所:東洋館出版 出版年:2017 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
更新日時/Date of Update	2021年01月12日 15時07分09秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜2時限	秋学期／Fall	H-201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48054305	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 5/Methods of Special Activities and Integrated Studies		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】特別活動・総合的な学習の時間の指導法 5(教職(専門))/特別活動論 5(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、教職志望の学生が、特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義や内容等に加え、特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連、特別活動および総合的な学習(探究)の時間を効果的に実施する上での学級経営の重要性について理解するとともに、指導上のポイントや留意点を理解することにある。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who aim to be teachers to understand the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, the significance for class management, and the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
到達目標/Learning Goals	本授業の到達目標は、以下の通りである。 1. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義(目標や内容を含む)の理解 2. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけに対する理解 3. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点の理解 4. 特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連の理解 5. 学級経営の重要性についての理解 6. 特別活動と総合的な学習(探究)の時間の指導上のポイントや留意点の理解		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will acquire an understanding of 1. the significance of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 2. the positioning of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies in a course of study, 3. the common features and different features between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 4. the relation between Extra-Curricular Activities and Integrated Studies, 5. the significance for class management, 6. the points to undertake in the teaching of Extra-Curricular Activities and Integrated Studies.		
授業方法 Course Format	1～3回目の授業については、オンデマンド型オンラインで実施する。教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降の授業については、対面で実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。対面授業では、講義を中心とし、授業中に発問および討議を行うことによって理解を深める。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応する。詳しくは、あらためてLUNAで指示する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業の概要や評価方法等に関する説明)	
第2回 Session 2	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の意義	
第3回 Session 3	特別活動および総合的な学習(探究)の時間の教育課程上の位置づけ	
第4回 Session 4	特別活動と総合的な学習(探究)の時間との共通点および相違点	
第5回 Session 5	特別活動および総合的な学習(探究)の時間と各教科等との関連	
第6回 Session 6	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容	
第7回 Session 7	学級活動(ホームルーム活動)の実践事例	
第8回 Session 8	生徒会活動および学校行事の目標と内容	
第9回 Session 9	生徒会活動および学校行事の実践事例	
第10回 Session 10	総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成	
第11回 Session 11	総合的な学習(探究)の時間の指導と評価	
第12回 Session 12	総合的な学習(探究)の時間の実践事例	
第13回 Session 13	学級経営の重要性	
第14回 Session 14	学級経営の三領域(「必然的領域」「計画的領域」「偶発的領域」)	

授業外学習 Study Required outside Class	授業に臨む際には、授業計画を参考にし、授業で扱うテーマについて前もって学習しておくこと。
---------------------------------------	--

教科書 Required texts	資料は「LUNA」にアップしておくので、授業に臨む際に事前に印刷しておくこと。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領 発行所: 出版年:2018 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 特別活動編 発行所: 出版年:2018 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 発行所: 出版年:2018 ISBN: 著者名:文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター タイトル:学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 発行所:東京書籍 出版年:2016 ISBN: 著者名:白松賢 タイトル:学級経営の教科書 発行所:東洋館出版 出版年:2017 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	授業時に適宜指示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業時に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
	備考 Note		
	【オンライン受講生対象者】 平常レポートのみで評価する。ただし、定期試験を実施しない分、対面授業対象者よりも多くのレポートを課すことになる。		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 12時44分53秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜3時限	春学期／Spring	III－325

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48055001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育方法基礎論 1／Basic Pnncpls of Edl Meth		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	吉田 卓司(YOSHIDA TAKASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育方法論に関する基礎的事項を深く理解し、今後の教育ほうほうのあり方を模索し、良き授業実践者としての資質を得ることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course for the students to deepen their understanding of the fundamentals of educational methodology.		
到達目標/Learning Goals	本講義の到達目標は、以下の三点である。 ・学校教育において多様なメディアを活用できる。 ・アクティブ・ラーニングとその評価の多様な方法を活用できる。 ・教育方法論の研究領域に関する文献を批判的に読むことができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・use various media in school education, ・use various processes for teaching and evaluation of it, ・critically read papers from the research field of educational methodology.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、教育の方法を考察するとき、アクティブ・ラーニング、ICTやCAIの利用、ソーシャ.ルキャピタルとの連携といった現代的手法やその学習効果と評価について主体的かつ集団的に考えることは、将来の教育者として不可欠の学修要素である。本講義は、従来の方法論の歴史的展開や基礎的事項の理解を踏まえつつ、教育方法論の現代的展開を自らの教育実践的に生かすことができるように授業を展開していく。		
授業方法 Course Format	2021年3月26日頃にシラバスを更新予定のため、27日以降に改めて確認してください。 オンデマンドA型オンライン授業で実施する(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 教材や課題についてはLUNAで指示する。 可能な範囲でアクティブラーニングを取り入れた授業を行う予定である。		
関連科目/Related Courses	各教科教育法		
検索キーワード/Keywords	教育方法 アクティブ・ラーニング ICT CAI		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	講義内容の概要と評価基準のオリエンテーション。	初回は『教育方法基原論』はじめに(pp.iii-ix)を予習しておくこと。以後、予習・復習の範囲は講義内で提示する。
第2回 Session 2	教育方法論の史的展開:学習者主体の能動的学習の潮流	
第3回 Session 3	学習指導要領とアクティブラーニング:近年の学習指導要領改訂のねらいと課題	
第4回 Session 4	学習指導要領改訂における教育方法の進化とルーブリック評価等評価方法論の展開	
第5回 Session 5	アクティブ・ラーニング(1):グループ・ワークの意義と指導法	
第6回 Session 6	アクティブ・ラーニング(2):ブレイン・ストーミング指導の実際	
第7回 Session 7	アクティブ・ラーニング(3):発想・協働の教育方法	
第8回 Session 8	学習メディアの史的展開と学校図書館等の現代的活用	
第9回 Session 9	従来型のメディアとネットワーク:教育関連メディアとソーシャルキャピタル	
第10回 Session 10	現代の学習メディアと教育方法論:インターネット及び視聴覚メディア	
第11回 Session 11	CAI:教育現場におけるIT機器活用の課題と展望	
第12回 Session 12	ICTと評価:S-P表の作成と分析手法など実際の運用例と評価の課題を考える。	
第13回 Session 13	ICT機器を活用した授業実践の今日的展開－反転授業等	
第14回 Session 14	効果的な教育方法論の統合と課題	
第15回 Session 15	講義の総括:未来への教育を考える	

授業外学習 Study Required outside Class	講義前に教科書の該当部分を読了していることを前提として講義を行う。適宜、課題提出を課すので、期日を厳守して提出すること。
---------------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名: 吉田卓司 タイトル: 教育方法原論 発行所: 三学出版 出版年: 2013 ISBN: 978-4-903520-76-6
参考文献・資料 Reference books	適宜講義時に指示、紹介等をする予定です。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	関西学院大学の授業評価の実施と連携・協力して、授業評価を行う予定です。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常リポート／Individual reports(04)	70%	レポートなどの課題の記入・解答内容	
	その他／Others(99)	30%	課題の提出状況	
備考 Note	時事的内容の追加、アクティブ・ラーニングの進行状況により、講義内容の加除修正を行うことがある。			
添付ファイル1/File Attachment 1	高等学校指導要領解説 総則編.pdf		説明1/Explanation 1	
添付ファイル2/File Attachment 2	中学校学習指導要領解説 総則編.pdf		説明2/Explanation 2	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_193804_1&cmp_tab_id=_229844_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 10時03分28秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜1時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48055002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育方法基礎論 2／Basic Prncpls of Edl Meth		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義では、授業に関する基礎的な理論を理解し、情報機器や教材を効果的に活用するために必要な技術を身につけることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories regarding classroom teaching and to acquire techniques for using information devices and teaching materials effectively.		
到達目標/Learning Goals	1. 教育方法の基礎的な理論を理解できる。 2. 教育において情報機器や教材を活用することができる。 3. 基礎的な評価方法を理解できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to understand basic theories of educational methods. 2. Students will be able to use information devices and teaching materials in education. 3. Students will be able to understand basic evaluation methods.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業では、学校教育の中心となる授業のあり方に関して、教育方法学の観点からさまざまな関連要因について幅広く学び、良い授業とはどのようなものかを考え、それを実践するために必要となる知識・技能を身につけてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回テーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。 注:1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業の録画データをオンデマンド配信」で対応する予定です。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ:授業の概要説明、教育実践と教育方法学	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 3～22を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ:知識と学習	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 23～34を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ:学習意欲と動機づけ支援	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 35～47を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ:学習指導の基本原則、アクティブ・ラーニング	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 51～62を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ:授業における指導技術	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 63～76を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ:教材と教科書	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 91～104を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ:授業づくり	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 105～115を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ:教育評価(1)誰が、いつ評価するのか	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 119～127を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ:教育評価(2)どこで、どうやって、なぜ評価するのか	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 127～132を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ:授業研究	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 133～143を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ:情報教育とICT	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 147～160を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ:学習指導におけるデジタル教材の利用、インストラクショナルデザイン	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 161～175を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ:思考力とメディア・リテラシーの育成	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 177～188を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ:総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:樋口直宏(編著) タイトル:MINERVAはじめて学ぶ教職①教育の方法と技術 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2019 ISBN:9784623085057
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生に対しては、授業中試験(60%)に代わる平常レポートを追加で課し、平常レポート100%で評価する。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_203599_1&cmp_tab_id=_239639_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時34分49秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜1時限	春学期／Spring	B-304

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48055003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育方法基礎論 3／Basic Pncpls of Edl Meth		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	吉田 卓司(YOSHIDA TAKASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、教育方法論に関する基礎的事項を深く理解し、今後の教育ほうほうのあり方を模索し、良き授業実践者としての資質を得ることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course for the students to deepen their understanding of the fundamentals of educational methodology.		
到達目標/Learning Goals	本講義の到達目標は、以下の三点である。 ・学校教育において多様なメディアを活用できる。 ・アクティブ・ラーニングとその評価の多様な方法を活用できる。 ・教育方法論の研究領域に関する文献を批判的に読むことができる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・use various media in school education, ・use various processes for teaching and evaluation of it, ・critically read papers from the research field of educational methodology.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、教育の方法を考察するとき、アクティブ・ラーニング、ICTやCAIの利用、ソーシャ.ルキャピタルとの連携といった現代的手法やその学習効果と評価について主体的かつ集団的に考えることは、将来の教育者として不可欠の学修要素である。本講義は、従来の方法論の歴史的展開や基礎的事項の理解を踏まえつつ、教育方法論の現代的展開を自らの教育実践的に生かすことができるように授業を展開していく。		
授業方法 Course Format	オンデマンド型のオンライン授業で実施する。ピアレビューなど履修者間の情報・意見の交換の機会を設け、オンラインを通じたアクティブラーニングを取り入れて授業を行う。		
関連科目/Related Courses	各教科教育法		
検索キーワード/Keywords	教育方法 アクティブ・ラーニング ICT CAI		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	講義内容の概要と評価基準のオリエンテーション。	初回は教育方法基原論』はじめに(pp.iii－ix)を予習しておくこと。以後、予習・復習の範囲は講義内で提示する。
第2回 Session 2	教育方法論の史的展開:学習者主体の能動的学習の潮流	
第3回 Session 3	学習指導要領とアクティブラーニング:近年の学習指導要領改訂のねらいと課題	
第4回 Session 4	学習指導要領改訂における教育方法の進化とルーブリック評価等評価方法論の展開	
第5回 Session 5	アクティブ・ラーニング(1):グループ・ワークの意義と指導法	
第6回 Session 6	アクティブ・ラーニング(2):ブレイン・ストーミング指導の実際	
第7回 Session 7	アクティブ・ラーニング(3):発想・協働の教育方法	
第8回 Session 8	学習メディアの史的展開と学校図書館等の現代的活用	
第9回 Session 9	従来型のメディアとネットワーク:教育関連メディアとソーシャルキャピタル	
第10回 Session 10	現代の学習メディアと教育方法論:インターネット及び視聴覚メディア	
第11回 Session 11	CAI:教育現場におけるIT機器活用の課題と展望	
第12回 Session 12	ICTと評価:S-P表の作成と分析手法など実際の運用例と評価の課題を考える。	
第13回 Session 13	ICT機器を活用した授業実践の今日的展開－反転授業等	
第14回 Session 14	効果的な教育方法論の統合と課題	
第15回 Session 15	講義の総括:未来への教育を考える	

授業外学習 Study Required outside Class	講義前に教科書の該当部分を読了していることを前提として講義を行う。適宜、課題提出を課すので、期日を厳守して提出すること。
---------------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名: 吉田卓司 タイトル: 教育方法原論 発行所: 三学出版 出版年: 2013 ISBN: 978-4-903520-76-6
参考文献・資料 Reference books	適宜講義時に指示、紹介等をする予定です。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	関西学院大学の授業評価の実施と連携・協力して、授業評価を行う予定です。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.	
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	講義期間中に作成するレポートの提出状況と内容	
備考 Note	時事的内容の追加、アクティブ・ラーニングの進行状況により、講義内容の加除修正を行うことがある。			
添付ファイル1/File Attachment 1	高等学校指導要領解説 総則編.pdf		説明1/Explanation 1	
添付ファイル2/File Attachment 2	中学校学習指導要領解説 総則編.pdf		説明2/Explanation 2	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_187784_1&cmp_tab_id=_216651_1&editMode=true&mode=cpview			
更新日時/Date of Update	2021年02月26日 15時08分25秒			

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜4時限	秋学期／Fall	4別－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48055004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育方法基礎論 4／Basic Prncpls of Edl Meth		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義では、授業に関する基礎的な理論を理解し、情報機器や教材を効果的に活用するために必要な技術を身につけることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories regarding classroom teaching and to acquire techniques for using information devices and teaching materials effectively.		
到達目標/Learning Goals	1. 教育方法の基礎的な理論を理解できる。 2. 教育において情報機器や教材を活用することができる。 3. 基礎的な評価方法を理解できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to understand basic theories of educational methods. 2. Students will be able to use information devices and teaching materials in education. 3. Students will be able to understand basic evaluation methods.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業では、学校教育の中心的な活動となる授業のあり方に関して、教育方法学の観点からさまざまな関連要因について幅広く学び、良い授業とはどのようなものかを考え、それを実践するために必要となる知識・技能を身につけてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回テーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ: 授業の概要説明、教育実践と教育方法学	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 3～22を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ: 知識と学習	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 23～34を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ: 学習意欲と動機づけ支援	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 35～47を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ: 学習指導の基本原理、アクティブ・ラーニング	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 51～62を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ: 授業における指導技術	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 63～76を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ: 教材と教科書	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 91～104を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ: 授業づくり	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 105～115を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ: 教育評価(1) 誰が、いつ評価するのか	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 119～127を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ: 教育評価(2) どこで、どうやって、なぜ評価するのか	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 127～132を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ: 授業研究	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 133～143を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ: 情報教育とICT	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 147～160を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ: 学習指導におけるデジタル教材の利用、インストラクショナルデザイン	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 161～175を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ: 思考力とメディア・リテラシーの育成	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 177～188を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ: 総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:樋口直宏(編著) タイトル:MINERVAはじめて学ぶ教職①教育の方法と技術 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2019 ISBN:9784623085057
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	60%	
	平常リポート／Individual reports(04)	40%	
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 10時26分28秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜2時限	秋学期／Fall	5別－5

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48055005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育方法基礎論 5／Basic Prncpls of Edl Meth		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義では、授業に関する基礎的な理論を理解し、情報機器や教材を効果的に活用するために必要な技術を身につけることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand basic theories regarding classroom teaching and to acquire techniques for using information devices and teaching materials effectively.		
到達目標/Learning Goals	1. 教育方法の基礎的な理論を理解できる。 2. 教育において情報機器や教材を活用することができる。 3. 基礎的な評価方法を理解できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	1. Students will be able to understand basic theories of educational methods. 2. Students will be able to use information devices and teaching materials in education. 3. Students will be able to understand basic evaluation methods.		
授業の概要・背景 Course Outline	この授業では、学校教育の中心的な活動となる授業のあり方に関して、教育方法学の観点からさまざまな関連要因について幅広く学び、良い授業とはどのようなものかを考え、それを実践するために必要となる知識・技能を身につけてください。		
授業方法 Course Format	本授業では、講義型を中心とする。ただし、毎回テーマに関してペア・ワークまたはグループ・ワークによる議論、発表などを行う。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	【講義】 テーマ: 授業の概要説明、教育実践と教育方法学	【復習課題】第1回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 3～22を読む
第2回 Session 2	【講義】 テーマ: 知識と学習	【復習課題】第2回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 23～34を読む
第3回 Session 3	【講義】 テーマ: 学習意欲と動機づけ支援	【復習課題】第3回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 35～47を読む
第4回 Session 4	【講義】 テーマ: 学習指導の基本原則、アクティブ・ラーニング	【復習課題】第4回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 51～62を読む
第5回 Session 5	【講義】 テーマ: 授業における指導技術	【復習課題】第5回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 63～76を読む
第6回 Session 6	【講義】 テーマ: 教材と教科書	【復習課題】第6回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 91～104を読む
第7回 Session 7	【講義】 テーマ: 授業づくり	【復習課題】第7回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 105～115を読む
第8回 Session 8	【講義】 テーマ: 教育評価(1) 誰が、いつ評価するのか	【復習課題】第8回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 119～127を読む
第9回 Session 9	【講義】 テーマ: 教育評価(2) どこで、どうやって、なぜ評価するのか	【復習課題】第9回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 127～132を読む
第10回 Session 10	【講義】 テーマ: 授業研究	【復習課題】第10回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 133～143を読む
第11回 Session 11	【講義】 テーマ: 情報教育とICT	【復習課題】第11回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 147～160を読む
第12回 Session 12	【講義】 テーマ: 学習指導におけるデジタル教材の利用、インストラクショナルデザイン	【復習課題】第12回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 161～175を読む
第13回 Session 13	【講義】 テーマ: 思考力とメディア・リテラシーの育成	【復習課題】第13回授業時に配布する資料を見直しておくこと 【予習課題】教科書pp. 177～188を読む
第14回 Session 14	【講義】 テーマ: 総括	【復習課題】これまでに学習した事項を総復習すること。 【予習課題】定期試験に備えて、すべての学習事項を復習する

授業計画 Overview for each class	提出物や定期試験等の実施後2～3週間後を目途に、全体の講評を授業において口頭で伝えるか、またはLUNAへ掲載する。
---------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:樋口直宏(編著) タイトル:MINERVAはじめて学ぶ教職①教育の方法と技術 発行所:ミネルヴァ書房 出版年:2019 ISBN:9784623085057
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「中学校・高等学校学習指導要領(最新版)」

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	60%	
	平常リポート／Individual reports(04)	40%	
更新日時/Date of Update		2021年02月01日 10時26分08秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	IV－401

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導論 1／Principles of Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 1(教職(専門))/生徒指導論 1(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名: 祐宗省三 タイトル: ウェルビーイングの発達学 発行所: 北大路書房 出版年: 2003 ISBN: 978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時49分26秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜2時限	春学期／Spring	B－304

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導論 2／Principles of Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	吉田 卓司(YOSHIDA TAKASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 2(教職(専門))/生徒指導論 2(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	2021年3月26日頃にシラバスを更新予定のため、27日以降に改めて確認してください。 オンデマンドA型オンライン授業で実施する(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 教材や課題についてはLUNAで指示する。 可能な範囲でアクティブラーニングを取り入れた授業を行う予定である。		
関連科目/Related Courses	教職概論		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	初回は教育実践基礎論』補章(pp.119-130)を予習しておくこと。以後、予習・復習の範囲は講義内で提示する。
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導と個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題(1)(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題(2)(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、国内外の現状について)	
第8回 Session 8	いじめに対する指導(原因及び背景、現状の検討、教師の基本的対応方法について)	
第9回 Session 9	暴力行為の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	暴力行為に対する指導(現状の検討、教育相談を踏まえた教師の対応方法について)	
第11回 Session 11	不登校の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第12回 Session 12	不登校に対する指導(ひきこもり、教育相談を踏まえた教師・学校の対応方法)	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育の意義と原理(学校教育・教育課程における位置づけ)	
第14回 Session 14	ガイダンスとして進路指導(組織的指導体制・関係機関との連携、体験活動の意義)	
第15回 Session 15	カウンセリングとして進路指導(理論と実践方法、ポートフォリアによる自己評価)	

授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:吉田卓司 タイトル:教育実践基礎論 発行所:三学出版 出版年:2017 ISBN:978-4-908877-08-7 著者名:文部科学省 タイトル:生徒指導提要 発行所:教育図書 出版年:2010 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	適宜講義時に指示、紹介等をする予定です。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	レポートなどの課題の記入・解答内容
	その他／Others(99)	50%	課題の提出状況
備考 Note	生徒指導・進路指導に関する時事的内容の追加、アクティブラーニングの進行状況により、講義内容の加除修正を行うことがある。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202936_1&cmp_tab_id=_238976_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 10時04分04秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜2時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導論 3／Principles of Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	吉田 卓司(YOSHIDA TAKASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 3(教職(専門))/生徒指導論 3(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	オンデマンド型のオンライン授業で実施する。ピアレビューなど履修者間の情報・意見の交換の機会を設け、オンラインを通じたアクティブラーニングを取り入れて授業を行う。		
関連科目/Related Courses	教職概論		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	初回は教育実践基礎論』補章(pp.119-130)を予習しておくこと。以後、予習・復習の範囲は講義内で提示する。
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導と個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題(1)(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題(2)(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、国内外の現状について)	
第8回 Session 8	いじめに対する指導(原因及び背景、現状の検討、教師の基本的対応方法について)	
第9回 Session 9	暴力行為の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	暴力行為に対する指導(現状の検討、教育相談を踏まえた教師の対応方法について)	
第11回 Session 11	不登校の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第12回 Session 12	不登校に対する指導(ひきこもり、教育相談を踏まえた教師・学校の対応方法)	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育の意義と原理(学校教育・教育課程における位置づけ)	
第14回 Session 14	ガイダンスとして進路指導(組織的指導体制・関係機関との連携、体験活動の意義)	
第15回 Session 15	カウンセリングとして進路指導(理論と実践方法、ポートフォリオによる自己評価)	

授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:吉田卓司 タイトル:教育実践基礎論 発行所:三学出版 出版年:2017 ISBN:978-4-908877-08-7 著者名:文部科学省 タイトル:生徒指導提要 発行所:教育図書 出版年:2010 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	適宜講義時に指示、紹介等をする予定です。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	講義時に作成するレポートの提出状況と記入内容
備考 Note	生徒指導・進路指導に関する時事的内容の追加、アクティブラーニングの進行状況により、講義内容の加除修正を行うことがある。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_187139_1&cmp_tab_id=_216006_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年02月26日 15時18分46秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜5時限	秋学期／Fall	4別－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導論 4／Principles of Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 4(教職(専門))/生徒指導論 4(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:祐宗省三 タイトル:ウェルビーイングの発達学 発行所:北大路書房 出版年:2003 ISBN:978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 10時25分33秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜2時限	秋学期／Fall	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導論 5/Principles of Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 5(教職(専門))/生徒指導論 5(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは?> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な能力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名: 祐宗省三 タイトル: ウェルビーイングの発達学 発行所: 北大路書房 出版年: 2003 ISBN: 978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時51分44秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜3時限	春学期／Spring	VII－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056006	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導論 6/Principles of Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 6(教職(専門))/生徒指導論 6(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは?> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:祐宗省三 タイトル:ウェルビーイングの発達学 発行所:北大路書房 出版年:2003 ISBN:978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 10時26分03秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜2時限	秋学期／Fall	IV－305

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056301	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導・進路指導論 1／Principles of Student Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 1(教職(専門))/生徒指導論 1(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名: 祐宗省三 タイトル: ウェルビーイングの発達学 発行所: 北大路書房 出版年: 2003 ISBN: 978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時49分26秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜2時限	春学期／Spring	B－304

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056302	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導・進路指導論 2／Principles of Student Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	吉田 卓司(YOSHIDA TAKASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 2(教職(専門))/生徒指導論 2(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	2021年3月26日頃にシラバスを更新予定のため、27日以降に改めて確認してください。 オンデマンドA型オンライン授業で実施する(変更があれば授業中またはLUNAで指示する)。 教材や課題についてはLUNAで指示する。 可能な範囲でアクティブラーニングを取り入れた授業を行う予定である。		
関連科目/Related Courses	教職概論		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	初回は教育実践基礎論』補章(pp.119-130)を予習しておくこと。以後、予習・復習の範囲は講義内で提示する。
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導と個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題(1)(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題(2)(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、国内外の現状について)	
第8回 Session 8	いじめに対する指導(原因及び背景、現状の検討、教師の基本的対応方法について)	
第9回 Session 9	暴力行為の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	暴力行為に対する指導(現状の検討、教育相談を踏まえた教師の対応方法について)	
第11回 Session 11	不登校の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第12回 Session 12	不登校に対する指導(ひきこもり、教育相談を踏まえた教師・学校の対応方法)	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育の意義と原理(学校教育・教育課程における位置づけ)	
第14回 Session 14	ガイダンスとして進路指導(組織的指導体制・関係機関との連携、体験活動の意義)	
第15回 Session 15	カウンセリングとして進路指導(理論と実践方法、ポートフォリアによる自己評価)	

授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名: 吉田卓司 タイトル: 教育実践基礎論 発行所: 三学出版 出版年: 2017 ISBN: 978-4-908877-08-7 著者名: 文部科学省 タイトル: 生徒指導提要 発行所: 教育図書 出版年: 2010 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	適宜講義時に指示、紹介等をする予定です。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	レポートなどの課題の記入・解答内容
	その他／Others(99)	50%	課題の提出状況
備考 Note	生徒指導・進路指導に関する時事的内容の追加、アクティブラーニングの進行状況により、講義内容の加除修正を行うことがある。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_202936_1&cmp_tab_id=_238976_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月19日 10時04分04秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜2時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056303	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導・進路指導論 3／Principles of Student Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	吉田 卓司(YOSHIDA TAKASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 3(教職(専門))/生徒指導論 3(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。 なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	オンデマンド型のオンライン授業で実施する。ピアレビューなど履修者間の情報・意見の交換の機会を設け、オンラインを通じたアクティブラーニングを取り入れて授業を行う。		
関連科目/Related Courses	教職概論		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	初回は教育実践基礎論』補章(pp.119-130)を予習しておくこと。以後、予習・復習の範囲は講義内で提示する。
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導と個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題(1)(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題(2)(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、国内外の現状について)	
第8回 Session 8	いじめに対する指導(原因及び背景、現状の検討、教師の基本的対応方法について)	
第9回 Session 9	暴力行為の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	暴力行為に対する指導(現状の検討、教育相談を踏まえた教師の対応方法について)	
第11回 Session 11	不登校の解説(その定義、歴史的背景、類型、現状、発生の要因について)	
第12回 Session 12	不登校に対する指導(ひきこもり、教育相談を踏まえた教師・学校の対応方法)	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育の意義と原理(学校教育・教育課程における位置づけ)	
第14回 Session 14	ガイダンスとして進路指導(組織的指導体制・関係機関との連携、体験活動の意義)	
第15回 Session 15	カウンセリングとして進路指導(理論と実践方法、ポートフォリアによる自己評価)	

授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:吉田卓司 タイトル:教育実践基礎論 発行所:三学出版 出版年:2017 ISBN:978-4-908877-08-7 著者名:文部科学省 タイトル:生徒指導提要 発行所:教育図書 出版年:2010 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	適宜講義時に指示、紹介等をする予定です。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	講義時に作成するレポートの提出状況と記入内容
備考 Note	生徒指導・進路指導に関する時事的内容の追加、アクティブラーニングの進行状況により、講義内容の加除修正を行うことがある。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_187139_1&cmp_tab_id=_216006_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年02月26日 15時18分46秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜5時限	秋学期／Fall	4別－202

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056304	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導・進路指導論 4／Principles of Student Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 4(教職(専門))/生徒指導論 4(教職(専門)) ＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要とされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:祐宗省三 タイトル:ウェルビーイングの発達学 発行所:北大路書房 出版年:2003 ISBN:978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 10時25分33秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜2時限	秋学期／Fall	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056305	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導・進路指導論 5／Principles of Student Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 5(教職(専門))/生徒指導論 5(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名: 祐宗省三 タイトル: ウェルビーイングの発達学 発行所: 北大路書房 出版年: 2003 ISBN: 978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時51分44秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜3時限	春学期／Spring	VII－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48056306	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】生徒指導・進路指導論 6/Principles of Student Guidance		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	【合併】生徒指導・進路指導論 6(教職(専門))/生徒指導論 6(教職(専門)) <DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは?> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、生徒指導の意義、内容、方法および課題について学び、具体的、実践的な指導に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of student advising. The course aims to give students the ability to learn how to provide specific and practical advice to students.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objectives: ・Become familiar with the principles and theories of student advising and guidance counseling; ・Become familiar with specific challenges of student advising and guidance counseling; ・Gain a basic ability to provide student advising and guidance counseling to all types of students in a tangible way.		
授業の概要・背景 Course Outline	今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要なとされる教師の具体的な指導方法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	生徒指導 教育問題 進路指導 キャリア教育 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	生徒指導の意義・原理(学校教育・教育課程上の位置づけについて)	
第2回 Session 2	生徒指導の内容(教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について)	
第3回 Session 3	生徒指導の方法(集団指導及び教育相談を含めた個別指導などに関する理論と実際)	
第4回 Session 4	生徒指導の現状(懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて)	
第5回 Session 5	生徒指導の課題①(懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど)	
第6回 Session 6	生徒指導の課題②(薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動)	
第7回 Session 7	いじめの解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教師の基本的対応方法について)	
第8回 Session 8	暴力行為の解説と指導(定義、類型、原因及び背景、教育相談を踏まえた教師の対応方法)	
第9回 Session 9	不登校の解説と指導(定義、類型、歴史的背景、現状、発生の要因について)	
第10回 Session 10	進路指導を含めた不登校に対する対応	
第11回 Session 11	進路指導・キャリア教育の意義と原理	
第12回 Session 12	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と方法	
第13回 Session 13	進路指導・キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの意義と方法	
第14回 Session 14	ポートフォリオを活用した進路指導・キャリア教育(体験活動の意義など)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:祐宗省三 タイトル:ウェルビーイングの発達学 発行所:北大路書房 出版年:2003 ISBN:978-4762823145
参考文献・資料 Reference books	ウェルビーイングの発達学、生徒指導提要(添付ファイル1に掲載)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
更新日時/Date of Update	2021年02月10日 10時26分03秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜2時限	秋学期／Fall	IV－305

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48057001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育相談基礎論 1／Basic Pnncpls of Edl Counselng		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、青年期の心理的特徴、学校不適応の諸問題(いじめ、不登校、非行等)、教師としての実践的対応(カウンセリングの基礎を含む)について理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the psychological characteristics of adolescence, school maladjustments such as bullying, non-attendance, and delinquency, and practices of teachers for handling them (including the basics of counseling).		
到達目標/Learning Goals	以下を到達目標とします。 a)教育相談の意義と役割を理解している b)発達における青年期の意義と心理的特徴について理解している c)いじめ、不登校、非行についてその現状や背景、また基本的対応のあり方について理解している d)カウンセリングの基本を理解し、実践できる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the significance and role of school counseling, b) understand the significance and psychological characteristics of adolescence during development, c) understand the current situation and background of bullying, non-attendance, and delinquency and basic approaches for them, d) understand and practice the basics of counseling.		
授業方法 Course Format	第1回から第3回はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。 第4回以降は対面授業を実施する予定。変更があれば授業中またはLUNAで指示します。また、休講することがあれば、その補講はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降もオンデマンドA型オンライン授業を実施します。対面授業とシラバス、授業内容等は同じですが、方法をはじめ、異なる点もいろいろと出てくると思います。その点は、理解しておいて下さい(→「成績評価備考」欄も参照のこと)。		
検索キーワード/Keywords	教育相談 青年期 いじめ 不登校 カウンセリング		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	学校教育における教育相談の役割と生徒指導との関係	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達における青年期の意義	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達における青年期の心理的特徴(自意識の先鋭化、アイデンティティと自立をめぐる諸問題)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	適応と不適応(適応・不適応の意味、不適応とストレスとの関係)	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	学校不適応1 いじめ(日本のいじめの現状と特徴、いじめの心理機制)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	学校不適応1 いじめへの対応(学校内、保護者、地域社会との連携を含む)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	学校不適応2 不登校(不登校の変遷と現状、不登校の心理機制と予後)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	学校不適応2 不登校への対応(保護者、スクールカウンセラーとの連携、適応指導教室の活用を含む)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学校不適応3 非行(非行の変遷と現状、非行の心理機制と社会的背景)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学校不適応3 非行への対応(保護者、地域社会との連携を含む)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	カウンセリングの発展史とカウンセリングマインド	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	学校カウンセリングの実践(受容、傾聴、共感的理解など)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

授業計画 Overview for each class	・原則、各回の授業後にはLUNAを使った小テスト(プリント、テキスト等を見ても構わない)に取り組む必要があります。その小テストのフィードバックは、締め切り後にLUNAの小テスト機能を使い、正誤の通知、助言(難しいと思われる問題の時)等を行います。なお、最終評価で算入するのは小テストに取り組んでいる頻度であり、各小テストの点数ではありませんので、各回の点数は気にしないで下さい。 ・履修登録の関係上、第1回から第3回の小テストは第4回以降にアップするようにします。
---------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名:善明 宣夫(編著) タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
--------------------	---

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note 【「03 授業中試験」に関する説明】 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。 【対面授業受講生とオンライン受講生の小テスト問題、授業中試験問題】 仮に、対面授業とオンライン授業で扱う内容等で多少の差異が生じたとしても、共通する内容で、LUNAの小テスト問題、授業中試験問題を作成します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_206407_1&cmp_tab_id=_242447_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 13時50分34秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜2時限	春学期／Spring	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48057002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育相談基礎論 2／Basic Prncpls of Edl Counselng		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	善明 宣夫(ZENMYOU NOBUO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、まず青年期の心理的特徴について理解を深めるとともに、学校不適応の諸問題として「いじめ」「不登校」「非行」を取り上げ、その理解と教師としての実践的対応、またカウンセリングの基礎について理解することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the psychological characteristics of adolescence, school maladjustments such as bullying, non-attendance, and delinquency, and practices of teachers for handling them (including the basics of counseling).		
到達目標/Learning Goals	以下を到達目標とする。 a)教育相談の意義と役割を理解している b)発達における青年期の意義と心理的特徴について理解している c)いじめ、不登校、非行についてその現状や背景、また基本的対応のあり方について理解している d)カウンセリングの基本を理解し、実践できる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the significance and role of school counseling, b) understand the significance and psychological characteristics of adolescence during development, c) understand the current situation and background of bullying, non-attendance, and delinquency and basic approaches for them, d) understand and practice the basics of counseling.		
授業方法 Course Format	オンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示する。		
関連科目/Related Courses	「発達・学習過程論」を修得しているほうが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	
第2回 Session 2	学校教育における教育相談の役割と生徒指導との関係	
第3回 Session 3	発達における青年期の意義	
第4回 Session 4	発達における青年期の心理的特徴1(自意識の先鋭化と自立をめぐる諸問題など)	
第5回 Session 5	発達における青年期の心理的特徴2(アイデンティティをめぐる諸問題)	
第6回 Session 6	適応と不適応(適応・不適応の意味、不適応とストレスとの関係)	
第7回 Session 7	学校不適応1 いじめ(日本のいじめと諸外国のいじめ、日本のいじめの現状と特徴、いじめの心理機制)	
第8回 Session 8	学校不適応1 いじめへの対応(教師の立場からのいじめへの対応ー学校内、保護者、地域社会との連携を含む)	
第9回 Session 9	学校不適応2 不登校(不登校の現状と変遷、不登校の心理機制と予後の問題)	
第10回 Session 10	学校不適応2 不登校への対応(教師の立場からの不登校への対応ー保護者、スクールカウンセラーとの連携、適応指導教室の活用を含む)	
第11回 Session 11	学校不適応3 非行(非行の現状と変遷、非行の心理機制と社会的背景)	
第12回 Session 12	学校不適応3 非行への対応(教師の立場からの非行への対応ー保護者、地域社会との連携を含む)	
第13回 Session 13	カウンセリングの発展史とカウンセリングマインド	
第14回 Session 14	学校カウンセリングの実践(受容、傾聴、共感的理解を中心に)と全体のまとめ	

授業外学習 Study Required outside Class	シラバスを参考に教科書等で予習をして授業に臨むこと(60分)。また教科書、配布資料、ノート等で毎回の復習をしておくこと(60分)。また平常レポートについては、次の授業回に全体の講評を口頭で行う。
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:善明 宣夫(編著) タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
参考文献・資料 Reference books	参考文献については適時紹介する。また資料については該当する講義の最初に配布する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	平常レポート／Individual reports(04)	100%	
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/landingPage.jsp?navItem=cp_course_customization&course_id=_200292_1		
更新日時/Date of Update	2021年03月10日 15時06分44秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜5時限	春学期／Spring	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48057003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育相談基礎論 3／Basic Pncpls of Edl Counselng		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、青年期の心理的特徴、学校不適応の諸問題(いじめ、不登校、非行等)、教師としての実践的対応(カウンセリングの基礎を含む)について理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the psychological characteristics of adolescence, school maladjustments such as bullying, non-attendance, and delinquency, and practices of teachers for handling them (including the basics of counseling).		
到達目標/Learning Goals	以下を到達目標とします。 a)教育相談の意義と役割を理解している b)発達における青年期の意義と心理的特徴について理解している c)いじめ、不登校、非行についてその現状や背景、また基本的対応のあり方について理解している d)カウンセリングの基本を理解し、実践できる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the significance and role of school counseling, b) understand the significance and psychological characteristics of adolescence during development, c) understand the current situation and background of bullying, non-attendance, and delinquency and basic approaches for them, d) understand and practice the basics of counseling.		
授業方法 Course Format	授業形態は、対面授業とします。授業の中でペアワーク、グループワークをしたいと考えていますが、コロナウィルス感染状況によりペアワーク等を実施しないこともあります。諸事情により休講となった場合、オンライン(オンデマンド型)による補講を行います。		
検索キーワード/Keywords	教育相談 青年期 いじめ 不登校 カウンセリング		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	学校教育における教育相談の役割と生徒指導との関係	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達における青年期の意義	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達における青年期の心理的特徴(自意識の先鋭化、アイデンティティと自立をめぐる諸問題)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	適応と不適応(適応・不適応の意味、不適応とストレスとの関係)	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	学校不適応1 いじめ(日本のいじめの現状と特徴、いじめの心理機制)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	学校不適応1 いじめへの対応(学校内、保護者、地域社会との連携を含む)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	学校不適応2 不登校(不登校の変遷と現状、不登校の心理機制と予後)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	学校不適応2 不登校への対応(保護者、スクールカウンセラーとの連携、適応指導教室の活用を含む)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学校不適応3 非行(非行の変遷と現状、非行の心理機制と社会的背景)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学校不適応3 非行への対応(保護者、地域社会との連携を含む)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	カウンセリングの発展史とカウンセリングマインド	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	学校カウンセリングの実践(受容、傾聴、共感的理解など)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

教科書/Required texts	著者名:善明 宣夫(編著) タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
--------------------	---

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note 「03 授業中試験」に関する説明 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。		
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 16時41分42秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜5時限	秋学期／Fall	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48057004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育相談基礎論 4／Basic Prncpls of Edl Counselng		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	善明 宣夫(ZENMYOU NOBUO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、まず青年期の心理的特徴について理解を深めるとともに、学校不適応の諸問題として「いじめ」「不登校」「非行」を取り上げ、その理解と教師としての実践的対応、またカウンセリングの基礎について理解することである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the psychological characteristics of adolescence, school maladjustments such as bullying, non-attendance, and delinquency, and practices of teachers for handling them (including the basics of counseling).		
到達目標/Learning Goals	以下を到達目標とする。 a)教育相談の意義と役割を理解している b)発達における青年期の意義と心理的特徴について理解している c)いじめ、不登校、非行についてその現状や背景、また基本的対応のあり方について理解している d)カウンセリングの基本を理解し、実践できる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the significance and role of school counseling, b) understand the significance and psychological characteristics of adolescence during development, c) understand the current situation and background of bullying, non-attendance, and delinquency and basic approaches for them, d) understand and practice the basics of counseling.		
授業方法 Course Format	講義形式		
関連科目/Related Courses	「発達・学習過程論」を修得しているほうが望ましい。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	
第2回 Session 2	学校教育における教育相談の役割と生徒指導との関係	
第3回 Session 3	発達における青年期の意義	
第4回 Session 4	発達における青年期の心理的特徴1(自意識の先鋭化と自立をめぐる諸問題など)	
第5回 Session 5	発達における青年期の心理的特徴2(アイデンティティをめぐる諸問題)	
第6回 Session 6	適応と不適応(適応・不適応の意味、不適応とストレスとの関係)	
第7回 Session 7	学校不適応1 いじめ(日本のいじめと諸外国のいじめ、日本のいじめの現状と特徴、いじめの心理機制)	
第8回 Session 8	学校不適応1 いじめへの対応(教師の立場からのいじめへの対応ー学校内、保護者、地域社会との連携を含む)	
第9回 Session 9	学校不適応2 不登校(不登校の現状と変遷、不登校の心理機制と予後の問題)	
第10回 Session 10	学校不適応2 不登校への対応(教師の立場からの不登校への対応ー保護者、スクールカウンセラーとの連携、適応指導教室の活用を含む)	
第11回 Session 11	学校不適応3 非行(非行の現状と変遷、非行の心理機制と社会的背景)	
第12回 Session 12	学校不適応3 非行への対応(教師の立場からの非行への対応ー保護者、地域社会との連携を含む)	
第13回 Session 13	カウンセリングの発展史とカウンセリングマインド	
第14回 Session 14	学校カウンセリングの実践(受容、傾聴、共感的理解を中心に)と全体のまとめ	

授業外学習 Study Required outside Class	シラバスを参考に教科書等で予習をして授業に臨むこと(60分)。また教科書、配布資料、ノート等で毎回の復習をしておくこと(60分)。また平常レポートについては、次の授業回に全体の講評を口頭で行う。
---------------------------------------	---

教科書/Required texts	著者名:善明 宣夫(編著) タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
参考文献・資料 Reference books	参考文献については適時紹介する。また資料については該当する講義の最初に配布する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	90%	
	平常レポート／Individual reports(04)	10%	
	備考 Note 基本は定期試験を行う予定であるが、コロナ禍の影響により実施できない場合は、レポート試験に切り替えることもある。		
更新日時/Date of Update		2021年01月13日 14時28分58秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜4時限	秋学期／Fall	B-204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48057005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】教育相談基礎論 5／Basic Pnncpls of Edl Counselng		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業の目的は、青年期の心理的特徴、学校不適応の諸問題(いじめ、不登校、非行等)、教師としての実践的対応(カウンセリングの基礎を含む)について理解することです。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand the psychological characteristics of adolescence, school maladjustments such as bullying, non-attendance, and delinquency, and practices of teachers for handling them (including the basics of counseling).		
到達目標/Learning Goals	以下を到達目標とします。 a)教育相談の意義と役割を理解している b)発達における青年期の意義と心理的特徴について理解している c)いじめ、不登校、非行についてその現状や背景、また基本的対応のあり方について理解している d)カウンセリングの基本を理解し、実践できる		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to a) understand the significance and role of school counseling, b) understand the significance and psychological characteristics of adolescence during development, c) understand the current situation and background of bullying, non-attendance, and delinquency and basic approaches for them, d) understand and practice the basics of counseling.		
授業方法 Course Format	第1回から第3回はオンデマンドA型オンライン授業で実施。教材や課題等についてはLUNAで指示します。 第4回以降は対面授業を実施する予定。変更があれば授業中またはLUNAで指示します。また、休講することがあれば、その補講はオンデマンドA型オンライン授業で実施します。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降もオンデマンドA型オンライン授業を実施します。対面授業とシラバス、授業内容等は同じですが、方法をはじめ、異なる点もいろいろと出てくると思います。その点は、理解しておいて下さい(→「成績評価備考」欄も参照のこと)。		
検索キーワード/Keywords	教育相談 青年期 いじめ 不登校 カウンセリング		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法など)	LUNAを使った復習
第2回 Session 2	学校教育における教育相談の役割と生徒指導との関係	LUNAを使った復習
第3回 Session 3	発達における青年期の意義	LUNAを使った復習
第4回 Session 4	発達における青年期の心理的特徴(自意識の先鋭化、アイデンティティと自立をめぐる諸問題)	LUNAを使った復習
第5回 Session 5	適応と不適応(適応・不適応の意味、不適応とストレスとの関係)	LUNAを使った復習
第6回 Session 6	学校不適応1 いじめ(日本のいじめの現状と特徴、いじめの心理機制)	LUNAを使った復習
第7回 Session 7	学校不適応1 いじめへの対応(学校内、保護者、地域社会との連携を含む)	LUNAを使った復習
第8回 Session 8	学校不適応2 不登校(不登校の変遷と現状、不登校の心理機制と予後)	LUNAを使った復習
第9回 Session 9	学校不適応2 不登校への対応(保護者、スクールカウンセラーとの連携、適応指導教室の活用を含む)	LUNAを使った復習
第10回 Session 10	学校不適応3 非行(非行の変遷と現状、非行の心理機制と社会的背景)	LUNAを使った復習
第11回 Session 11	学校不適応3 非行への対応(保護者、地域社会との連携を含む)	LUNAを使った復習
第12回 Session 12	カウンセリングの発展史とカウンセリングマインド	LUNAを使った復習
第13回 Session 13	学校カウンセリングの実践(受容、傾聴、共感的理解など)	LUNAを使った復習
第14回 Session 14	まとめ(授業の振り返りと試験について)	総復習

授業計画 Overview for each class	・原則、各回の授業後にはLUNAを使った小テスト(プリント、テキスト等を見ても構わない)に取り組む必要があります。その小テストのフィードバックは、締め切り後にLUNAの小テスト機能を使い、正誤の通知、助言(難しいと思われる問題の時)等を行います。なお、最終評価で算入するのは小テストに取り組んでいる頻度であり、各小テストの点数ではありませんので、各回の点数は気にしないで下さい。 ・履修登録の関係上、第1回から第3回の小テストは第4回以降にアップするようにします。
---------------------------------	--

教科書/Required texts	著者名:善明 宣夫(編著) タイトル:学校教育心理学 発行所:福村出版 出版年:2013 ISBN:978-4-571-22052-4
--------------------	---

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	授業中試験／In-class examination(03)	70%	備考を参照のこと
	その他／Others(99)	30%	LUNAを使った小テスト(毎回の授業終了後にアップ)の取り組み状況
	備考 Note 【「03 授業中試験」に関する説明】 LUNAを用いた試験を実施します。名称は「授業中試験」となっていますが、実際の授業中に試験を行うのではなく、担当者が設定した期間内で各自が任意の時間帯を選び、解答する形式をとります。この試験では、レジュメ、テキスト、ノート等を見ながら解答しても構いません。 【対面授業受講生とオンライン受講生の小テスト問題、授業中試験問題】 仮に、対面授業とオンライン授業で扱う内容等で多少の差異が生じたとしても、共通する内容で、LUNAの小テスト問題、授業中試験問題を作成します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196046_1&cmp_tab_id=_232086_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月22日 13時50分08秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	木曜4時限	春学期／Spring	VII-101

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 1／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年01月14日 16時57分29秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜2時限	秋学期／Fall	G-203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 2／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。		
教科書 Required texts	とくに指定しない。		
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。		
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。		
成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update	2021年02月24日 10時42分17秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜2時限	秋学期／Fall	G－204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 3／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時42分52秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜1時限	秋学期／Fall	D－102

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 4／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	三上 明洋(MIKAMI AKIHIRO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時43分24秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜4時限	秋学期／Fall	G－204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059005	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 5／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update	2021年02月24日 10時44分12秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜3時限	秋学期／Fall	G-205

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059006	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 6／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時44分48秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜5時限	秋学期／Fall	G－204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059007	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 7／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。		
教科書 Required texts	とくに指定しない。		
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。		
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。		
成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update	2021年02月24日 10時45分09秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜2時限	秋学期／Fall	G－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059008	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 8／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	下野 厚子(SHIMONO ATSUKO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時45分46秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	火曜3時限	秋学期／Fall	C－104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059009	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 9／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	佐野 茂(SANO SHIGERU)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時46分08秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜5時限	秋学期／Fall	C－104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059010	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 10／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	松尾 達弥(MATSUO TATSUYA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時46分31秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜5時限	秋学期／Fall	院－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059011	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 11／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時46分50秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜2時限	秋学期／Fall	I－203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059012	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 12／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時47分09秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜2時限	秋学期／Fall	IV－303

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059013	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 13／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	澁谷 久(SHIBUYA HISASHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時47分27秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜1時限	秋学期／Fall	IV－212

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059014	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 14／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	荻田 純久(OGITA YOSHIHISA)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ・教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ・学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時47分47秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜3時限	秋学期／Fall	IV－204

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059015	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 15／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	前原 健三(MAEHARA KENZO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
---------------------------------------	--------------------------

教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時48分09秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	木曜2時限	秋学期／Fall	I－105

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48059016	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス／Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教職実践演習(中・高) 16／Seminar of Teaching Practice (Jr. & Sr. High School)		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	前原 健三(MAEHARA KENZO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、教職につく上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to become aware of the challenges of teaching and to provide supplemental instruction where necessary in areas where their knowledge and skills may be deficient.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教科・教職に関する幅広い基礎的・専門的知識を獲得している。 ・学校現場、地域、社会全体に関わる課題について、適切な対応を考えて議論することができる。 ・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 ・教育的愛情を持って生徒に接することができ、豊かな対人関係力を身につけ、社会の一員として適切に行動できる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・acquire a broad foundation and specialization in topics concerning education and teaching, ・acquire the ability to thoughtfully participate in discussions related to educational issues in a regional, societal, and individual school context, ・acquire the ability to create course outlines, materials, and learning aids appropriate to students’ levels of educational progress, ・acquire the ability to create strong interpersonal relationships, while caringly approaching and interacting with students in a professional manner.		
授業の概要・背景 Course Outline	本授業は、本学のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」を体現できる教員の養成を目指し、受講者が習得している知識・技能の向上と定着を図るための各クラス毎の演習と、全体で実施する共通履修のプログラムによる演習から構成する。各クラスでの演習では、模擬授業などを行い、大学で習得してきた知識や技能をさらに発展させていくために、教科に関する科目の担当者の協力を得ながら学生個人にあった必要な方法や方策を習得させていく。全体での演習では、現職教員(教育委員会指導主事など)の教育実践の知見に学ぶことを通して、学生自らの到達レベルを確認し、実務に向けての意欲を高める。そして、大学で学んだ教科・教職に関する知識・技能、教育実習で身に付けた実践的な知識・技能および各学部で学んだ専門的知識の一層の統合を図り、本演習を通して、以下の4項目(1. 教職に対する使命感や情熱、子どもへの愛情、2. コミュニケーション能力、3. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する指導力、4. 生徒理解や生徒指導、学級経営等に関する指導力)についての教員として必要な資質と能力の到達レベルの確認とさらなる向上を図ることを目標とする。また、討論、ロールプレイング、事例研究、現地調査などを通じて、理論と実践の統合と定着を促す。		
授業方法 Course Format	講義および実習形式にて行う。 クラス単位の授業および全体授業を実施する。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	オリエンテーション(講義・ディスカッション)	
第2回 Session 2	社会人としての教員の基本(1)(講義・事例研究)	
第3回 Session 3	社会人としての教員の基本(2)(現地調査・事例研究・ロールプレイング)	
第4回 Session 4	学級経営の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第5回 Session 5	学級経営の理論と実際(2)(事例研究・ロールプレイング・ディスカッション)	
第6回 Session 6	教職の意義と期待される教員の役割(講義・ワークショップ)	
第7回 Session 7	道徳教育と生徒理解(講義・ワークショップ)	
第8回 Session 8	教科指導の理論と実際(1)(現地調査・ディスカッション)	
第9回 Session 9	教科指導の理論と実際(2)(講義・ワークショップ:教材研究)	
第10回 Session 10	教科指導の理論と実際(3)(講義・ワークショップ:学習指導案作成)	
第11回 Session 11	模擬授業と授業分析と評価(1)(ワークショップ・ディスカッション:第1グループ)	
第12回 Session 12	模擬授業と授業分析と評価(2)(ワークショップ・ディスカッション:第2グループ)	
第13回 Session 13	模擬授業と授業分析と評価(3)(ワークショップ・ディスカッション:第3グループ)	
第14回 Session 14	学校間の連携・協力および同僚との関係性、総括(講義・ワークショップ・ディスカッション)	
授業計画 Overview for each class	発表・模擬授業などの実施後にはその授業内で、課題提出の場合は次回の授業において講評を口頭などで伝える。	

授業外学習 Study Required outside Class	履修カルテ(ポートフォリオ)を作成しておくこと。
教科書 Required texts	とくに指定しない。
参考文献・資料 Reference books	適宜指示・提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	発表・模擬授業の内容、討論への参加態度、課題などで総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年02月24日 10時48分27秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜3時限	秋学期／Fall	III－104

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48061000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教育実習A／Teaching Practice A		
単位数/Credit	5	履修期/Term	通年／Year Round
担当者/Instructor	白銀 夏樹(SHIROKANE NATSUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、体験による学校教育全般についての学びを通じて教科や教職についての理論を深めることで教師としての実践的指導力を身に付け、自己の教員としての能力や適性について自覚することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the ability to provide practical guidance, as a teacher, through deepening of their understanding of the theories of teaching and lecturing, to deepen their abilities through a combination of learning about formal education and gaining practical experience, and to acquire an individual awareness of the personal abilities and competencies required to become a teacher.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教育実習の趣旨・目的を理解し、各自の目標を設定して教育実習(学校実習)に臨むことができる。 ・事前講義などの事前指導を通して、教育実習(学校実習)に向けた適切な準備を行うことができる。 ・大学で学んだ教育理論や技術を教育の現場で検証し、不十分な点を補足し研究する。 ・事後講義などの事後指導を通して、今後の自己課題を明らかにし解決しようとする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・be able to understand the goals and effects of the practice of teaching, while developing an approach to their (school based) teaching practicum through the setting of individual goals, ・be able to complete appropriate preparation for their (school based) teaching practicum through lectures and guidance provided in advance of their school placement, ・confirm the educational theories and skills they have learned in a school setting and conduct research to supplement any areas of deficiency, ・identify any future personal challenges and attempt to address them through follow-up classes and guidance.		
授業の概要・背景 Course Outline	この科目は中学校1種免許状または、中学校1種免許状・高等学校1種免許状取得希望者の必修科目である。大学において行うオリエンテーション及び実習に関する事前・事後講義等と、実習校において行うすべての教育活動にわたる実習とが本科目の主な内容である。オリエンテーション、講義、実習への全出席とともに、小論文、実習ノート等の提出を求める。先修科目については「教職課程等履修要項」を、また、授業目的・授業内容の詳細については「教育実習必携」及び「教職ハンドブック」を参照すること。		
授業方法 Course Format	原則として120時間以上の実習校での実習と、事前・事後指導については講義と演習形式を併用して行う。		
検索キーワード/Keywords			

授業計画 Overview for each class	1.オリエンテーション 2.事前講義1(教育実習の意義と心得)(講義) 3.事前講義2(「教育実習への抱負」)←レポート作成 4.事前講義3(教育実習と人権教育)講義 5.事前講義4(教育実習と障害児教育)講義 6.事前講義5(教育実習生を受け入れて)講義 7.事前講義6(模擬授業) 8.学校実習(実習校における観察・参加・実習) 9.事後講義1(「実習を終えて」発表) 10.事後講義2(「実習を終えて」発表) ※ 課題提出の後、次回の授業などにおいて講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	学校実習はもちろん、事前及び事後講義についても真摯な気持ちで臨むこと。

教科書 Required texts	プリントによる資料等を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	実習校の学校長及び指導教諭による評価と、教育実習ノート、実習関係のレポート及び大学における実習事前・事後指導の成績、並びに実習校への訪問指導の際の評価などをもって総合的に評価する。
更新日時/Date of Update		2021年01月25日 09時04分04秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	通年／Year Round	集中・その他	通年／Year Round	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48062000	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【400】教育実習B／Teaching Practice B		
単位数/Credit	3	履修期/Term	通年／Year Round
担当者/Instructor	久保田 真功(KUBOTA MAKOTO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	4年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本授業では、体験による学校教育全般についての学びを通じて教科や教職についての理論を深めることで教師としての実践的指導力を身に付け、自己の教員としての能力や適性について自覚することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to acquire the ability to provide practical guidance, as a teacher, through deepening of their understanding of the theories of teaching and lecturing, to deepen their abilities through a combination of learning about formal education and gaining practical experience, and to acquire an individual awareness of the personal abilities and competencies required to become a teacher.		
到達目標/Learning Goals	以下4の点を到達目標として設定する。 ・教育実習の趣旨・目的を理解し、各自の目標を設定して教育実習(学校実習)に臨むことができる。 ・事前講義などの事前指導を通して、教育実習(学校実習)に向けた適切な準備を行うことができる。 ・大学で学んだ教育理論や技術を教育の現場で検証し、不十分な点を補足し研究する。 ・事後講義などの事後指導を通して、今後の自己課題を明らかにし解決しようとする。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will achieve the following four learning objectives: ・be able to understand the goals and effects of the practice of teaching, while developing an approach to their (school based) teaching practicum through the setting of individual goals, ・be able to complete appropriate preparation for their (school based) teaching practicum through lectures and guidance provided in advance of their school placement, ・confirm the educational theories and skills they have learned in a school setting and conduct research to supplement any areas of deficiency, ・identify any future personal challenges and attempt to address them through follow-up classes and guidance.		
授業の概要・背景 Course Outline	この科目は中学校1種免許状または、中学校1種免許状・高等学校1種免許状取得希望者の必修科目である。大学において行うオリエンテーション及び実習に関する事前・事後講義等と、実習校において行うすべての教育活動にわたる実習とが本科目の主な内容である。オリエンテーション、講義、実習への全出席とともに、小論文、実習ノート等の提出を求める。先修科目については「教職課程等履修要項」を、また、授業目的・授業内容の詳細については「教育実習必修」及び「教職ハンドブック」を参照すること。		
授業方法 Course Format	原則として120時間以上の実習校での実習と、事前・事後指導については講義と演習形式を併用して行う。		
検索キーワード/Keywords			

授業計画 Overview for each class	1.オリエンテーション 2.事前講義1(教育実習の意義と心得)(講義) 3.事前講義2(「教育実習への抱負」)←レポート作成 4.事前講義3(教育実習と人権教育)講義 5.事前講義4(教育実習と障害児教育)講義 6.事前講義5(教育実習生を受け入れて)講義 7.事前講義6(模擬授業) 8.学校実習(実習校における観察・参加・実習) 9.事後講義1(「実習を終えて」発表) 10.事後講義2(「実習を終えて」発表) ※ 課題提出の後、次回の授業などにおいて講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	学校実習はもちろん、事前及び事後講義についても真摯な気持ちで臨むこと。

教科書 Required texts	プリントによる資料等を配布する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	授業中に実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	実習校の学校長及び指導教諭による評価と、教育実習ノート、実習関係のレポート及び大学における実習事前・事後指導の成績、並びに実習校への訪問指導の際の評価などをもって総合的に評価する。
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_198297_1&cmp_tab_id=_234337_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月12日 20時55分50秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	通年／Year Round	集中・その他	通年／Year Round	未定

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48064001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】人権教育論 1／Principles of Teaching Human Rights		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	岸 孝明(KISHI KOUMEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	受講生が知識活用能力を高め、自ら課題を解決するための意欲・態度・実践的スキルを身に付けて、基本的人権を尊重した生き方ができるようになることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who will become teachers to be prepared to respect fundamental human rights.		
到達目標/Learning Goals	(1) 自他の人権を尊重するために必要な知識を身に付ける。 (2) 人権尊重の考え方や生き方について学び、自他の人権を尊重する価値観を身に付ける。 (3) 実際生活の様々な局面で人権を大切にしている行動と態度を発揮できるようになること。		
到達目標(英文) Learning Goals	a) understand the knowledge of human rights,□ b) acquire a sense of values based on human rights awareness, c) acquire behaviors and attitudes which respect human rights.		
授業の概要・背景 Course Outline	人権を尊重した考え方や生き方を身に付けるために、人権教育で培われてきた概念やスキルを活用して、女性、子ども、高齢者、障がい(障碍)者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等の人権にかかわる課題、さらには情報化・国際化の進展に伴う新たな人権課題を取り扱い、中等教育の現場での指導力や指導法等の知識と技能を学ぶ。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施し、教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中又はLUNAで指示する。) 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応します。LUNAに資料を掲載していますので確認してください。掲載場所: https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_204755_1&cmp_tab_id=_240795_1&editMode=true&mode=cpview		
検索キーワード/Keywords	「命の尊さ」「人と人の支え合い」「仲間づくり」「個性の尊重」、「きずな」「理性の尊重」、「自律性」、「他者理解」、「共生」など 基本的人権 個性の尊重 self-esteem 自己肯定感 共生 他者理		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	人権教育論の内容・展開及び人権思想の普及と高揚(1)世界の取り組み	自己紹介兼アンケート調査用紙の記入と提出
第2回 Session 2	人権思想の普及と高揚(2) 日本の取り組み	文部科学省ホームページにアクセスして人権教育関係資料の探索を行う
第3回 Session 3	人権教育の諸潮流(1) 世界の人権教育 第1回課題の提出について(プリント配布)指示	関西学院大学人権教育の本方針と人権教育資料集へのアクセスと探索
第4回 Session 4	人権教育の諸潮流(2) 日本の人権教育(同和教育から人権教育へ) 第1回課題の作成に関する注意事項	第1回課題作成の資料探索
第5回 Session 5	学校教育に位置づけられた人権教育(1) 文科省・府県の施策と指針 第1回課題の作成に関する注意事項と提出受付第1回目	第1回課題の作成と提出 第1回目
第6回 Session 6	学校教育に位置づけられた人権教育(2) 各学校での取り組み状況等 第1回課題の作成と提出受付 第2回目	第1回課題の作成と提出 第2回目
第7回 Session 7	社会教育に位置づけられた人権啓発と研修 第1回課題提出LUNA登録〆切	
第8回 Session 8	女性差別解消と男女共同参画社会を目指して(成熟社会の方策を考える) 第2回課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題作成の資料探索
第9回 Session 9	子どもの人権を守る(人権尊重の学校文化の創造を) 第2回課題作成のための注意事項	第2回課題作成のための準備・資料探索
第10回 Session 10	共に生きる社会を目指して(1)「人権尊重の生き方を先駆者から学ぶ」 第2回課題作成の注意事項と提出受付 第1回目	第2回課題の作成・提出準備
第11回 Session 11	共に生きる社会を目指して(2) 人権にかかわる重要課題解決の到達状況 第2回課題作成と提出受付 第2回目	第2回課題の作成・提出
第12回 Session 12	共に生きる社会を目指して(3) 人権の尊重を巡る新しい課題への対応 第2回課題LUNA登録〆切 自主課題の提出について(プリント配布)指示	自主課題の作成 授業中の筆答試験準備

第13回 Session 13	人権という普遍的文化の構築－自己実現とともに生きる社会をめざして 自主課題提出	自主課題の作成 授業中の筆答試験準備
第14回 Session 14	授業中試験(60分) 教育課程と人権教育「隠れたカリキュラムと人権尊重の教育指導力とは」 自主課題提出LUNA登録〆切	

教科書 Required texts	教科書は使用しない。毎回、講義レジュメと必要な資料配布を行う。	
参考文献・資料 Reference books	・人権教育の指導方法等に関する調査研究会編「人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】」文部科学省 2008年3月 ・「2014年度版人権教育資料集」関西学院大学 ・関西学院大学人権教育の基本方針2014年3月 ・小学校・中学校学習指導要領、文部科学省 2017年3月 ・小学校・中学校学習指導要領解説のうち、総則編、道徳編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2017年7月 ・高等学校学習指導要領、文部科学省 2018年3月 ・高等学校学習指導要領解説のうち、総則編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2018年7月 ・「人権教育のためのコンパス【羅針盤】」ヨーロッパ評議会・企画福田弘・訳 明石書店 2006年12月 ・「じんけん スキルブック2」兵庫県人権教育研究協議会編 2010年11月 ・「新修 部落問題辞典」監修 秋定嘉和、桂正孝、村越末男 解放出版社1991年10月 ・各人権課題に関する参考文献・資料等は授業中に提示する。	
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査と授業中試験での授業アンケートを予定	

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Criteria etc.
	その他／Others(99)	100%	2回の指定課題提出(50%)・授業中試験(30%)・自主課題の提出等、授業への意欲・態度(20%)等を勘案して総合的に評価する。
	備考 Note 新型コロナウイルスの感染状況等により授業中の筆答試験ができない場合は代替課題レポートのLUNA提出に切り替えることがあります。		
備考 Note	指定課題提出では「学級通信」や「市民向けパンフレット」、「投げ入れ教材」の作成、更に自主課題の提出を予定しており、また、参加型の授業形態から受講者の意見発表を求めることとなる。 そのため、課題作成や授業準備のために、授業時に指示する事項について、書籍や新聞・TV等のマスコミ報道、インターネット検索等の十分な資料集めと家庭学習を行うことを求める。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_204755_1&cmp_tab_id=_240795_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月12日 21時19分18秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜3時限	春学期／Spring	5別－6

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48064002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】人権教育論 2／Principles of Teaching Human Rights		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	岸 孝明(KISHI KOUMEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	受講生が知識活用能力を高め、自ら課題を解決するための意欲・態度・実践的スキルを身に付けて、基本的人権を尊重した生き方ができるようになることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who will become teachers to be prepared to respect fundamental human rights.		
到達目標/Learning Goals	(1) 自他の人権を尊重するために必要な知識を身に付ける。 (2) 人権尊重の考え方や生き方について学び、自他の人権を尊重する価値観を身に付ける。 (3) 実際生活の様々な局面で人権を大切にしている行動と態度を発揮できるようになること。		
到達目標(英文) Learning Goals	a) understand the knowledge of human rights,□ b) acquire a sense of values based on human rights awareness, c) acquire behaviors and attitudes which respect human rights.		
授業の概要・背景 Course Outline	人権を尊重した考え方や生き方を身に付けるために、人権教育で培われてきた概念やスキルを活用して、女性、子ども、高齢者、障がい(障碍)者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等の人権にかかわる課題、さらには情報化・国際化の進展に伴う新たな人権課題を取り扱い、中等教育の現場での指導力や指導法等の知識と技能を学ぶ。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施し、教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中又はLUNAで指示する。) 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応します。LUNAに資料を掲載していますので確認してください。掲載場所: https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_198617_1&cmp_tab_id=_234657_1&editMode=true&mode=cpview		
検索キーワード/Keywords	「命の尊さ」「人と人の支え合い」「仲間づくり」「個性の尊重」、「きずな」「理性の尊重」、「自律性」、「他者理解」、「共生」など 基本的人権 個性の尊重 self-esteem 自己肯定感 共生 他者理		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	人権教育論の内容・展開及び人権思想の普及と高揚(1)世界の取り組み	自己紹介兼アンケート調査用紙の記入と提出
第2回 Session 2	人権思想の普及と高揚(2) 日本の取り組み	文部科学省ホームページにアクセスして人権教育関係資料の探索を行う
第3回 Session 3	人権教育の諸潮流(1) 世界の人権教育 第1回課題の提出について(プリント配布)指示	関西学院大学人権教育の本方針と人権教育資料集へのアクセスと探索
第4回 Session 4	人権教育の諸潮流(2) 日本の人権教育(同和教育から人権教育へ) 第1回課題の作成に関する注意事項	第1回課題作成の資料探索
第5回 Session 5	学校教育に位置づけられた人権教育(1) 文科省・府県の施策と指針 第1回課題の作成に関する注意事項と提出受付第1回目	第1回課題の作成と提出 第1回目
第6回 Session 6	学校教育に位置づけられた人権教育(2) 各学校での取り組み状況等 第1回課題の作成と提出受付 第2回目	第1回課題の作成と提出 第2回目
第7回 Session 7	社会教育に位置づけられた人権啓発と研修	第1回課題提出LUNA登録〆切
第8回 Session 8	女性差別解消と男女共同参画社会を目指して(成熟社会の方策を考える) 第2回課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題作成の資料探索
第9回 Session 9	子どもの人権を守る(人権尊重の学校文化の創造を) 第2回課題作成のための注意事項	第2回課題作成のための準備・資料探索
第10回 Session 10	共に生きる社会を目指して(1)「人権尊重の生き方を先駆者から学ぶ」 第2回課題作成の注意事項と提出受付 第1回目	第2回課題の作成・提出準備
第11回 Session 11	共に生きる社会を目指して(2) 人権にかかわる重要課題解決の到達状況 第2回課題作成と提出受付 第2回目	第2回課題の作成・提出
第12回 Session 12	共に生きる社会を目指して(3) 人権の尊重を巡る新しい課題への対応 第2回課題LUNA登録〆切 自主課題の提出について(プリント配布)指示	自主課題の作成

	自主課題の作成	
第13回 Session 13	人権という普遍的文化の構築ー 自己実現とともに生きる社会をめざして	授業中の筆答試験準備 自主課題の作成・提出
第14回 Session 14	自主課題提出 授業中試験(60分) 教育課程と人権教育「隠れたカリキュラムと人権尊重の教育指導力とは」 自主課題提出LUNA登録〆切	自主課題提出

教科書 Required texts	教科書は使用しない。毎回、講義レジュメと必要な資料配布を行う。
参考文献・資料 Reference books	・ 人権教育の指導方法等に関する調査研究会編 「人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】」 文部科学省 2008年3月 ・ 「2014年度版人権教育資料集」関西学院大学 ・ 関西学院大学人権教育の基本方針2014年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領、文部科学省 2017年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領解説のうち、総則編、道徳編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2017年7月 ・ 高等学校学習指導要領、文部科学省 2018年3月 ・ 高等学校学習指導要領解説のうち、総則編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2018年7月 ・ 「人権教育のためのコンパス【羅針盤】」ヨーロッパ評議会・企画福田弘・訳 明石書店 2006年12月 ・ 「じんけん スキルブック2」兵庫県人権教育研究協議会編 2010年11月 ・ 「新修 部落問題辞典」監修 秋定嘉和、桂正孝、村越末男 解放出版社1991年10月 ・ 各人権課題に関する参考文献・資料等は授業中に提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査と授業中試験での授業アンケートを予定

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	2回の指定課題提出(50%)・授業中試験(30%)・自主課題の提出等、授業への意欲・態度(20%)等を勘案して総合的に評価する。
	備考 Note 新型コロナウイルスの感染状況等により授業中の筆答試験ができない場合は代替課題レポートのLUNA提出に切り替えることがあります。		
備考 Note	指定課題提出では「学級通信」や「市民向けパンフレット」、「投げ入れ教材」の作成、更に自主課題の提出を予定しており、また、参加型の授業形態から受講者の意見発表を求めることとなる。 そのため、課題作成や授業準備のために、授業時に指示する事項について、書籍や新聞・TV等のマスコミ報道、インターネット検索等の十分な資料集めと家庭学習を行うことを求める。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_198617_1&cmp_tab_id=_234657_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月12日 21時20分32秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	水曜4時限	春学期／Spring	5別ー6

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48064003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】人権教育論 3／Principles of Teaching Human Rights		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	岸 孝明(KISHI KOUMEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	受講生が知識活用能力を高め、自ら課題を解決するための意欲・態度・実践的スキルを身に付けて、基本的人権を尊重した生き方ができるようになることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who will become teachers to be prepared to respect fundamental human rights.		
到達目標/Learning Goals	(1) 自他の人権を尊重するために必要な知識を身に付ける。 (2) 人権尊重の考え方や生き方について学び、自他の人権を尊重する価値観を身に付ける。 (3) 実際生活の様々な局面で人権を大切にしている行動と態度を発揮できるようになること。		
到達目標(英文) Learning Goals	a) understand the knowledge of human rights,□ b) acquire a sense of values based on human rights awareness, c) acquire behaviors and attitudes which respect human rights.		
授業の概要・背景 Course Outline	人権を尊重した考え方や生き方を身に付けるために、人権教育で培われてきた概念やスキルを活用して、女性、子ども、高齢者、障がい(障碍)者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等の人権にかかわる課題、さらには情報化・国際化の進展に伴う新たな人権課題を取り扱い、中等教育の現場での指導力や指導法等の知識と技能を学ぶ。		
授業方法 Course Format	対面授業で以下の事を実施する。Activityなど参加型の手法を取り入れた講義(毎回、power-pointで概要を提示するとともに詳細レジュメも配布)と学生の意見発表、DVD視聴等、また、人権問題・人権教育に関わる重要事項について「人権教育重要キーワード」としてレジュメに囲み記事を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	「命の尊さ」「人と人の支え合い」「仲間づくり」「個性の尊重」、「きずな」「理性の尊重」、「自律性」、「他者理解」、「共生」など 基本的人権 個性の尊重 self-esteem 自己肯定感 共生 他者理		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	人権教育論の内容・展開及び人権思想の普及と高揚(1)世界の取り組み	自己紹介兼アンケート調査用紙の記入と提出
第2回 Session 2	人権思想の普及と高揚(2) 日本の取り組み	文部科学省ホームページにアクセスして人権教育関係資料の探索を行う
第3回 Session 3	人権教育の諸潮流(1) 世界の人権教育 第1回課題の提出について(プリント配布)指示	関西学院大学人権教育の本方針と人権教育資料集へのアクセスと探索
第4回 Session 4	人権教育の諸潮流(2) 日本の人権教育(同和教育から人権教育へ) 第1回課題の作成に関する注意事項	第1回課題作成の資料探索
第5回 Session 5	学校教育に位置づけられた人権教育(1) 文科省・府県の施策と指針 第1回課題の作成に関する注意事項と提出受付第1回目	第1回課題の作成と提出 第1回目
第6回 Session 6	学校教育に位置づけられた人権教育(2) 各学校での取り組み状況等 第1回課題の作成と提出受付 第2回目	第1回課題の作成と提出 第2回目
第7回 Session 7	社会教育に位置づけられた人権啓発と研修	第1回課題提出LUNA登録〆切
第8回 Session 8	女性差別解消と男女共同参画社会を目指して(成熟社会の方策を考える) 第2回課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題作成の資料探索
第9回 Session 9	子どもの人権を守る(人権尊重の学校文化の創造を) 第2回課題作成のための注意事項	第2回課題作成のための準備・資料探索
第10回 Session 10	共に生きる社会を目指して(1)「人権尊重の生き方を先駆者から学ぶ」 第2回課題作成の注意事項と提出受付 第1回目	第2回課題の作成・提出準備
第11回 Session 11	共に生きる社会を目指して(2) 人権にかかわる重要課題解決の到達状況 第2回課題作成と提出受付 第2回目	第2回課題の作成・提出
第12回 Session 12	共に生きる社会を目指して(3) 人権の尊重を巡る新しい課題への対応 第2回課題LUNA登録〆切□ 自主課題の提出について(プリント配布)指示	自主課題の作成
第13回 Session 13	人権という普遍的文化の構築ー 自己実現とともに生きる社会をめざして 自主課題提出 自主課題の作成・提出	授業中の筆答試験準備

第14回 Session 14	授業中試験(60分) 教育課程と人権教育「隠れたカリキュラムと人権尊重の教育指導力とは」 自主課題提出LUNA登録〆切	自主課題提出
--------------------	---	--------

教科書 Required texts	教科書は使用しない。毎回、講義レジュメと必要な資料配布を行う。	
参考文献・資料 Reference books	・ 人権教育の指導方法等に関する調査研究会編 「人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】」 文部科学省 2008年3月 ・ 「2014年度版人権教育資料集」関西学院大学 ・ 関西学院大学人権教育の基本方針2014年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領、文部科学省 2017年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領解説のうち、総則編、道徳編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2017年7月 ・ 高等学校学習指導要領、文部科学省 2018年3月 ・ 高等学校学習指導要領解説のうち、総則編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2018年7月 ・ 「人権教育のためのコンパス【羅針盤】」ヨーロッパ評議会・企画福田弘・訳 明石書店 2006年12月 ・ 「じんけん スキルブック2」兵庫県人権教育研究協議会編 2010年11月 ・ 「新修 部落問題辞典」監修 秋定嘉和、桂正孝、村越末男 解放出版社1991年10月 ・ 各人権課題に関する参考文献・資料等は授業中に提示する。	
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査と授業中試験での授業アンケートを予定	

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	2回の指定課題提出(50%)・授業中試験(30%)・自主課題の提出等、授業への意欲・態度(20%)等を勘案して総合的に評価する。
	備考 Note 新型コロナウイルスの感染状況等により授業中の筆答試験ができない場合は代替課題レポートのLUNA提出に切り替えることがあります。		
備考 Note	指定課題提出では「学級通信」や「市民向けパンフレット」、「投げ入れ教材」の作成、更に自主課題の提出を予定しており、また、参加型の授業形態から受講者の意見発表を求めることとなる。 そのため、課題作成や授業準備のために、授業時に指示する事項について、書籍や新聞・TV等のマスコミ報道、インターネット検索等の十分な資料集めと家庭学習を行うことを求める。		
更新日時/Date of Update	2021年02月01日 09時29分08秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜3時限	秋学期／Fall	5別ー5

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48064004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】人権教育論 4／Principles of Teaching Human Rights		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	岸 孝明(KISHI KOUMEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	受講生が知識活用能力を高め、自ら課題を解決するための意欲・態度・実践的スキルを身に付けて、基本的人権を尊重した生き方ができるようになることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who will become teachers to be prepared to respect fundamental human rights.		
到達目標/Learning Goals	(1) 自他の人権を尊重するために必要な知識を身に付ける。 (2) 人権尊重の考え方や生き方について学び、自他の人権を尊重する価値観を身に付ける。 (3) 実際生活の様々な局面で人権を大切に作る行動と態度を発揮できるようになること。		
到達目標(英文) Learning Goals	a) understand the knowledge of human rights,□ b) acquire a sense of values based on human rights awareness, c) acquire behaviors and attitudes which respect human rights.		
授業の概要・背景 Course Outline	人権を尊重した考え方や生き方を身に付けるために、人権教育で培われてきた概念やスキルを活用して、女性、子ども、高齢者、障がい(障碍)者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等の人権にかかわる課題、さらには情報化・国際化の進展に伴う新たな人権課題を取り扱い、中等教育の現場での指導力や指導法等の知識と技能を学ぶ。		
授業方法 Course Format	対面授業で以下の事を実施する。Activityなど参加型の手法を取り入れた講義(毎回、power-pointで概要を提示するとともに詳細レジュメも配布)と学生の意見発表、DVD視聴等、また、人権問題・人権教育に関わる重要事項について「人権教育重要キーワード」としてレジュメに囲み記事を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	「命の尊さ」「人と人の支え合い」「仲間づくり」「個性の尊重」、「きずな」「理性の尊重」、「自律性」、「他者理解」、「共生」など 基本的人権 個性の尊重 self-esteem 自己肯定感 共生 他者理		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	人権教育論の内容・展開及び人権思想の普及と高揚(1)世界の取り組み	自己紹介兼アンケート調査用紙の記入と提出
第2回 Session 2	人権思想の普及と高揚(2) 日本の取り組み	文部科学省ホームページにアクセスして人権教育関係資料の探索を行う
第3回 Session 3	人権教育の諸潮流(1) 世界の人権教育 第1回課題の提出について(プリント配布)指示	関西学院大学人権教育の本方針と人権教育資料集へのアクセスと探索
第4回 Session 4	人権教育の諸潮流(2) 日本の人権教育(同和教育から人権教育へ) 第1回課題の作成に関する注意事項	第1回課題作成の資料探索
第5回 Session 5	学校教育に位置づけられた人権教育(1) 文科省・府県の施策と指針 第1回課題の作成に関する注意事項と提出受付第1回目	第1回課題の作成と提出 第1回目
第6回 Session 6	学校教育に位置づけられた人権教育(2) 各学校での取り組み状況等 第1回課題の作成と提出受付 第2回目	第1回課題の作成と提出 第2回目
第7回 Session 7	社会教育に位置づけられた人権啓発と研修	第1回課題提出LUNA登録〆切
第8回 Session 8	女性差別解消と男女共同参画社会を目指して(成熟社会の方策を考える) 第2回課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題作成の資料探索
第9回 Session 9	子どもの人権を守る(人権尊重の学校文化の創造を) 第2回課題作成のための注意事項	第2回課題作成のための準備・資料探索
第10回 Session 10	共に生きる社会を目指して(1)「人権尊重の生き方を先駆者から学ぶ」 第2回課題作成の注意事項と提出受付 第1回目	第2回課題の作成・提出準備
第11回 Session 11	共に生きる社会を目指して(2) 人権にかかわる重要課題解決の到達状況 第2回課題作成と提出受付 第2回目	第2回課題の作成・提出
第12回 Session 12	共に生きる社会を目指して(3) 人権の尊重を巡る新しい課題への対応 □ 自主課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題LUNA登録〆切 自主課題の作成
第13回 Session 13	人権という普遍的文化の構築ー 自己実現とともに生きる社会をめざして 自主課題提出	自主課題の作成・提出 授業中の筆答試験準備
	授業中試験(60分)	自主課題提出

第14回 Session 14	教育課程と人権教育「隠れたカリキュラムと人権尊重の教育指導力とは」 自主課題提出LUNA登録×切	
--------------------	---	--

教科書 Required texts	教科書は使用しない。毎回、講義レジュメと必要な資料配布を行う。	
参考文献・資料 Reference books	・ 人権教育の指導方法等に関する調査研究会編 「人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】」 文部科学省 2008年3月 ・ 「2014年度版人権教育資料集」関西学院大学 ・ 関西学院大学人権教育の基本方針2014年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領、文部科学省 2017年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領解説のうち、総則編、道徳編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2017年7月 ・ 高等学校学習指導要領、文部科学省 2018年3月 ・ 高等学校学習指導要領解説のうち、総則編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2018年7月 ・ 「人権教育のためのコンパス【羅針盤】」ヨーロッパ評議会・企画福田弘・訳 明石書店 2006年12月 ・ 「じんけん スキルブック2」兵庫県人権教育研究協議会編 2010年11月 ・ 「新修 部落問題辞典」監修 秋定嘉和、桂正孝、村越末男 解放出版社1991年10月 ・ 各人権課題に関する参考文献・資料等は授業中に提示する。	
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査と授業中試験での授業アンケートを予定	

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	2回の指定課題提出(50%)・授業中試験(30%)・自主課題の提出等、授業への意欲・態度(20%)等を勘案して総合的に評価する。
	備考 Note 新型コロナウイルスの感染状況等により授業中の筆答試験ができない場合は代替課題レポートのLUNA提出に切り替えることがあります。		
備考 Note	指定課題提出では「学級通信」や「市民向けパンフレット」、「投げ入れ教材」の作成、更に自主課題の提出を予定しており、また、参加型の授業形態から受講者の意見発表を求めることとなる。 そのため、課題作成や授業準備のために、授業時に指示する事項について、書籍や新聞・TV等のマスコミ報道、インターネット検索等の十分な資料集めと家庭学習を行うことを求める。		
更新日時/Date of Update	2021年02月01日 09時30分03秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜4時限	秋学期／Fall	5別－5

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48064005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】人権教育論 5／Principles of Teaching Human Rights		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	岸 孝明(KISHI KOUMEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	受講生が知識活用能力を高め、自ら課題を解決するための意欲・態度・実践的スキルを身に付けて、基本的人権を尊重した生き方ができるようになることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who will become teachers to be prepared to respect fundamental human rights.		
到達目標/Learning Goals	(1) 自他の人権を尊重するために必要な知識を身に付ける。 (2) 人権尊重の考え方や生き方について学び、自他の人権を尊重する価値観を身に付ける。 (3) 実際生活の様々な局面で人権を大切にしている行動と態度を発揮できるようになること。		
到達目標(英文) Learning Goals	a) understand the knowledge of human rights,□ b) acquire a sense of values based on human rights awareness, c) acquire behaviors and attitudes which respect human rights.		
授業の概要・背景 Course Outline	人権を尊重した考え方や生き方を身に付けるために、人権教育で培われてきた概念やスキルを活用して、女性、子ども、高齢者、障がい(障碍)者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等の人権にかかわる課題、さらには情報化・国際化の進展に伴う新たな人権課題を取り扱い、中等教育の現場での指導力や指導法等の知識と技能を学ぶ。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンドA型オンライン授業で実施し、教材や課題等についてはLUNAで指示する。 なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中又はLUNAで指示する。) 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、音声付きパワーポイントの配信で対応します。LUNAに資料を掲載していますので確認してください。掲載場所: https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196137_1&cmp_tab_id=_232177_1&editMode=true&mode=cpview		
検索キーワード/Keywords	「命の尊さ」、「人と人の支え合い」、「仲間づくり」、「個性の尊重」、「きずな」、「理性の尊重」、「自律性」、「他者理解」、「共生」など 基本的人権、個性の尊重、self-esteem 自己肯定感、		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	人権教育論の内容・展開及び人権思想の普及と高揚(1)世界の取り組み	自己紹介兼アンケート調査用紙の記入と提出
第2回 Session 2	人権思想の普及と高揚(2) 日本の取り組み	文部科学省ホームページにアクセスして人権教育関係資料の探索を行う
第3回 Session 3	人権教育の諸潮流(1) 世界の人権教育 第1回課題の提出について(プリント配布)指示	関西学院大学人権教育の本方針と人権教育資料集へのアクセスと探索
第4回 Session 4	人権教育の諸潮流(2) 日本の人権教育(同和教育から人権教育へ) 第1回課題の作成に関する注意事項	第1回課題作成の資料探索
第5回 Session 5	学校教育に位置づけられた人権教育(1) 文科省・府県の施策と指針 第1回課題の作成に関する注意事項と提出受付第1回目	第1回課題の作成と提出 第1回目
第6回 Session 6	学校教育に位置づけられた人権教育(2) 各学校での取り組み状況等 第1回課題の作成と提出受付 第2回目	第1回課題の作成と提出 第2回目
第7回 Session 7	社会教育に位置づけられた人権啓発と研修	第1回課題提出LUNA登録〆切
第8回 Session 8	女性差別解消と男女共同参画社会を目指して(成熟社会の方策を考える) 第2回課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題作成の資料探索
第9回 Session 9	子どもの人権を守る(人権尊重の学校文化の創造を) 第2回課題作成のための注意事項	第2回課題作成のための準備・資料探索
第10回 Session 10	共に生きる社会を目指して(1)「人権尊重の生き方を先駆者から学ぶ」 第2回課題作成の注意事項と提出受付 第1回目	第2回課題の作成・提出準備
第11回 Session 11	共に生きる社会を目指して(2) 人権にかかわる重要課題解決の到達状況 第2回課題作成と提出受付 第2回目	第2回課題の作成・提出
第12回 Session 12	共に生きる社会を目指して(3) 人権の尊重を巡る新しい課題への対応 □ 自主課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題LUNA登録〆切 自主課題の作成

第13回 Session 13	人権という普遍的文化の構築ー 自己実現とともに生きる社会をめざして 自主課題提出	自主課題の作成・提出 授業中の筆答試験準備
第14回 Session 14	授業中試験(60分) 教育課程と人権教育「隠れたカリキュラムと人権尊重の教育指導力とは」 自主課題提出LUNA登録×切	自主課題提出

教科書 Required texts	教科書は使用しない。毎回、講義レジュメと必要な資料配布を行う。	
参考文献・資料 Reference books	・ 人権教育の指導方法等に関する調査研究会編 「人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】」 文部科学省 2008年3月 ・ 「2014年度版人権教育資料集」関西学院大学 ・ 関西学院大学人権教育の基本方針2014年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領、文部科学省 2017年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領解説のうち、総則編、道徳編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2017年7月 ・ 高等学校学習指導要領、文部科学省 2018年3月 ・ 高等学校学習指導要領解説のうち、総則編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2018年7月 ・ 「人権教育のためのコンパス【羅針盤】」ヨーロッパ評議会・企画福田弘・訳 明石書店 2006年12月 ・ 「じんけん スキルブック2」兵庫県人権教育研究協議会編 2010年11月 ・ 「新修 部落問題辞典」 監修 秋定嘉和、桂正孝、村越末男 解放出版社1991年10月 ・ 各人権課題に関する参考文献・資料等は授業中に提示する。	
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査と授業中試験での授業アンケートを予定	

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	2回の指定課題提出(50%)・授業中試験(30%)・自主課題の提出等、授業への意欲・態度(20%)等を勘案して総合的に評価する。
	備考 Note 新型コロナウイルスの感染状況等により授業中の筆答試験ができない場合は代替課題レポートのLUNA提出に切り替えることがあります。		
備考 Note	指定課題提出では「学級通信」や「市民向けパンフレット」、「投げ入れ教材」の作成、更に自主課題の提出を予定しており、また、参加型の授業形態から受講者の意見発表を求めることとなる。 そのため、課題作成や授業準備のために、授業時に指示する事項について、書籍や新聞・TV等のマスコミ報道、インターネット検索等の十分な資料集めと家庭学習を行うことを求める。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_196137_1&cmp_tab_id=_232177_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月12日 21時21分28秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜1時限	春学期／Spring	VI－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48064006	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】人権教育論 6／Principles of Teaching Human Rights		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	岸 孝明(KISHI KOUMEI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	受講生が知識活用能力を高め、自ら課題を解決するための意欲・態度・実践的スキルを身に付けて、基本的人権を尊重した生き方ができるようになることを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students who will become teachers to be prepared to respect fundamental human rights.		
到達目標/Learning Goals	(1) 自他の人権を尊重するために必要な知識を身に付ける。 (2) 人権尊重の考え方や生き方について学び、自他の人権を尊重する価値観を身に付ける。 (3) 実際生活の様々な局面で人権を大切にしている行動と態度を発揮できるようになること。		
到達目標(英文) Learning Goals	a) understand the knowledge of human rights,□ b) acquire a sense of values based on human rights awareness, c) acquire behaviors and attitudes which respect human rights.		
授業の概要・背景 Course Outline	人権を尊重した考え方や生き方を身に付けるために、人権教育で培われてきた概念やスキルを活用して、女性、子ども、高齢者、障がい(障碍)者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等の人権にかかわる課題、さらには情報化・国際化の進展に伴う新たな人権課題を取り扱い、中等教育の現場での指導力や指導法等の知識と技能を学ぶ。		
授業方法 Course Format	対面授業で以下の事を実施する。Activityなど参加型の手法を取り入れた講義(毎回、power-pointで概要を提示するとともに詳細レジュメも配布)と学生の意見発表、DVD視聴等、また、人権問題・人権教育に関わる重要事項について「人権教育重要キーワード」としてレジュメに囲み記事を掲載する。		
検索キーワード/Keywords	「命の尊さ」、「人と人の支え合い」、「仲間づくり」、「個性の尊重」、「きずな」、「理性の尊重」、「自律性」、「他者理解」、「共生」など 基本的人権、個性の尊重、self-esteem 自己肯定感、		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	人権教育論の内容・展開及び人権思想の普及と高揚(1)世界の取り組み	自己紹介兼アンケート調査用紙の記入と提出
第2回 Session 2	人権思想の普及と高揚(2) 日本の取り組み	文部科学省ホームページにアクセスして人権教育関係資料の探索を行う
第3回 Session 3	人権教育の諸潮流(1) 世界の人権教育 第1回課題の提出について(プリント配布)指示	関西学院大学人権教育の本方針と人権教育資料集へのアクセスと探索
第4回 Session 4	人権教育の諸潮流(2) 日本の人権教育(同和教育から人権教育へ) 第1回課題の作成に関する注意事項	第1回課題作成の資料探索
第5回 Session 5	学校教育に位置づけられた人権教育(1) 文科省・府県の施策と指針 第1回課題の作成に関する注意事項と提出受付第1回目	第1回課題の作成と提出 第1回目
第6回 Session 6	学校教育に位置づけられた人権教育(2) 各学校での取り組み状況等 第1回課題の作成と提出受付 第2回目	第1回課題の作成と提出 第2回目
第7回 Session 7	社会教育に位置づけられた人権啓発と研修	第1回課題提出LUNA登録〆切
第8回 Session 8	女性差別解消と男女共同参画社会を目指して(成熟社会の方策を考える) 第2回課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題作成の資料探索
第9回 Session 9	子どもの人権を守る(人権尊重の学校文化の創造を) 第2回課題作成のための注意事項	第2回課題作成のための準備・資料探索
第10回 Session 10	共に生きる社会を目指して(1)「人権尊重の生き方を先駆者から学ぶ」 第2回課題作成の注意事項と提出受付 第1回目	第2回課題の作成・提出準備
第11回 Session 11	共に生きる社会を目指して(2) 人権にかかわる重要課題解決の到達状況 第2回課題作成と提出受付 第2回目	第2回課題の作成・提出
第12回 Session 12	共に生きる社会を目指して(3) 人権の尊重を巡る新しい課題への対応 □ 自主課題の提出について(プリント配布)指示	第2回課題LUNA登録〆切 自主課題の作成
第13回 Session 13	人権という普遍的文化の構築ー 自己実現とともに生きる社会をめざして 授業中試験(60分)	自主課題の作成・提出 授業中の筆答試験準備
第14回	教育課程と人権教育「隠れたカリキュラムと人権尊重の教育指	自主課題提出

Session 14	導力とは」 自主課題提出LUNA登録×切	
------------	-------------------------	--

教科書 Required texts	教科書は使用しない。毎回、講義レジュメと必要な資料配布を行う。
参考文献・資料 Reference books	・ 人権教育の指導方法等に関する調査研究会編 「人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】」 文部科学省 2008年3月 ・ 「2014年度版人権教育資料集」関西学院大学 ・ 関西学院大学人権教育の基本方針2014年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領、文部科学省 2017年3月 ・ 小学校・中学校学習指導要領解説のうち、 総則編、道徳編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2017年7月 ・ 高等学校学習指導要領、文部科学省 2018年3月 ・ 高等学校学習指導要領解説のうち、総則編、総合的な学習の時間編・特別活動篇 文部科学省 2018年7月 ・ 「人権教育のためのコンパス【羅針盤】」ヨーロッパ評議会・企画福田弘・訳 明石書店 2006年12月 ・ 「じんけん スキルブック2」兵庫県人権教育研究協議会編 2010年11月 ・ 「新修 部落問題辞典」 監修 秋定嘉和、桂正孝、村越末男 解放出版社1991年10月 ・ 各人権課題に関する参考文献・資料等は授業中に提示する。
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	全学統一様式による調査と授業中試験での授業アンケートを予定

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	2回の指定課題提出(50%)・授業中試験(30%)・自主課題の提出等、授業への意欲・態度(20%)等を勘案して総合的に評価する。
	備考 Note 新型コロナウイルスの感染状況等により授業中の筆答試験ができない場合は代替課題レポートのLUNA提出に切り替えることがあります。		
備考 Note	指定課題提出では「学級通信」や「市民向けパンフレット」、「投げ入れ教材」の作成、更に自主課題の提出を予定しており、また、参加型の授業形態から受講者の意見発表を求めることとなる。 そのため、課題作成や授業準備のために、授業時に指示する事項について、書籍や新聞・TV等のマスコミ報道、インターネット検索等の十分な資料集めと家庭学習を行うことを求める。		
更新日時/Date of Update	2021年02月01日 09時32分29秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜1時限	秋学期／Fall	VI－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48066001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】環境教育論 1／Principles of Environmental Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	今井 良一(IMAI RYOICHI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、環境問題について正確に理解しつつ、環境教育の重要性を知った上で、実際の教育現場で環境教育を実践するための能力を高めることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to accurately understand the environmental problems, to know the importance of environmental education, and to acquire the ability to conduct environmental education in the classroom.		
到達目標/Learning Goals	下記項目について修得することを到達時の目標とする。 ・環境問題に関する基礎的な、そして正確な知識を得る ・環境問題を解決するための方法を知る ・教育の現場で環境教育を教える方法を理解する		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・acquire basic and accurate knowledge of environmental problems, ・know how to solve environmental problems, ・understand how to provide environmental education in the classroom.		
授業の概要・背景 Course Outline	本講義では、地球温暖化や大気汚染、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原因と影響について正確に理解し、環境教育の必要性と重要性について考究する。その上で、子どもたちを含む弱者への深刻な影響について常に思いをはせる気持ちを育みつつ、持続可能な社会を構築して、子どもたちがかけがえのない豊かな地球を受け継ぐことを可能にする方法を考える。また、実際の教育現場で、学習した内容を児童生徒や一般市民に伝えることのできる能力を養う。		
授業方法 Course Format	講義形式で行なう。受講者には随時講義内容に対するコメントの提出を求める。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	環境教育とは何かー子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐためにー	【復習】 配布プリント(NO.1)の見直し:資本主義社会と環境問題について 【予習】 第2回の授業に向けて、配布プリント(NO.2)を読む
第2回 Session 2	学習指導要領のなかの環境教育	【復習】 配布プリント(NO.2)の見直し:学習指導要領のなかでの環境教育の位置づけを確認する 【予習】 第3回の授業に向けて、教科書pp.11～25を読む。
第3回 Session 3	大気環境の悪化と原因 ー地球温暖化と大気汚染ー	【復習】 教科書と配布プリント(NO.3)の見直し:地球温暖化や大気汚染の原因をしっかりと確認する 【予習】 第4回の授業に向けて、教科書pp.47～78を読む。
第4回 Session 4	大気環境の悪化による子どもたちへの影響と対策ー熱中症やぜんそくなどの健康被害ー	【復習】 教科書と配布プリント(NO.4)の見直し:健康被害とその対策についてしっかりと確認する。 【予習】 第5回の授業に向けて、配布プリント(NO.5)を読む。
第5回 Session 5	児童・生徒・教師・指導者への環境教育の方法と実践1ー大気環境との関連でー	【復習】 配布プリント(NO.5)の見直し:環境教育の実践方法を確認する。 【予習】 第6回の授業に向けて、教科書pp.253～272を読む。
第6回 Session 6	水質汚染と原因ー家庭排水・里山の荒廃・下水処理設備の不備などー	【復習】 教科書と配布プリント(NO.6)の見直し:水環境の悪化状況について確認する。 【予習】 第7回の授業に向けて、教科書pp.272～288を読む。
第7回 Session 7	水質汚染による子どもたちへの影響と対策	【復習】 教科書と配布プリント(NO.7)の見直し:水環境悪化への対策について考える。 【予習】 第8回の授業に向けて、配布プリント(NO.8)を読む
	児童・生徒・教師・指導者への環境教育の方法と実践2ー水環	【復習】

第8回 Session 8	境との関連でー	配布プリント(No.8)の見直し:環境教育の実践方法を確認する 【予習】 第9回の授業に向けて、教科書pp.83～112を読む。
第9回 Session 9	東日本大震災(原発事故)の教訓ー放射能から子どもたちを守るためにー	【復習】 教科書と配布プリント(No.9)の見直し:放射能汚染への対策について再確認する。 【予習】 第10回の授業に向けて、配布プリント(No.10)を読む。
第10回 Session 10	児童・生徒・教師・指導者への環境教育の方法と実践3ー放射能との関連でー	【復習】 配布プリント(No.10)の見直し:環境教育の実践方法を確認する。 【予習】 第11回の授業に向けて、教科書pp.117～156を読む。
第11回 Session 11	食環境の悪化と原因ー食生活・輸入食品の不安・食品添加物などー	【復習】 教科書と配布プリント(No.11)の見直し:食環境の悪化状況について再確認する。 【予習】 第12回の授業に向けて、教科書pp.161～209を読む。
第12回 Session 12	食環境の悪化による子どもたちへの影響と対策(1)ー生活習慣病ー	【復習】 教科書と配布プリント(No.12)の見直し:食環境の悪化から子どもたちを守る方法を確認する。 【予習】 第13回の授業に向けて、教科書pp.211～249を読む。
第13回 Session 13	食環境の悪化による子どもたちへの影響と対策(2)ー食中毒・アレルギーー	【復習】 教科書と配布プリント(No.13)の見直し:食環境の悪化から子どもたちを守る方法を確認する。 【予習】 第14回の授業に向けて、配布プリント(No.14)を読む
第14回 Session 14	児童・生徒・教師・指導者への環境教育の方法と実践4ー食環境との関連でー	【復習】 配布プリント(No.14)の見直し:環境教育の実践方法を確認する 【予習】 最終授業に向けて、これまでの総復習をする

授業計画 Overview for each class	レポートへのフィードバックに関しては、実施後2週間後をめどに、全体の講評をLUNAへ掲載する。
授業外学習 Study Required outside Class	復習により多くの時間をかけ、関連する図書や論文に目を通すこと。

教科書/Required texts	著者名:今井清一・今井良一 タイトル:増補改訂版 環境教育論ー現代社会と生活環境ー 発行所:鳥影社 出版年:2020 IS BN:978-4-86265-810-4
参考文献・資料 Reference books	文部科学省「学習指導要領(環境教育にかかわる内容)」 環境省「環境教育実践事例集」

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるレポート／ Term paper to replace the final examination(02)	60%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	3回のレポート提出を求める(LUNAにWordファイルで提出)。
	その他／Others(99)	10%	授業中の発表などの参加態度、積極性
	備考 Note 定期試験に変わるレポートが実施できなくなった場合は、平常レポートと同様にLUNAにWordファイルでの提出に変更する。		
更新日時/Date of Update		2021年02月10日 12時46分27秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜2時限	秋学期／Fall	Bー203

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48066002	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】環境教育論 2/Principles of Environmental Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期/Spring
担当者/Instructor	中西 敏昭(NAKANISHI TOSHIAKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	将来、教師になることを目指す学生が知識の習得だけに留まらず、自然の美しさ・奥深さに気づくことを目的とする。また、自然を大切にすることを心もった子どもを育てる人間教育としての環境教育を達成できることを目指す		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students intending to be teachers in the future, not only to acquire knowledge but also notice the beauty and depth of nature as well as to achieve methods for environmental education as a human education to nurture children with a heart that respects nature.		
到達目標/Learning Goals	・環境教育のインタープリターとして、生徒や一般市民に通用することができる。 ・生涯学習として地球環境問題や環境保全に関する行動ができる。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will be able to ・be capable interpreters of environmental education for middle and high-school students and general public ・take actions based on lifelong learning for global environmental issues and environmental conservation		
授業方法 Course Format	・講義・発表・実践を行う。時には受講生からの質問や考察を交え参加型の授業の展開も目指す。 ・①～③回の授業はZoom型オンライン授業で実施。ZoomのURLあるいはミーティングID、パスワードはLUNAの「お知らせ」で連絡します。また、教材や課題等についてはLUNAで指示します。なお、4回目以降は対面授業を予定(変更があれば授業中またはLUNAで指示します)。		
検索キーワード/Keywords	環境教育、環境問題、生態系、生物多様性、生涯学習、人間教育、インタープリター		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	環境教育とは何か: ”自然はみて・みて・みる” サツマイモやジャガイモのイモは、根か茎か? 環境教育を取り巻く時代の状況や社会の状況を俯瞰するとともに、イントロダクションとして授業全体の内容を概説	【予習】生態系、生物多様性について調べておく
第2回 Session 2	生態系と生物多様性: ”みんなちがって みんないい” 生物多様性は人間存在の基盤であることを認識する	【予習】DDTと生物濃縮について調べておく
第3回 Session 3	環境教育の方法と実践(1): 生態系のつながり・命のつながりの面白さに着目する。”煮干しのお腹から海の環境を考えよう”(食物連鎖・生物濃縮と食生活など)	【復習】実習についてレポートを作成する 【予習】エネルギー問題(原子力発電を含む)の資料を収集する
第4回 Session 4	環境問題の話題提供1: エネルギー問題(原子力発電を含む)についての話題提供などをもとに、課題解決に向けてのプロセスを考える	【予習】予め提示された環境問題の資料を収集する
第5回 Session 5	環境問題の話題提供2: 地球温暖化やコロナ禍での環境問題の減少についての話題提供をもとに、課題解決に向けてのプロセスを考える	【復習】環境問題の一つを取り上げ、課題解決に向けての具体的な提案についてレポートを作成する 【予習】発表1の準備
第6回 Session 6	環境問題への私の提案(発表1): ～ 第5回のレポートについて	【予習】フィールド学習のための準備物を調達する
第7回 Session 7	環境教育の方法と実践(2):フィールド学習 ”五感で感じる” 校内の樹木や草本の観察を通して、自然物への気づきを体験する	【復習】フィールド学習の目的や実習から得られた知見をレポートする
第8回 Session 8	学校での環境教育1: ”ウサギ追いしかの山～” 唱歌・童謡に見る生き物たち フィールドワーク実施時の安全性の確保	【予習】海外の環境教育について資料を収集する
第9回 Session 9	学校での環境教育2:ラーニングデザインとは 学校で実施できる環境教育について「学び合い」によって、環境教育の充実を図る ※「学び合い」でZoomを使用する場合、パソコンやスマホなどの準備が必要となることがある	【予習】ラーニングデザインを作成する
第10回 Session 10	学校での環境教育3:ESD(Education for Sustainable Development)とは ～第7回のレポートについて(発表2) ラーニングデザインを使った学校での環境教育	【復習】ESDについてレポートを作成する
第11回 Session 11	GIS(地理情報システム)の活用: ”ダルマガエルはどこにいるか”と”儲かるコンビニをどこにつくるか”は共通点がある	【復習】GISの活用方法についてレポートを作成する
第12回 Session 12	野生生物の危機:”生き物は宝の山” 外来種の侵入・増殖による固有生態系の崩壊が起きている。外来生物がもたらす問題を取り上げるとともに、野生生物の重要性について考える	【復習】野生生物の重要性についてレポートする 【予習】レイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』を読むのが望ましい。できれば主著の『沈黙の春』の序章だけでも読めれば、なお良い

第13回 Session 13	レイチェル・カーソンの世界： 自然に感動できる豊かな感性（センス・オブ・ワンダー）を生 涯持ち続けるには、何をしなければならないのか	【復習】レイチェル・カーソンの考え方と自分の環境教育に関す る考え方についてレポートする 【予習】各受講生が環境教育実践の場で必要なインタープリ ターとしての役割を披露するための準備を行う
第14回 Session 14	環境教育の実践者を目指して 発表3： 自ら考え行動できる人間を育成するための課題について考 察する。“Think Globally, Act Locally”	【復習】本授業の目標達成について自己評価を行う

教科書 Required texts	中学校学習指導要領，中学校学習指導要領解説理科編，高等学校学習指導要領，高等学校学習指導要領理科編理数編（すべて文部科学 省の最新版） 授業資料を授業中に配布する
参考文献・資料 Reference books	レイチェル・カーソン（青樹 築一訳）「沈黙の春」新潮文庫 1974 □ レイチェル・カーソン（上遠恵子訳）「センス・オブ・ワンダー」新潮社 1996 中西敏昭 「環境・ぼくたち・未来」保育社 2002□ 環境省＞カテゴリ＞環境教育・学習 http://www.eic.or.jp/category/ □ 環境省＞自然環境局＞自然環境・生物多様性 http://www.env.go.jp/nature/ □ 文部科学省＞パンフレット環境教育の推進に向けて＞主な環境関係法令□ http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/kankyoku.htm
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	アンケート等

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	50%	内容評価
	平常レポート／Individual reports(04)	40%	内容評価
	その他／Others(99)	10%	講義やディスカッションへの意欲，発表内容
	備考 Note 配慮対象のオンライン受講生への「定期試験」に代わる成績評価はLUNAなどにより個別に知らせます。また、「平常レポート」「その他」につ いては基本的に対面式授業と同じですが、変更があればLUNAなどにより個別に連絡します。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_195344_1&cmp_tab_id=_231384_1&editMode=true&mode=cpview		
更新日時/Date of Update	2021年03月18日 14時29分25秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	火曜1時限	春学期／Spring	VI－201

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48068001	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別支援教育概論 1／General Principles of Special Needs Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	佐藤 美幸(SATO MIYUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、学生が特別支援教育について理解し、障害のある子どもに対して指導する能力を高めることである		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand special education, and to be able to teach children with disabilities.		
到達目標/Learning Goals	特別支援教育の歴史と考え方を理解し、学校場面における障害のある子どもを対象としたアセスメントや介入に必要なスキルを習得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will understand history and philosophy of special education and obtain skills for the assessment and intervention for children with disabilities in a school setting.		
授業方法 Course Format	対面授業で行う。 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生に対しては、4回目以降「対面授業の録画データをオンデマンド配信」で対応する予定です。(3回目までは音声つきパワーポイントで対応予定です。3回目までの対応方法は4月11日にシラバスを更新しお知らせします。)		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	特別支援教育の意義・理念および制度	予習:文科省HP「特別支援教育について」を読む 復習:振り返りシートの提出
第2回 Session 2	特別支援教育に関連する法律	予習:発達障害者支援法を読む 復習:振り返りシートの提出
第3回 Session 3	知的障害、肢体不自由、病弱の理解	予習:知的障害、肢体不自由、病弱の言葉の意味を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第4回 Session 4	視覚障害、聴覚障害の理解	予習:視覚障害、聴覚障害の言葉の意味を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第5回 Session 5	情緒障害の理解	予習:情緒障害の言葉の意味を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第6回 Session 6	発達障害の理解1(LD)	予習:文科省のLDの定義を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第7回 Session 7	発達障害の理解2(ADHD)	予習:ADHDの診断基準を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第8回 Session 8	発達障害の理解3(ASD)	予習:ASDの診断基準を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第9回 Session 9	応用行動分析を用いた問題行動への対応	予習:応用行動分析とは何か調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第10回 Session 10	応用行動分析を用いた学習指導	予習:第9回の配布資料を読んで くれる こと 復習:振り返りシートの提出
第11回 Session 11	応用行動分析を用いたことばの指導	予習:第9回の配布資料を読んで くれる こと 復習:振り返りシートの提出
第12回 Session 12	特別支援教育に係る教育課程	予習:自立活動について調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第13回 Session 13	個別の「指導計画」および「教育支援計画」の意義と方法	予習:指導計画と教育支援計画の違いを調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第14回 Session 14	母国語や貧困など特別の教育的ニーズへの対応	予習:貧困の実態を調べておく こと 復習:振り返りシートの提出

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるレポート／ Term paper to replace the final examination(02)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
	備考 Note 【オンライン受講生対象】 オンラインでの受講を許可された学生については、平常レポートをLUNAから提出してもらいます。		
更新日時/Date of Update		2021年03月19日 15時11分12秒	

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	月曜1時限	春学期／Spring	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48068002	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別支援教育概論 2／General Principles of Special Needs Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	春学期／Spring
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	特別支援教育の意義、内容、方法および課題について学び、様々なニーズがある生徒への発達支援に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of special needs education. The course aims to get the ability to learn how to provide development supports to each students' needs.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・特別支援教育の意義、内容、方法を理解する。 ・特別支援教育に関する具体的課題を理解する。 ・様々なニーズがある生徒を対象とした特別支援教育に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objective: ・Become familiar with the significance, content and methodology of special needs education; ・Become familiar with specific challenges of special needs education; ・Gain a basic ability to provide development supports to each students' needs.		
授業の概要・背景 Course Outline	インクルーシブ教育システム構築のために不可欠とされる特別支援教育について考察する。さらに特別な支援が必要かつ教育的ニーズのある生徒の心身の発達、障害の特性および生活環境などについて理解を深め、それらの生徒の学習上・生活上の困難に対する対応と支援の方法について検討する。		
授業方法 Course Format	1～3回目はオンデマンド型オンライン授業で実施する。教材および課題などについてはLUNAで指示を行う。4回目以降は対面授業(講義形式)を実施する予定である(変更があれば授業中またはLUNAで指示)。オンラインでの受講を許可された学生については、4回目以降の授業内容もLUNAで配信する。		
検索キーワード/Keywords	特別支援教育 インクルーシブ教育 発達障害 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	特別支援教育制度の意義・理念とその制度について	
第2回 Session 2	様々な障害に関する教育・心理・医療・法律上の概念・定義について	
第3回 Session 3	学習指導要領などにおける特別支援教育の概要	
第4回 Session 4	様々な障害のある生徒の理解と支援について(1)(各障害の概要など)	
第5回 Session 5	様々な障害のある生徒の理解と支援について(2)(知的障害・情緒障害など)	
第6回 Session 6	様々な障害のある生徒の理解と支援について(3)(視覚障害・聴覚障害など)	
第7回 Session 7	様々な障害のある生徒の理解と支援について(4)(肢体不自由・病弱など)	
第8回 Session 8	様々な障害のある生徒の理解と支援について(5)(発達障害の概要)	
第9回 Session 9	様々な障害のある生徒の理解と支援について(6)(自閉スペクトラム症など)	
第10回 Session 10	様々な障害のある生徒の理解と支援について(7)(限局性学習症など)	
第11回 Session 11	様々な障害のある生徒の理解と支援について(8)(注意欠如多動症など)	
第12回 Session 12	様々な障害のある生徒の理解と支援について(9)(その他の障害について)	
第13回 Session 13	母国語や貧困の問題等の児童生徒の学習・生活上の困難と対応(1)(母国語の問題、不登校児童生徒の課題を中心に)	
第14回 Session 14	母国語や貧困の問題等の児童生徒の学習・生活上の困難と対応(2)(貧困の問題徒を中心に)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと。

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 発行所: 出 版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示) 発行所: 出版年:2019 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
	備考 Note オンラインでの受講を許可された学生については、成績評価に関する指示を別途行う。同学生で事前の問い合わせがあれば、以下のアドレス(以下のURL欄)に連絡をすること。		
URLリンク1/URL 1	https://www.g-kotani.com/%E3%81%8A%E5%95%8F%E3%81%84%E5%90%88%E3%82%8F%E3%81%9B/		
更新日時/Date of Update	2021年03月11日 11時53分12秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	春学期／Spring	金曜2時限	春学期／Spring	G－301

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48068003	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別支援教育概論 3／General Principles of Special Needs Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	佐藤 美幸(SATO MIYUKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは？> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	本講義の目的は、学生が特別支援教育について理解し、障害のある子どもに対して指導する能力を高めることである。		
授業目的(英文) Course Purpose	The purpose of this course is for students to understand special education, and to be able to teach children with disabilities.		
到達目標/Learning Goals	特別支援教育の歴史と考え方を理解し、学校場面における障害のある子どもを対象としたアセスメントや介入に必要なスキルを習得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Students will understand history and philosophy of special education and obtain skills for the assessment and intervention for children with disabilities in a school setting.		
授業方法 Course Format	対面授業で行う。		
検索キーワード/Keywords			

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	特別支援教育の意義・理念および制度	予習:文科省HP「特別支援教育について」を読む 復習:振り返りシートの提出
第2回 Session 2	特別支援教育に関連する法律	予習:発達障害者支援法を読む 復習:振り返りシートの提出
第3回 Session 3	知的障害、肢体不自由、病弱の理解	予習:知的障害、肢体不自由、病弱の言葉の意味を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第4回 Session 4	視覚障害、聴覚障害の理解	予習:視覚障害、聴覚障害の言葉の意味を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第5回 Session 5	情緒障害の理解	予習:情緒障害の言葉の意味を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第6回 Session 6	発達障害の理解1(LD)	予習:文科省のLDの定義を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第7回 Session 7	発達障害の理解2(ADHD)	予習:ADHDの診断基準を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第8回 Session 8	発達障害の理解3(ASD)	予習:ASDの診断基準を調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第9回 Session 9	応用行動分析を用いた問題行動への対応	予習:応用行動分析とは何か調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第10回 Session 10	応用行動分析を用いた学習指導	予習:第9回の配布資料を読んで くれること 復習:振り返りシートの提出
第11回 Session 11	応用行動分析を用いたことばの指導	予習:第9回の配布資料を読んで くれること 復習:振り返りシートの提出
第12回 Session 12	特別支援教育に係る教育課程	予習:自立活動について調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第13回 Session 13	個別の「指導計画」および「教育支援計画」の意義と方法	予習:指導計画と教育支援計画の違 いを調べる こと 復習:振り返りシートの提出
第14回 Session 14	母国語や貧困など特別の教育的ニーズへの対応	予習:貧困の実態を調べておく こと 復習:振り返りシートの提出

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験に代わるレポート／ Term paper to replace the final examination(02)	70%	
	平常レポート／Individual reports(04)	30%	
更新日時/Date of Update	2021年01月25日 17時37分11秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	月曜1時限	秋学期／Fall	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48068004	開講キャンパス/Campus	西宮上ヶ原キャンパス／Nishinomiya Uegahara Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)／Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別支援教育概論 4／General Principles of Special Needs Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期／Fall
担当者/Instructor	米山 直樹(YONEYAMA NAOKI)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese		
特記事項/Special Instructions	＜DP・CPと授業科目との関連＞ 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 ＜DP・CPとは？＞ DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 ＜各学部・研究科等のDP・CP一覧＞ https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	特別支援教育の意義、内容、方法および課題について学び、様々なニーズがある生徒への発達支援に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of special needs education. The course aims to get the ability to learn how to provide development supports to each students' needs.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・特別支援教育の意義、内容、方法を理解する。 ・特別支援教育に関する具体的課題を理解する。 ・様々なニーズがある生徒を対象とした特別支援支援に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objective: ・Become familiar with the significance, content and methodology of special needs education; ・Become familiar with specific challenges of special needs education; ・Gain a basic ability to provide development supports to each students' needs.		
授業の概要・背景 Course Outline	インクルーシブ教育システム構築のために不可欠とされる特別支援教育について考察する。さらに特別な支援が必要かつ教育的ニーズのある生徒の心身の発達、障害の特性および生活環境などについて理解を深め、それらの生徒の学習上・生活上の困難に対する対応と支援の方法について検討する。		
授業方法 Course Format	全回対面授業を行う。ただし、活動制限レベルの変更によりオンライン授業に移行することがある。オンラインによる受講者にはオンライン授業の定義に従い、資料と授業音声を配布し毎回レポートを課す。		
検索キーワード/Keywords	特別支援教育 インクルーシブ教育 発達障害 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	9月24日 特別支援教育とは	
第2回 Session 2	10月1日 学習指導要領について	
第3回 Session 3	10月8日 個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成について(1)	
第4回 Session 4	10月15日 個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成について(2)	
第5回 Session 5	10月22日 障害の理解と支援について(1)「合理的配慮」	
第6回 Session 6	10月29日 障害の理解と支援について(2)「子どもの発達と就学に向けた支援について」	
第7回 Session 7	11月5日 障害の特性についての理解「自閉スペクトラム症・自閉症スペクトラム障害」	
第8回 Session 8	11月12日 障害の特性についての理解「注意欠如多動症・注意欠如多動性障害」	
第9回 Session 9	11月19日 障害の特性についての理解「限局性学習症・学習障害」	
第10回 Session 10	11月26日 障害の特性についての理解「知的能力障害・知的障害」	
第11回 Session 11	12月3日 障害に対応した支援「応用行動分析:ABC分析・機能分析」	
第12回 Session 12	12月10日 障害に対応した支援「応用行動分析:課題分析」	
第13回 Session 13	12月17日 障害に対応した支援「学級支援:インクルージョン教育とポジティブ行動支援」	
第14回 Session 14	1月7日 外国にルーツのある子どもの学習・生活上の困難と対応	

授業計画 Overview for each class	レポートに対しては、提出の次の授業回において全体の講評を口頭で伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	解説付きのパワーポイント資料を配布する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 発行所: 出版年:2003 ISBN:978-4762823145 著者名:文部科学省 タイトル:特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示) 発行所: 出版年:2010 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	定期試験／Final Examination(01)	50%	
	平常レポート／Individual reports(04)	50%	
	備考 Note 定期試験の成績と期間中に複数回実施する平常レポートの合計点をもとに総合的に評価する。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、成績評価方法に変更が生じる可能性もあるので、大学からのアナウンスに注意すること。また、オンライン受講生は100%平常点で評価する(毎回の平常レポートを含む)。		
URLリンク1/URL 1	https://luna.kwansei.ac.jp/webapps/blackboard/execute/modulepage/view?course_id=_187879_1&cmp_tab_id=_216746_1&mode=view		
更新日時/Date of Update	2021年03月05日 11時17分46秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	金曜1時限	秋学期／Fall	B－103

シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	48068005	開講キャンパス/Campus	神戸三田キャンパス/Kobe Sanda Campus
授業開講年度/Academic Year	2021年度		
管理部署/Administrative Department	教職教育研究センター(教職専門)/Research Center for Teacher Development (for Special Studies)		
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【200】特別支援教育概論 5/General Principles of Special Needs Education		
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期/Fall
担当者/Instructor	小谷 正登(KOTANI MASATO)		
履修基準年度 Standard Year for Registration	2年		
主な教授言語/Language of Instruction	日本語/Japanese		
特記事項/Special Instructions	<DP・CPと授業科目との関連> 各授業科目は、各学部・研究科の定めるDP・CPに基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 また、履修心得や履修の手引きに掲載されている教育課程表(授業科目一覧等)も参考にしてください。 <DP・CPとは?> DP(ディプロマ・ポリシー):各学部等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。 CP(カリキュラム・ポリシー):DPの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。 <各学部・研究科等のDP・CP一覧> https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000550		
授業目的/Course Purpose	特別支援教育の意義、内容、方法および課題について学び、様々なニーズがある生徒への発達支援に必要な資質と能力を獲得することを目的とする。		
授業目的(英文) Course Purpose	In this course, students will learn about the significance, content and methodology of special needs education. The course aims to get the ability to learn how to provide development supports to each students' needs.		
到達目標/Learning Goals	以下の3点を到達目標として設定する。 ・特別支援教育の意義、内容、方法を理解する。 ・特別支援教育に関する具体的課題を理解する。 ・様々なニーズがある生徒を対象とした特別支援教育に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。		
到達目標(英文) Learning Goals	Achieve the following three learning objective: ・Become familiar with the significance, content and methodology of special needs education; ・Become familiar with specific challenges of special needs education; ・Gain a basic ability to provide development supports to each students' needs.		
授業の概要・背景 Course Outline	インクルーシブ教育システム構築のために不可欠とされる特別支援教育について考察する。さらに特別な支援が必要かつ教育的ニーズのある生徒の心身の発達、障害の特性および生活環境などについて理解を深め、それらの生徒の学習上・生活上の困難に対する対応と支援の方法について検討する。		
授業方法 Course Format	講義形式		
検索キーワード/Keywords	特別支援教育 インクルーシブ教育 発達障害 臨床教育学		

	授業計画 Topic	授業外学習 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	特別支援教育制度の意義・理念とその制度について	
第2回 Session 2	様々な障害に関する教育・心理・医療・法律上の概念・定義について	
第3回 Session 3	学習指導要領などにおける特別支援教育の概要	
第4回 Session 4	様々な障害のある生徒の理解と支援について(1)(各障害の概要など)	
第5回 Session 5	様々な障害のある生徒の理解と支援について(2)(知的障害・情緒障害など)	
第6回 Session 6	様々な障害のある生徒の理解と支援について(3)(視覚障害・聴覚障害など)	
第7回 Session 7	様々な障害のある生徒の理解と支援について(4)(肢体不自由・病弱など)	
第8回 Session 8	様々な障害のある生徒の理解と支援について(5)(発達障害の概要)	
第9回 Session 9	様々な障害のある生徒の理解と支援について(6)(自閉スペクトラム症など)	
第10回 Session 10	様々な障害のある生徒の理解と支援について(7)(限局性学習症など)	
第11回 Session 11	様々な障害のある生徒の理解と支援について(8)(注意欠如多動症など)	
第12回 Session 12	様々な障害のある生徒の理解と支援について(9)(その他の障害について)	
第13回 Session 13	母国語や貧困の問題等の児童生徒の学習・生活上の困難と対応(1)(母国語の問題、不登校児童生徒の課題を中心に)	
第14回 Session 14	母国語や貧困の問題等の児童生徒の学習・生活上の困難と対応(2)(貧困の問題徒を中心に)	

授業計画 Overview for each class	課題提出の後、次回の授業において講評を口頭などで伝える。
授業外学習 Study Required outside Class	日頃から様々な教育課題に関心を持ち、新聞報道などの教育に関する記事に目を通しておくこと

教科書 Required texts	自作のレジュメ、配布資料(プレゼンテーションソフト用)を使用する。
参考書/Reference books	著者名:文部科学省 タイトル:特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 発行所: 出版年:2017 ISBN: 著者名:文部科学省 タイトル:特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示) 発行所: 出版年:2019 ISBN:
参考文献・資料 Reference books	特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示)
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	大学全体での授業調査に則り、Webまたはマークシートによる調査を実施する。

成績評価 Grading	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
	その他／Others(99)	100%	定期試験90%・平常レポート10%
更新日時/Date of Update	2021年01月14日 14時49分09秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2021年度	秋学期／Fall	水曜3時限	秋学期／Fall	IV－401